

目 次

香川大学医学部の基本理念・教育目標・人材養成上の目的	(1)
香川大学医学部履修要項	(2)
香川大学医学部看護学科3年次編入学生の既修得単位及び在学期間の通算等の取扱いに関する要項	(14)
気象警報の発令等の場合における休講措置の基準	(21)
平成22年度 看護学科行事予定表	(22)
平成22年度 授業時間割表(1～4年次生用)	(24)

平成21年度以降入学生対象授業科目

01 全学共通科目(外国語)

英語コミュニケーションLR演習 I N	4
英語コミュニケーションSW演習 I N	5

02 基礎・臨床科学

形態・生理学A(生命維持の基本構造)・B(環境適応と行動)	8
生化学	12
分子生物学・栄養学	14
微生物学A(細菌学・原虫学)・B(ウイルス学・真菌学)	16
薬剤療養学	19
免疫学	22
機能再生医療学	24

03 社会保健学

看護と法規	28
社会福祉・社会保障論	30
基礎保健学(1年生)	32

04 基礎看護学

看護学概論	34
看護理論	36
基礎看護方法論	37
基本援助技術論	39
生活援助技術論	44
基礎看護技術論	49
基礎看護学早期体験実習	53
基礎看護学実習	54

05 成人看護学

成人看護学概論	56
成人疾病論	58
成人慢性期援助論	61
成人急性期援助論	64
成人リハビリテーション期援助論	66
成人終末期援助論	69

06 老年看護学

老年看護学概論	72
老年疾病論	74
老年援助論	76

07 小児看護学

小児看護学概論	80
小児疾病論	82
小児保健対象論	84
小児援助論	86

08 母性看護学

母性看護学概論	90
母性疾病論	92

09 精神看護学

精神看護学概論	96
精神疾病論	98
精神援助論	100

10 在宅看護学

在宅看護学概論	104
---------	-----

11 地域看護学

地域看護学概論	108
---------	-----

12 統合実践看護学

看護入門セミナー	112
看護とコミュニケーション	114
ヘルスアセスメント	116
家族看護学	118
看護研究ゼミナール	121

(目 次)

平成 20 年度以前入学生対象
授業科目

平成20年度以前入学生対象授業科目

13 全学共通科目(外国語)

英語コミュニケーションLR演習ⅡN	126
英語コミュニケーションSW演習ⅡN	127
上級英語	128

14 健康科学

基礎保健学(3年生)	130
国際保健医療	132

15 環境保健科学

疫学	136
保健政策論A	138
保健政策論B	140
社会福祉・社会保障論A・B	143
保健統計論	145

16 成人看護学

成人看護学実習	150
---------	-----

17 老年看護学

老年看護学実習Ⅰ	154
老年看護学実習Ⅱ	156

18 小児看護学

小児看護学実習Ⅰ	160
小児看護学実習Ⅱ	162

19 母性看護学

母性援助論Ⅱ	166
母性看護学実習Ⅰ	169
母性看護学実習Ⅱ	171

20 地域看護学

地域看護対象論	176
地域援助論	178
家族援助論	181
産業保健・看護論	183
離島保健・看護論	186

学校保健Ⅰ	188
地域看護学特論	190
地域看護学実習	192

21 精神看護学

精神看護学実習Ⅰ	196
精神看護学実習Ⅱ	197

22 在宅・家族看護学

在宅看護学	200
子どもが産まれる家族の看護	202
子どもを持つ家族の看護	205
高齢者福祉サービスと看護	207
精神障害者のリハビリテーション	209

23 看護管理・教育学

看護管理学	212
看護教育学	214
国際看護比較論	215

24 総合看護学

看護クリティカルシンキングⅠ	218
看護クリティカルシンキングⅡ	220
看護研究Ⅰ	222
看護研究Ⅱ	224
原著講読	226

25 教職科目

学校保健Ⅱ	230
養護原論	232

年間時間割カレンダー

1年生	236
2年生	240
3年生	255
4年生	270

香川大学医学部の基本理念

- 1 世界に通ずる医学及び看護学の教育研究を目指す。
- 2 人間性の豊かな医療人並びに医学及び看護学の研究者を養成する。
- 3 医学及び看護学の進歩並びに人類の福祉に貢献すると共に地域医療の充実発展に寄与する。

教 育 目 標

- 1 看護の対象である人間としての権利と自由を尊重し、思考力、判断力、行動力を高めることができる能力を養う。
- 2 看護の問題を総合的に判断し、解決できる基本的な知識及び看護実践能力を養う。
- 3 生涯を通じて自己啓発し、看護を批判的に分析し、建設的・創造的に発展させることができる基礎的能力を養う。
- 4 看護活動を通して教育、研究、管理を担い、及び国際貢献ができる能力を養う。

人 材 養 成 上 の 目 的

- 1 生命の尊重を基本として、人間に対する高い倫理性と深い思索力をもった看護職者を育成する。
- 2 保健・医療・福祉の進展に柔軟に対応できる科学的判断力と専門技術を備えた看護職者を育成する。
- 3 幅広い視野を持ち、地域保健医療や国際貢献の発展に寄与する看護職者を育成する。

香川大学医学部履修要項

(趣旨)

第1 この要項は、香川大学学則(以下「学則」という。)、香川大学医学部規程及び香川大学追試験及び再試験に関する規則に定めるもののほか、履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目等)

第2 開設する授業科目、単位数及び履修年次は、医学科にあっては別表1、看護学科にあっては別表2のとおりとする。ただし、必要がある場合には教授会の議を経て、各年次配当及び単位数を変更することがある。

(授業科目の履修)

第3 授業科目は、原則として別表1及び別表2に定める年次配当順に履修するものとする。

2 学生は、別表1又は別表2に掲げる授業科目を履修しようとするときは、履修届を所定の期日までに総務課学務室(以下「学務室」という。)に提出しなければならない。

3 前項の履修届を提出したのち、履修すべき授業科目の変更又は取消しをする場合は、履修科目変更(取消)届を所定の期日までに学務室に提出しなければならない。

(単位の認定)

第4 履修した授業科目については、試験又はその他の審査を行い、合格した科目について所定の単位を認定する。また、2学年以上にまたがる科目については、それぞれ履修途中における学年末に履修段階判定を行うことがある。

(試験)

第5 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、原則として学期末に一定の期間を定めて行う。

3 追試験は、定期試験終了後に、再試験は、定期試験及び追試験終了後に期間を定めて行う。

4 前2項に定める試験のほか、担当教員は学習成果の評価を随時に行うことができる。

5 医学科の学生は、授業科目の講義、実験、実習及び実技のそれぞれの時間数の3分の2以上出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

6 看護学科の学生は、学内の講義、実験、実習及び実技については3分の2以上、臨地実習については5分の4以上出席しなければその授業科目の試験を受けることができない。

7 次の各号のいずれかの事由により定期試験に欠席した者に対しては、追試験を行う。

(1) 天災その他の非常災害(事由書添付)

(2) 交通機関の突発事故(事由書添付)

(3) 負傷又は疾病(医師の診断書添付)

(4) 3親等内の親族の死亡による忌引き(事由書添付)

(5) 就職試験の受験(事由書添付)

(6) その他学部長が相当と認める事由(事由書添付)

8 前項による追試験の許可を受けようとする者は、欠席した試験が行われた日の翌日から起算して7日以内に、前項各号に掲げる書類を添えて医学部長に願い出なければならない。

9 再試験は、定期試験又は追試験を受験し、不合格になった場合、願い出により科目担当教員の承認を得て受けることができる。

(成績の評価)

第6 成績の評価は、次表のとおりの評点及び評語をもって表し、秀、優、良又は可を合格、不可を不合格とする。

評点	評語
90点以上	秀
80点以上 90点未満	優
70点以上 80点未満	良
60点以上 70点未満	可
60点未満	不可

ただし、医学実習Ⅱはこれらの評点及び評語によらずと評価することができる。

- 2 再試験の評価は、可を限度とする。
- 3 2年以上の年次にわたって開講する科目については、その途中の各年次ごとに合又は否の履修段階判定を行うことができる。

(医学科の履修段階判定及び進級判定)

第7 2年次末において、1年次及び2年次に履修すべき授業科目等に不合格となった授業科目がある場合は、3年次に進級できない。

ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。

2 3年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格又は否となった授業科目がある場合は、4年次に進級できない。

ただし、不合格科目が全学共通科目のみのときは進級できる。

3 4年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格又は否となった授業科目がある場合は、5年次に進級できない。全学共通科目についても、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。

4 臨床実習開始前の学生評価のための共用試験(CBT及びOSCE)に不合格となった場合は、医学実習Ⅰを履修できない。

5 5年次末において、当該年次に履修すべき授業科目等に不合格若しくは否となった授業科目がある場合又は医学実習Ⅰを履修していない場合は、6年次に進級できない。

(看護学科の進級判定)

第8 各学年次末において、該当学年次末までに履修しなければならない必修科目について、不合格となった授業科目がある場合は進級できない。

ただし、1年次末において、全学共通科目は進級判定から除くものとし、2年次末までに修得しなければならない。

2 3年次末において、1年次から3年次までに履修しなければならない選択科目について、所定の単位以上修得していない場合は進級できない。

3 3年次編入学生については、前2項の規定は適用しない。

(成績の認定)

第9 成績の総合認定は、教授会において審議する。

(再履修)

第10 2、3、4、5年次に留め置かれた場合は、不合格又は否となった授業科目(実習を含む。)を再履修するものとする。ただし、選択科目については該当する授業科目のうちから再履修するものとする。

2 前項の再履修の方法は、担当教員の指示による。

(聴講)

第11 既に合格となった授業科目の聴講を希望する者は、当該授業科目担当教員に聴講願を出して、許可を得た上で講義を聴講することができる。

なお、聴講できる授業科目は、聴講する学生の該当する学年次以下において開講されている授業科目とする。

(試験における不正行為)

第12 試験において不正行為があったときは、教授会の議を経て次のとおり措置する。

- (1) 不正行為があった学期のすべての授業科目の成績を無効とし、原級に留め置く。
- (2) 不正行為について反省が認められない場合は、(1)の措置に加えて、学則第84条により懲戒する。

(特例措置)

第13 平成16年度に医学科3年次に在籍していた学生のうち、平成17年度以降2年次に履修することに変更になった授業科目を履修する者については、学則第26条の規定にかかわらず、3年次及び4年次の在学期間は5年を、それぞれ超えることができないものとする。

(その他)

第14 その他この履修要項の定めにより処理し難い事項及び不合理な事例が生じた場合は、学務委員会の議を経て処理する。

附 則

1 この要項は、平成16年4月1日から施行する。

2 平成15年9月30日に香川医科大学(以下「旧香川医科大学」という。)に在学し、かつ平成16年3月31日に旧香川医科大学に在学する者(以下「在学者」という。)及び在学者の属する年次に編入学等する者が在学しなくなるまでの間、旧香川医科大学を卒業するために必要とされる教育課程その他教育に必要な事項は、旧香川医科大学の医学部規程その

他の規程等の定めるところによる。

附 則

この要項は、平成 17 年 3 月 1 日から施行する。ただし、改正後の要項第 14 及び別表 1 については、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 21 年 3 月 31 日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成 21 年 10 月 21 日から施行する。

別表 2 (平成21年度～)

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考	
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール		2		2				28 単位以上修得 看護学必修 (共通科目)	
	主題科目		8		8					
	共通科目		8		8					
	看護学	2			2					
	外国語	既習外国語 (英語)	6			4	1	1		
	初習外国語			2		2				
	健康・スポーツ科目	2			2					
専 門 基 礎 科 学	基礎・臨床科学	形態・生理学A (生命維持の基本構造)	2			2			10 単位以上修得 (選択 1 単位含む)	
		形態・生理学B (環境適応と行動)	2			2				
		生化学	1			1				
		分子生物学・栄養学	1			1				
		微生物学A (細菌学・原虫学)	1				1			
		微生物学B (ウイルス学・真菌学)	1				1			
		薬剤療養学	1			1				
		免疫学		1			1			
	機能再生医療学		1			1				
	社会保健学	疫学	2					2	8 単位以上修得	
		公衆衛生学	1					1		
		保健政策論	2					2		
		看護と法規	1				1			
		社会福祉・社会保障論	1				1			
保健統計論		1					1			
	基礎保健学			1	1					
基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	1			1			12 単位修得	
		看護理論	1			1				
		基礎看護方法論	1				1			
		基本援助技術論	2			2				
		生活援助技術論	2				2			
		基礎看護技術論	2				2			
		基礎看護学早期体験実習	1			1				
		基礎看護学実習	2				2			

授 業 科 目 等			単 位 数			履 修 年 次				備 考
			必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
生 涯	成 人 看 護 学	成人看護学概論	1			1				14 単位修得
		成人疾病論	2				2			
		成人慢性期援助論	1				1			
		成人急性期援助論	1				1			
		成人リハビリテーション期援助論	1				1			
		成人終末期援助論	1				1			
		成人看護学演習	1					1		
		成人看護学基本実習	1					1		
		成人急性期・リハビリテーション期実習	2						2	
		成人慢性期・終末期実習	2						2	
		成人看護学継続看護実習	1						1	
発 達	老 年 看 護 学	老年看護学概論	2				2			8 単位修得
		老年疾病論	1				1			
		老年援助論	1				1			
		認知症高齢者のケア			1			1		
		老年生活援助実習	2						2	
		老年看護学実習	2						2	
看 護 学	小 児 看 護 学	小児看護学概論	1				1			6 単位修得
		小児疾病論	1				1			
		小児保健対象論	1				1			
		小児援助論	1				1			
		子どもを持つ家族の看護			1			1		
		小児看護学実習	2						2	
学	母 性 看 護 学	母性看護学概論	1			1				6 単位修得
		母性疾病論	1				1			
		母性保健対象論	1					1		
		母性援助論	1					1		
		子どもが産まれる家族の看護			1			1		
		母性看護学実習	2						2	
精 神 看 護 学	精 神 看 護 学	精神看護学概論	2				2			6 単位修得
		精神疾病論	1				1			
		精神援助論	1				1			
		精神障害者のリハビリテーション			1			1		
		精神看護学実習	2						2	

授 業 科 目 等			単 位 数			履 修 年 次				備 考	
			必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
地域生活看護学	在宅看護学	在宅看護学概論	2				2			5 単位必修	
		在宅援助論	1					1			
		在宅看護学実習	2						2		
	地域看護学	地域看護学概論	2				2			14 単位必修	
		地域看護対象論	1					1			
		地域援助論	2					2			
		地域ケースワーク論	1					1			
		産業保健・看護論	1					1			
		離島保健・看護論	1					1			
		学校保健 I	1					1			
		地域看護管理論	1						1		
	地域看護学実習	4						4			
	統合実践看護学	統合実践看護学	看護入門セミナー			1	1				12 単位以上 (選択 1 単位含む)
			看護とコミュニケーション	1				1			
ヘルスアセスメント			1				1				
家族看護学			1				1				
看護と国際社会				1				1			
看護マネジメント学			2						2		
看護クリティカルシンキング				1				1			
看護研究ゼミナール				1			1				
看護研究基礎論			2					2			
看護研究			2						2		
統合実習	2						2				
教職科目	学校保健 II			1			1		その他、教職に必要な科目は教育学部で開設している科目を履修すること		
	養護原論			1			1				
	養護実習			4				4			
計			109	23	14	146			129 単位以上修得		

(平成20年度～)

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール		2		2				28 単位以上修得
	主題科目		8		8				
	共通科目		10		10				
	外国語	既習外国語 (英語)	6			4	1	1	
		初習外国語			2	2			
	健康・スポーツ科目	2			2				
専 門 基 礎 科 目	健 康 科 学	形態・生理学A	2			2			9 単位以上修得
		形態・生理学B	2			2			
		生化学・栄養学A	1			1			
		生化学・栄養学B	1			1			
		薬剤療養学	1			1			
		基礎保健学	1					1	
		死生学		1		1			
		免疫学		1			1		
		リハビリテーション学		1			1		
		国際保健医療		1				1	
環 境 保 健 科 学	環 境 保 健 科 学	微生物学A	1				1		9 単位修得
		微生物学B	1				1		
		疫学	1					1	
		保健政策論A	1					1	
		保健政策論B	1					1	
		看護と法規	1				1		
		社会福祉・社会保障論A	1					1	
		社会福祉・社会保障論B	1					1	
保健統計論	1					1			
専 門 科 目	基 礎 看 護 学	看護学概論	1			1			12 単位修得
		看護理論	1			1			
		基礎看護方法論	1				1		
		基礎看護援助論Ⅰ	1			1			
		基礎看護援助論Ⅱ	3				3		
		基礎看護援助論Ⅲ	2				2		
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1			
		基礎看護学実習Ⅱ	2				2		

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専 門 科 目	成人 看護 学	成人看護学概論	1			1			17 単位以上修得
		成人疾病論	2				2		
		成人援助論Ⅰ	2				2		
		成人援助論Ⅱ	2				2		
		成人援助論Ⅲ	1				1		
		成人援助論Ⅳ			1		1		
		成人看護学演習	1				1		
	成人看護学実習	8						8	
	老年 看護 学	老年看護学概論	2				2		8 単位修得
		老年疾病論	1				1		
		老年援助論	2				2		
		老年看護学実習Ⅰ	2					2	
		老年看護学実習Ⅱ	1						
	小児 看護 学	小児看護学概論	1				1		8 単位修得
		小児疾病論	1				1		
		小児援助論Ⅰ	2				2		
		小児援助論Ⅱ	1				1		
		小児看護学実習Ⅰ	1					1	
		小児看護学実習Ⅱ	2						
	母性 看護 学	母性看護学概論	1			1			8 単位修得
		母性疾病論	1				1		
		母性援助論Ⅰ	2				2		
		母性援助論Ⅱ	1				1		
		母性看護学実習Ⅰ	1					1	
		母性看護学実習Ⅱ	2						
	地域 看護 学	地域看護学概論	1					1	11 単位以上修得
		地域看護対象論	1					1	
		地域援助論	2					2	
家族援助論		1					1		
地域看護学特論				1				1	
産業保健・看護論		1					1		
離島保健・看護論		1					1		
学校保健Ⅰ		1					1		
学校保健Ⅱ				1			1		
地域看護学実習		3						3	

授 業 科 目 等			単 位 数			履 修 年 次				備 考
			必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専 門 科 目	精神看護学	精神看護学概論	2				2		8 単位取得	
		精神疾病論	1				1			
		精神援助論	2					2		
		精神看護学実習Ⅰ	1					1		
		精神看護学実習Ⅱ	2							2
	在宅・家族看護学	在宅看護学	1					1	3 単位以上修得	
		家族看護学	1					1		
		子どもが産まれる家族の看護		1				1		
		子どもを持つ家族の看護		1				1		
		高齢者福祉サービスと看護		1				1		
	看護管理・教育学	精神障害者のリハビリテーション		1				1	1 単位以上修得	
		看護管理学	1					1		
		看護教育学			1			1		
	総合看護学	国際看護比較論			1			1	7 単位以上修得	
		ヘルスアセスメント	1				1			
		看護クリティカルシンキングⅠ	1					1		
		看護クリティカルシンキングⅡ		1				1		
		コミュニケーション・カウンセリング			1			1		
		看護研究Ⅰ	2					2		
		看護研究Ⅱ	2					2		
	教職科目	原著講読		1				1	その他、教職に必要な科目は教育学部で開設している科目を履修すること	
養護原論				1			1			
		養護実習			4			4		
計			106	30	13	149		129 単位以上修得		

(平成18年・平成19年度入学生)

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考	
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
全 学 共 通 科 目	教養ゼミナール		2		2				28 単位以上修得	
	主題科目		8		8					
	共通科目		10		10					
	外 国 語	既習外国語 (英語)	6			4	1	1		
		初習外国語			2	2				
	健康・スポーツ科目	2			2					
専 門 基 礎 科 目	健 康 科 学	形態・生理学A	2			2			9 単位以上修得	
		形態・生理学B	2			2				
		生化学・栄養学A	1			1				
		生化学・栄養学B	1			1				
		薬剤療養学	1			1				
		基礎保健学	1					1		
		死生学		1		1				
		免疫学		1			1			
		リハビリテーション学		1			1			
		国際保健医療		1				1		
環 境 保 健 科 学	環 境 保 健 科 学	微生物学A	1				1		9 単位修得	
		微生物学B	1				1			
		疫学	1					1		
		保健政策論A	1					1		
		保健政策論B	1					1		
		看護と法規	1				1			
		社会福祉・社会保障論A	1					1		
		社会福祉・社会保障論B	1					1		
		保健統計論	1					1		
専 門 科 目	基 礎 看 護 学	看護学概論	1			1			12 単位修得	
		看護理論	1			1				
		基礎看護方法論	1				1			
		基礎看護援助論Ⅰ	1			1				
		基礎看護援助論Ⅱ	3				3			
		基礎看護援助論Ⅲ	2				2			
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1				
		基礎看護学実習Ⅱ	2				2			

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	
専 門 科 目	成人看護学	成人看護学概論	1			1			17 単位以上修得
		成人疾病論	2				2		
		成人援助論Ⅰ	2				2		
		成人援助論Ⅱ	2				2		
		成人援助論Ⅲ	1				1		
		成人援助論Ⅳ			1		1		
		成人看護学演習	1				1		
	成人看護学実習	8						8	
	老年看護学	老年看護学概論	2				2		8 単位修得
		老年疾病論	1				1		
		老年援助論	2				2		
		老年看護学実習Ⅰ	2					2	
		老年看護学実習Ⅱ	1						
	小児看護学	小児看護学概論	1				1		8 単位修得
		小児疾病論	1				1		
		小児援助論Ⅰ	2				2		
		小児援助論Ⅱ	1				1		
		小児看護学実習Ⅰ	1					1	
		小児看護学実習Ⅱ	2						
	母性看護学	母性看護学概論	1			1			8 単位修得
		母性疾病論	1				1		
		母性援助論Ⅰ	2				2		
		母性援助論Ⅱ	1				1		
		母性看護学実習Ⅰ	1					1	
		母性看護学実習Ⅱ	2						
	地域看護学	地域看護学概論	1					1	11 単位以上修得
		地域看護対象論	1					1	
		地域援助論	2					2	
家族援助論		1					1		
地域看護学特論				1				1	
産業保健・看護論		1					1		
離島保健・看護論		1					1		
学校保健		1					1		
地域看護学実習		3						3	
精神看護学	精神看護学概論	2				2		8 単位修得	
	精神疾病論	1				1			
	精神援助論	2					2		
	精神看護学実習Ⅰ	1					1		
	精神看護学実習Ⅱ	2							2

授 業 科 目 等		単 位 数			履 修 年 次				備 考	
		必 修	選 択	自 由	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
専 門	在宅・家族看護学	在宅看護学	1				1		3 単位以上修得	
		家族看護学	1				1			
		子どもが産まれる家族の看護		1			1			
		子どもを持つ家族の看護		1			1			
		高齢者福祉サービスと看護		1			1			
		精神障害者のリハビリテーション		1			1			
科	看護管理 ・ 教育学	看護管理学	1				1		1 単位以上修得	
		看護教育学			1		1			
		国際看護比較論			1		1			
目	総合看護学	ヘルスアセスメント	1			1			7 単位以上修得	
		看護クリティカルシンキングⅠ	1				1			
		看護クリティカルシンキングⅡ		1						1
		コミュニケーション・カウンセリング			1		1			
		看護研究Ⅰ	2				2			
		看護研究Ⅱ	2							2
		原著講読		1				1		
計		104	32	7	143			129 単位以上修得		

香川大学医学部看護学科3年次編入学生の既修得単位及び在学期間の通算等の取り扱いに関する要項

(趣旨)

第1 この要項は、香川大学医学部規程第8条第2項の規定に基づき、香川大学医学部看護学科における3年次編入学生(以下「編入学生」という。)の既修得単位、在学期間等について必要な事項を定める。

(修業年限)

第2 編入学生の修業年限は、香川大学学則(以下「学則」という。)第25条の規定にかかわらず2年とする。

(在学期間)

第3 編入学生の在学期間は、学則第26条第1項の規定にかかわらず4年を超えることができない。

(卒業要件)

第4 編入学生の卒業要件は、編入学した学年次の入学年度によるものとする。

(既修得単位の認定)

第5 入学前の短期大学等において修得した単位は、本学が開設している授業科目と照合し、本学における授業科目の履修により修得したもものとして認定する。

2 認定する授業科目の単位数については、別表に定めるとおりとする。

(認定手続)

第6 第5に規定する既修得単位の取扱いについては、学務委員会で原案を作成し、教授会が本学の単位として認定する。

(認定の通知)

第7 認定の結果については、速やかに当該学生に通知する。

(成績の標語)

第8 第6の規定により認定された授業科目の成績は、「認定」の標語をもって表すものとする。

(修得単位)

第9 編入学生は、第6の規定により認定された単位と合わせて、別表の卒業要件として定められた単位を修得しなければならない。

(履修指導)

第10 認定を行った場合は、学習内容の豊富化を図るよう適切な指導を行うものとする。

附 則

1 この要項は、平成16年4月1日から施行する。

2 平成15年9月30日までに香川医科大学(以下「旧香川医科大学」という。)に編入学し、かつ平成16年3月31日に在学する者の旧香川医科大学を卒業するために必要とされる教育課程その他の教育に必要な事項は、旧香川医科大学の医学部看護学科3年次編入学生の既修得単位及び在学期間の通算等の取扱いに関する要項等の定めるところによる。

附 則

この要項は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年4月16日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成22年4月1日から施行する。

別表

医学部看護学科3年次編入学卒業要件単位（平成22年度入学者）

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数	
		必修	選択	自由				
全学 共通科目	教養ゼミナール		2		1	20 単位	28 単位以上 修得	
	主題科目		8		1			
	共通科目		10		1			
	外国語	既習外国語（英語）	6					1・2・3
		初習外国語			2			1
	健康・スポーツ科目	2			1			
専門基礎科目	健康科学	形態・生理学A	2			1	7 単位	9 単位以上修得
		形態・生理学B	2			1		
		生化学・栄養学A	1			1		
		生化学・栄養学B	1			1		
		薬剤療養学	1			1		
		基礎保健学	1			3		
		死生学		1		1		
		免疫学		1		2		
		リハビリテーション学		1		2		
		国際保健医療		1		3		
	環境保健科学	微生物学A	1			2	3 単位	9 単位修得
		微生物学B	1			2		
		疫学	1			3		
		保健政策論A	1			3		
		保健政策論B	1			3		
		看護と法規	1			2		
		社会福祉・社会保障論A	1			3		
		社会福祉・社会保障論B	1			3		
		保健統計論	1			3		
専門科目	基礎看護学	看護学概論	1			1	12 単位	12 単位修得
		看護理論	1			1		
		基礎看護方法論	1			2		
		基礎看護援助論Ⅰ	1			1		
		基礎看護援助論Ⅱ	3			2		
		基礎看護援助論Ⅲ	2			2		
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1		
		基礎看護学実習Ⅱ	2			2		

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数
専 門 科 目	成人看護学	成人看護学概論	1			1	17 単位 17 単位以上 修得
		成人疾病論	2			2	
		成人援助論 I	2			2	
		成人援助論 II	2			2	
		成人援助論 III	1			2	
		成人援助論 IV			1	2	
		成人看護学演習	1			2	
		成人看護学実習	8			4	
	老年看護学	老年看護学概論	2			2	8 単位 8 単位修得
		老年疾病論	1			2	
老年援助論		2			2		
老年看護学実習 I		2			3		
老年看護学実習 II		1			4		
小児看護学	小児看護学概論	1			2	8 単位 8 単位修得	
	小児疾病論	1			2		
	小児援助論 I	2			2		
	小児援助論 II	1			2		
	小児看護学実習 I	1			3		
	小児看護学実習 II	2			4		
母性看護学	母性看護学概論	1			1	8 単位 8 単位修得	
	母性疾病論	1			2		
	母性援助論 I	2			2		
	母性援助論 II	1			2		
	母性看護学実習 I	1			3		
	母性看護学実習 II	2			4		
地域看護学	地域看護学概論	1			3	— 11 単位以上 修得	
	地域看護対象論	1			3		
	地域援助論	2			3		
	家族援助論	1			3		
	地域看護学特論			1	4		
	産業保健・看護論	1			3		
	離島保健・看護論	1			3		
	学校保健 I	1			3		
	学校保健 II			1	3		
	地域看護学実習	3			4		

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数	
専	精神看護学	精神看護学概論	2			2	8 単位	8 単位修得
		精神疾病論	1			2		
		精神援助論	2			3		
		精神看護学実習 I	1			3		
		精神看護学実習 II	2			4		
門	在宅・家族看護学	在宅看護学	1			3	—	3 単位以上修得
		家族看護学	1			3		
		子どもが産まれる家族の看護		1		3		
		子どもを持つ家族の看護		1		3		
		高齢者福祉サービスと看護		1		3		
		精神障害者のリハビリテーション		1		3		
科	看護管理 ・教育学	看護管理学	1			3	1 単位	1 単位以上修得
		看護教育学			1	3		
		国際看護比較論			1	3		
目	総合看護学	ヘルスアセスメント	1			2	—	7 単位以上修得
		看護クリティカルシンキング I	1			3		
		看護クリティカルシンキング II		1		4		
		コミュニケーション・カウンセリング			1	3		
		看護研究 I	2			3		
		看護研究 II	2			4		
		原著講読		1		3		
教職科目	養護原論			1		3	—	その他、教職に必要な科目は教育学部で開設している科目を履修すること
	養護実習			4		4		
計		106	30	13		92 単位	129 単位以上修得	

医学部看護学科3年次編入学卒業要件単位（平成21年度入学者）

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数	
		必修	選択	自由				
全学 共通科目	教養ゼミナール		2		1	20 単位	28 単位以上 修得	
	主題科目		8		1			
	共通科目		10		1			
	外国語	既習外国語（英語）	6					1・2・3
		初習外国語			2			1
	健康・スポーツ科目	2			1			
専門基礎科目	健康科学	形態・生理学A	2			1	7 単位	9 単位以上修得
		形態・生理学B	2			1		
		生化学・栄養学A	1			1		
		生化学・栄養学B	1			1		
		薬剤療養学	1			1		
		基礎保健学	1			3		
		死生学		1		1		
		免疫学		1		2		
		リハビリテーション学		1		2		
		国際保健医療		1		3		
	環境保健科学	微生物学A	1			2	3 単位	9 単位修得
		微生物学B	1			2		
		疫学	1			3		
		保健政策論A	1			3		
		保健政策論B	1			3		
		看護と法規	1			2		
		社会福祉・社会保障論A	1			3		
		社会福祉・社会保障論B	1			3		
		保健統計論	1			3		
専門科目	基礎看護学	看護学概論	1			1	12 単位	12 単位修得
		看護理論	1			1		
		基礎看護方法論	1			2		
		基礎看護援助論Ⅰ	1			1		
		基礎看護援助論Ⅱ	3			2		
		基礎看護援助論Ⅲ	2			2		
		基礎看護学実習Ⅰ	1			1		
		基礎看護学実習Ⅱ	2			2		

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数
専 門 科 目	成人看護学	成人看護学概論	1			1	17 単位 17 単位以上 修得
		成人疾病論	2			2	
		成人援助論 I	2			2	
		成人援助論 II	2			2	
		成人援助論 III	1			2	
		成人援助論 IV			1	2	
		成人看護学演習	1			2	
		成人看護学実習	8			4	
	老年看護学	老年看護学概論	2			2	8 単位 8 単位修得
		老年疾病論	1			2	
		老年援助論	2			2	
		老年看護学実習 I	2			3	
		老年看護学実習 II	1			4	
	小児看護学	小児看護学概論	1			2	8 単位 8 単位修得
		小児疾病論	1			2	
		小児援助論 I	2			2	
		小児援助論 II	1			2	
		小児看護学実習 I	1			3	
		小児看護学実習 II	2			4	
	母性看護学	母性看護学概論	1			1	8 単位 8 単位修得
		母性疾病論	1			2	
		母性援助論 I	2			2	
		母性援助論 II	1			2	
		母性看護学実習 I	1			3	
		母性看護学実習 II	2			4	
	地域看護学	地域看護学概論	1			3	— 11 単位以上 修得
		地域看護対象論	1			3	
		地域援助論	2			3	
家族援助論		1			3		
地域看護学特論				1	4		
産業保健・看護論		1			3		
離島保健・看護論		1			3		
学校保健		1			3		
地域看護学実習		3			4		

授業科目等		単位数			配当年次	編入学生 認定単位 上限	卒業要件単位 数	
専	精神看護学	精神看護学概論	2			2	8 単位	8 単位修得
		精神疾病論	1			2		
		精神援助論	2			3		
		精神看護学実習 I	1			3		
		精神看護学実習 II	2			4		
門	在宅・家族看護学	在宅看護学	1			3	—	3 単位以上修得
		家族看護学	1			3		
		子どもが産まれる家族の看護		1		3		
		子どもを持つ家族の看護		1		3		
		高齢者福祉サービスと看護		1		3		
		精神障害者のリハビリテーション		1		3		
科	看護管理 ・教育学	看護管理学	1			3	1 単位	1 単位以上修得
		看護教育学			1	3		
		国際看護比較論			1	3		
目	総合看護学	ヘルスアセスメント	1			2	—	7 単位以上修得
		看護クリティカルシンキング I	1			3		
		看護クリティカルシンキング II		1		4		
		コミュニケーション・カウンセリング			1	3		
		看護研究 I	2			3		
		看護研究 II	2			4		
		原著講読		1		3		
計		106	30	7		92 単位	129 単位以上修得	

気象警報の発令等における休講措置の基準

平成22年1月6日（全学）教務委員会申合せ

全ての学部及び研究科の開講科目並びに全学共通教育の開講科目に関して、気象警報の発令等の場合における休講の措置は、次の基準による。

なお、その措置については、その都度掲示する。

1. 気象警報の発令による場合

(1) 午前8時30分以降午後6時前の間に開始される授業について、香川県の全域又は一部地域に、大雨、洪水、暴風又は大雪の警報が、午前6時に既に発令中又はそれ以降に発令された場合は、休講とする。

ただし、午前9時の時点で警報が解除されている場合で、かつ、それ以降に発令されないときは、午後1時以降に開始される授業を実施する。

(2) 午後6時以降に開始される授業（夜間主コースの授業を含む。）については、前号の「午前6時」とあるのは「午後3時」に読み替えるものとし、ただし書きは適用しない。

(3) 教育実習、臨床実習、臨地実習等の授業で前各号によりがたい場合は、その都度、その授業を開講する部局の長が判断し措置する。

2. その他非常時の場合

学部の開講科目については学部長が、研究科の開講科目については研究科長が、全学共通教育の開講科目については大学教育開発センター長が判断し措置する。

この申合せは、平成22年4月1日から施行する。

平成 22 年度 看護学科行事予定表

学 年 学期	1	2	
前 期	1日(木) 学年始 前期開始 4日(日) 入学式 新入生が`イ`ンス 4 5日(月) 新入生が`イ`ンス (全学) 6日(火) 定期健康診断 7日(水) 前期授業開始 10日(土) 新入生研修会 17日(土) 医学部新入生歓迎行事 5 6 1日(木) 月曜日授業振替日 7 23日(金) } 前期定期試験 8 5日(木) } 6日(金) } 夏季休業開始 9 30日(木) 夏季休業終了 前期終了	1日(木) 学年始 前期開始 4 6日(火) 授業が`イ`ンス 7日(水) 前期授業開始 9日(金) 定期健康診断 (午後休講) 5 6 1日(木) 月曜日授業振替日 7 17日(土) 夏季休業開始 8 31日(火) 夏季休業終了 1日(水) } 補講期間 9 30日(木) } 30日(木) } 前期終了	
	後 期	1日(金) 大学記念日(休業) 後期開始 4日(月) 後期授業開始 9日(土) } 医学部祭 10日(日) } 11 29日(金) } 香大祭(臨時休業) 1日(月) } 4日(木) } 月曜日授業振替日 27日(土) } 推薦入学試験(予定) 12 22日(水) 金曜日授業振替日 25日(土) } 冬季休業 7日(金) } 11日(火) } 木曜日授業振替日 1 13午後, 14日(木, 金) 大学入試センター 15日(土) } 試験準備(臨時休業) 大学入試センター試験 16日(日) } 2 4日(金) } 学年末試験 18日(金) } 24日(木) } 午後入試準備 25日(金) } 個別学力検査等 (前期日程予定) 26日(土) } 3 11日(金) 春季休業開始 12日(土) } 個別学力検査等 (後期日程予定) 13日(日) } 31日(木) 後期終了 学年終	1日(金) 大学記念日(休業) 後期開始 4日(月) 後期授業開始 8日(金) } 前夜祭(午後休講) 9日(土) } 医学部祭 10日(日) } 11日(月) } 片づけ 11 29日(金) } 香大祭 1日(月) } 4日(木) } 月曜日授業振替日 27日(土) } 推薦入学試験(予定) 12 22日(水) 金曜日授業振替日 25日(土) } 冬季休業 7日(金) } 11日(火) } 木曜日授業振替日 1 14日(金) } 午後入試準備 15日(土) } 大学入試センター試験 16日(日) } 2 1日(火) 補講期間開始 24日(木) } 午後入試準備 25日(金) } 個別学力検査等 (前期日程予定) 26日(土) } 3 10日(木) 補講期間終了 11日(金) } 春季休業開始 12日(土) } 個別学力検査等 (後期日程予定) 13日(日) } 31日(木) 後期終了 学年終

学年 学期	3	4			
前 期	4	1日(木) 学年始 前期開始 6日(火) 授業が ¹ イグス 7日(水) 前期授業開始 9日(金) 定期健康診断(午後休講)	4	1日(木) 学年始 前期開始 6日(火) 授業が ¹ イグス 7日(水) 前期授業開始 8日(木) オリエンテーション開始 9日(金) 定期健康診断(午後休講)	
	5		5		
	6		6		
	7	17日(土) 夏季休業開始	7	24日(土) 夏季休業開始	
	8	31日(火) 夏季休業終了 1日(水) 補講期間	8	31日(火) 夏季休業終了 1日(水) 補講期間	
	9	30日(木) 前期終了 30日(木) 前期終了	9	10日(金) 補講期間 30日(木) 前期終了	
	後 期	10	1日(金) 大学記念日(休業) 後期開始 4日(月) 後期授業開始 8日(金) 前夜祭(午後) 9日(土) 医学部祭 10日(日) 医学部祭 11日(月) 片づけ	10	1日(金) 大学記念日(休業) 後期開始 9日(土) 医学部祭 10日(日) 医学部祭
		11	29日(金) 香大祭 1日(月) 香大祭	11	29日(金) 香大祭 1日(月) 香大祭
12		27日(土) 推薦入学試験(予定)	12	27日(土) 推薦入学試験(予定)	
1		25日(土) 冬季休業 7日(金) 午後入試準備 14日(金) 午後入試準備 15日(土) 大学入試センター試験 16日(日) 大学入試センター試験	1	25日(土) 冬季休業 7日(金) 午後入試準備 14日(金) 午後入試準備 15日(土) 大学入試センター試験 16日(日) 大学入試センター試験	
2		1日(火) 補講期間開始 24日(木) 午後入試準備 25日(金) 個別学力検査等 (前期日程予定) 26日(土) 個別学力検査等 (前期日程予定)	2	24日(木) 午後入試準備 25日(金) 個別学力検査等 (前期日程予定) 26日(土) 個別学力検査等 (前期日程予定)	
3		10日(木) 補講期間終了 11日(金) 春季休業開始 12日(土) 個別学力検査等 (後期日程予定) 13日(日) 個別学力検査等 (後期日程予定) 31日(木) 後期終了 学年終	3	12日(土) 個別学力検査等 (後期日程予定) 13日(日) 個別学力検査等 (後期日程予定) 24日(木) 卒業式	

平成22年度 授業時間割表

(1年次生)

前期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20 ~ 17:50)
月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井)209	生化学 (田中)209		
火	幸町キャンパス				
水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214,301,303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井)209	看護学概論 (名越)209	全学共通科目 共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他) マルチ	
木	幸町キャンパス				
金	幸町キャンパス				

後期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20 ~ 17:50)
月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井)209	分子生物学・栄養学 (田中)209	母性看護学概論 (内藤)209	成人看護学概論 (清水)209
火	幸町キャンパス				
水	看護理論 (名越)209	薬剤療養学 (筒井, 他)209	形態・生理学B (峠, 筒井)209	基本援助技術論 (南)209	
木	幸町キャンパス				
金	幸町キャンパス				

(備 考)

1. 教室名
301…301講義室 (看護棟3F) 303…303講義室 (看護棟3F)
214…214セミナー室 (看護棟2F) マルチ…マルチメディア実習室(看護棟2F)
209…209講義室 (看護棟2F)
2. 実習期間
基礎看護学早期体験実習 9月27日(月)～9月30日(木)
3. 注意事項
 - (1) 太枠内は選択科目及び自由科目を示す。
 - (2) 4/7(水)10:30～の時間は、1年生のガイダンス時間とし、授業を実施しない。
 - (3) 注)4/21(水), 4/28(水), 5/12(水), 5/19(水)は、「看護学概論」をⅡ校時(10:30～12:00)、「形態・生理学A」をⅢ校時(13:00～14:30)に時間変更する。
 - (4) 上記、4/21(水), 4/28(水), 5/12(水), 5/19(水)のⅡ校時(10:30～12:00)は、臨床講義棟2階講義室で医学科学生と合同で「医学概論」を受講する。
なお、「看護学概論」は、4/14(水)～7/14(水)まで開講する。
 - (5) 基礎保健学は平成22年度休講。平成23年度1・2年生合同で開講予定。

平成22年度 授業時間割表

(2年次生)

前期

曜日	I 時限 (8:50～10:20)	II 時限 (10:30～12:00)	III 時限 (13:00～14:30)	IV 時限 (14:40～16:10)	V 時限 (16:20～17:50)
月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日(I～V時限)・全学共通科目開講日)				
火	生活援助技術論 (南)209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中)209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	精神疾病論 (中村, 他)301
	基礎看護技術論 (南)209				
水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	看護研究ゼミナール (大森, 越智)301	小児看護学概論 (祖父江)301	小児疾病論 (伊藤, 他)301	
				成人疾病論予備日 (田中, 他)209	
木	精神看護学概論 (越智)305	免疫学 (筒井)305	老年看護学概論 (大森)305	成人疾病論予備日 (田中, 他)209	基礎看護方法論 (名越, 他)305
				老年疾病論 (峠, 他)305	
金	成人急性期援助論 (當日)209	成人慢性期援助論 (清水)209	生活援助技術論 (南)209		
			基礎看護技術論 (南)209		

後期

曜日	I 時限 (8:50～10:20)	II 時限 (10:30～12:00)	III 時限 (13:00～14:30)	IV 時限 (14:40～16:10)	V 時限 (16:20～17:50)
月		基礎看護技術論 (南)305		小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
			成人終末期援助論 (金正)305		
火	精神援助論 (越智)301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中)209	老年援助論 (大森)209	母性疾病論 (秦, 内藤)209	
				家族看護学 (内藤, 松井)209	
水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井)301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場)301	機能再生医療学 (峠, 他)301	
木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日・全学共通科目)				
金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習IN」 (Willey・長井)301,305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日)209	地域看護学概論 (大西)209	

(備 考)

1. 教室名
303…303講義室 (看護棟3 F) 305…305講義室 (看護棟3 F)
209…209講義室 (看護棟2 F) 301…301講義室 (看護棟3F)
2. 補講期間
9月 1日(水)～ 9月30日(木)
2月 1日(火)～ 3月10日(木)
3. 実習期間
基礎看護学実習:9/6(月)～9/17(金)
4. 注意事項
(1) 太枠内は選択科目及び自由科目を示す。
(2) ※は非常勤講師を示す。
(3) 集中講義について
 - 看護とコミュニケーション(必修・15h)
藪添・竹森 :9/1(水)、2(木)に集中講義にて開講予定。
 - 社会福祉・社会保障論(必修・30h)
9/21(火)～9/30(木)集中講義にて開講予定。
 - ヘルスアセスメント(必修・30h)
後期2月補講期間に集中講義にて開講予定。

平成22年度 授業時間割表

(3年次生)

前期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20 ~ 17:50)
月			子どもを持つ家族の看護 (祖父江, 谷本, 他) 301 子どもが産まれる家族の看護 (内藤) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
火	産業保健・看護論 (越田, 他) 305	保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	基礎保健学 (大西) 305 離島保健・看護論 (大西, 他) 305	学校保健 I (松井) 305
水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論 II (内藤, 佐々木) 305	高齢者福祉サービスと看護 (大森) 305	精神障害者のリハビリテーション (越智) 305	
木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論B (※丸山, 他) 301 看護クリティカルシンキング I (清水, 金正) 301	保健政策論A (※岡本, ※起, 大西) 301
金		全学共通科目 「英語コミュニケーション LR/SW演習 II N」 (Willey, 長井) 303, 305	看護研究 I (祖父江, 内藤) 301・マルチ	学校保健 II (※中西) 303 国際保健医療 (峠, 祖父江, 他) 301	

後期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20 ~ 17:05)
月		臨	地	実	習
火		臨	地	実	習
水		臨	地	実	習
木		臨	地	実	習
金		臨	地	実	習

(備 考)

1. 教室名

301…301講義室(看護棟3F) 303…303講義室(看護棟3F) マルチ…マルチメディア実習室(看護棟2F)
209…209講義室(看護棟2F) 大B…大講義室B(講義棟1階)

2. 補講期間

9月1日(水)～9月30日(木)
2月21日(月)～3月10日(木)

3. 実習期間

領域Ⅰ 実習オリエンテーション:9/13(月)～9/17(金)

精神看護学実習Ⅰ:9/27(月)～10/1(金)

母性看護学実習Ⅰ:10/12(火)～10/15(金)

成人看護学実習Ⅰ:10/18(月)～10/22(金)

小児看護学実習Ⅰ:10/25(月)～10/29(金)

領域Ⅱ 実習オリエンテーション:11/1(月)～11/5(金)

成人看護学実習Ⅱ, 老年看護学実習Ⅰ, 小児看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習Ⅱ,

精神看護学実習Ⅱ:11/8(月)～2/11(金)

成人看護学実習Ⅳ:2/14(月)～2/18(金)

4. 注意事項

(1) 太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

(2) ※は非常勤講師を示す。

(3) 「国際保健医療」(非常勤講師)は、水曜日に時間変更の場合もあるので、掲示に注意しておくこと。

(4) 「学校保健Ⅰ」は4月27日より開講。6月8日は学外での実習を予定しているので詳細は担当教員の指示に従うこと。

(5) 3年次編入生は、2年次前期開講科目の「社会福祉・社会保障論」(9/21(火)～9/30(木))を必ず受講すること。「社会福祉・社会保障論B」(7/21(3,4限)～7/22(1,2限))を受講しなければならない。日程、ならびに時間変更の場合もあるので、掲示に注意すること。

(6) 3年次編入学生は、2年次後期開講科目の「地域看護学概論」(後期金曜日4限), 「家族看護学」(後期後半期 火曜日4限), 「ヘルスアセスメント」(2月補講期間集中講義)を必ず受講すること。

(7) 集中講義について

○ 基礎保健学(必修・15h)

※加藤: 4/12(月)1～3限に集中講義で開講する。残り4コマは前期前半火曜日4限を受講すること。ただし、3年次編入学生で養教課程希望者は、前期前半火曜日4限を受講すること。

○ 保健政策論B(必修・30h)の15h分

※加藤: 4/9(金)1～2限, 4/12(月)4限, 4/13(火)2～5限に集中講義で開講する。

○ 国際看護比較論(自由・15h)

平成22年度は4年生と合同にて集中で開講する。

○ 養護原論(自由・15h)

7/20以降8月上旬に集中で開講する。

平成22年度 授業時間割表

(4年次生)

前期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20~17:05)
月	臨	地	実	習	
火	臨	地	実	習	
水	臨	地	実	習	
木	臨	地	実	習	
金	臨	地	実	習	

後期

曜日	I 時限 (8:50 ~ 10:20)	II 時限 (10:30 ~ 12:00)	III 時限 (13:00 ~ 14:30)	IV 時限 (14:40 ~ 16:10)	V 時限 (16:20~17:05)
月					
火				看護クリティカルシンキングⅡ (老年)4回 (大森) 301	
水					
木		看護クリティカルシンキングⅡ (成人)4回 (當日, 清水, 他) 301		原著講読 (當日, 峠) 301	
金					

(備 考)

1. 教室名
609…609セミナー室 (看護棟6F) 613…613多目的看護実験実習室 (看護棟6F)
301…301講義室 (看護棟3F)
2. 補講期間
9月1日(火)～ 9月10日(金)
3. 実習期間
成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ, 老年看護学実習Ⅱ, 小児看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習Ⅱ, 精神看護学実習Ⅱ, 地域看護学実習Ⅰ, 地域看護学実習Ⅱ:
5月10日(月)～9月17日(金)
4. 注意事項
 - (1) 太枠内は選択科目及び自由科目を示す。
 - (2) 看護クリティカルシンキングⅡは11月2日～11月30日で開講。
 - (3) 原著講読は11月4日から開講。
 - (4) 集中講義について
 - 看護研究Ⅱ: 4月9日(木)～10月29日(金)
 - 地域看護学特論(自由・15h): 12月13日(月)～12月17日(金)に集中講義にて開講。
 - 看護管理学(必修・15h): 12/7(火)1～3限,12/8(水)2限,12/9(木)の1～3限に開講。
 - 看護教育学(自由・15h): 22年度休講。

平成 21 年度以降入学生対象
授業科目

01 全学共通科目(外国語)

英語コミュニケーションLR 演習 I N

授業科目名	英語コミュニケーションLR 演習 I N (1) English(Listening & Reading) I	科目区分	外国語科目	授業コード	041801
講義題目		単位数	1	時間割	後 金 2
教員名	長井 克己(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年次 医学部看護学科		
授業の概要 一般教養レベルから基礎的な看護英語の学習へのスムーズな移行を目指す。新聞記事のリーディングにより基礎的な語彙と文法の復習を行うと同時に、CDつき教材によりリスニングと発音の練習を行う。					
授業の目的・達成目標 By the end of the course, students should have acquired the following: (a) basic words and phrases in English (b) understanding of basic medical and lay terms in English					
授業及び学習の方法 前半は教科書を用いてリスニングと発音の練習を行うと同時に、看護現場で用いられる基礎的な語彙を習得する。 後半は新聞記事を用いてリーディング練習を行い、基礎的な英語の語法・文法を復習する。					
成績評価の方法と基準 The assessment consists of an assignment/presentation (40%) and two exams, each weighted equally (30%+30%)					
授業計画 Wk 1 Introduction to the course Wk 2-7 Textbook work (Chap 1-5) + Newspaper exercise (one article/one week) Wk 8 Mid term exam Wk 9-14 Textbook work (Chap 6-9) + Newspaper exercise (one article/one week) Wk 15 Term exam details tba.					
教科書 リーディング：新聞記事を1回目の授業で配布。 リスニング：高階・宮崎. 2005. ちょっと一言 MediTalk. インターメディカ. ISBN978-4-89996-116-1					
参考書					
オフィスアワー 研究室は幸町(北5号館5階)なので、医学部ではメールでアポイントをとってください。					
履修上の注意 TOEFL や TOEIC を受験することは望ましいが、本講義の成績判定には関係しない。					

英語コミュニケーションSW 演習 I N

授業科目名	英語コミュニケーションSW 演習 I N English(Speaking & Writing) I	科目区分	外国語科目	授業コード	041802
講義題目	Presentation/Writing	単位数	1	時間割	後 金 2
教員名	ウイラー・イアン・デビッド(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	2年次 医学部看護学科		
授業の概要					
<p>The SW course focuses on productive English, and the course is divided into two themes: Presentation and Writing. The Presentation-themed course centers on English as a speech act. Students will receive instruction on how to prepare and deliver presentations in English, and will practice in groups and before the class. Instruction will focus on three aspects of presentations: the verbal message (pronunciation, intonation), the non-verbal message (eye-contact, posture, gestures, visual aids) and the rhetorical message (organization, logic, support). The Writing-themed course will focus on practical writing skills students may need after graduation, particularly business writing, letter and e-mail writing.</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>In this combined Presentation and Writing-themed course, students will learn the basics of 1) delivering presentations in English; 2) typing papers in English using word processing software; and 3) basic Nursing English vocabulary and communicative expressions.</p>					
授業及び学習の方法					
<p>Handouts, lectures and class activities will focus on basic typing and presentation skills. Typed homework will be assigned regularly, and will be used as material for discussion and speech practice. The textbook will be used in class to develop students' Nursing English vocabulary, and will tie in to discussion and speech practice exercises. There will be weekly vocabulary quizzes, as well as a mid-term and final presentation.</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>Students' grades will be based on the following: 20%: Attendance and participation 40%: Written homework and quizzes 40%: Presentation projects (mid-term and final)</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> (1) Introductions (2) What is a presentation? (3) Regular class (4) Regular class (5) Regular class (6) Presentation Project 1 (Mid-term) (7) Regular class (8) Regular class (9) Regular class (10) Regular class (11) Regular class (12) Presentation Project 2 assigned (13) Presentation 2 workshop (14) Presentation 2 (part 1) (15) Presentation 2 (part 2); Wrap-up 					
教科書					
<p>Handouts/Lectures on presentation and writing skills will be provided by the instructor.</p>					
参考書					
<p>Supplementary workbook: 看単! Easy Nursing English, by I. Willey, G. McCrohan, and S. Shibata. Nanzando Publishers, 2009.</p>					
オフィスアワー					
<p>At Saiwai-cho campus only. Students may contact the teacher via e-mail.</p>					
履修上の注意					
<p>4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。</p>					

02 基礎・臨床科学

形態・生理学A(生命維持の基本構造)・B(環境適応と行動)

担当教員

教授	峠	哲	男
准教授	筒	井	邦彦
兼担教員	竹	内	義喜(教授, 医学科神経機能形態学)
	三	木	崇範(准教授, 同)

授業概要

看護とは、健康上のあらゆる問題、すなわち健康の増進、維持、回復に関する人間の反応に対処し、個人ないし集団が自立してゆくことを援助することにある。そのための基礎として、まず人間の生命の誕生から死に至るまでの生命現象を、生物学的立場から科学的に理解しうる知識が必要とされる。また、看護の対象者となる患者を理解するためには、正常な人体の構造と機能に対する知識を深め、健康とはなにか、さらには人間が病むとはどういうことかが理解できるようにならなければならない。

人体の形態や構造と機能には密接な関係があるといえる。例えば骨では、上下に可動する関節は左右に動くような構造にはなっていない。すなわち、形態や構造はその器官の機能を規定しているのであり、さらには形態と機能は表裏一体の関係であると言えることができるかもしれない。このような観点から、人体の構造と機能をよりよく理解するためには、構造と機能を同時に学習し、その有機的な関係について理解することが重要と考えられる。

この授業においては、まず生命を維持するための基本構造とその機能についての知識を習得してもらい(形態・生理A)、そのあとで、外界に対する適応能力や刺激に対する反応系に関する講義を行う(形態・生理B)。そのような生命現象としての人体を理解したうえで、疾病による形態の変化(病理学的変化)と機能の異常について学習し、身体状態の正常と異常を理解し、さらにその判別が行えるような基礎的知識を習得する。

一般目標

適切な臨床看護を行うことができるようになるために、まず人体の形態と構造に関する基礎知識を身につける。その上で、人体の諸器官の機能が正常に営まれている健康な状態とはいかなるものであるかを把握し、その上で疾病による身体的変化を理解できるようにする。さらには、将来必要とされる臨床看護上の問題や疾病を理解した上で、研究としての展開が行えるような科学的思考能力を身につける。

行動目標

1. 正常な人体諸器官の形態、構造、機能を理解する。
2. 人体諸器官の形態、構造および機能の関連性について、おおそ理解することができる。
3. 正常な人体器官の形態と構造およびそれらの機能が障害された場合、どのような病的状態が引き起こされるかを推察できるようにする。
4. 代表的疾患における病理学的変化と機能異常についてある程度理解できる。
5. 疾病により招来される身体の変化を推察することができ、身体状態の正常と異常の判別が行えるような基礎的知識を習得する。

授業内容

1年次 前期・必修 (A) 2単位 (60時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
序 論	1	人体の大要と解剖学用語	人体の大要、解剖学用語、人体各部の名称	峠
細胞・組織・外皮系	2	細胞	細胞の構造と機能、細胞周期、染色体、ゲノム	峠
	3	組織	上皮組織、結合組織、血液、筋組織、神経組織	峠
	4	外皮系	皮膚と膜	筒井
ホメオスタシス	5	ホメオスタシス	フィードバック機構、体温、体温の調節と異常、発汗	筒井
エネルギー代謝	6	エネルギー代謝	基礎代謝、肥満、やせ、飢餓	筒井
血液	7	血液の成分と造血	血液の一般的性質、成分、造血・造血因子	峠
	8	血液の機能	凝固と線溶、血液型、輸血	峠
体液と電解質	9	体液	体液の組成と pH、酸・塩基平衡、体液の循環と移動、脱水、浮腫	筒井
	10	電解質	体液中の電解質、電解質異常の臨床	峠
リンパ系	11	リンパ組織	リンパ・リンパ管、リンパ節・扁桃・脾臓・胸腺	筒井
	12	免疫	生体防御機構	筒井
循環器系	13	血管系・循環系	毛細血管、動脈、静脈、肺循環、体循環、胎児の血液循環	峠
	14	心臓	心臓の構造、心臓壁と刺激伝達系、拍動、心電図	峠
	15	循環動態	血圧、血圧の異常、脈拍、静脈圧	峠
	16	循環調節	局所性調節、神経性調節、内分泌性調節	峠
泌尿器系	17	腎臓の構造	髄質と皮質、腎小体、尿細管、ネフロン	筒井
	18	尿の生成と腎臓	尿の生成、腎臓の機能、腎疾患	筒井
	19	排尿	尿管・膀胱・尿道、排尿の機序、排尿の障害	筒井
内分泌系	20	内分泌器官の構造	視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、性腺、松果体	筒井
	21	ホルモン	ホルモンの種類と産生機構・調節	筒井
	22		各種ホルモンの作用機序	筒井
	23		ホルモンの分泌異常	筒井
生殖器系	24	男性生殖器系 女性生殖器系	精巣、精路、付属生殖腺など 卵巣、卵管、子宮、性周期、乳腺	筒井
	25	人体の発生	生殖細胞、性染色体と性の決定、胎児の栄養と胎盤、妊娠と分娩、染色体異常と奇形	筒井
骨格系	26	骨の構造と機能	骨の生理作用、骨の形状と構造、骨の化学成分、骨の発生と成長、骨の病気	峠
	27	骨格	頭蓋、脊柱、胸郭、上肢骨、下肢骨	峠
	28	骨の連結	関節の一般構造、関節の運動、関節運動の障害	峠
筋系	29	骨格筋の形状と機能	骨格筋の形状と機能、筋収縮のメカニズム、筋の神経支配	峠
	30	全身の骨格筋	頭蓋の筋、頸部の筋、背部の筋、胸部の筋、横隔膜、腹部の筋、上肢の筋、下肢の筋	峠

1年次 後期・必修（B） 2単位（45時間）

大項目	回	項目	内 容	担当者	
呼吸器系	1	気道系の構造	鼻、咽頭、喉頭、気管、気管支	峠	
	2	肺・胸部内臓器	肺葉、肺胞、胸膜、縦隔、胸郭	峠	
	3	呼吸の生理	呼吸の調節、呼吸運動、呼吸困難、ガス交換、運動時の酸素摂取	峠	
消化器系	4	口, 歯, 唾液腺	口蓋、舌、乳歯と永久歯、耳下腺、顎下腺、舌下腺	筒井	
	5	食道, 胃 小腸, 大腸	食道、胃の形、胃の粘膜、胃の筋層 十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸	筒井	
	6	肝臓, 胆嚢 膵臓, 腹膜	肝葉、肝小葉、肝血管系、肝障害、胆嚢 膵外分泌部、ランゲルハンス島、腹膜、後腹膜器官	筒井	
	7	消化と吸収	唾液の分泌、嚥下、消化液の分泌、消化管の運動	筒井	
	8		消化管の吸収、嘔吐、下痢、腸閉塞、排便、便秘	筒井	
	神経系	9	神経系の構造	神経系の区分と発生、灰白質、核ならびに神経節、白質と根、髄膜	峠
		10	中枢神経系	脊髄、延髄、橋	峠
		11		中脳、小脳、間脳	峠
12			終脳、伝導路	峠	
13		末梢神経系	脊髄神経、脳神経	峠	
14			自律神経系、交感神経、副交感神経	峠	
15		運動機能	運動ニューロン、脊髄、脳幹	峠	
16			大脳皮質と大脳基底核、小脳	峠	
17		感覚機能	感覚の神経生理学、体性感覚、深部感覚、内臓感覚	峠	
18			味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚、視覚	峠	
19		自律神経機能と本能	自律神経系、視床下部と辺縁系、摂食行動、飲水行動	峠	
20		性行動、サーカディアンリズム	峠		
21	意識・高次神経機能	意識とは、睡眠、学習、記憶、連合野、前頭葉機能	峠		
感覚器系	22	味覚器・嗅覚器	味覚器、嗅覚器	峠	
	23	聴器・平衡器 視器	外耳、中耳、内耳 眼球、眼底、水晶体、硝子体、眼球の付属器	峠	

1年後期 解剖学実習見学 田中輝和教授、竹内義喜教授、筒井邦彦准教授、三木崇範准教授の指導のもとに行う。

学習方法

人体器官の形態、構造、位置及びそれぞれの名称を覚えるだけでなく、常に生理機能と関連づけて学習すること。又、出来る限り臨床看護に必要な臨床上の問題や疾病とのかかわり合いの中で、生化学、病理学（疾病論）をも含めた総合的な学習を心掛けること。

また時間があれば、課題提示によるグループでの自己学習と学習成果の発表時間を設ける。

評価方法

1年前期末及び後期末授業終了後に筆記試験を行ない、理解度を評価する。自己学習課題についてはレポートの提出により評価する。

教科書及び参考文献

教科書

人体の構造と機能 第2版 佐藤照夫、佐伯由香 編集 (医歯薬出版, 2005)

カラーで学べる病理学 第2版 渡辺照男 編集 (ヌーヴェル・ヒロカワ, 2005)

参考書

人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 第8版 坂井建雄、岡田隆夫 著 (医学書院, 2009)

ビジュアル解剖生理学 藤本 淳 監修 (ヌーベル・ヒロカワ, 2007)

ナーシング・グラフィカ1 解剖生理学 林正健二 編集 (メディカ出版, 2006)

トータル人体の構造と機能 大野忠雄 他、共訳 第2版 (丸善, 2007)

オフィスアワー

毎週 月曜日 午後4時～午後6時

生 化 学

担当教員

教 授 田 中 輝 和

授業概要

生命とは何か。L. ポーリングは「生命は定義するよりも研究する方がやさしい。」と言った。生命というものがあることは万人が知っているが、「生命とは何か」の質問に答えることは非常に難しい。生化学は、その生命の物質的側面である生体を、主として化学的方法を用いて研究する学問である。看護における生化学は、人体の構成成分である化学物質の性状、人体における分布及び代謝を学び、看護に役立てようとするものであるから「人体生化学」がその中心となるものである。生化学は医学の中でも絶え間なく、しかも急速に進歩を遂げている領域であり、従ってその知識の量は膨大であって、学習には多大な努力が要求される。そこで本講義では、看護の現場を念頭に置き、特に臨床医学の理解の為に必要な部分を詳しくしかも理解しやすいように努めるつもりである。

一般目標

人体を構成している物質と、その生成と分解の反応機構を理解し、その異常及び変動によって生ずる疾患の発症機序を考える基礎知識を身につける。

行動目標

1. 人体構成成分の化学的性質、人体における分布及び生理機能を把握し、その関連性と意義について理解し、説明できるようにする。
2. 人体構成成分の合成と分解及びエネルギー代謝とそれらの調節機構を理解し、代表的な代謝性疾患の病態生理についても説明できるようにする。

授業内容

1 年次 前期・必修 (A) 1 単位 (30 時間)

大項目	回	項目	内 容	担当者
糖 質	1	糖質の種類と役割	単糖、オリゴ糖、多糖	田 中
脂 質	2	脂 質	脂肪酸、必須脂肪酸、中性脂肪、ステロイド	田 中
タンパク質	3	タンパク質とアミノ酸	タンパク質の構造と性質、アミノ酸、必須アミノ酸	田 中
酵 素	4	酵 素	酵素の役割、酵素の反応様式	田 中
糖 質 代 謝	5	糖質の消化と吸収	糖質の消化、糖質の吸収	田 中
	6	解糖系	解糖系	田 中
	7	TCAサイクル	TCAサイクル、電子伝達系、糖新生	田 中
脂 質 代 謝	8	血糖の調節と糖尿病	グリコーゲンの合成、グリコーゲンの分解、血糖値の上昇と低下のメカニズム、糖尿病の病態、糖尿病の診断	田 中
	9	脂質の消化と吸収	脂質の消化、胆汁酸の働き、脂質の吸収	田 中
	10	血液中の脂質	リポタンパク質の種類と役割、高脂血症、キロミクロン、VLDL、LDL、HDL、動脈硬化	田 中

タンパク質代謝	11	脂肪酸の代謝	β 酸化、 β 酸化の調節とケトン体、コレステロールの代謝、プロスタグランジン	田中
	12	タンパク質の消化と吸収	タンパク質の消化、アミノ酸の吸収	田中
代謝調節	13	アミノ酸の代謝	アミノ基転移、脱アミノ基反応、脱カルボキシル基反応、尿素回路、窒素平衡、クレアチニン	田中
	14	代謝の調節	細胞内の調節、臓器の代謝の特徴	田中
	15	〃	食事直後と空腹時、全身の代謝調節Ⅰ、全身の代謝調節Ⅱ	

学習方法

現代医学・看護学を学ぶ上で、生化学・分子生物学の知識と理解があらゆる面で必要である。それなくして人体の健康な状態、疾患の病態、治療とそれに対する生体の反応を正確に理解することは不可能である。その際、例えば、ある疾患に罹患した患者の体内で、どのような生化学的・分子生物学的異常事態が惹き起こされているかを頭の中でイメージしてみることが大切である。

その訓練を、本講義を通じてぜひ行なってもらいたい。そうすれば、ある患者に対して食事療法をも含め、どのような治療、どのような処置を施すべきかの展望が自ら開けてくると確信するからである。

評価方法

1年前期末及び後期末に筆記試験を行ない理解度、判断力及び科学的、論理的な思考力を評価する。

教科書及び参考文献

教科書

臨床生化学 メディカ出版

参考書

栄養・健康科学シリーズ 生化学 奥 恒行 ら編 南江堂

ハーパー生化学 上代淑人監訳 丸善

からだの生化学 田川邦夫 タカラバイオ (丸善)

オフィスアワー

毎週 月曜日 午後5時15分～午後7時

担当教員

教授 田中輝和

授業概要

細菌やウイルスを対象にした分子生物学は、今や人間の遺伝子を取り出し、そこに書きこまれているすべての暗号を解読することに成功した。それをもとに、遺伝疾患や腫瘍の早期診断やさらにそれらの治療（遺伝子治療）も行うようになってきた。本講義では、遺伝子の構造、複製及びタンパク質合成における働きについて解説する。そして、遺伝子の変化が病気を惹き起こす仕組みについて、遺伝子病や癌の発生を例に考えてみる。

一方、栄養学は、食事療法及び栄養指導を通して疾病の治療に重要な役割を演じている。食事の適正化によってかなりの疾患が治療可能であり、しかも食事療法は薬物とは異なり副作用がない等の利点を有している。殊に糖尿病、高脂血症、痛風、動脈硬化などの生活習慣病は、現在、臨床上非常に大きな問題になっているが、これらの疾患では食事療法は最も大切な治療法であると言っても過言ではない。又、健康保持、疾病予防に対しても栄養学は重要な役割を果している。そこで本講義では、臨床各科で学ぶ食事療法、栄養指導の学習に資する為に、栄養学の一般的な知識と、病態栄養に対する基本的な考え方、そして、その理解の為に必要な生化学を一体として分かりやすく解説するつもりである。

一般目標

遺伝子の構造、DNAの複製、転写及びタンパク質の合成の仕組みを理解し、遺伝子の異常が遺伝疾患、先天性代謝異常や癌の発生を惹き起こす機序を考える基礎知識を身につける。又、栄養学においては、栄養素の種類と、その体内での役割と代謝、摂取すべき量とそれを含む飲食物について明らかにし、疾病の治療と予防さらに健康保持に関する基本的考え方を、生化学と関連づけて身につける。

行動目標

1. DNA、RNAの構造を理解し、その構造の中に細胞が分裂・増殖し、またタンパク質を合成するための設計図として働く仕組みが秘められていることを理解し、説明できるようにする。
2. 遺伝子の複製、転写、翻訳の具体的なメカニズムを理解し、説明できるようにする。
3. 遺伝子の異常によって、遺伝子病や癌が発生する仕組みを理解し、説明できるようにする。
4. 食物摂取とその消化吸收のメカニズムを理解する。
5. 各種栄養素の栄養学的意義を把握する。
6. 各ライフステージにおける栄養所要量を把握し、健康を維持し、疾病を予防するためにどのような食生活をすればよいか説明できるようにする。
7. 代表的な生活習慣病を含む各種疾患の病態と身体機能障害に至る過程を理解した上で、それぞれの食事療法、栄養指導を行なう根拠を説明できるようにする。

授業内容

1年次 後期・必修（B） 1単位（30時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
ヌクレオチドと核酸	1	ヌクレオチド	ヌクレオチドの構造、役割及び代謝	田 中
	2	DNAの代謝	DNAの構造、DNAの変性と再生 DNAの複製、DNAの傷害と修復	田 中
転写と翻訳	3	転写とその翻訳	mRNA、rRNA、tRNA 遺伝暗号、遺伝情報の翻訳、ポリペプチド合成	田 中
遺伝子の異常と分子医学	4	遺伝性代謝疾患 がんと遺伝子異常	分子病、遺伝性タンパク質及び酵素異常に基づく疾患、 遺伝子異常の形式、染色体異常、がん遺伝子、がん抑制遺伝子	田 中
ビ タ ミ ン	5	脂溶性ビタミン	ビタミンA、ビタミンD、ビタミンE、ビタミンK、	田 中
	6	水溶性ビタミン	ビタミンB群、ビオチン、葉酸、ビタミンC、ビタミンの作用、 ビタミン欠乏症と過剰症	田 中
栄養所要量とエネルギー所要量 ライフステージと栄養	7	栄養所要量, エネルギー所要量	タンパク質、脂質、無機質及びビタミン類の所要量、 エネルギー所要量の算定	田 中
	8	成人の生活活動と栄養	生活活動強度別の栄養、妊婦、授乳婦の栄養	田 中
	9	成長期, 老年期における栄養	成長期における栄養、老年期における栄養	田 中
臨 床 栄 養	10	臨床栄養概論	臨床栄養の意義	田 中
	11	〃	食事療法の生化学的基礎	田 中
	12	栄養療法の分類	調乳、離乳食、治療食、経管栄養法、経静脈栄養法	田 中
	13	食事療法の実際	消化器疾患、循環器疾患	田 中
	14	〃	代謝性疾患、糖尿病	田 中
	15	〃	腎疾患、血液疾患、妊娠高血圧症候群	田 中

学習方法

現代医学・看護学を学ぶ上で、生化学・分子生物学の知識と理解があらゆる面で必要である。それなくして人体の健康な状態、疾患の病態、治療とそれに対する生体の反応を正確に理解することは不可能である。その際、例えば、ある疾患に罹患した患者の体内で、どのような生化学的・分子生物学的異常事態が惹き起こされているかを頭の中でイメージしてみることが大切である。

その訓練を、本講義を通じてぜひ行なってもらいたい。そうすれば、ある患者に対して食事療法をも含め、どのような治療、どのような処置を施すべきかの展望が自ら開けてくると確信するからである。

評価方法

1年前期末及び後期末に筆記試験を行ない理解度、判断力及び科学的、論理的な思考力を評価する。

教科書及び参考文献

教科書

臨床生化学 メディカ出版
系統看護学講座 栄養学 医学書院

参考書

分子細胞生物学 G.Karp 山本正行・渡辺雄一郎・児玉有希 訳 東京化学同人

オフィスアワー

毎週 月曜日 午後5時15分～午後7時

微生物学A(細菌学・原虫学)・B(ウイルス学・真菌学)

担当教員

教 授	田 中 輝 和
兼 担 教 員	新井明治 (准教授、医学科 国際医動物学)
非常勤講師	田 中 恭 子

授業概要

我々をとりまく環境には、多くの種類の生物が無数に存在しており、我々は、これらの生物と相互にかかわり合いを持ちながら生活している。これら多種類の生物の中で我々の健康や疾病と深くかかわっているが、肉眼では見えない程小さな一群の生物があり、病原微生物と呼ばれている。それには、ウイルス、リケッチア、細菌、真菌(カビ)、原虫(原生動物)などが含まれ、これらの病原微生物によって惹き起こされる疾患が感染症である。

感染症の成り立ちを考える場合、最も重要なことは、微生物側の要因と宿主生体側の要因とを総合的に考察することである。

まず、病原微生物に対する十分な知識をもち、それに基づいて患者の看護に当たることは、感染症患者に対しても、又、自らの感染予防のためにも必須の事柄である。一方、感染症は病原微生物と生体側の感染防御機構との相対的な力関係のもとに規定されるものであるから、感染症以外の患者であっても、その全身的な感染防御力が低下し、病原微生物による感染を受け易い状態にあることが多く、これらの患者を感染から守ることも、また重要である。即ち、今日、臨床上大きな問題となっている院内感染、日和見感染などを正しく認識し、医療従事者が無益な感染の拡大に関与し、患者の *quality of life* を損うことのないように注意しなければならない。感染症の予防、防止に努める方法としてのワクチン、化学療法、消毒、滅菌などの理論的根拠と、その応用を習得することも看護に携る者として必須の事柄である。

一般目標

病原微生物についての十分な基礎知識を身につけ、病原微生物によって惹き起こされる感染症の成り立ちを、微生物側の要因と宿主生体側の要因との関連性の中で考える能力を身につける。それを通じて、感染症の予防、殊に院内感染の予防と感染症の治療に関する基礎知識を、臨床看護の場に生かすことができる能力を身につける。

行動目標

1. 病原微生物の種類と、それぞれの性質及び特徴(形態、生理、生化学的な性質、生態など)を理解する。
2. 病原微生物に対する宿主側の反応(生体防御機構、感染症の発症機構)とを体系的に理解する。
3. 感染予防の方法、殊に滅菌、消毒、無菌操作の方法の特徴、欠点、限界を把握した上で、これらの感染制御方法を通して、院内感染、日和見感染を正しく理解し、その防止のために対処できる。
4. 病原微生物を不活化し、その増殖を抑制する為の方法としての化学療法の基礎を理解する。

授業内容

2年次 前期・必修 (A) 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
微生物学総論	1	微生物の種類と分類及び形態、微生物の増殖	微生物の分類法、微生物の形態、微生物の増殖の仕方の相違	田 中
	2	滅菌と消毒	滅菌、消毒の原理、目的、方法	田 中
	3	無菌操作	無菌操作の方法	田 中
	4	化学療法	抗生物質の作用機序	田 中
	5		薬剤耐性	田 中
	6	感染と生体防御	生体感染防御機構	田 中
	7		日和見感染、院内感染	田 中
病原細菌学	8	グラム陽性菌	ブドウ球菌	田 中
	9		連鎖球菌	田 中
	10	グラム陰性菌	グラム陰性球菌、グラム陰性杆菌	田 中
	11		腸内細菌、ビブリオ	田 中
	12	抗酸菌	結核菌、非定型抗酸菌、癩菌	田 中
	13	嫌気性菌	破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、常在細菌叢	田 中
	14	スピロヘータ	梅毒トレポネーマ、レプトスピラ、STD	田 中
病原真菌学	15	マイコプラズマ	マイコプラズマ、リケッチア及びクラミジアの生物学的特性、病原マイコプラズマ	田 中
		リケッチア	リケッチア感染症	田 中
		クラミジア	クラミジア感染症	田 中
	15	真菌学総論	分類、生物学的特性	田 中
		真菌学各論	深在性真菌症と表在性真菌症	田 中

2年次 後期・必修 (B) 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ウイルス学総論	16	分類と性状	ウイルスとは、分類、特性、生態	田 中
	17	感染と増殖	細胞への感染、細胞内増殖機構、ウイルス感染の型、日和見感染、診断法、抗ウイルス剤	田 中
	18		腫瘍ウイルス、エマージングウイルスとリエマージングウイルス、プリオン	田 中
ウイルス学各論	19	DNAウイルス	ポックスウイルス、ヘルペスウイルス	田 中
	20		アデノウイルス、パピローマウイルス、パルボウイルス	田 中
	21	RNAウイルス	オルトミクソウイルス、パラミクソウイルス	田 中

原 虫 学	22		ピコルナウイルス、トガウイルス、フラビウイルス、コロナウイルス	田 中 田 中
	23		カリシウイルス、レトロウイルス	田 中
	24		肝炎ウイルス	田 中
	25		肝炎ウイルス	田 中
	26	原虫学総論・根足虫類	原虫の定義、分類、形態、赤痢アメーバ、大腸アメーバ、病原性自由生活アメーバ	新 井
	27	鞭毛虫類	トリコモナス、トリパノソーマ、リーシュマニア	新 井
	28	孢子虫類	マラリア、トキソプラズマ	新 井
	29	繊毛虫類、その他	バランチジュウム、ニューモシスチス	新 井
	30	原虫学実習	各種原虫標本の観察	新 井

学習方法

病原微生物のそれぞれの性質と特徴を十分に理解し、常に宿主の生体反応との関連の中で、その病原微生物による感染症を理解する習慣を身につける。病原微生物の感染経路を正確に把握し、その上での確かつ有効な感染予防対策を講ずる為には、どのようにすれば良いかを常に考えると共に、病院等での看護実習の場において反復し、確実に実践出来るようにすること。

滅菌、消毒及び無菌操作の方法について、その施行方法、特長や欠点、限界を正確に把握し、医療材料、医療用器具及び対象となる病原微生物に対して適切な処理を行ない得るようにすること。

日和見感染、コンプロマイズドホスト（易感染性宿主）、院内感染の実態について正確な認識を持ち、的確な判断と対応が行なえるよう理解を深めること。

評価方法

2年前期末及び2年後期講義終了後に筆記試験を行ない理解度を評価する。

教科書及び参考文献

教科書

系統看護学講座、微生物学 医学書院

参考書

戸田新細菌学 南山堂

オフィスアワー

毎週 火曜日 午後5時50分～午後7時

薬 剤 療 養 学

担当教員

- 准 教 授 筒井 邦彦
非常勤講師 小西 史朗（徳島文理大学香川薬学部 教授）
非常勤講師 宮澤 宏（徳島文理大学香川薬学部 教授）
非常勤講師 飯原 なおみ（徳島文理大学香川薬学部 准教授）

授業概要

医療の中で重要な位置を占めている薬物療法において、看護の基本は、年齢、性、感受性等を異にする個々の患者に薬物療法が最も有効かつ安全に行われるよう、医師・薬剤師と協力してそれぞれの専門性を生かしながら患者の薬剤療養を積極的に援助することにある。薬物療法を必要とする患者が、薬剤を指示通りに正しい方法で納得して服薬し、健康回復に努めることを援助すると共に、薬物に対する患者の身体的・精神的反応および病態の変化を観察し、患者の訴えを聞き、薬物の効果と有害作用を総合的に把握することによって、薬害防止とより高度の薬物療法への看護の側からの貢献が期待される。そのためには、薬物の基本概念をしっかりと身に付けること、生体の生理機能および病態、特に恒常性維持のための調節機構とその異常を理解した上で各種薬物の生物活性と適用法について体系的に学ぶことが必要である。薬理学が薬物と生体との相互作用を研究する学問であるのに対し、薬剤学は、薬物を有効性と安全性の保証された薬剤として医薬品に仕上げ、疾病の治療、予防、診断に適用する方法を考える学問で、両者の基本的理解が看護においても重要であると思われる。さらに、今後次々に開発される医薬品の進歩に柔軟に対処し得る基礎的学力と思考力、並びに倫理性の養成を目指した授業内容にしたいと考えている。

一般目標

薬物療法が有効かつ安全に行われるよう、さらに患者が安心して積極的に薬物療法を受けられるよう援助するために、人体の生理機能とその異常を理解した上で、薬物および薬物療法の基礎知識を身に付ける。さらに、薬物の有害作用を認識し、薬物の薬効と有害作用を総合的に評価する。

行動目標

1. 薬物の性質、作用機序、生体内動態、血中薬物濃度および薬効に影響を及ぼす要因について説明し、薬物療法の意義を述べる。
2. 生体にとって異物である薬の負の側面、有害作用（非免疫性薬害反応と薬物アレルギー）および薬物依存について指摘し、安全性を念頭において薬物療法を評価する。
3. 薬物を生体に与える際の剤形と適使用方法について、その違いを比較する。
4. 医薬品の分類、名称、法令、処方箋、調剤、薬品の取り扱い方について具体的に述べる。
5. 各種疾患に対して使用される薬物の薬効と副作用を体系的に述べる。
6. 薬物療法に伴う薬害と医療倫理について常に関心を持ち続ける。
7. 薬物療法におけるコンプライアンス（アドヒアランス）を良くする方法を工夫する。

授業内容

1 年次 後期・必修 1 単位 (30 時間)

大項目	回	項目	内 容	担当者
総 論	1~2	薬の基本的性質 薬理作用の基本形式 薬の投与経路 体内動態 影響要因 薬の有害作用 薬の適用方法 薬の管理	薬の性質, 使用目的, 看護師の役割 作用, 副作用, 有害作用, 薬物受容体, 刺激薬, 遮断薬 投与経路, 治療域 吸収, 分布, 代謝, 排泄, 血中濃度モニタリング 年齢, 薬物アレルギー, 耐性, 依存, 相互作用 中毒, 妊婦への薬物 全身投与, 局所投与 法令, 毒薬, 劇薬, 新薬, プラセボ	飯原
各 論		各論の講義順は変更することがある。		
免疫治療薬, 抗 アレルギー薬, 抗炎症薬	3~4	免疫反応のしくみ 免疫治療薬各論 抗アレルギー薬 炎症 抗炎症薬 その他	細胞性免疫, 液性免疫 免疫抑制薬, 免疫増強薬, 予防接種薬 抗ヒスタミン薬, 抗アレルギー薬 炎症の機序 非ステロイド系とステロイド系抗炎症薬 関節リウマチ治療薬, 痛風治療薬	宮澤
末梢神経作用 薬	5~6	神経による情報伝達 交感神経作用薬 副交感神経作用薬 筋弛緩薬 局所麻酔薬	自律神経系 アドレナリン作動薬, 抗アドレナリン作動薬, ニューロ ン遮断薬 コリン作動薬, 抗コリン作動薬 筋弛緩薬 局所麻酔薬	筒井
中枢神経作用 薬	7~8	全身麻酔薬 催眠薬, 抗不安薬 抗精神病薬 抗うつ薬 パーキンソン症候群治 療薬 抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬	吸入麻酔薬, 静脈内麻酔薬 催眠薬, 抗不安薬 抗精神病薬 うつ状態, 躁状態に用いられる薬物 パーキンソン症候群治療薬 てんかんの病態, 抗てんかん薬 アヘンアルカロイド, 合成麻薬, 非麻薬性合成鎮痛 薬, 麻薬拮抗性呼吸促進薬	小西
心臓, 血管系作 用薬	9~ 11	抗高血圧薬 狭心症治療薬 心不全治療薬 抗不整脈薬 利尿薬 高脂血症治療薬 血液に作用する薬物	種類, 使用法 狭心症治療薬 強心薬, その他 種類, 使用法 腎臓の利尿機構, 利尿薬の種類 高脂血症治療薬 貧血治療薬, 造血因子, 血液悪性腫瘍治療薬, 抗 血液凝固薬, 血栓溶解薬, 抗血小板薬, 止血薬	筒井
物質代謝作用 薬	12	ホルモン, ホルモン拮 抗薬	糖尿病治療薬, 甲状腺疾患治療薬, 下垂体ホルモ ン, 骨粗鬆症治療薬	筒井

抗がん薬	13	ビタミン製剤 がん治療総論 抗がん薬	脂溶性ビタミン, 水溶性ビタミン 作用, 有害作用, 耐性 アルキル化薬, 代謝拮抗薬, 抗生物質, 植物アルカロイド, 性ホルモン薬、分子標的治療薬	筒井
呼吸器, 消化器, 生殖器系作用薬, 外用薬, 救急薬, 漢方薬	14 ~ 15	呼吸器系作用薬 消化器系作用薬 生殖器系作用薬 漢方薬	気管支喘息作用薬, 鎮咳薬, 去たん薬, 呼吸促進薬 消化性潰瘍治療薬, 健胃消化薬, 消化管運動促進薬, 制吐薬, 止痢薬, 潰瘍性大腸炎治療薬, クロール病治療薬 性ホルモン, 子宮収縮薬, 生活改善薬 西洋薬との違い, 有害作用	筒井

学習方法

単に物質としての薬について学ぶのではなく、薬物によって生体側がどのように反応するのかを、生体の生理機能および病態の基礎的理解の上に立って学んでほしい。断片的な知識の暗記に終始することなく、基本概念をしっかりと身に付け、論理に裏づけられた知識として体系的に学習するよう心掛けること。

評価方法

筆記試験を行う。授業態度等、総合的に判断する。

教科書及び参考文献

教科書 わかりやすい薬理学 ノーヴェルヒロカワ

オフィスアワー

原則講義日の 16:30~17:30 とするが、教員の時間があれば随時。

免疫学

担当教員

准教授 筒井邦彦

授業概要

“疫”とは“疫病”，つまり伝染病のことであり，伝染病から免れる仕組みを解明することが免疫学のはじまりであった。しかし現在では，免疫学は単なる机上の学問や実験室での研究に留まらず，感染症の予防や治療，検査手技への応用，癌治療から臓器移植にいたるまで実際の臨床の現場において広く応用されている。

看護の場においても，基本的な免疫学の知識なくして疾患や手技，治療の理解は不可能であり，免疫学の基礎的な知識から，臨床で求められる免疫学的な考え方を身につけてほしい。

一般目標

生体の防御機構，免疫関係疾患の発症機構と自己治癒力および免疫療法，臓器移植など医学・医療の基本とその急速な進歩を理解するために，免疫学の基礎知識を習得する。

行動目標

1. 抗体の構造と機能，抗体の多様性，抗体産生とその調節機構を説明する。
2. 輸血を例とし，抗原抗体反応の原理と免疫学的検査の意義を述べる。
3. 補体の活性化経路，補体の機能および補体と疾患の関係を説明する。
4. 免疫系各臓器の個体発生および構造と機能を述べる。
5. 免疫担当細胞の種類と機能，産生される種々の生理活性因子の作用を分類する。
6. ヒトの主要組織適合抗原であるHLA抗原と臓器移植における拒絶反応との関係を説明する。
7. 感染に対する生体防御機構について具体的に述べる。
8. アレルギーの発現機序およびアレルギー疾患の診断と治療の原理を説明する。
9. 腫瘍抗原，腫瘍と宿主の免疫学的相互関係について説明し，癌の免疫療法の意義を評価する。
10. 自己免疫疾患の発症機序を述べる。
11. 免疫学的に HIV 感染症，AIDS の発症を説明する。

授業内容

2年次 前期・選択 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
序論	1	はじめに	免疫学の基礎, 輸血について	筒井
各論	2	自己と非自己	非特異的生態防御機構, MHC	
		細胞性免疫	マクロファージ, キラーT細胞, ヘルパーT細胞	
	3	遺伝子	遺伝子の再構成と抗体の多様性	
		抗体	B細胞, 形質細胞, 抗体	
	4	免疫の記憶	中和抗体, オブソニン化, 補体	
		自己寛容	胸腺の働き, 免疫学的寛容	
	5	アレルギー	IgE, 肥満細胞, 好酸球	
		アレルギーと疾患	花粉症, 気管支喘息	
		自己免疫疾患	関節リウマチ	
	6	がん免疫	癌遺伝子, 癌抑制遺伝子	
		癌免疫療法	癌免疫療法	
	7	免疫不全	HIV感染とAIDS	
	8	試験		

学習方法

花粉アレルギー, AIDS, 臓器移植等, 免疫に関係のある話題が日常的になっている現在, 免疫学は難解な学問であるという先入観を持たずに, 身近な学問として親しみを持ち, 生命を維持してきた免疫のしくみの神秘に触れる喜びを味わって頂きたい。免疫学を構成する基本的事実や原理を理解するだけでなく, 免疫系全体として把握できるように心掛けること。

評価方法

筆記試験を行う。授業態度等で総合的に判断する。

教科書及び参考文献

教科書

萩原清文著 好きになる免疫学 (講談社サイエンティフィク)

参考書

今西二郎著 免疫学の入門第6版 (金芳堂, 2004)

渡辺照男編 カラーで学べる病理学 (ヌーベルヒロカワ, 2004)

矢田純一著 医系免疫学 (中外医学社, 2003)

谷口 克著 免疫, その驚異のメカニズム 人体と社会の危機管理 (ウエッジ, 2000)

オフィスアワー

原則として講義日の16:30~17:30とするが, 教員の時間があるときは随時。

機能再生医療学

担当教員

教 授	峠 哲 男	非常勤講師	山 田 英 司
教 授	山 本 哲 司	非常勤講師	森 田 伸
講 師	有 馬 信 男	非常勤講師	田 仲 勝 一
非常勤講師	森 川 健 一 郎	非常勤講師	田 中 聡

(県立広島大学保健福祉学部教授)

授業概要

昨今の医療技術の進歩は誠にめざましく、看護や介護の分野においても、そのような医療技術の進歩と密接に関連しています。そのため、現在どのような最先端医療が行われようとしているかに注目し、さらにはそのような医療に適合して行かねばより良い医療を行うことはできません。このような現状から機能再生医療学では、学生諸君に最新の医療技術に基づく神経・運動器障害や呼吸器障害の機能再生を目指した最先端医療やリハビリテーション技術の一端に触れてもらい、将来の医療従事者としての知識を備えてもらうことが目的です。香川大学医学部付属病院は、香川県内では唯一の高度先進医療を提供できる病院として認定されており、当病院の整形外科、病院リハビリテーション部、さらには外部の講師の先生方の御協力によりこの授業を行います。

一般目標

運動機能異常症（パーキンソン病や不随意運動症）の治療法、脊髄損傷の病態と治療、悪性骨軟部腫瘍の治療法に関する最新の治療法についての講義を通じて、今後どのような最先端医療が行われようとしているかの概要を少しでも理解してもらえれば良いと思います。また将来、ベッドサイドや在宅看護において応用ができるように、リハビリテーション技術の理論と疾患への応用に関して学習してもらいます。

行動目標

1. 運動機能異常症の病態と治療について理解できる。
2. 脊髄損傷の病態と治療について理解できる。
3. 悪性骨軟部腫瘍の最先端の治療法について理解できる。
4. 運動疾患の症状や障害の評価法について解説することができる。
5. 中枢神経障害、呼吸機能障害のリハビリテーションについて解説することができる。
6. 看護におけるリハビリテーションの意義について理解できる。

授業内容

3年次 後期・選択 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1	ガイダンス	講義の目的と概要、その意義、評価方法について説明する。	峠
	2	疾患の総論と各論	運動機能異常症の病態と治療	峠
	3		脊髄損傷の病態と治療	有馬
	4		関節疾患の診断と治療	山本 森川
	5		リハビリテーション学総論	山田
	6		小児・呼吸器・切除後のリハビリテーション	田仲
	7		脳血管障害・脊髄損傷のリハビリテーション	田仲
	8		リハビリテーション学と学習理論	田中
	9		レポートの提出	峠

学習方法

1. 学生は、次の授業までに前回の授業内容について、教科書や参考書を用いて復習する。
2. 授業と関連する事項について、インターネットなどにより文献検索を行う。
3. 課題に対するレポートの内容については教員の指導を受ける。

評価方法

1. 出席と授業の準備、参加態度などにより総合的に評価する。
2. レポートの提出により評価する。

教科書及び参考文献

1. 病態生理で切った内科学 Part 5 神経疾患、医学教育出版社、五幸 恵著
 2. 成人看護学 (9) 運動器疾患、医学書院
 3. 目で見るとリハビリテーション (第2版)、東京大学出版、上田 敏著
 4. エッセンシャル整形外科学、医歯薬出版
- その他、適時資料を提示する。

オフィスアワー

峠 : 毎週月曜日 午後4-6時

03 社会保健学

看護と法規

担当教員

非常勤講師	馬場基尚	(弁護士)	教授	木下博之
非常勤講師	藤本邦人	(弁護士)	教授	名越民江 (コーディネーター)
非常勤講師	中妻征子		教授	大西美智恵

授業概要

医事法規の中で看護師に課されている義務の内容及び法規全体の中での看護法制の意味、周辺法規の概略を学ぶ。

一般目標

医療現場で看護の業務を果たすためには、業務に関連する法律の知識を習得し、また医療現場での医療事故の実態を理解し、看護の実践の場において重要な事柄を認識する。

行動目標

1. 保健師、助産師、看護師法の重要な項目を説明できる。
2. 医師法に規定されている医師の義務を説明できる。
3. 向精神薬、覚醒剤及び麻薬等の取り扱いと保管について説明できる。
4. 医療事故の防止策が説明できる。
5. 看護の業務において注意義務や違法行為について説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
法令概説	1	法規の概念	医療法、医療行為	藤本
	2		看護師の業務と法的責任	藤本
	3	医療上の法的問題	医療事故・事件の判例とその解説(1)	馬場
	4		医療事故・事件の判例とその解説(2)	馬場
	5	医療関係法規	医師法、死体解剖保存法	木下
	6		麻薬及び向精神薬取締法、他	木下
	7		覚醒剤取締法、薬事法	木下
	8		毒物及び劇物取締法、救急救命士法、他	木下
	9		医療事故	医療事故の実情と防止策
	10	保助看法とは	条文の解説	名越
	11	法的問題と責任	看護上の法的問題	名越
看護業務	12		業務上のミスによる責任・医療安全	中妻
医療	13	法的問題と倫理上の問題	事例検討 (グループワーク)	大西
	14		事例検討 (グループワーク)	大西
	15		発表・質疑	大西・名越・中妻

学習方法

具体例に基づき、自らの意見を発表できるようにする。

評価方法

出席状況，課題発表，レポート提出を総合して評価する。

教科書及び参考文献

・わかりやすい関係法規，杉本正子他編，（医学書院）

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階 517 研究室）・大西研究室（6階 618 研究室）

社会福祉・社会保障論

担当教員

非常勤講師 島 影 俊 英 四国学院大学社会福祉学部 教授
合 田 盛 人 四国学院大学社会福祉学部 准教授
橋 本 卓 也 大阪保健医療大学保健医療学部 講師
樽 井 康 彦 同志社大学社会学部 助教
教 授 平 尾 智 弘 香川大学医学部公衆衛生学
松 井 妙 子 (在宅看護学)

授業概要

人々の生命や生活の質を保障する社会の仕組みとして社会保障制度がある。人々の健康にかかわる保健医療職者は社会福祉の基本的理念、社会福祉・社会保障にかかわる法や諸制度を理解した上で、看護の実践を行う。本講義は、人々の健康的で幸福な生活を実現するための社会保障の理念と基本的な制度について学ぶ。また、社会福祉・社会保障にかかわる基本的知識、社会福祉実践の展開に必要な援助技術と態度を学ぶ。

これらの学習をとおして、生活者の生活問題に対応し、看護の専門職者として、社会福祉・社会保障制度の現状をよりよい方向に発展させていくための姿勢を培う。

一般目標

1. 社会保障制度の歴史的な経過や全体像を把握しつつ、社会保障および社会福祉の基本的理念を学び、生活者の生活問題に対応できる基礎的知識を養う。
2. 福祉と保健・医療のかかわりを理解し、現状の問題・課題を解決するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。

行動目標

1. 社会保障の歴史的経過および基本的制度の枠組みを説明できる
2. 社会福祉の理念、社会福祉の歴史と人々の福祉ニーズの変化を説明できる
3. 社会福祉関連法の目的・施策、制度を説明できる
4. 医療保険制度とその仕組みについて説明できる
5. 児童・母子・高齢者・障害者の対象別支援方法と諸サービスの目的と内容を説明できる
6. 社会福祉実践の基本となる援助技術および倫理について説明できる

授業内容

2年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1	社会保障の理念・概要	保健医療福祉活動の基本	島影 松井
	2	社会保険制度	社会保険の変遷と年金制度	島影
	3		医療保険制度	平尾

4		医療保険制度	平尾
5		介護保険制度	合田
6		介護保険制度	合田
7	社会福祉の理念と概要	社会福祉とは	島影
8		社会福祉の理念と変遷	島影
9	社会福祉法の理念と施策	障害者（児）の施策	樽井
10		児童への施策	樽井
11		生活保護法と施策	橋本
12		高齢者への施策	橋本
13	社会福祉行政	保健福祉計画・社会福祉の民間活動	合田
14		国・地方公共団体の行政、組織およびマンパワー	合田
15		まとめ	松井

学習方法

社会福祉・社会保障制度に関心をもち、課題を追求し、学んだ理論や実践的知識をさらに深めていく姿勢が必要である。授業はオムニバス方式であるため各講義・演習に出席することが履修の最低条件となる。

評価方法

非常勤講師による、ミニレポートまたはミニテスト、受講態度・出席状況等により総合的に評価する。

教科書及び参考書

参考書：福田素生 他；系統看護学講座専門基礎健康支援と社会保障制度【3】社会福祉、医学書院、2010。

基礎保健学

本年度休講

(平成 23 年度開講予定)

04 基礎看護学

看護学概論

担当教員

教 授 名 越 民 江

授業概要

本科目は、専門科目としての看護学を学ぶ導入部として、人間、生活、健康、環境、看護の概念について学習する。次に、保健・医療・福祉における看護の役割や安全について、また、関連職種との連携について学ぶ。看護の歴史の変遷を通して、社会における看護の役割を理解し、看護実践活動の基本となる看護過程や、看護倫理と法的側面について学習する。

一般目標

看護および看護学に関する理解を深め、看護観を構築する基盤形成のための知識、技術、態度について習得する。

行動目標

1. 看護の歴史の変遷を通して、看護の役割機能、安全のとらえ方、現代社会における諸問題について把握する。
2. 看護の構成要素である人間、生活、健康、環境、看護のとらえ方について説明し、各概念間の関係性について説明できる。
3. 保健・医療・福祉を構成する人々の役割機能について説明できる。
4. 看護過程の構成要素について説明できる。
5. 看護の倫理的側面と法的側面について把握する。

授業内容

1年次 前期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
医学科と合同		特別講義	チーム医療	病院長
医学科と合同		特別講義	医療従事者に求められるもの	阪井看護部長
医学科と合同		特別講義	乱用薬物の基礎知識	芳地教授
医学科と合同		特別講義	医療系学生に対する感染防止対策	久郷准教授
オリエンテーション	1	ガイダンス 基礎看護学の概要と 理念・生活と安全	学習目的、目標、学習方法と評価について 基礎看護学の概要と理念 日常生活での安全意識、危険予知について	名 越
看護の概念	2	看護の構成要素 (1)	統一体としての人間とは、ライフサイクルと生活過程	名 越
	3	看護の構成要素 (2)	健康とは、ライフサイクルと健康障害のあられ環境／社会関係	名 越

保健・医療・福祉との連携 看護の実際 看護と社会	4	看護の構成要素（3）	ナイチンゲール看護論をもとに看護とは	名 越
	5	看護職と他職種との関係	看護職チームの構成と他職種との関係、連携 保健医療福祉施設について	名 越
	6	看護実践と思考過程	看護実践と問題解決のための思考過程 看護過程の構成要素	名 越
	7	看護職と専門職 看護と倫理	看護職と専門職業集団 看護における倫理的側面・人権擁護について	名 越

)

学習方法

講義ならびに課題発表などを取り入れて行う。

事前学習がかなり必要（広範囲で時間数が少ないため）

評価方法

出席、課題発表への参加態度と貢献度、レポート提出、筆記試験などを総合して行う。

教科書及び参考文献

1. 川村佐和子他編、基礎看護学 看護学概論、メディカ出版、2004.
2. 系統看護学講座：基礎看護学2 基礎看護技術、医学書院、2002.（旧版）
その他授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階 517室）

看護理論

担当教員

教授 名 越 民 江

授業概要

主として看護実践に用いられる看護の概念モデル、看護理論について学習する。

一般目標

理論とはについて理解を深め、看護実践に活用する方法を習得する。

行動目標

1. 看護理論について説明できる。
2. 看護の概念モデル、看護理論の看護実践への活用方法について説明できる。
3. 看護の概念モデルならびに看護理論と看護過程との関連を説明できる。

授業内容

1年次 後期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	ガイダンス	学習目的、目標、評価について、看護理論の歴史的背景、理論とは、看護理論とは	名 越
	2	用語の説明	モデルとは、概念とは、理論の範囲 病気のステージと看護理論	名 越
各論	3	看護の概念モデルと看護理論	看護の概念モデルと看護理論（F. ナイチンゲール）	名 越
	4		看護の概念モデルと看護理論（薄井坦子、科学的看護論） 課題発表	名 越
	5		看護の概念モデルと看護理論（薄井坦子、科学的看護論） 課題発表	名 越
	6		看護の概念モデルと看護理論（薄井坦子、科学的看護論） 課題発表	名 越
	7		看護の概念モデルと看護理論（薄井坦子、科学的看護論） 課題発表	名 越
	8		看護理論の看護学研究への活用方法・まとめ	名 越

学習方法

講義ならびにグループ毎の課題発表に積極的に取り組む努力が必要。

評価方法

出席、課題発表への参加態度と貢献度、小テスト、レポート提出等を総合して行う。

教科書及び参考文献

1. 薄井坦子著、科学的看護論第3版、日本看護協会出版会、1997。

授業時に適宜紹介する。

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階 517室）

基礎看護方法論

担当教員

教 授 名 越 民 江

助 教 栗 納 由 記 子 松 岡 美 奈 子 香 川 里 美

授業概要

看護過程の展開に先立ち、看護するために必要な対象のみつめ方、とらえ方、人間の一生と健康現象、ライフサイクルにおける人間の作られ方、各時期の生活する力などについて看護の視点から学習する。その後、看護実践の基礎となる看護過程展開の技術について、事例を用いて、講義とグループワーク（課題発表、成果発表を含む）により、看護過程の各ステップの展開方法を習得する。

一般目標

看護するために必要な対象のみつめ方、とらえ方について理解を深め、対象へのアプローチの方法および看護観から表現技術への実践的方法論について習得する。

行動目標

1. 看護過程の概念を説明できる。
2. 看護過程を構成する要素を説明できる。
3. 事例を用いて、事実を情報化できる。
4. 事例を用いて、看護問題を明確化できる。
5. 事例を用いて、看護計画立案、実施（ロールプレイ）、評価できる。
6. コミュニケーション技術を活用して、討議の進め方や、リーダーやメンバーの役割を果たすことができる。

授業内容

2 年次 前期・必修 1 単位 (30 時間)

大項目	回	項目	内 容	担当者
ガイダンス 看護過程の展開	1	ガイダンス 対象のみつめ方、とらえ方	学習の目的・目標、方法・評価について 事実と事実でないものを見分ける 資料と情報の区別 全体像モデル、立体像モデル	名越・栗納 松岡・香川
	2	ライフサイクルと健康障害	人間の一生と健康障害の現れ 看護の視点から健康現象をとらえる 生命力アセスメントモデル	名越・栗納 松岡・香川
	3	人間の生活と看護	24 時間の日常生活を見つめる看護の視点	名越・栗納 松岡・香川
	4	看護の原基形態とコミュニケーション技術	日常生活力アセスメントモデル 生活過程の特徴をとらえる	名越・栗納 松岡・香川

		看護の原基形態 観察、コミュニケーション技術	
5	看護過程展開の技術	看護過程とは 看護過程はどのように展開していくのか 知る段階から身につける段階へと進む 臨地実習において身につける段階から使う段階へと進む	名越・栗納 松岡・香川
6 7 8	事実の情報化	授業形態はグループワークと課題発表が主になる 全体像モデル、立体像モデル、日常生活アセスメント モデルを活用する	名越・栗納 松岡・香川
9 10	看護問題の明確化	生物体の必要条件、日常生活の規制、生活体の反 応をとらえる	名越・栗納 松岡・香川
11 12	看護計画立案	上位目標の設定と優先度 中位・下位目標の具体化	名越・栗納 松岡・香川
13 14	実施・評価	看護場面の設定とロールプレイ 実施場면을プロセスレコードを用いて再構成する 看護の評価	名越・栗納 松岡・香川
15	全体発表	各グループ毎に成果発表	名越・栗納 松岡・香川

学習方法

講義、課題発表、グループワークを中心に展開するので、主体的で、積極的な学習取り組みを期待する。

評価方法

グループワークへの参加姿勢、出席状況、課題発表、成果発表、課題レポートの提出を総合して行う。

教科書及び参考文献

1. 系統看護学講座：基礎看護学2、基礎看護技術、医学書院（旧版）、2004。（1年次に購入済）
 2. 薄井坦子著、何がなぜ看護の情報なのか、日本看護協会出版会、2001.
 3. 薄井坦子著、看護の原点をもとめて、日本看護協会出版会、2001.
 4. 薄井坦子著、ナースが視る病気、講談社、1991.
- その他適宜授業で紹介する。

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階 517室）

基本援助技術論

担当教員

准教授 南 妙子

助教 栗納 由記子 松岡 美奈子 香川 里美

授業概要

基本援助技術論は、基礎看護学を構成する一科目である。この科目では、後続する看護学各論である成人・老年・小児・母性・精神・地域・在宅看護の対象となる個人、家族、地域社会に対する看護活動を展開する上で、共通に必要な看護技術の基礎的知識、基本的技術、看護職として望ましい基本的態度について学習する。基本援助技術論では、看護の対象となる人の性別・年齢・生活の場や健康レベルを問わず、生命・生活を安全・安楽にするために共通に必要な生活行動の基本的援助技術と対象把握に必要な患者観察技術について学習する。

本授業における援助技術の学習は、先行する科目の理論を活用して、科学的に思考・判断・意志決定し、実施できるようにする必要があるので、専門基礎科目、専門科目等の内容について十分理解して出席すること。

一般目標

1. あらゆる健康レベルの対象に看護を適用するために、看護技術を構成している基礎的理論を理解する。
2. 対象に安全・安楽に看護技術を提供するために、科学的根拠にもとづいて、看護援助を判断・実践できる基礎的能力を習得する。
3. 対象の健康上の問題を明確化し、対象に応じた援助を導き出すために、科学的に思考し、判断・意志決定するプロセスを習得する。
4. 看護職者としての基本的態度を身につける。

行動目標

1. 看護技術提供時の患者の安全・安楽の重要性が説明できる。
2. 科学的根拠にもとづいた看護技術の重要性を述べることができる。
3. 人間関係形成の基盤となるコミュニケーションの意義・方法と構成要素が説明できる。
4. 看護におけるコミュニケーションの重要性を具体的に述べるができる。
5. 環境が健康に及ぼす影響と望ましい生活環境について説明できる。
6. 健康障害を持つ人の生活環境を調整することができる。
7. ボディメカニクスの意義・目的と原理が説明できる。
8. 体位の種類と姿勢・体位が心身に及ぼす影響について説明できる。
9. 体位変換の意義・目的と安楽な体位が説明できる。
10. 活動・休息の意義と健康との関連が説明できる。
11. 安全で安楽な体位変換と移送の援助が実施できる。
12. 患者の健康レベルに応じた衣服が選択できる。

13. 安全・安楽に衣服着脱の援助が実施できる。
14. ボディメカニクスを看護動作に適用できる。
15. 看護における観察の意義・目的と観察の種類・方法について説明できる。
16. 看護における記録の種類・方法や報告の目的について説明できる。
17. 看護観察に必要な技術である身体計測の原則と留意点を説明できる。
18. バイタルサイン測定の意義・目的と影響要因について説明できる。
19. バイタルサイン測定時の原則・留意事項が説明できる。

各単元のより詳細な行動目標は、初回講義時に講義日程・内容とともに提示するので、必ず出席すること。

授業内容

1 年次 後期・必修 2 単位 (45 時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ガイダンス 看護実践の共通技術	1	ガイダンス 看護と技術 コミュニケーション	学習の目的・目標、学習方法・評価、講義予定など 看護技術とは コミュニケーションとは コミュニケーションの種類 言語的コミュニケーションの特徴と限界	南
	2	コミュニケーション	非言語的コミュニケーションの特徴と限界 コミュニケーションプロセスに影響する要因 看護におけるコミュニケーションの重要性 効果的なコミュニケーション技術	南
日常生活の援助技術	3	環境と健康	環境とは 環境と健康との関連 環境構成要素と環境調整方法	南
	4	環境と健康	病院・病室の構造と病人の環境 環境調整の意義 よい病床とは 環境調整の技術	南
	5	衣生活と健康	衣服の意義・目的 衣服と健康との関係 衣服気候とは 健康障害を持つ人の寝衣の条件と寝衣交換の意義・目的 寝衣交換の方法と原則・留意点	栗納・南
	6	姿勢と体位	姿勢・体位の定義 体位の種類とよい姿勢 ボディメカニクスの意義と基礎理論 看護援助とボディメカニクス 安楽の定義と安楽の阻害要因 安楽な体位への援助方法 体位が心身に及ぼす影響	南
看護実践の共通技術	7	姿勢と体位	体位変換の意義・目的 体位変換の方法と実施時の原則・留意点 移送の目的と方法 移送援助時の原則と留意点	南
	8	活動と休息	活動・運動の意義・目的 安静の心身への影響	香川・南
	9	活動と休息 観察の技術	休息・睡眠の意義と生理 休息・睡眠への援助 観察の意義・目的 観察の種類・方法と観察時の留意点	南

日常生活の援助技術	10	観察の技術 記録・報告	身体計測の方法と原則・留意点 看護記録の意義・目的と種類・方法 報告の意義・目的と報告時の留意点	南		
	11	バイタルサイン	バイタルサインとは バイタルサイン測定の意義・目的 バイタルサインに影響する因子 体温のメカニズム 体温測定器具の特徴と測定方法・留意点	南		
	12	学内演習「ベッドメイ キング」 ・ 13 14 学内演習「シーツ交 換」 ・ 15	学内演習に関するオリエンテーション ベッドメイキング（入院患者の病床の作成）	南・粟納・ 松岡・香川		
	14				シーツ交換・体位変換の方法	南・粟納・ 松岡・香川
	15					
看護実践の共通技術	16	バイタルサイン	脈拍のメカニズム 脈拍の測定方法と測定時の原則・留意点	南		
	17	バイタルサイン	血圧のメカニズム 血圧測定時の原則・留意点	南		
	18	バイタルサイン	呼吸のメカニズム 呼吸の測定方法と測定時の原則・留意点 呼吸困難時の看護援助 意識レベルの評価方法	南		
日常生活の援助技術	19	学内演習「寝衣交換」	健康障害を持つ人の寝衣交換の方法	南・粟納・ 松岡・香川		
	20	学内演習「移送・安楽 な体位」 ・ 21	移送（車いす・ストレッチャー・担架）の援助 安楽な体位への援助	南・粟納・ 松岡・香川		
21						
看護実践の共通技術	22	学内演習「バイタルサ イン」	体温・脈拍・呼吸・血圧の測定	南・粟納・ 松岡・香川		
	23	試験		南		

注) 上記、授業回数と内容は、1回の授業時間を90分としたものである。

学習方法

講義とグループワーク、学内演習などを組み合わせて行う。

学内演習においては教員のデモンストレーションを見学後、演習を実施する形態に加えて、自らの演習内容をビデオカメラで撮影し、自己ならびにグループ内で批判的に評価するグループ学習を取り入れることによって、確実に技術を習得できることを目指している。また、学生自らが患者－看護師役割ならびにグループ員の演習内容を観察・評価し、それぞれの立場から、安全・安楽な援助技術について考察し、よりよい援助方法について文献学習をすすめるとともに、確実な技術習得のための技術練習に主体的に取り組むことを期待する。

評価方法

試験と課題レポート、授業態度、演習・グループワークへの参加度、出席日数を総合して評価する。適宜、技術チェックを行い、学年末には応用問題による実技試験を行う。

教科書及び参考文献

教科書・必読図書

- 藤崎郁, 他: 系統看護学講座専門2 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I, 医学書院, 2006.
藤崎郁, 他: 系統看護学講座専門3 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II, 医学書院, 2009.
日野原重明, 監: 看護学生必修シリーズ バイタルサインの見方・読み方, 照林社, 2005.
その他必要時指示する

参考書

<基礎看護技術(全般)に関するもの>

- 大岡良枝, 他編: NEW なぜ?がわかる看護技術 LESSON, 学研, 2006.
石井範子, 他編: イラストでわかる基礎看護技術-ひとりで学べる方法とポイント-, 日本看護協会出版会, 2002.
川村佐和子, 他編: ナーシンググラフィカ® 基礎看護学-基礎看護技術, メディカ出版, 2007.
坪井良子, 他編: 考える基礎看護技術 I 看護技術の基本 第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2005.
坪井良子, 他編: 考える基礎看護技術 II 看護技術の実際 第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2005.
三上れつ, 他編: 演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして 第3版, ヌーヴェルヒロカワ, 2008.
氏家幸子, 阿曾洋子, 他編: 基礎看護技術 I・II 第6版, 医学書院, 2005.
深井喜代子編: 新体系看護学全書第11巻 基礎看護学② 基礎看護技術 I, メヂカルフレンド社, 2008.
深井喜代子編: 新体系看護学全書第12巻 基礎看護学③ 基礎看護技術 II, メヂカルフレンド社, 2008.
杉野佳江編: 標準看護学講座 13 基礎看護学 2 日常生活と看護技術, 金原出版, 2003.
杉野佳江編: 標準看護学講座 14 基礎看護学 3 診療に伴う看護技術, 金原出版, 2003.
井上幸子, 他: 看護学体系 7 看護の方法(2)日常生活行動の援助技術<1> 第2版, 日本看護協会出版会
井上幸子, 他: 看護学体系 8 看護の方法(3)日常生活行動の援助技術<2> 第3版, 日本看護協会出版会
井上幸子, 他: 看護学体系 9 看護の方法(4)治療に伴う看護の方法 第2版, 日本看護協会出版会
川島みどり監修: ビジュアル 基礎看護技術ガイド, 照林社, 2007.

<コミュニケーションに関するもの>

- 大森武子, 他: 仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス, 医歯薬出版, 2003.

<ボディメカニクスに関するもの>

- 平田雅子: NEW ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学, 学研, 2000.

<身体観察・診察に関するもの>

- 日野原重明編: フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 第4版, 医学書院, 2006.

<バイタルサインに関するもの>

- 田中裕二編: Nursing Mook 根拠に基づくバイタルサイン, 学研, 2006.
平孝臣, 他編: わかるバイタルサイン A to Z, 学研, 2000.
日野原重明, 他: バイタルサイン そのとらえ方とケアへの生かし方, 医学書院, 1980.
岡安大仁, 他: J J N ブックス バイタルサイン 診かたからケアの実際まで, 医学書院, 1988.

<その他>

- 小坂橋喜久代編著: カラーアトラス からだの構造と機能 日常生活行動を支える身体システム, 学研, 2001.
阿部正和: 看護生理学, メヂカルフレンド社, 1985.

オフィスアワー

水曜日 講義終了後 ～ 18:30 看護学科教育研究棟5階 515号室

生活援助技術論

担当教員

准教授 南 妙子

助教 栗納 由記子 松岡 美奈子 香川 里美

授業概要

基本援助技術論（1年後期）に継続して看護技術の内容を学習する。この科目では、後続する看護学各論である成人・老年・小児・母性・精神・地域・在宅看護の対象となる個人、家族、地域社会に対する看護を展開する上で、共通に必要な日常生活の援助技術について、その基礎的知識、基本的技術、看護職者として望ましい基本的態度について学習する。生活援助技術論では、安全・安楽でかつ科学的根拠に基づいた質の高い看護援助を実践するために共通に必要な日常生活行動の援助技術の諸理論と実践に必要な基本的技術を学習する。

本授業における援助技術の学習には、先行する科目の理論を活用して、科学的に思考・判断・意志決定し、実施できるようにする必要があることから、専門基礎科目、専門科目等の内容について十分に理解して出席すること。さらに看護技術の習得には、講義内容をふまえた練習を行い習得することを期待する。

一般目標

1. あらゆる健康レベルの対象に看護を適用するために、看護技術を構成している基礎的理論を理解する。
2. 対象に安全・安楽に看護技術を提供するために、科学的根拠にもとづいて、看護援助を判断・実践できる基礎的能力を習得する。
3. 対象の健康上の問題を明確化し、対象に応じた援助を導き出すために、科学的に思考し、判断・意志決定するプロセスを習得する。
4. 看護職者としての基本的態度を身につける。

行動目標

1. 安全の意義・目的と重要性が説明できる。
2. 医療現場における安全の阻害因子が説明できる。
3. 安全を守るための技術について説明できる。
4. 安全を守る技術が確実に実施できる。
5. 清潔と健康の関連について説明できる。
6. 清潔援助の意義・目的について説明できる。
7. 清潔援助の方法とケア効果・身体負荷について説明できる。
8. 対象の状態に応じた清潔の援助が安全・安楽に実施できる。
9. 排泄のメカニズムと生理が説明できる。

10. 排泄援助の必要な状況を判断し、対象に応じた排泄援助が実施できる。
11. 食事と健康の関連について説明できる。
12. 食事の意義・目的が説明できる。
13. 食事援助の必要な状況を判断し、対象に応じた食事援助が実施できる。
14. 経管栄養法について、その目的・適応・援助方法が説明できる。
15. 浣腸・導尿についてその原理と方法が説明できる。
16. 浣腸・導尿が必要な状況を判断し、安全・安楽に実施できる。
17. 死後のケアの意義・目的と実施時の原則・留意点について説明できる。
18. 診察の援助に必要な技術(罨法・吸引・吸入・包帯法)についてその原理と方法を説明できる。
19. 罨法・吸引・吸入・包帯法が安全・安楽に実施できる。

各単元のより詳細な行動目標は、初回講義時に講義日程・内容とともに提示するので、必ず出席すること。

授業内容

2年次前期 必修 2単位 (60時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ガイダンス 看護実践の共通技術	1	ガイダンス 安全	学習の目的・目標 学習方法・評価 講義予定 安全の意義・目的と安全を阻害する因子 「標準予防策」「感染経路別予防策」の目的と方法 感染予防の技術「滅菌・消毒法」	南
	2	安全	「滅菌物の取り扱い」の原則・留意点 「手洗い」の意義・目的・方法と留意点 「隔離法」「ガウンテクニック」の意義・目的・方法	南
看護実践の共通技術	3	安全 清潔と健康	医療事故と事故防止の技術 清潔の意義・目的と関係器官の解剖・生理 清潔援助の意義・目的とアセスメント項目	南
看護実践の共通技術	4	学内演習「感染予防」	「手洗い」「無菌操作」(滅菌物の扱い方)	南・栗納・ 松岡・香川
日常生活の援助技術	5	清潔と健康	清潔援助のケア効果と心身への負荷 皮膚清拭の目的・方法と原則・留意点	南
	6	清潔と健康	洗髪の目的・方法と原則・留意点 口腔ケアの目的・方法と原則・留意点 その他皮膚・粘膜の清潔援助方法と留意点	南
	7	食事と健康	食事の意義・目的と関係器官の生理 食事援助に必要なアセスメント項目	松岡・南
看護実践の援助技術	8	学内演習「感染予防」	「滅菌手袋の装着」「ガウンテクニック」	南・栗納・ 松岡・香川
日常生活の援助技術	9	食事と健康	食事援助の目的・方法と原則・留意点 食事摂取できない状況と援助方法	松岡・南
	10	排泄と健康	排泄の意義・目的と関係器官の生理 排泄援助に必要なアセスメント項目	南

診療の援助技術	11・12	学内演習「清潔」	ベッド上臥床患者の洗髪・口腔ケア（ケリーパッド、洗髪車、洗髪台による洗髪）（ブラッシング、口腔清拭）	南・粟納・松岡・香川
	13・14	学内演習「清潔」	ベッド上臥床患者の全身清拭・足浴（石鹸清拭，他）	南・粟納・松岡・香川
	15	排泄と健康	排泄援助の方法と実施時の原則・留意点 排泄障害の種類と援助方法導尿の意義・目的と種類・適応	南
	16	導尿	関係器官の解剖・生理 導尿の方法と導尿実施時の原則・留意点 持続導尿時の原則・留意点と管理方法	粟納・南
	17	学内演習「食事」	自力摂取できない患者の食事援助（ベッド上臥床安静，上肢機能障害のある患者の食事援助）	南・粟納・松岡・香川
日常生活の援助技術	18	浣腸	浣腸の意義・目的と種類・適応 関係器官の解剖・生理 浣腸の方法と浣腸実施時の原則・留意点	粟納・南
	19	経管栄養	経管栄養の目的・適応 経管栄養食の種類と特徴 経管栄養実施時の原則・留意点と管理方法	香川・南
	20	学内演習「排泄」	ベッド上排泄援助の必要な患者の援助（便・尿器の使用法）	南・粟納・松岡・香川
診療の援助技術	21	学内演習「浣腸」	浣腸が必要な患者への援助（グリセリン浣腸） 高圧浣腸（デモ）	南・粟納・松岡・香川
	22・23	学内演習「導尿」 「導尿」技術チェック	一時的導尿が必要な患者への援助 持続導尿（デモ）	南・粟納・松岡・香川
	24	包帯法	包帯の意義・目的と種類 巻軸包帯の基本的巻き方 包帯法実施時の原則と留意点	南
	25	吸入	吸入の目的・種類と方法・原理 酸素吸入の基礎知識 酸素ポンベの取扱い方と留意点 酸素吸入の種類と特徴 酸素療法中の患者の援助	松岡・南
	26	罨法 学内演習「罨法」	罨法の意義・目的と原理 温・冷罨法の方法と実施時の留意点 温・冷罨法の必要な患者への援助（湯たんぽ，温湿布，氷枕，氷嚢，氷頸）	南 南・粟納・松岡・香川
	27	吸引	吸引の目的・種類・方法と原理 一時的吸引実施時の原則・留意点 持続的吸引実施時の原則・留意点	南

日常生活の援助技術	28	学内演習「吸引・吸入」 「包帯法」	酸素吸入法（酸素マスク・カニューラ） 酸素ボンベの取り扱い 口腔内一時的吸引法 巻軸包帯・スピード包帯による包帯法 三角巾・腹帯による包帯法 絆創膏の使用法	南・粟納・ 松岡・香川
	29	死の看護	死とは何か 危篤時の看護 死亡の経過と心身の変化 死後のケアの目的・原則・留意点	南
	30	試験		南

注) 上記、授業回数と内容は、1回の授業時間を90分としたものである。

学習方法

講義とグループワーク、学内演習を組み合わせで行う。

学内演習では、学生全員が、患者一看護師役割、観察・評価者役割をとり、演習を実施する形態を基本とする。学内演習項目の日常生活の援助技術については、指定された視聴覚教材による演習前の自己学習にて演習内容のイメージ化を図り、演習に臨むこと。また、診療の援助技術項目では、教員のデモンストレーション見学後に演習という形態の他に学生がデモンストレーションを実施し、グループでの技術指導者となるなど、グループ学習の機能を大いに活用した演習形態も取る。

根拠に基づいた看護技術習得を目指し、演習項目に関する事前学習ならびに演習後には演習内容に関する課題プリントを課すので、文献学習、自らの体験の振り返りから、安全・安楽な援助技術についての考察を深めることを期待する。

評価方法

試験と課題レポート、授業態度、演習・グループワークへの参加度、出席日数を総合して評価する。適宜技術チェックを行うとともに、事例問題による実技試験を行う。

教科書及び参考文献

教科書・必読図書

藤崎郁，他：系統看護学講座専門2 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2006.

藤崎郁，他：系統看護学講座専門3 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2009.

以上は、1年次に購入しているもの

新食品成分表編集委員会編：新食品成分表 2010，東京法令出版，2009.

竹尾恵子監：看護技術プラクティス 第2版，学研，2009.

参考書

＜日常生活援助技術に関するもの＞

川口孝泰，他編：リンクで学ぶ看護基本技術ナビゲーション 清潔の援助技術，中央法規出版，2003.

川口孝泰，他編：リンクで学ぶ看護基本技術ナビゲーション 排泄の援助技術，中央法規出版，2005.

村上美好監修：写真でわかる基礎看護技術①，インターメディカ，2005.

村上美好監修：写真でわかる基礎看護技術②，インターメディカ，2006.

山口瑞穂子監修：看護技術 講義・演習ノート上巻 日常生活援助技術篇，医学芸術社，2006.

香春知永，他編：看護学テキストNICE 基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する，南江堂，2009.

その他は、「基本援助技術論（1年次）」で示したものを参照して下さい。

オフィスアワー

木曜日 16:30 ～ 18:30 看護学科教育研究棟 5階 515号室

基礎看護技術論

担当教員

准教授 南 妙子

助教 栗納 由記子 松岡 美奈子 香川 里美

授業概要

基本援助技術論（1年後期）・生活援助技術論（2年前期）に継続して、成人・老年・小児・母性・精神・地域・在宅看護の対象となる個人、家族、地域社会に対する看護を展開する上で、共通に必要な看護技術について、その基礎的知識、基本的技術、看護職者として望ましい基本的態度について学習する。基礎看護技術論では、診断・治療に伴う援助技術を安全に対象に提供するための諸理論とその基本的技術を学習する。

また、健康障害を持つ患者とその家族のニーズや看護上の問題を明確化し、様々な状況にある対象に応じた個別の援助を導き出すために、科学的に思考・判断し、意志決定するプロセスの基礎理論を学習する。

本授業における援助技術の学習には、先行する科目の理論を活用して、科学的に思考・判断・意志決定し、実施できるようにする必要があることから、専門基礎科目、専門科目等の内容について十分理解して出席すること。さらに、看護技術の習得には、講義内容をふまえた練習を行い習得することを期待する。

一般目標

1. あらゆる健康レベルの対象に看護を適用するために、看護技術を構成している基礎的理論を理解する。
2. 対象に安全・安楽に看護技術を提供するために、科学的根拠にもとづいて、看護援助を判断・実践できる基礎的能力を習得する。
3. 対象の健康上の問題を明確化し、対象に応じた援助を導き出すために科学的に思考し、判断・意志決定するプロセスを習得する。
4. 看護職者としての基本的態度を身につける。

行動目標

1. 与薬の種類・方法が説明できる。
2. 各与薬方法の特徴と実施上の原則・留意点が説明できる。
3. 各注射法における安全な注射部位が解剖学的根拠に基づいて説明できる。
4. 与薬が正確な方法で安全に実施できる。
5. 診療における看護職者の役割について説明できる。
6. 検査時の看護職者の役割について説明できる。
7. 主な検査についてその意義と目的・方法を説明できる。
8. 静脈血採血が安全・正確にできる。
9. 看護過程を構成する要素を説明できる。

10. 看護過程の5段階について、その内容を説明できる。
 11. 紙上患者の看護上の問題を看護過程の思考プロセスを用いて明確化できる。
 12. 紙上患者の看護計画を立案できる。
- 各単元の詳細な行動目標は、初回講義時に講義日程・内容とともに提示するので必ず出席すること。

授業内容

2年次 前期・後期 必修 2単位 (45時間)

2年次 前期

大項目	回	項目	内容	担当者
診療の援助技術	1	与薬	与薬の意義・目的と看護師の役割 与薬に関する法律 各与薬法の薬理作用（吸収・排泄経路）の特徴 与薬援助時に共通する原則	南
	2	与薬	注射法の種類（皮内・皮下・筋肉・静脈）と特徴 注射法（皮内・皮下・筋肉）実施時の原則と留意点 安全な注射部位（皮内・皮下・筋肉）と注射方法	南
	3	学内演習「皮下注射・筋肉注射」	皮下注射・筋肉内注射デモ・モデル演習	南・粟納・松岡・香川
	4	診療の介助 検査の介助	診療における看護師の役割 検査の意義・目的と看護師の役割 検査値のアセスメント 検査の介助の方法と留意点（血液）	南
	5・6	学内演習「注射法」	実技試験：皮下注射・筋肉注射	南・粟納・松岡・香川
	7	学内演習「静脈血採血」	静脈血採血の方法（デモ）・モデル演習 注射法（皮下・筋肉注射）	南・粟納・松岡・香川
	8	与薬	経口与薬の方法と留意点 直腸内与薬法・点眼法・外用剤（塗布法・点鼻など）	南
	9・10	学内演習「経口与薬・直腸内与薬・点眼法」	経口与薬・直腸内与薬・点眼法	南・粟納・松岡・香川
	11	検査の介助	主な検査の目的・方法と実施時の留意点続き（尿・便・喀痰・消化液・穿刺液）	南
	12	与薬	静脈内・点滴静脈内注射実施時の原則と留意点 輸血の種類と副作用 輸血時の原則と留意点	南
	13	学内演習「静脈血採血」	実技試験：静脈血採血	南・粟納・松岡・香川
	14	学内演習「静脈内注射」	静脈内・点滴静脈内注射のデモ・モデル演習	南・粟納・松岡・香川
	15	試験		南

2年次 後期

大項目	回	項目	内容	担当者
看護過程	1	看護過程	看護過程とは 看護過程と問題解決過程 看護過程と看護診断 看護過程の構成要素（アセスメント・看護診断）	南
	2	看護過程 演習「看護過程」	看護過程の構成要素（計画立案・実施・評価） 紙上患者の看護過程の展開 情報収集の進め方	南 南・栗納・ 松岡・香川
	3	演習「看護過程」	紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） データの分類とデータの解釈・分析過程（1）	南・栗納・ 松岡・香川
	4		紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） データの解釈・分析過程（2）	南・栗納・ 松岡・香川
	5	演習「看護過程」	紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） 看護問題抽出過程と関連図	南・栗納・ 松岡・香川
	6	演習「看護過程」	紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） 優先順位の確定と目標の設定	南・栗納・ 松岡・香川
	7	演習「看護過程」	紙上患者の看護過程の展開（グループワーク） 看護計画の立案と発表準備	南・栗納・ 松岡・香川
	8	演習「看護過程」	グループ発表・討論・まとめ	南・栗納・ 松岡・香川

注) 上記、授業回数と内容は、1回の授業時間を90分としたものである。

学習方法

講義とグループワーク、学内演習、発表などを組み合わせて進める。

学内の技術演習においては、教員のデモンストレーションの見学後、学生全員が演習を実施する。演習では、自らの技術内容をビデオカメラで撮影し、グループ内で批判的に評価しあうことや、学生全員がなんらかの技術項目において指導者役割を取り、グループ員に指導するといったグループ学習方法を取り入れることによって、確実に技術を習得することを目指している。

対象の安全・安楽を保証するために、必要な事前学習とともに、常に自己の技術を高める努力を惜しまず、主体的に学習に取り組むことを期待する。

看護過程の学習において、グループワークを効果的に運用するためには、個別学習による事前学習が不可欠である。活発な討議ができるように準備して授業に臨むこと。

評価方法

試験と課題レポート、授業態度、演習・グループワークへの参加度、出席日数を総合して評価する。適宜技術チェックを行うとともに、事例問題による実技試験を行う。

教科書及び参考文献

教科書・必読図書

藤崎郁, 他: 系統看護学講座専門2 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2006.

藤崎郁, 他: 系統看護学講座専門3 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2009.

以上は、1年次に購入しているもの

竹尾恵子監: 看護技術プラクティス 第2版, 学研, 2009.

「生活援助技術論(2年次)」で購入しているもの

任和子編: 看護過程ガイド ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる, 照林社, 2006.

その他必要時指示する。

参考書

<与薬に関するもの>

石塚睦子, 他編: わかりやすい与薬 第2版, 医学評論社, 2003.

高田早苗, 他編: EBN Books エビデンスに基づく注射の技術, 中山書店, 2006.

上谷いつ子, 他編: 安全確実にを行うための最新 注射・輸液マニュアル, 日本看護協会出版会, 2005.

山口瑞穂子監修: 看護技術 講義・演習ノート下巻 診療に伴う看護技術篇, 医学芸術社, 2006.

<看護過程に関するもの>

R. アルファロールフィーヴァ著, 江本愛子監訳: 基本から学ぶ看護過程と看護診断 第6版, 医学書院, 2008.

松本光子編: JJN ブックス ケーススタディ 看護過程 根拠に基づく看護診断から評価まで 第2版, 医学書院, 2002.

三上れつ著: 実践に役立つ看護過程と看護診断—ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開— 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, 2001.

江川隆子他編: ゴードンの機能的健康的パターンに基づく看護データベース—作成過程と臨床への応用— 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, 2000.

その他は、「基本援助技術論」「生活援助技術論」で示したものを参照して下さい。

オフィスアワー

前期 木曜日 16:30 ~ 18:30 看護学科教育研究棟 5階 515号室

後期 月曜日 16:30 ~ 18:30 看護学科教育研究棟 5階 515号室

基礎看護学早期体験実習

担当教員

教 授 名 越 民 江
准 教 授 南 妙 子
助 教 栗 納 由 記 子 松 岡 美 奈 子 香 川 里 美

授業概要

病院の機構・概要を理解し、入院している患者の生活環境の実態について把握する。なお、生活環境は、学生が観察するだけでなく測定器具を用いて把握する。

また、病棟での看護活動の実際を見学することにより、今後の学習をより深める。

一般目標

看護の場としての病院の機構、概要を理解するとともに、看護の対象である入院患者の生活環境を見学実習し、看護に関する理解を深める。

行動目標

1. 病院の機構、概要、看護部の概要について知る。
2. 病院の役割と機能および各病棟の概要や安全について知る。
3. 入院患者の生活環境の実態を観察し、環境測定用具を用いて測定する。
4. 医療チームにおける看護師の活動の実際を知る。
5. 入院患者に関わる医療チームメンバーの各々の役割と、メンバー間の連携のあり方について知る。
6. 今後の看護の学習を進めるために、自己の学習課題を明確にする。

授業内容

1年次 必修 1単位（45時間）

学習方法

後日配布する「2010～2011 看護学実習の手引きー基礎看護学早期体験実習ー」を参照。

評価方法

出席状況、見学実習の状況、課題レポート提出、グループ・クラスカンファレンスの参加態度を総合して評価する。

教科書及び参考文献

看護学概論参照（シラバス）

オフィスアワー

随時： 名越研究室（5階 517室）

基礎看護学実習

担当教員

教 授 名 越 民 江
准 教 授 南 妙 子
助 教 栗 納 由記子 松 岡 美奈子 香 川 里 美

授業概要

基礎看護学早期体験実習 に続く実習である。この実習では、受持患者の入院、治療、検査による日常生活の変化や、心理状態について把握し援助活動を行う。そのためには、実習開始前までに学習した内容が統合・活用できるように、事前学習や学内実習した基本的技術を、さまざまな条件をもった対象を想定して、応用できるように学習する。

一般目標

看護の対象を把握し、看護上の問題を明らかにして、看護援助を実施・評価するために、科学的に問題解決する思考能力の基礎を習得する。

行動目標

1. 受持患者とコミュニケーションが図れて、信頼関係を築くことができる。
2. 受持患者の入院生活の現状を把握することができる。
3. 受持患者の全体像が描けて必要な看護が判断できる。
4. 現時点で優先すべき看護を確認し、指導者に報告できる。
5. 患者の気持ちを大切に、既習の技術をどう応用すれば看護することができるかを考えて実施できる。
6. 実施した看護を評価できる。
7. 患者や家族に尊重した態度で接し、プライバシーの確保や倫理的配慮ができる。

授業内容

2年次 必修 2単位 (90時間)

学習方法

後日配布する「2010～2011 看護学実習の手引き-基礎看護学実習-」を参照。

評価方法

出席状況、実習記録、レポート提出、グループ・クラスカンファレンスの参加態度を総合して評価する。

教科書及び参考文献

1年次・2年次に基礎看護学の科目で示した書籍

オフィスアワー

随時： 名越研究室 (5階 517室)

05 成人看護学

担当教員

教 授 清 水 裕 子

授業概要

本科目は基礎看護学で学んだ看護の哲学・理念、目的、方法に関する知識をさらに発展させて、ライフサイクルにおける「成人期」という特定の対象に対する看護実践の基本的考え方について学ぶ。

ライフサイクルにおける成人期は生活経験の蓄積や加齢に伴って健康上の問題をきたしやすい時期であり、いったん健康を障害されると成人のみならず成人を取り巻く周辺の人々に多大な影響を及ぼしてくる。一方、成人期は自立・自律性や生産性に優れ、発達課題や生活経験に根ざした独自の価値観や考え方を持ち、健康上の問題に対する反応（身体および考え方や取り組み方）は健康障害の種類の違いのみならず、各々の生活経験や生活背景の違いによって非常に個人差がある。

そこで、本科目ではこのような成人の特徴を理解するとともに、成人を取り巻く社会や生活環境、保健医療システム、家族形態や機能、文化的背景、社会福祉・資源の動向などから、成人期の患者と家族に起こりやすい健康上の問題を理解する。さらに、発達課題や生活経験の蓄積という視点から健康上の問題に対する成人特有の反応を理解し、成人期にある人と家族に対する保健医療システムとそのあり方、看護とその方法について学ぶ。

本授業をとおして学生は、後続する2年次の成人援助論Ⅰ～Ⅳ、さらに3年次・4年次の成人看護学実習の基盤となる考え方を学び、看護の実践的知識・技術・態度を統合していくことが期待されている。

一般目標

あらゆる健康レベルにある成人期の人とその家族の看護上のニーズ、対象の特性に応じた看護の必要性と適切な看護の方法を理解するために、その基本となる知識を習得する。

行動目標

1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけとその意義・重要性を説明できる。
2. 成人各期にある人（家族を含む）の一般的な身体的特徴、社会心理的特徴（発達課題・生活課題）、生活の特徴を説明できる。
3. 成人期にある人の保健の動向および成人各期の保健問題とライフスタイルの関連性について説明できる。
4. 成人各期にある人に起こりやすい健康障害とその要因を説明できる。
5. 成人期にある人の健康障害の各期の反応パターンの特徴とその反応パターンの特徴に応じた看護の目的・方法の特徴を説明できる。
6. あらゆる健康レベルの成人期にある人の健康を支援するための保健政策と保健・医療・福祉システム、社会資源について説明できる。
7. 成人期にある人の看護の目的・役割・活動の場・課題について説明できる。
8. 成人看護に用いられる基礎理論の概要について説明できる。

授業内容

1年次 後期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
成人看護学の概念	1	成人看護学とは 成人看護の対象	成人看護の特徴：目的、役割・機能 成人の特徴、役割	清水
成人各期の特徴と健康問題	2・3	青年期・壮年期・向老期の特徴と保健問題	ライフサイクルにおける成人期の特徴と区分 課題学習；成人各期の身体的特徴、社会心理的特徴と保健問題	清水
成人期を取り巻く社会/環境と保健問題	4・5	成人保健の動向と保健医療福祉対策	疫学統計からみた成人期の特徴 視聴覚学習 課題学習：健康な生活を送るために必要な保健医療福祉対策	清水
成人患者の看護の方法	6	健康レベルと看護方法	健康概念の起源からみた生活援助 健康レベルに即した家族を含めた看護方法	清水
	7	成人看護に用いる理論 — 基礎編	課題学習；ニード論、適応理論、ストレス理論、危機理論、学習理論他	清水
	8	試験		清水

学習方法

講義と課題学習（個人とグループワーク）、討議による学習を中心に展開する。

評価方法

課題レポート、および授業への参加度

教科書及び参考文献

大西和子・岡部聡子編；成人看護学概論、NOUVELLE HIROKAWA、2004

黒田裕子監修；臨床看護学セミナー1 臨床看護学概論、1998

山崎智子（監修）；成人看護学5、金芳堂、2001

野口美和子編；新体系看護学 成人看護学 I — 成人看護学概論、成人保健、メヂカルフレンド社、2002

厚生統計協会；国民衛生の動向、2008

オフィスアワー

月曜日 16:30～17:30

成人疾病論

担当教員

教授	田中輝和、峠哲男
准教授	筒井邦彦
医学科 兼任教員	石川真也、石田俊彦、臼杵尚志、大森浩二、岡野圭一、 金西賢治、黒田泰弘、窪田泰夫、窪田良次、紺谷桂一、 白神豪太郎、田宮隆、西山佳宏、萩池昌信、原大雅、 堀井泰浩、森川健一郎、森望 (五十音順)
コーディネーター	當目雅代、金正貴美

授業概要

看護とは、個人・集団の健康的な生活リズムを作ることを目標に、健康上のあらゆる問題に対して援助を行うことである。もう少し具体的に言うと、健康の増進、維持、回復に関する人間の反応を診断し、かつそれに対処し、個人ないし集団が自立していくことを援助することにある。看護の役割を果たすためには、まず人間の生命過程、発達過程を理解することから始まり、人間の生命、健康に影響を与えるその環境を認識し、健康とはなにか、人間が病むとはどういうことかを学ばなければならない。そして対象となる人間がもっとも必要としている援助の内容が理解でき、かつ実践できるだけの知識と技術を習得しなければならない。このような病態生理学をはじめとする基礎的な医学知識と技術がなくしては人間を統一的に見て、人間の健康の問題の反応を診断し処理するという看護の本来の目的を達成することも困難である。

医学上、病気の成り立ちや仕組みを知っていることは看護の実践に極めて重要である。ひとりひとりの看護対象のあらゆる問題に踏み込んだ視点が要求されるであろう。成人の健康破綻と回復過程のパターンを理解し、病める人間が自立していくための動機づけを行い、必要に応じて援助していくことが成人看護の基本である。看護に携わるものにとってももっとも大切なことは人間が、人間として、人間のために保健医療のケアの分野で何をしりうるかを知り、必要な看護を実践できることである。

一般目標

人間の健康上の問題の反応を診断し処理するという看護の本来の役割を果たすためには、人間の構造と機能を理解することに始まり、各生体器官またはその機能の障害により発症する成人の代表的な疾患の病態・症状・診断技能・治療について理解し、看護の実践の場において看護上の問題点を認識する。また、疾患を理解することにより生活習慣病、難病、がん、感染症等の慢性病の日常生活維持に関する生活支援を行うための知識を深める。

行動目標

1. 成人病の診断法、基本的検査、治療法について説明できる。
2. 外科的感染症、損傷、生体反応の病態について説明できる。
3. がん発症のメカニズム、病態、生体反応の病態について説明できる。

4. 麻酔学、救急医学、放射線医学の概要を述べられる。

5. 皮膚・アレルギー系、循環器系、呼吸器系、脳神経系、血液・造血器系、腎・泌尿器系、消化器系、内分泌・代謝系、運動器系、女性生殖器系、耳鼻咽喉器系における主要な成人病の病因、病態生理、経過、予後、治療について記述できる。

授業内容

2 年次前期・必修 2 単位（60 時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	内科学概論・診断学	内科学とは、患者の診方	峠
		医学の歴史	人と病気の歴史、近代医学の誕生	
	2	症候学Ⅰ	嚔下困難、悪心・嘔吐、吐血・下血	峠
			黄疸、肥満・やせ、腹部膨満、便秘・下痢	
	3	症候学Ⅱ	嘔声、呼吸困難、咳嗽と喀痰、喀血、胸水	峠
			動悸、排尿障害、意識障害発熱、浮腫	
	4	症候学Ⅲ	言語障害、貧血、頭痛、しびれ、運動麻痺、けいれん	筒井
	5	検査診断学	臨床検査の意義、読み方、看護職の役割	筒井
	6	輸血	治療目的と指針、治療方法と手技	窪田良次
	7	臨床腫瘍学Ⅰ	腫瘍の概念と定義、発癌機序	田中
	8	臨床腫瘍学Ⅱ	症候、病態と治療	田中
	9	外科学概論	外科学とは	白杵
	10	外科学- 損傷	損傷の種類、症状と創傷治療、熱傷	岡野
11	麻酔学	麻酔薬と手術	白神	
12	救急医学	救急医療、外傷、中毒	黒田	
13	放射線医学	画像診断学、核医学、放射線治療 放射線障害とその防護	西山	

大項目	回	項目	内容	担当者
各論	14	アレルギー系	アレルギー、膠原病、等	峠
	15	皮膚	湿疹、帯状疱疹、等	窪田泰夫
	16	循環器系Ⅰ	高血圧症、不整脈、心不全、等	大森
	17	循環器系Ⅱ	虚血性心疾患と心臓手術、等	堀井
	18	呼吸器系Ⅰ	慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、結核、等	筒井
	19	呼吸器系Ⅱ	肺癌、呼吸器系手術、等	石川
	20	脳・神経系	脳出血、脳腫瘍、等	田宮
	21	血液・造血器系	貧血、DIC、白血病、悪性リンパ腫、等	田中
	22	腎・泌尿器系	腎臓病と人工透析、等	原
	23	消化器系Ⅰ	肝炎、肝硬変、肝臓癌、膵炎、胆石症、等	筒井
	24	消化器系Ⅱ	胃癌、食道癌、胃・食道手術、等	岡野
	25	消化器系Ⅲ	大腸癌、直腸癌と人工肛門造設術、等	萩池
	26	内分泌・代謝系	糖尿病、高脂血症、等	石田
	27	運動器系	運動器疾患 等	森川
	28	女性生殖器系Ⅰ	乳癌、甲状腺疾患、等	紺谷
	29	女性生殖器系Ⅱ	子宮癌、卵巣癌、更年期障害、等	金西
30	耳鼻咽喉器系	メニエール病、副鼻腔炎、上顎癌、等	森	

学習方法

学習目標を達成するためには講義内容を予習・復習を通じて確実に把握し、単なる記憶としてではなく、論理的に裏付けされた知識として習得されねばならない。疾病に対する基本的な考え方を理解し、これらの基礎的な知識を看護の問題として臨床の場に応用していく柔軟さと感性を養うことが重要である。

評価方法

講義終了時に筆記試験を行う。講義の出欠の状態も評価の対象とする。

教科書

- 臨床病態学1 ヌーベルヒロカワ 2006
- 臨床病態学2 ヌーベルヒロカワ 2006
- 臨床病態学3 ヌーベルヒロカワ 2006
- 症状別看護技術 ヌーベルヒロカワ 2007

参考文献

- 系統看護学講座 専門科目 成人看護学(2-14)、医学書院、2003
- わかりやすい内科学 第2版、文光堂、2001
- 疾患別看護過程セミナー 総合改訂版、医学芸術社、2006
- 長谷川雅美・林優子編：疾患と看護過程実践ガイド、医学芸術社、2005
- 山田幸広編：看護のための病態ハンドブック、医学芸術社、2005
- 林正健二編：疾病と治療、MCメディカ出版、2008
- 落合慈之監修：消化器疾患ビジュアルブック、2009

オフィスアワー（コーディネーター）

随時

成人慢性期援助論

担当教員

教授 清水裕子

授業概要

生涯に渡って病気をコントロールしなければならない慢性期（いわゆる慢性疾患）の成人患者とその家族の体験世界への理解を深めるとともに、慢性期の成人患者とその家族が必要としている看護援助を判断し、個別的な看護を展開するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。

一般目標

1. 慢性期にある成人患者とその家族が病いや障害とともによりよく生きていくために、必要としている看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
2. 慢性の病いの経験が成人とその家族の成長・発達を促し、発達課題を達成していけるよう、独自性を尊重した看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。

行動目標

1. 慢性期にある成人と家族に起こりやすい健康問題とその反応の特徴について説明できる。
2. 慢性期にある成人と家族の健康問題と反応に影響を及ぼす要因を説明できる。
3. 慢性期にある成人と家族のセルフケア（自己管理）の学習支援を促進・阻害する要因を説明できる。
4. 慢性期にある成人と家族のセルフケア学習支援に有用な理論を上げ、説明できる。
5. 慢性期にある成人と家族が必要としているセルフケアを判断し、学習支援のための方法を説明できる。
6. 慢性期にある成人と家族に必要な治療・検査の目的・意義、安全・安楽に目的を達成するための援助を説明できる。
7. 慢性期にある患者と家族が病気や障害とともに生きるために必要な能力・資源を開発するための看護援助について説明できる。
8. 慢性期にある患者と家族が病気や障害とともに生きていく経験に意味を見いだしていくための関わり、援助を説明できる。
9. 慢性期の患者と家族が QOL を維持、あるいは高めるために必要な保健医療システムや社会資源の活用について説明できる。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1	慢性期にある成人の理解	慢性の病いをもつ成人とその家族の体験世界 慢性期・慢性疾患の特徴 慢性の病いを持つ患者とその家族に起こりやすい看護問題	清水
	2	慢性期にある成人患者へのアプローチとその基本となる理論	慢性期の経過と経過別看護アプローチと基本理論 成人の学習理論、自己効力感モデル 行動理論 セルフケア理論	
	3		エンパワーメント（意思決定支援）モデル	
	4		ケアリング、スピリチュアルケア	
	5		成人のセルフケア形成に向けての支援	
	6		事例を用いた学習支援計画の立案1） GW 泌尿器系疾患を持つ成人患者の看護—腎不全	
	7		事例を用いた学習支援計画の立案2） GW	
	8		事例を用いた学習支援計画の立案3） GWの発表・討論	
	9		家族の支援とソーシャルサポート	
	10	慢性疾患別成人の看護の方法	代謝系疾患を持つ成人患者の看護—糖尿病、肝疾患他	
	11		循環器系疾患を持つ成人患者の看護—心不全、他	
	12		消化器系疾患を持つ成人患者の看護—直腸癌、他	
	13		呼吸器系疾患を持つ成人患者の看護—COPD、他	
	14		成人がん患者の看護—がん化学療法の看護、死にゆく人への援助、他	
	15		特殊な治療の必要な成人の看護—褥瘡、他	
	16		試験	

学習方法

授業は講義形式だけではなく、グループ学習やクラス討論により進める。主体的に学習に取り組んで欲しい。

評価方法

出席状況、学習態度、レポートの内容および筆記試験によって評価する。

教科書

鈴木志津江・藤田佐和編;慢性期看護論、NOUVELLE HIROKAWA、2005

参考文献

浅野浩一郎他著:系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[2]～[15],医学書院、2009

林正健二他著:ナーシング・グラフィカ 15 健康の回復と看護 内部環境調節機能障害 性・生殖機能障害、メディカ出版、2006

吉田澄恵他編:ナーシング・グラフィカ 23～25 成人看護学、メディカ出版、2006

鈴木志津江 :成人看護学、I 成人看護技術(4)、廣川書店、2000

中西睦子監、安酸史子編;成人看護学-慢性期-、建帛社、1999

木下由美子他編;成人看護-慢性期:予防・入院ケア編、医歯薬出版KK、1999

木下由美子他編;成人看護-慢性期:通院・在宅・終末期ケア編、医歯薬出版 KK、1999

Anselm L. Strauss and Corbin・Fagerhaugh・Claser, Maines・Suczek・Wiener:Chronic Illness and The Quality of Life:
南裕子・木下康仁・野嶋佐由美訳、慢性疾患を生きる一ケアとクオリティ・ライフの接点-、医学書院、1987

ピエールウグ編、黒江ゆり子他訳;慢性疾患の病みの軌跡-コービンとストラウスによる看護モデル、医学書院、1995

Dorothea E. Oren:Nursing-Concepts of Practice Fourth Edition、小野寺杜紀訳:オレム看護論-看護実践における基本概念-医学書院、1995

コニー・M・デビス著、小野寺杜紀監訳;オレム看護論入門、セルフケア不足看護理論へのアプローチ、医学書院MYW、1998

ボブ・プライス編、スティーブン J. カバナ著、数間恵子他訳;看護モデルを使う;オレムのセルフケア・モデル、医学書院、2002

Ruth Wu:Behavior and Illness、岡堂哲雄監訳:病気と患者の行動、医歯薬出版株式会社、1975

南裕子他:セルフケア概念と看護実践-Dr. P. R. Underwood の視点から-、ヘルス出版、1987

リチャード・S・ラザルス他著、本明寛他監訳:ストレスの心理学、実務教育出版、1992

ナンシーI. ホイットマン他著、安酸史子訳;ナースのための患者教育と健康教育、医学書院、1996

ドナ R. フォルヴァ著、津田司監訳;上手な患者教育の方法、医学書院、1996

オフィスアワー

前期 木曜日 16:30 ～ 17:30

成人急性期援助論

担当教員

教授	當目雅代
助教	野口英子 竹内千夏 小笠美春
非常勤講師	古地敬利

授業概要

本科目において学生は、健康障害の経過別における急性期とくに周手術期に焦点を当てて成人患者とその家族の身体生理学的・社会心理的な反応の特徴の理解に基づいて、成人とその家族のQOLを高め、Well being を目指した看護援助の必要性とその方法を判断し、実践するための基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

一般目標

1. 急性期（周手術期）にある成人とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的、ならびに生活への影響を理解し、必要としている看護ケアを判断するための基本的知識・技術・態度を習得する。
2. 急性期(周手術期)にある成人患者とその家族が病理状態や機能障害による影響を最少にし、早期に回復するために、必要としている看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
3. 1と2を通して、病いの経験が成人とその家族の成長・発達を促し、発達課題を達成していけるよう、独自性を尊重した看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。

行動目標

1. 急性期・周手術期の定義を述べることができる。
2. 周手術期患者の不安の定義、特性、種類、症状および看護援助を説明できる。
3. ストレス理論およびストレス緩和要因を理解し、周手術期患者のストレスとその反応および看護援助の方法を説明できる。
4. 危機理論を理解し、周手術期患者の危機的状況と看護援助の方法を説明できる。
5. 手術に伴う生体反応および麻酔の影響に関する看護援助の方法を説明できる。
6. 手術室看護について説明できる。
7. 手術に伴う生体損傷とその修復過程のアセスメントおよび看護援助の方法を説明できる。
8. 術後合併症のアセスメントと看護援助の方法を説明できる。
9. 手術後の疼痛管理、輸液管理、創傷管理についての看護援助の方法を説明できる。
10. 手術前オリエンテーションの必要性和方法を説明できる。
11. 救急看護（ICU）について説明できる。
12. BLSとAEDについて実施できる。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
急性期の看護	1	急性期看護	急性期と周手術期の定義	當目
	2	手術前の心理的側面	不安・ストレス・コーピング・危機理論	當目
	3			當目
	4	周手術期の身体的側面	手術に伴う生体反応、麻酔の影響と看護	當目
	5			當目
	6	手術室看護	手術室の概要、安全対策、事故対策	當目
	7		手術中の看護	當目
	8	手術後の看護	手術後の看護	當目
	9		手術後の合併症予防（呼吸器系・循環器系・消化器系）	當目
	10		手術後の合併症予防（術後せん妄）	當目
	11		手術後の疼痛管理、輸液管理、創傷管理	當目
	12	手術前の看護	術前オリエンテーション	當目
	13		手術前処置・術前訓練	當目
	14	救急看護	救急・ICU看護	當目
	15		BLSとAED	古地

学習方法

授業は講義形式が主である。

評価方法

出席状況、学習態度、レポートの内容および筆記試験によって評価する。

教科書

竹内登美子編：1 外来/病棟における術前看護、医歯薬出版株式会社、2001

竹内登美子編：2 術中/術後の生体反応と急性期看護、医歯薬出版株式会社、2001

参考文献

疾患別看護過程セミナー 総合改訂版、医学芸術社、2006

長谷川雅美・林優子編：疾患と看護過程実践ガイド、医学芸術社、2005

山勢博彰編：救急看護論、ヌーベルヒロカワ、2005

竹内佐智恵編：周手術期看護、MCメディカ出版、2009

坂本すが監修：術前・術後マニュアル、メジカルフレンド社、2007

大久保憲編：OPE ナーシング、EBMに基づく手術部の感染防止Q&A、メディカ出版、2002

前田恵美子編：視て、観て、見て手術室クリニカルパス、日総研出版、2002

中田精三編：手術室看護の知識と実際、メディカ出版、2002

河野友信：手術患者と不安、真興交易医書出版部、2000

山田富美雄監修：医療の行動科学I、ミニマムサイコロジー、北大路書房、1999

オフィスアワー

随時

成人リハビリテーション期援助論

担当教員

教授	當目雅代		
講師	金正貴美		
助教	野口英子	竹内千夏	小笠美春
非常勤講師	辻下守弘		
非常勤講師	大島由紀江	納田広美	
非常勤講師	山田英司	森田伸	田仲勝一

授業概要

本科目において学生は、健康障害の経過別におけるリハビリテーション期（回復期）にある成人患者とその家族の身体生理学的・社会心理的な反応の特徴の理解に基づいて、成人とその家族のQOLを高め、Well being を目指した看護援助の必要性とその方法を判断し、実践するための基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

一般目標

1. リハビリテーション期（回復期）にある成人とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的、ならびに生活への影響を理解し、必要としている看護ケアを判断するための基本的知識・技術・態度を習得する。
2. リハビリテーション期（回復期）にある成人患者とその家族が疾患や障害と共によりよく生きていくために必要としている看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
3. 1と2を通して、病いの経験が成人とその家族の成長・発達を促し、発達課題を達成していけるよう、独自性を尊重した看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。

行動目標

1. リハビリテーションチームとそこでの看護の役割について説明できる。
2. 障害受容理論である価値転換理論、ステージ理論について説明できる。
3. 日常生活活動（ADL）の概念と評価方法および自立のための看護援助について説明できる。
4. 早期離床の意義と二次的障害の予防の看護について説明できる。
5. ストーマケアの援助について説明ができ、適切な技術を習得できる。
6. 車椅子等を使用して患者の状態に合わせた移乗動作の介助方法を習得できる。
7. 疾患に応じた退院指導のためのパンフレット、退院計画を作成することができる。

8. 筋肉増強訓練、歩行訓練について説明ができ、適切な技術を習得できる。
9. ナーシングバイオメカニクスを用いた体位変換の方法を習得できる。
10. 呼吸器リハビリテーションについて説明ができ、適切な技術を習得できる。
11. 運動・神経機能障害、呼吸機能障害、循環機能障害、感覚機能障害の特徴と看護援助について説明できる。
12. リハビリテーションにおける患者の行動変容へのアプローチ方法について説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
リハビリテーション期の看護	1	リハビリテーション看護	リハビリテーションチームと看護の役割	當目
	2	障害受容	価値転換理論、ステージ理論	當目
	3	ADL 自立への援助	ADL の考え方と評価方法、自立への援助	當目
	4	早期回復への援助	早期離床、二次的障害の予防	當目
	5	ストーマケアの援助	ストーマケアの理論と実践	大島
	6			納田
	7	トランスファーの援助	トランスファーの理論と実践	山田
	8			森田
	9	筋肉増強訓練・歩行訓練	筋肉増強訓練・歩行訓練の実践	仲 當目他
	10	ナーシングバイオメカニクス	ナーシングバイオメカニクスの実践	當目他
	11	呼吸器リハビリテーション	呼吸訓練方法の実践	當目他
	12	退院指導・退院計画	疾患に応じた退院指導のパンフレット作成 退院計画	當目
	13	障害別リハビリテーション看護 1	運動・神経機能障害、感覚器障害を持つ人の看護	當目
	14	障害別リハビリテーション看護 2	呼吸・循環機能障害を持つ人の看護	當目
	15	行動変容アプローチ	リハビリテーションにおける行動変容 アプローチ	辻下

学習方法

授業は講義形式が主である。

評価方法

出席状況、学習態度、レポートの内容および筆記試験によって評価する。

教科書

中西純子編：成人看護学、リハビリテーション看護論、ヌーベルヒロカワ、2005

参考文献

- 氏家幸子監修：成人看護学、D. リハビリテーション患者の看護第2版、廣川書店、2003
- 石鍋圭子編：リハビリテーション専門看護、医歯薬出版、2001
- 呼吸器ケア学会：呼吸リハビリテーションマニュアル、照林社、2007
- 内山真一郎監修：脳卒中の治療とケア、医学芸術社、2003
- 鈴木愉編：ナースのためのリハビリテーションレクチュア第2版、文光堂、2001
- 渡辺俊之編：リハビリテーション患者の心理とケア、医学書院、2000
- 大田仁史監修：障害受容意味論からの問い、荘道社、1998
- 藤田君枝編：整形外科退院指導マニュアル、メディカ出版、2004秋期増刊
- 石鍋圭子編：リハビリテーション看護研究1、医歯薬出版、2001
- 大村裕子：カラー写真で見てわかるストーマケアー基本手技・装具選択・合併症ケアをマスター、メディカ出版、2006
- 松原 康美、ストーマケアの実践、医歯薬出版、2007
- 石鍋圭子編：リハビリテーション看護実践テキスト、医歯薬出版、2008

オフィスアワー

随時

成人終末期援助論

担当教員

講師	金正貴美
非常勤講師	本多美枝

授業概要

人生半ばにして死にゆく病いのなかで成人患者とその家族が経験している身体的・精神的・社会心理的・霊的苦痛を理解するとともに、患者とその家族がそれらの経験に意味を見だし、心穏やかにそのときを迎えることができるような看護のあり方について考え、死にゆく成人と家族の看護の基本となる知識・技術・態度について学ぶ。

一般目標

1. 終末期にある成人患者とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的・霊的苦痛に伴うニーズを満たし、残された日々を充実して過ごすための看護援助を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
2. 死にゆく病いの経験を成人とその家族が意味づけ、終りのときをおだやかに迎えることができるよう、独自性を尊重した看護援助を学ぶ。

行動目標

1. 終末期にある成人と家族の身体的、精神心理的、社会経済的、ならびに生活への影響について説明できる。
2. 終末期にある成人とその家族の体験している苦痛、霊的苦悩、ニーズを説明できる。
3. 理論に基づいて終末期にある成人とその家族の心理的反応とケアを説明できる。
4. 終末期医療（緩和ケア・チームアプローチなど）の特徴と意義・あり方を説明できる。
5. 終末期にある成人と家族が受ける治療・検査の意義・目的と安全・安楽な援助の方法について説明できる。
6. 終末期にある成人と家族が死にゆくことの経験に意味を見いだしていくための看護者の関わり、援助のあり方について説明できる。
7. 終末期の成人と家族がQOLを維持、あるいは高めるために必要な保健医療システムや社会資源の活用の方法について説明できる。
8. 終末期にある成人の家族の援助の意義と方法について説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1	終末期にある成人と	死に至る疾患と成人と家族の反応の特徴	金正
	2	家族の理解	終末期の成人と家族の苦痛と心理的プロセス スピリチュアルケア	
	3	倫理的課題	Truth telling, 意思決定など	金正
	4	化学療法	抗がん剤の有害反応と症状マネジメント、患者教育	金正
	5	緩和治療を受ける患者の 援助	放射線療法を受ける成人の援助	金正
	6	緩和ケア	身体的苦痛と症状マネジメントと援助	本多
	7	家族への援助	悲嘆への援助 ストレスの緩和 遺族へのケア	金正
	8	試験		金正

学習方法

授業は講義形式だけではなく、グループ学習やクラス討論により進める。

評価方法

出席状況、学習態度、レポートの内容および筆記試験によって評価する。

教科書

鈴木志津枝、内布敦子：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ、2005

参考文献

氏家幸子監修：成人看護学、F 終末期にある患者の看護、廣川書店、2001

委羽倭文子他：がん看護、三輪書店、2002

柏木哲夫、藤腹明子編：系統看護学講座 10 ターミナルケア、医学書院、2005

恒藤暁：最新緩和医療学、最新医学社、2005

P.J.ラーソン/内布敦子他：Symptom Management 患者主体の症状マネジメントの概念と臨床応用、日本看護協会出版会、1988

委羽倭文子他：ホスピスケアの実際、三輪書店、2000

根岸秀子、千崎美登子編：エンドオブライフのがん緩和ケアと看取り、医歯薬出版、2008

辻井博彦：がん放射線治療とケア・マニュアル、医学芸術社、2003

福島雅典他：がん患者の心身をサポートする「化学療法」のケア、医学芸術社、2002

馬場直子、木村茂樹：がん化学療法の理解とケア、学研、2005

岡崎寿美子編：痛みのケア、医歯薬出版、2002

オフィスアワー

月曜日 16:10 ~ 17:00

06 老年看護学

老年看護学概論

担当教員

教授 大森 美津子
助教 西村 美穂

授業概要

老年看護の目的は、老年期にあるその人の生命・生活の質が、その人をとりまく環境や条件の中で最大に保たれるように援助することである。老年看護の対象は、人生の最終段階にある人で、これまでの生活背景や社会・文化的背景などから身体的、心理・社会的変化の個人差が大きい。老年看護を学ぶためには、高齢者の特徴を捉えるとともに、その高齢者が生活している高齢社会の現実にも目を向ける必要がある。その上で、老年看護の理念や目標などについて学び、高齢者を支える行政の医療福祉政策の現状や変化についても学ぶ。また学生は、老化による身体的、心理・社会的機能や能力の低下した高齢者に、内部・外部環境の変化に伴って発生する健康上の問題や生活機能障害について学び、個人差の大きい高齢者に対する援助のありかたを理解する。さらに、高齢者やその家族を看護するモデルについて学ぶ。

一般目標

1. 高齢者の特徴について理解する。
2. 高齢社会や高齢社会における高齢者の生活の実態を理解する。
3. 高齢社会における保健・医療・福祉の課題を理解する。
4. 老年看護の理念・目標・役割を理解する。
5. 健康・生活機能障害のある高齢者と家族の特徴を理解し、援助の方向性を考察する。
6. 高齢者と家族を看護するモデルを理解する。

行動目標

1. 老いのとらえ方と加齢による影響について説明できる。
2. 老年期の各発達段階における特徴を説明できる。
3. 高齢者の体験や生活の実態について説明できる。
4. 高齢者の疾病をめぐる特徴について説明できる。
5. 高齢者に対する高齢社会の影響を説明できる。
6. 高齢者医療の動向について説明できる。
7. 高齢社会における保健福祉サービスの概要について説明できる。
8. 老年看護の理念・目標について説明できる。
9. 高齢者の家族の機能と抱える問題について説明できる。
10. 高齢者と家族を看護するモデルについて説明できる。

授業内容

2年次 前期・必修 2単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
授業ガイダンス	1	授業ガイダンス	学習の目的・目標など	大森・西村
総論	2	老年期とは	老いのとらえ方と各発達段階における特徴	大森
対象理解	3	加齢に伴う変化	高齢者の加齢に伴うからだと社会面での変化	大森
	4	加齢に伴う変化	高齢者のこころとスピリチュアルな面での有り様	大森
老年保健	5	高齢者の健康	健康増進のためのセルフケアー栄養・運動・休息ー	大森
	6	高齢者擬似体験	加齢に伴う身体の変化の体験	大森・西村
	7	高齢者擬似体験	加齢に伴う身体の変化の体験	大森・西村
	8	高齢者の家族	高齢者の家族の特徴	大森
	9	高齢社会と保健・医療・福祉の現状と課題	高齢社会とは 高齢者医療の動向	大森
	10	保健・医療・福祉の現状と課題	高齢社会における保健・医療・福祉の課題	大森・西村
	11	保健・医療・福祉の現状と課題	保健福祉サービス	大森・西村
	12	老年看護の理念	老年看護の理念・目標 老年看護の場と看護の役割	大森
看護モデル	13	リビングモデル	ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル	大森・西村
	14	看護モデル	ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル	大森・西村
	15	まとめ		大森・西村

学習方法

講義、小テスト、自己学習、グループ学習、レポート（高齢者のインタビュー）

評価方法

試験、レポート、出席状況、学習態度により評価する。

教科書及び参考文献

- 堀内ふき 大淵律子 金子昌子編集:老年看護学 高齢者の健康と障害、メディカ出版、2008
- ナンシーローパー他著、久間圭子訳:ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル、日本看護協会出版会、2006
- カレンホルルド他著、川島みどり監訳:ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開、エルゼビア・ジャパン、2006
- 山崎智子監修:明解看護学双書6 老人看護学、金芳堂、2004
- 国民衛生の動向・厚生指標、厚生統計協会、2008

オフィスアワー

前期・月曜日 17時00分～18時00分

老年疾病論

担当教員

教授 峠 哲男

兼任教員 笥 善行 森 望 廣岡一行 石川真也 他

授業概要

世界に類を見ない速さで、超高齢社会を迎えつつある21世紀のわが国の医療にとって、高齢者の看護と介護は最も重要なテーマのひとつである。高齢化の進行にともない寝たきり老人と認知症高齢者の占める割合も高くなるなかで、高齢者の社会参加と生きがいという生活の質の向上を目標とするとき、看護の果たす役割は極めて重要であり、看護の実践と教育の場において、老年看護学が独立した領域として存在することは当然のことである。

ニュートンによる老年看護の最初の定義（1950）では、「老年病学とは、高齢者における病的状態の治療とケアを扱う医学ならびに看護学の一分野である。これは健康の促進と疾病の予防も含まれる」と述べている。医学や看護の臨床の現場では単に疾病の治療やケアのみならず、日常生活動作や“生活の質”の向上を視野に入れた包括的な医療が要求されている。さらに老年看護と密接に関連する問題として認知症や老年精神病理学、老年社会学、生と死の問題などが挙げられる。このように老年看護学は、概念的にはかなり広範な内容を包含しているといえる。

本講義では臨床老年看護学を学ぶ出発点として、高齢者の疾病について理解を深め、現在行われている治療や患者の辿る経過などを知り、看護へとつなげる学習が行えるようにする。

一般目標

老年看護において看護が本来の目的を果たすためには、老年学の立場に立った加齢に伴う身体の変化をはじめ、高齢者特有の病態や症状を理解し、高齢者に特徴的な疾患に関する知識を習得し、高齢者に起こりうる身体的変化の異常に関して知識を深める。また、高齢者の治療を行う場合の注意点や起こりやすい副作用、合併症についても学習する。

行動目標

1. 加齢に伴う身体の変化（老化）や健康問題についての知識を習得する。
2. 記憶・認知機能障害、転倒、失禁など高齢者に特有な病態や、症状が非定型的であることなど老年病の特徴について説明できる。
3. 高齢者が罹患しやすい代表的な疾病について、疫学・病理・症候・診断・治療・経過が理解できる。
4. 高齢者の治療を行う場合の起こりやすい副作用、合併症について述べることができる。
5. 老化と老年病について社会学的に述べることができる。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	老化と老年病 (1)	老化の定義、加齢の過程	峠
	2	老化と老年病 (2)	老化による身体的変化	峠
	3	老化と老年病 (3)	高齢者の特性	峠
	4	老化と老年病 (4)	老年病の特性、特徴	峠
	5	老化と老年病 (5)	老年病の疫学	峠
	6	老化と老年病 (6)	診断上の問題	峠
	7	老化と老年病 (7)	治療上の問題・薬物投与法	峠
	8	老年外科	外科療法の適応、手術成績、術後の問題点	石川
	9	老年社会学	高齢者の機能評価とQOL	峠
各論	10	認知症	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	峠
	11	前立腺肥大・前立腺癌	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	笥
	12	歯周病・う歯・口内炎	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	未定
	13	老人性難聴	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	森
	14	白内障	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	廣岡
	15	パーキンソン病	疫学・病理・症候・診断・治療・経過	峠

学習方法

学習目標を達成するためには講義内容を予習・復習を通じて確実に把握し、単なる記憶としてではなく、論理的に裏付けされた知識として習得されねばならない。疾病に対する基本的な考え方を理解し、これらの基礎的な知識を踏まえて看護の臨床の場に応用していく柔軟さと感性を養うことが重要である。

評価方法

2年次前期末、講義終了時に筆記試験を行う。講義の出欠の状態も評価の対象とする。

教科書及び参考文献

系統看護学講座 専門21 老年看護病態・疾病論、医学書院、2003

奈良信雄:ナースの内科学 第6版、中外医学社、2004

磯野可一:ナースの外科学 第4版、中外医学社、2005

萩原俊男:ベッドサイドの老年診断学 第1版、南山堂、1994

村上元庸:老年学大事典、西村書店、1998

高木永子:New 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント、学習研究社、2005

老 年 援 助 論

担当教員

教 授 大 森 美 津 子
助 教 西 村 美 穂

授業概要

老年看護は老化による部分的変化と全体的変化が密接に絡まって、罹患している病気とともに高齢者の健康に様々な影響を与えていることを理解して進める必要がある。さらに日々の身体面・社会面での喪失を経験しつつ、死を意識しながら生活し、精神的な発達の可能性を秘めている。

学生は老年看護の原則について学び、高齢者の特徴を踏まえて、老化を伴う健康障害や生活障害のある高齢者とその家族への援助について学ぶ。高齢者が、施設において検査や治療を受けたり、入院や退院に適応できる援助について学ぶ。高齢者の尊厳を保ちつつ、虐待防止や高齢者の権利擁護など倫理面に配慮し、精神的な発達を促せる高齢者の援助について学ぶ。

一般目標

1. 高齢者が、自立した快適な生活を送るための援助の方法および治療を受ける高齢者の看護を習得する。
2. 高齢者がその人生を全うできるような高齢者ケアについて理解する。

行動目標

1. 看護の原則について説明できる。
2. 高齢者の日常生活の援助技術について加齢と関係づけて説明できる。
3. 高齢者の安全で自立を高める環境を維持する方法について説明できる。
4. 高齢者のコミュニケーションに関する援助について説明できる。
5. 高齢者の食べることや飲むことへの援助について説明できる。
6. 高齢者の排泄することへの援助について説明できる。
7. 高齢者の身体を清潔にし、身支度を調える援助方法について説明できる。
8. 高齢者の動くことへの援助について説明できる。
9. 高齢者の仕事をして遊ぶことやセクシュアリティへの援助について説明できる。
10. 高齢者の家族への援助の方法について説明できる。
11. 入院して検査や薬物療法を受けている高齢者の看護の要点を説明できる。
12. 入院時や退院時の高齢者の看護の要点を説明できる。
13. パーキンソン病患者の援助について説明できる。
14. 認知症高齢者や家族のケアについて説明できる。
15. 高齢者の権利擁護について説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ガイダンス	1	老年看護の原則	学習目的、目標、方法、評価など 看護の目標・原則	大 森
援助技術	2	老年看護の基本的な看護技術	1. 安全で自立を高める環境	大 森
	3	老年看護の基本的な看護技術	2. コミュニケーション	大森・西村
	4	老年看護の基本的な看護技術	3. 食べることや飲むこと 4. 嚥下困難のある高齢者の援助	大森・西村
	5	老年看護の基本的な看護技術	5. 排泄すること 6. 尿失禁のある高齢者の援助	大 森
	6	老年看護の基本的な看護技術	7. 清潔と身支度を調える 8. 口腔ケア	大 森 西 村
	7	老年看護の基本的な看護技術	9. 動くこと 10. 転倒予防	大 森
	8	老年看護の基本的な看護技術	11. 仕事をして遊ぶ 12. 家族への援助	大 森
	老人臨床看護	9	老年臨床看護の展開	1. 入院している高齢者の看護（検査、薬物療法、手術を受ける高齢者）
10		老年臨床看護の展開	2. 入院している高齢者の看護（入院時の適応支援）	大 森
11		老年臨床看護の展開	3. 入院している高齢者の看護（退院支援）	大森・西村
老年看護と倫理	12	老年臨床看護の展開	4. 認知症高齢者の看護、バリデーション	大森・西村
	13	高齢者の権利擁護	1. 高齢者対応の理念 2. 高齢者虐待 3. 成年後見人制度	大 森
援助技術演習	14	生活の援助	1. 嚥下困難のある高齢者の食事の援助 2. 口腔ケア	大森・西村
	15		試 験	大森・西村

学習方法

講義、グループワーク、クラス討論などにより進める。

評価方法

試験、レポート、出席状況、学習態度により評価する。

教科書及び参考文献

1. 大淵律子 堀内ふき 金子昌子編集:老年看護学 老年看護の実践、メディカ出版、2008
 2. カレン・ホルランド他著、川島みどり監訳:ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動モデルの展開、エルゼビア・ジャパン、2006
 3. ナオミ・フェイル著、藤沢嘉勝監訳:バリデーション、筒井書房、2006
 4. 奥野茂代 大西和子編集:老年看護技術、廣川書店、2004
 5. 中島紀恵子編集:老年看護学、医学書院、2001
 6. 沼本教子 水谷信子他編:老年看護学、建帛社、2001
 7. 大森美津子 田村恵子編:成人看護学ー終末期、建帛社、2002
- その他授業内容に応じて適宜参考書を提示する。

オフィスアワー

後期・木曜日 17時00分～18時00分

07 小児看護学

小児看護学概論

担当教員

教 授 祖 父 江 育 子

授業概要

小児看護の目的は、小児とその家族の幸福と健康を実現できるよう援助することである。小児看護を広汎な視野で理解できるよう、授業内容は地球環境や人類の歴史を包括的に組み込み学際的に構成している。またライフサイクルを通じた健康の実現を理解するために、小児の成長・発達を遺伝素因と環境要因の交絡影響を含めて教授し、各発達段階において心身ともに健やかに発達するための成育看護について学びを深める。

一般目標

1. 小児看護の特質、理念と目標、役割について学際的に学習する。
2. 小児期の成長・発達やライフサイクルにおける遺伝素因や環境要因の影響について学習し、健康実現に関する包括的な取り組みの重要性について考究する。
3. 小児の形態の成長や、生理的、心理・社会的発達過程について学習する。
4. 小児への健康教育・ヘルスプロモーションの概念と施策について学ぶ。
5. 子どもの権利条約の成立背景、子どもの権利条約が小児の健全育成に果たす役割について学習し、小児の最善の利益にかなう医療・看護について考究する。

行動目標

1. 小児看護の特質、理念と目標、役割について説明できる。
2. 小児期の成長・発達の特徴とその過程を説明できる。
3. 小児期の成長・発達の評価方法を説明できる。
5. 小児への健康教育・ヘルスプロモーションについて説明できる。
6. 小児の権利とその擁護について説明できる。
7. 小児の発達段階における遊びの種類と意味について説明できる。
8. 小児の愛着形成過程を母子相互作用の観点から説明できる。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
小児の健康	1	小児の権利と健康	生態学的健康と子どもの権利条約	祖父江
小児看護	2	小児看護の特徴	小児看護・小児保健の特徴:少子化とヘルスプロモーション	祖父江
小児の成長	3	形態の成長と影響因子	最適期、遺伝素因と環境要因、成熟と学習	祖父江
小児の発達 I	4	生理機能の発達	呼吸循環系、血液系、免疫系、脳神経系の発達	祖父江
小児の発達 II	5	運動機能、認知機能の発達	運動機能、言語機能、認知発達	祖父江
遊び	6	小児の遊びの特徴と意味	小児の発達と遊び、小児の遊びの意味	祖父江
愛着	7	愛着理論	小児の愛着、カンガルーケア	祖父江
統 合	8	課題学習とまとめ	試験	祖父江

学習方法

講義及び課題学習

評価方法

出席状況、授業態度、レポート、課題学習、筆記試験等による総合評価による。

教科書及び参考文献

教科書

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護学概論、南江堂

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護技術、南江堂

その他資料（適宜配布、紹介する）

参考書

石黒綾子、浅野みどり編集：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図、医学書院

竹村節子、横井和美監修：実習アセスメント実践ノート、医学芸術社

オフィスアワー

随 時

小 児 疾 病 論

担当教員

教 授 伊 藤 進
准 教 授 磯 部 健 一
講 師 今 井 正 日 下 隆
助 教 西 田 智 子 小 西 行 彦 岩 瀬 孝 志 大 久 保 賢 介
安 田 真 之

授業概要

小児科学は、胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を扱う。病気に罹患した小児だけを対象にするのではなく、疾病予防等により国の将来を担う心身ともに健全な成人を育成することを目的としている。

近年、社会環境の変化、とくに出生率低下や少子化など小児を取り巻く社会構造・環境の変化に伴い小児疾病構造にも大きな変化が現れている。特に母乳保育を軸とする母子相互作用の意義を理解する必要がある。

また、小児期には、各臓器や精神の成長・発達の時期に一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化をもたらす **critical period**（臨界期）があり、小児の疾病を取り扱う時の基本となっている。成長とは細胞の増殖を発達機能の分化をいい、あわせて発育という。このため、おのおのの時期の生理的、心理的等の発育を理解したうえで、疾病に罹患した小児に接することが重要である。小児疾患と接する際には、小児のおかれている環境をよく理解して、将来の発育にどのような影響をおよぼすかについても考えなければならない。さらに、疾患の予防方法の有無などについても知ることが重要である。

講義においては、出生前小児科学を初めとして発達的变化を時間軸として、感染症、神経、腎、内分泌、呼吸器、循環器、血液腫瘍、免疫アレルギー、消化器疾患などの病態生理、臨床症状、治療を中心に小児疾病を解説する。

一般目標

- 1) 胎生期より新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の各時期の正常の成長、発達および生理を理解する。
- 2) 母子相互作用、予防小児科（事故、成人病、心身症）、予防接種、乳児健診、学校保健などの社会小児科学を理解する。
- 3) 小児に比較的良好に見られる疾病の病態生理、臨床症状、治療を理解する。

行動目標

1. 新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の各時期の特徴を述べる。
2. 発熱やけいれんなど小児によく見られる症状の介助や処置の方法を述べる。
3. 小児に比較的良好に見られる疾病の臨床症状を列挙する。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位（8時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
小児疾病論	1	総論	育児学の原点、神経系疾患・小児神経症	伊藤・小西
	2	各論	社会小児科学、出生前小児科学・先天性代謝異常、新生児疾患	安田
	3	各論	成長・発達および生理、栄養および栄養障害代謝性疾患、内分泌疾患	岩瀬
	4	各論	呼吸器疾患、消化器疾患	安田
	5	各論	生体防御総論（免疫・アレルギー）、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、感染症	岩瀬
	6	各論	循環器疾患、小児保健、予防医学、母子手帳	安田
	7	各論	血液および造血器疾患、腫瘍、腎・泌尿器疾患	岩瀬
	8	試験		

学習方法

講義時間が限られているため、講義への参加は必須で、関連した事項を教科書や図書館などを利用して復習や自己学習を行うことが重要である。

評価方法

学期末（一般目標・行動目標及び発育について再確認すること）に試験を行う。
場合により、レポートの評価を行う。

教科書及び参考文献

原寿郎 編：看護のための最新医学講座 14 新生児・小児疾患、第2版、中山書店
豊原清臣也 編：開業医の外来小児科学、第5版、南江堂
小川雄之亮 他編：新生児学、メディカ出版
福島雅典 総監修：メルクマニュアル医学情報〔家庭版〕、日経BP社
衛藤義勝 監修：ネルソン小児科学、原著第17版、エルゼビア・ジャパン

主要研究テーマ

新生児学
・ビリルビン代謝の研究
・新生児脳のエネルギー代謝および脳循環の研究
発達薬理学

小児保健対象論

担当教員

教 授 祖 父 江 育 子

准 教 授 谷 本 公 重

授業概要

小児保健対象論では、小児の成長発達や家族のライフステージに基づいた健康な小児や家族の生活について理解する。小児と家族のアセスメント法や、小児看護の基礎的知識と援助法、各小児期の特徴的な健康障害と看護方法について教授し、小児保健や小児看護に関する理解を深める。なお、常にその根底に看護職者としての倫理の原則について意識して学習する事が求められる

一般目標

1. 小児の基本的な生活習慣の獲得過程を成長・発達過程との関連で把握し、その援助法（躰）を学習する。
2. 小児の成長・発達に基づいたフィジカル・アセスメントについて学習する。
3. 小児疾患の主要症状を小児の形態や機能から把握できる。
4. 小児看護の基本技術について学習する。
5. 小児とその家族に対する安全・安楽・安心なケアの実施方法を学習する。

行動目標

1. 小児の基本的な生活習慣と援助法（躰）を発達段階との関連で説明でき、事故予防や安全への配慮について説明できる。
2. 小児の成長・発達に基づいたフィジカル・アセスメント内容について説明できる。
3. 小児疾患の主要症状や小児看護の基本技術について説明できる。
4. 小児が受ける基本的な看護技術の安全・安楽のポイントを説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
基本的な生活習慣Ⅰ	1	基本的な生活習慣の獲得過程	基本的な生活習慣獲得(躰)の基本、トイレトレーニング	祖父江
基本的な生活習慣Ⅱ	2	基本的な生活習慣の獲得過程	睡眠、離乳、清潔(入浴、歯磨き)、衣服の着脱	祖父江
フィジカル・アセスメントⅠ	3	小児のフィジカル・アセスメント	バイタルサイン、身体計測等	谷本
フィジカル・アセスメントⅡ	4	水・電解質バランス等	水・電解質バランスの成長に伴う変化等	谷本
症状と看護Ⅰ	5	体温調節の変調	体温調節の変調:発熱	谷本
症状と看護Ⅱ	6	呼吸の変調	呼吸の変調:咳、異常呼吸等	谷本
症状と看護Ⅲ	7	循環器の変調	循環器の変調:不整脈、チアノーゼ等	谷本
症状と看護Ⅳ	8	水・電解質バランスの変調	水・電解質バランスの変調:嘔吐・下痢・脱水・浮腫等	谷本
症状と看護Ⅴ	9	意識の変調	意識の変調:けいれん、意識障害等	谷本
症状と看護Ⅵ	10	その他の変調	便秘、発疹等	谷本
看護技術Ⅰ	11	小児の看護技術	活動制限(安静、固定)、褥瘡法、検体の採取	谷本
看護技術Ⅱ	12	小児の看護技術	薬物療養	谷本
看護技術Ⅲ	13	小児の看護技術	酸素吸入、喀痰喀出法	谷本
看護技術Ⅳ	14	小児の救急看護	心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ等)	谷本
統 合	15	課題学習とまとめ	試 験	祖父江 谷本

学習方法

講義及び課題学習

評価方法

出席状況、授業態度、レポート、課題学習、筆記試験等による総合評価による。

教科書及び参考文献

教科書

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護学概論、南江堂

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護技術、南江堂

その他資料（適宜配布、紹介する）

参考書

石黒綾子、浅野みどり編集：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図、医学書院

竹村節子、横井和美監修：実習アセスメント実践ノート、医学芸術社

オフィスアワー

随 時

小 児 援 助 論

担当教員

教 授 祖 父 江 育 子

准 教 授 谷 本 公 重

授業概要

この科目では小児の健康障害をもたらす代表的な病気の概要とそのような病気をもつ小児および家族への看護を学ぶ。また小児とその家族の QOL を高め苦痛を緩和する看護について、小児の死に対する看護なども含め最新の知見を総覧する。本授業では看護職者としての倫理原則を意識して学習する事が求められる。

一般目標

1. 主要疾患に罹患した小児の特徴や、小児とその家族への看護ケアについて、発達段階を踏まえて学習する。
2. 未熟児の特徴と予後の問題について小児虐待を含めて理解し、未熟児看護の課題や地域連携の重要性について学習する。
3. 検査・手術を受ける小児とその家族の看護、痛みの発生機序と最新の緩和ケアについて学び、プレパレーションや緩和ケアの重要性を理解する。
4. 慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題の達成やセルフケア能力、QOL を高める援助法を学習し、家族看護について理解する。
5. 小児とその家族の入院による反応や対処規制、危機理論について理解を深め、看護について学習する。
6. 発達段階に基づく小児の死の理解、ターミナル期の小児や家族の反応について理解を深め、ターミナル期の看護やグリーフケアについて学習する。

行動目標

1. 疾患や障害をもつ小児の看護について、疾患別の重要点を説明できる。
2. 未熟児の一般的な症状と看護について説明でき、小児の成長・発達や虐待の観点から定期的フォローや地域連携の重要性について意見を述べられる。
3. 疼痛の発生機序に基づいて、緩和ケアやプレパレーションの重要性を説明できる。
4. 検査・手術を受ける小児とその家族の反応について説明できる。
5. 慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題やQOL、セルフケアの重要性について説明できる。
6. 入院による小児やその家族の反応や対処規制、入院が小児とその家族の生活に及ぼす影響について説明でき、保健・医療、教育、福祉等の連携について意見を述べられる。
7. 小児がもつ死の概念の発達の变化を説明できる。
8. グリーフワーク、グリーフケアについて説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
健康障害を持つ小児の看護	1	呼吸器系疾患をもつ小児の看護	呼吸器系疾患をもつ小児の特徴、看護ケア	谷本
	2	循環器系疾患をもつ小児の看護	循環器系疾患をもつ小児の特徴、看護ケア	谷本
	3	消化・吸収器系疾患をもつ小児の看護	消化・吸収器系疾患をもつ小児の特徴、看護ケア	谷本
	4	造血器系疾患・悪性疾患をもつ小児の看護	造血器系疾患・悪性疾患をもつ小児の特徴、看護ケア	谷本
	5	運動・神経系疾患・感覚器系疾患をもつ小児の看護	運動・神経系疾患・感覚器系疾患をもつ小児の特徴、看護ケア	谷本
	6	免疫・アレルギー系疾患をもつ小児の看護	免疫・アレルギー系疾患をもつ小児の特徴、看護ケア	谷本
	7	代謝・内分泌疾患をもつ小児の看護	代謝・内分泌疾患をもつ小児の特徴、看護ケア	谷本
	8	腎・泌尿器系疾患をもつ小児の看護	腎・泌尿器系疾患をもつ小児の特徴、看護ケア	谷本
	9	救急を要する小児の症状や事故	誤嚥、窒息、骨折等の救急看護	谷本
未熟児の看護	10	未熟児の特徴と看護	未熟児の特徴、看護、地域連携	谷本
検査・処置・手術を受ける小児の看護	11	疼痛への緩和ケア プレパレーション	疼痛の機序、発達段階による疼痛のアセスメント、緩和ケア	祖父江
療養生活への援助Ⅰ	12	慢性疾患をもつ小児とその家族	小児特定慢性疾患、親の心理過程、家族看護、地域看護	祖父江
療養生活への援助Ⅱ	13	入院生活への適応の援助	小児の反応と対処、親の反応と対処、看護ケア	祖父江
死にゆく小児とその家族への看護	14	ターミナル期の小児とその家族への看護	発達段階における死の概念、ターミナル期の小児とその家族、グリーフワークとグリーフケア	祖父江
統 合	15	課題学習とまとめ	試験	祖父江 谷本

学習方法

講義及び課題学習

評価方法

出席状況、授業態度、レポート、課題学習、筆記試験等による総合評価による。

教科書及び参考文献

教科書

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護学概論、南江堂

二宮啓子、今野美紀編集：小児看護技術、南江堂

その他資料（適宜配布、紹介する）

参考書

石黒綾子、浅野みどり編集：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図、医学書院

竹村節子、横井和美監修：実習アセスメント実践ノート、医学芸術社

オフィスアワー

随時

08 母性看護学

母性看護学概論

担当教員

教 授 内 藤 直 子
非常勤講師 末 原 紀美代 兵庫医療大学教授

授業概要

本科目の目的は、学生が、将来看護職やその他の健康関連職として活躍することを目指して、母性看護を実践するための基礎知識を得たり、母性看護学の位置づけや展望を概観でき、倫理的に、女性のメンタルヘルスケアに貢献できる母性看護観が培えることである。

母性看護の対象は、リプロダクティブヘルスの視座に依拠して、狭義では妊娠・分娩・産褥期をいうが、広義には女性の一生期間を通して子を生み育てる機能に関する健康問題全般を言う。

学生は、女性のライフサイクルは、生殖機能に関する大きな心身の変化を生じるが、この間を安全安楽に、かつ、子育ての準備を十分に整えて、セルフケアできるよう、各期に適した保健指導や異常の早期発見と看護介入が実施できるまで知識を統合できる。

一般目標

学生は、人間のライフサイクルの中で生殖に関与する期間のうち、妊娠・分娩・産褥・新生児各期を中心に、その基礎と健康問題のアセスメントおよび看護の計画・実施・評価について、wellness型思考で、看護実践できるために、方法論を習得する。

また、男子学生も、女子学生もジェンダーフリーの視点から、性科学と性哲学を学び自己の性ホルモンの変化について理解し、適切な行動ができる基礎知識が学べる。

行動目標

1. 自らのリプロダクティブヘルスでの健康問題に対応する女性の行動や適応を理解するための基礎的知識を応用する。
2. 学生は、ジェンダーフリーの視点から、性科学と性哲学を学び自己の性ホルモンの変化について理解し、適切な行動ができる基礎知識が学べる。
3. 健康上の問題をもつ女性を看護するために必要なフィジカル面やメンタル面の基礎的な知識を述べる。
4. 看護上の判断に基づいて、看護を計画し、介入し、評価する思考過程に寄与する。
5. 母性保健、思春期の保健、不妊症、家族計画、障害児ケア、地域母子保健サービス、母子保健の国際化、母子衛生統計などを調べる。

授業内容

1年次 後期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	母性概念 リプロダクティブ・ヘルス	1. リプロダクティブ・ヘルス/バースライツ 2. 母性の発達課題と倫理 3. 母性とアンドロジニーとジェンダー	内藤
各論	2	性周期と生殖機能のメカニズム	1. 性周期とホルモン動態 2. 家族計画と基礎体温測定 3. 人工妊娠中絶	内藤
	3	母性看護に関連する生命倫理の今日的課題	1. 歴史的な生命倫理観の変遷 2. 現行法の生殖医療と生命倫理 3. 生殖機能不妊と受胎	内藤
	4	母子と子どもを支える体制・文化	1. 男女共同参加社会と女性のライフスタイル 2. 地域母子保健の公的資源 3. 女性の健康と文化 4. 国際化時代の多様なお産文化	内藤
	5	女性のライフサイクルにおける看護母性の自己決定能力	課題によるグループ討議 1. 思春期にある女性と家族の看護 2. 更年期にある女性と家族の看護 3. 女性のメンタルヘルスケアと母性看護 4. 地域の子育て支援	内藤
	6	今日的なトピックス	1. 働く女性の健康と職場での母性保護 2. 飲酒・タバコと女性の健康 3. 妊娠・出産と薬剤 4. 母乳育児	末原
	7	周産期看護の課題学習	1. 性行動の自己決定能力と限界や今後の課題 2. 女性の健康問題 3. 在日外国人のケア 4. 課題レポート作成・まとめ	内藤
	8	評価	1. 課題レポート提出・評価	内藤

学習方法

1. 一斉講義・グループ討議・レポート等で学習を展開する。
2. 適時、資料やビデオ教材を活用する。

評価方法

1. 学習への意欲と問題意識
2. レポートの提出状況
3. その他を総合して評価

教科書及び参考文献

テキスト必携

村本淳子、高橋真理:ウイメンズヘルスナーシング概論、ヌーヴィルヒロカワ、2007

参考図書

1. 末原紀美代:正常産のケア指針、メディカ出版、2002
2. 日本DV防止・情報センター:ドメスティック・バイオレンスへの視点、朱鷺書房、2001
3. 我妻・早乙女他訳:避妊ガイドブックー避妊の医療と相談援助・性教育のために、文光堂、2003
4. 北村邦夫:リプロダクティブ・ヘルス/ライツー性と生殖に関する健康と権利ー、メディカ出版、1998
5. 「助産学講座」地域母子保健[7]、医学書院、2006

オフィスアワー

講義日の16:10～17:10までに、教員研究室までお越しください。

母性疾病論

担当教員

教授	秦	利之
教授	内藤	直子
准教授	柳原	敏宏
講師	田中	宏和
講師	山城	千珠

授業概要

母性の医学とは、広義に解釈すれば女性の医学といいかえることもできる。女性はその life cycle のなかで、胎生期における性の分化にはじまり、幼年期における母性の芽生え、思春期における女性としての心とからだの発育・発達、性成熟期における性と生殖および家族のケア、そして更年期・老年期にかけて加齢と老化など、内分泌的变化を基盤として、心とからだの様々な変化に遭遇する。その間、遺伝的要因や環境、家族や社会との関連で、女性特有の様々な疾患を生じうる。これら女性特有の疾患を母性の視点から、その背景・病態を理解することにより、将来、適切な助言や援助が行えるような授業を実施する。

一般目標

1. 女性の life cycle の各期に遭遇する疾患とその背景を理解する。
2. 母性の発育・発達の異常を理解する。
3. 母性の疾患に対し、適切な助言や援助ができる。
4. 新しい生命をはぐくむ母性の問題を通じて、生命倫理の問題に積極的に発言できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1		1. 周産期医学概論	柳原
	2		2. 女性の性機能(性分化、排卵、受精、着床)	
	2		1. 異常妊娠1(悪阻、妊娠中毒症、合併症妊娠、多胎、卵膜異常)	山城
	2		2. 異常妊娠2(胎盤異常、臍帯異常、子宮外妊娠、流早産、過期妊娠、感染症、薬物使用など)	
	3		1. 異常分娩1(産道異常、娩出力異常、分娩障害)	田中
	3		2. 異常分娩2(付属物異常、分娩損傷、異常出血、産科手術)	
	4		1. 異常産褥・更年期障害	田中
	4		2. その他の疾患	
	5		女性のメンタルヘルスケア	内藤
	5		1. 妊娠期女性	
	5		2. 分娩期女性	
	5		3. 産褥期女性	
	5		4. 育成期女性	
	5		5. 更年期女性	
	6		1. 月経異常・不妊症	柳原
	6		2. 遺伝相談と出生前診断	
	7		その他	山城
	8		試験	柳原

学習方法

授業は講義で行うが、チーム学習(6人組)もとり入れる予定である。

評価方法

1. 発問に対する応答性 2. レポートの内容 3. 出席状況 4. 学習態度 5. 筆記試験

教科書及び参考文献

必携図書

1. 森 恵美他：母性看護学各論、系統看護学講座専門25、医学書院、2004.

参考文献

1. 看護のための最新医学講座第15巻 産科疾患
2. 看護のための最新医学講座第16巻 婦人科疾患

09 精神看護学

精神看護学概論

担当教員

准教授 越智百枝

助教 栗原琴乃

授業概要

人々の精神の健康の保持・増進や疾病の予防をはかること、また精神に障害を持つ人々への看護を考えていくために、基本的な知識や考え方を学習する。またライフサイクルや人々の成長・発達の各期における精神看護の対象の特徴を知り、対象を理解する上での基本的知識を身につける。

一般目標

- 1 心の発達や心の健康を守るしくみを理解し、精神の健康の保持、増進や疾病の予防を図るための看護の基本的知識を理解する。
- 2 精神科医療や法律の変遷を知り、精神障害者の人権や社会参加の考え方を理解する。
- 3 ライフサイクルや人々の成長・発達の各期における代表的な精神の健康問題を持つ対象について理解を深め、援助の視点を見いだす。
- 4 家族成員に精神障害者を持つ家族についての理解を深め、援助の視点を見いだす。
- 5 援助者としての看護師のメンタルヘルスの重要性について理解を深める。
- 6 精神科領域で起こりやすい倫理的な場面の検討を行うための基本的知識を理解する。

行動目標

- 1 精神看護の目的や意義を説明できる。
- 2 心の発達や心の健康を守るしくみを説明できる。
- 3 対象を理解するための理論を説明することができる。
- 4 精神科医療や法律の変遷、社会の動向、文化的背景を述べることができる。
- 5 統合失調症やアルコール依存症、摂食障害の原因・経過・治療・予後を知り、患者や家族の体験する世界をイメージでき、看護を行う上での援助の視点を述べることができる。
- 6 看護師のバーンアウトについて述べることができる。
- 7 看護実践を行う上で起こりやすい倫理的場面について討議することができる。

授業内容

2年次 前期・必修 2単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者			
精神看護の目的や意義	1	精神看護の機能と役割	1 精神看護の目的 2 精神看護学とカリキュラムの変遷 3 精神看護の機能と役割	越 智			
精神の健康と対象の特徴	2	精神の健康の考え方 対象を理解するための理論	1 こころのしくみと構造 2 こころの成長と発達 3 精神分析モデル	越 智			
精神障害者への考え方	3	精神科医療と法律の変遷	1 精神科医療のあゆみ 2 社会的背景と法律の変遷 3 精神障害者の権利と社会参加	越 智			
成長発達と精神の健康問題	4	思春期・青年期	摂食障害・境界型人格障害	非常勤			
	5						
	6				成人期	アルコール依存症の当事者及び家族の体験	越 智
	7				アルコール依存症者への援助の視点	(授業協力者)	
精神障害者の理解	8	精神障害者の体験	1 統合失調症の病気や障害の特徴 2 病気や障害への思い 3 生活者としての精神障害者 4 日常生活・社会生活の援助の視点	越 智			
	9						
	10						
精神障害者の家族の理解	11	精神障害者の家族の体験	1 精神障害者の家族 2 病気や障害に対する思い 3 病気の受容のプロセス 4 家族への援助の視点	越 智			
	12						
看護師のメンタルヘルス	13		バーンアウト(燃え尽き症候群)	越 智			
	14		精神科領域で起こりやすい倫理的場面の検討	越 智			
	15		試験	栗 原			

学習方法

講義・演習及び自己学習などを組み合わせて行う。

評価方法

講義終了後に筆記試験を行う。精神障害者の体験手記を読み、レポートを提出する。授業への参加態度、出席状況なども重視する。

教科書及び参考文献

- 1) 山崎智子監修：明解看護学双書3 精神看護学 金芳堂
- 2) 野嶋 佐由美・南 裕子監修：ナースによる心のケアハンドブッカー現象の理解と介入方法―
- 3) 松田正己他：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院

参考図書は適宜紹介する。

オフィスアワー

木曜日 17:00 ~ 18:00

精神疾病論

担当教員

教授	中村 祐	助教	熊 宏美	助教	篠原 朝美
准教授	新野 秀人	助教	今井 秀記		
助教	西山 志歩	助教	池田 操		
助教	安藤 延男	助教	横井 正		

授業概要

精神障害者に対する医療・看護に際しては、“疾病を抱えた人間”と、“疾病そのもの”の両面を総合的に理解することが重要である。精神科看護においては、精神看護概念の理解、心の発達と心の健康、精神疾患についての理解、精神障害者とその家族への援助とその技術の習得、精神障害者の社会復帰についての仕組みと地域精神福祉保健についての理解などが必要とされる。本科目では、精神疾患についての知識の習得を主たる目標とする。

授業構成は序論、診断学、症候学の総論から始まる。続いて代表的精神疾患である統合失調症、気分障害についての講義を行う。さらに物質依存、認知症などの器質性疾患、てんかん、神経症、心身症などの疾患について講義する。また、近年重要な問題になっている児童青年期、老年期領域の諸問題、リゾエゾン精神医学について述べ、最後に精神科治療学について述べる。

一般目標

1. 適切な精神科看護の実践を行うために、精神科疾患についての知識を習得する。
2. 精神障害者およびその家族の援助を行うために、精神障害者への理解を深め、人権尊重の態度を身につけ、地域精神保健福祉の仕組みを理解する。

行動目標

1. 精神医学の歴史とその特徴について理解する。
2. 精神医学的状態像の捉え方を理解する。
3. 精神疾患の概念や精神科疾患の分類についての知識を習得する。
4. 代表的精神障害としての統合失調症、気分障害についての知識を習得する。
5. 物質依存、認知症などの器質性疾患、てんかん、神経症、心身症について理解する。
6. 児童精神医学、老年期精神医学の特徴を理解し、それぞれの代表的精神疾患についての知識を習得する。

授業内容

2年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
総論	1	序論・診断学	歴史、特徴 精神医学的面接、診断	中村祐
	2	精神科症候学	精神医学的状态像、疾病概念、分類	
各論	3	統合失調症	統合失調症	
	4	気分障害	気分障害	
	5	物質依存	アルコール、覚醒剤、睡眠剤、その他	
	6	器質性脳症候群	症状精神病、認知症、感染症、脳血管障害	
	7	てんかん	てんかん	
	8	神経症、心身症	神経症、心身症	
	9	児童青年期精神医学	発達障害、不登校、神経性食欲不振症	
	10	老年精神医学	老年期の特徴	
	11	リエゾン精神医学	リエゾン精神医学	
	12	治療学	精神療法、薬物療法、身体的治療	
	13	補講		
	14	予備		

学習方法

講義内容を確実に把握すること。さらに深い理解には、図書館などに備えている関連図書を参考にすること。

評価方法

1. 講義終了後に筆記試験を行う
2. 講義の出欠や勉学態度を重視する

教科書及び参考文献

STEP 精神科：高橋茂樹、岸本年史（著）、海馬書房

オフィスアワー

中村 祐 後期 火曜日 15時～16時 yunaka@med.kagawa-u.ac.jp

精神援助論

担当教員

准教授 越智百枝
助教 栗原琴乃

授業概要

精神看護の対象に精神の健康の保持・増進や疾病の予防をはかるために、必要な援助の技術や方法を学ぶ。

一般目標

- 1 精神看護の対象に援助を行うときの基本的な技術を理解する。
- 2 精神看護の対象に援助を行うときの基本的な方法を理解する。

行動目標

- 1 看護援助のための基本的な援助技術を述べることができる。
- 2 看護実践を行う上で自己を知り、自己活用を行うことの大切さを実感できる。
- 3 症状に応じた看護の視点を述べることができる。
- 4 薬物の作用機序と副作用を述べることができる。
- 5 薬物療法時の看護の視点を述べることができる。
- 6 活動療法・行動療法時の看護の視点を述べることができる。
- 7 対人関係理論の説明ができる。
- 8 オレム－アンダーウッド理論の説明ができる。

授業内容

2年次後期 必修 1単位(30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
看護援助のための技術	1	看護師自身の自己理解と自己活用	1 看護師の知覚・感情・思考の検討	越智
	2		2 治療的コミュニケーション	越智
	3		3 コミュニケーション演習	栗原
看護状況の把握と接近法	4	症状別看護	1 症状の捉え方	越智
	5		2 不安のある患者の看護 3 幻覚・妄想状態にある患者の看護	越智

治療と看護	6		4 うつ病患者の家族の体験	越 智 (授業協 力者)
	7		5 抑うつ状態にある患者の看護	越 智
	8		6 操作的な患者の看護	越 智
	9		7 隔離・行動制限のある患者の看護	非常勤講師
	10	薬物療法と看護	1 薬物療法と副作用 2 薬物療法と看護師の役割	越 智
対象のアセスメントと看護計画	11	その他の療法と看護	1 活動療法と看護師の役割	越 智
	12		2 行動療法と看護師の役割	
	13	援助を支持する理論	1 対人関係理論	越 智
	14		2 セルフケア理論	
	15		試験	

学習方法

講義・演習及び自己学習などを組み合わせて行う。

評価方法

講義終了後に筆記試験を行う。授業への参加態度、出席状況なども重視する。

教科書及び参考文献

- 1) 山崎智子監修：明解看護学双書3 精神看護学 金芳堂
 - 2) 野嶋 佐由美・南 裕子監修：ナースによる心のケアハンドブッカー現象の理解と介入方法―
 - 3) 松田正己他：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院
- 参考図書は適宜紹介する。

オフィスアワー

木曜日 17:00 ~ 18:00

10 在宅看護学

在宅看護学概論

担当教員

教 授 松 井 妙 子

授業概要

在宅看護をめぐる歴史的背景、在宅看護と訪問看護の制度、在宅療養者とその家族の特徴について理解し、在宅療養している人々とその家族を支援するための基礎的知識を学ぶ。さらに、保健医療福祉の専門職種と連携して支援する重要性を理解し、在宅における看護の機能と役割を学ぶ。

一般目標

- 1 在宅看護の対象と在宅看護の提供方法を学ぶ。
- 2 居宅で様々な疾患を持ちつつ療養している人を理解し、在宅看護の特徴と意義を学ぶ。
- 3 在宅看護をめぐる歴史的背景や在宅看護と訪問看護の制度について学ぶ。
- 4 社会資源を理解し、連携の重要性とその方法を学ぶ。
- 5 在宅において医療管理を必要とする人への看護について学ぶ。

行動目標

- 1 在宅看護の対象を理解できる。
- 2 在宅看護の歴史的背景を理解できる。
- 3 在宅看護をとりまく制度や、社会資源などを理解し、説明できる。
- 4 連携の重要性を説明できる。
- 5 医療管理を必要とする人への看護を説明できる。

授業内容

2 年次 後期・必修 2 単位（30 時間）

大 項 目	回	項 目	内 容	担当者
在宅看護とは	1	在宅看護とは	地域における看護活動	松井
	2		地域で生活する療養者の特徴	
在宅看護と関連する医療福祉制度	3	在宅看護の変遷と諸制度	在宅看護の歴史	
	4		在宅看護と関連する諸制度の概要（含住宅改修・権利擁護）	
多様な在宅看護活動	5	多様な在宅看護の提供場所	在宅支援のための社会資源とそれぞれの役割	
	6		在宅看護職の活動場所と訪問看護ステーション	
	7		訪問看護の活動（管理・運営含む）	
	8		医療施設から地域生活へ、継続ケアの活動	
対象別在宅療養者支援	9	医療管理を必要とする在宅療養者への支援	在宅療養者支援のためのアセスメントの視点	
	10		栄養ケアが必要な在宅療養者への看護	
	11		呼吸器ケアが必要な在宅療養者への看護	
	12		皮膚ケアが必要な在宅療養者への看護	

	13		ターミナルケアが必要な在宅療養者への看護
	14	在宅看護管理	在宅看護におけるリスクマネジメント
	15	在宅看護学・まとめ	在宅看護学・まとめ

学習方法

講義およびグループワークによって学ぶ。

評価方法

受講態度、筆記試験、レポートなどにより総合的に判断する。

参考文献

渡辺裕子著：家族看護学を基盤とした在宅看護論 I・II 日本看護協会出版会

櫻井尚子編：ナーシング・グラフィカ 21、地域療養を支えるケア メディカ出版

オフィスアワー

講義終了後 1 時間

11 地 域 看 護 学

地域看護学概論

担当教員

教授 大西美智恵

授業概要

地域看護は、地域社会の中で生活している人々を対象に展開される看護の実践活動である。その活動を概観するとともに、地域看護の理念や活動分野・対象・場の特性について学ぶ。また活動の根拠となる法規や活動計画についても学ぶ。

一般目標

- 1 地域看護活動の理念と目的を理解する。
- 2 地域看護活動の対象・場の特性・原則を理解する。
- 3 公衆衛生看護活動の歴史から期待される保健師（看護職）の役割を理解する。

行動目標

- 1 地域看護活動の歴史から、時代に左右されない地域看護活動の原点を理解できる。
- 2 地域看護活動の場と対象の特徴について説明できる。
- 3 地域看護活動は組織的な方法によって地域の健康レベルを向上させ得ることを理解し、またそれらを行政政策に反映させる意義を理解できる。

授業内容

2年次 後期・必修 2単位（30時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
1. 地域看護の理念と活動分野	1	地域看護とは	a) 地域看護の特徴 b) 地域看護と公衆衛生看護	大西
	2	地域看護の理念と活動分野	a) 地域看護の理念	
	3		b) 公衆衛生の理念 c) 地域看護活動の分野	
	4		地域看護活動の歴史	
	5	b) 諸外国の公衆衛生の発達と地域看護の変遷		
	6	保健師が大切にしたいこと	a) ビデオ「孤島の太陽」を鑑賞	
	7			

2. 地域看護の対象	8	地域の人々と健康	a) 生活環境の変化と健康問題 b) 対象としての個人・家族・集団・地域
	9	地域看護活動の場の特性	a) 保健師が活動する場
	10	地域住民の保健関連行動	a) 個人の健康課題への対処行動 b) 組織としての健康課題への対処行動
3. 地域看護に関わる法規と保健師の機能・役割	11	地域看護に関わる法規	a) 地域看護活動に関わる法的根拠 b) 保健・医療・福祉職種の身分・業務の法的根拠
	12	地域看護活動の展開と保健・事業計画	a) 地域看護活動の計画・実施・評価 b) 活動・事業計画と保健師の役割
4. 国際協力	13	国際協力と地域看護	a) 地域看護における国際協力
5. 地域看護と研究	14	地域看護における研究	a) 地域看護における研究の動向
	15	まとめ	

学習方法

基礎保健学，社会福祉・社会保障論等の授業を基礎知識とする。

評価方法

最終試験，ビデオ鑑賞ミニレポート，授業への参加，出席状況により評価する。

教科書及び参考文献

教科書

奥山則子他著：標準保健師講座第1巻 地域看護学概論，医学書院，最新版
厚生統計協会編：国民衛生の動向，最新版

参考書

厚生統計協会編：国民福祉の動向，厚生統計協会，最新版
飯田澄美子他編：保健学講座 第1巻「地域看護学概論」，メヂカルフレンド社 最新版
宮崎美砂子他編：最新地域看護学，日本看護協会出版会，最新版
門脇豊子他：看護法令要覧（平成20年度版）日本看護協会出版会
日本看護協会監：保健師業務要覧 第2版，日本看護協会出版会，2008.
平野かよ子編：ナーシング・グラフィカ⑦ 健康と社会・生活，MC メディカ出版，2008

オフィスアワー

随時

12 統合実践看護学

看護入門セミナー

担当教員

准教授	越智百枝
教授	大森美津子
教授	内藤直子

授業概要

看護学科に入学したもののまだ十分に看護職へのコミットメントを感じられない、あるいは迷いや不安がある、具体的な看護のイメージがつかないといった気持ちを持つ学生がいるかもしれない。この授業では、そういった学生が、様々な看護の場面における新人ナースやエキスパートナースなどの看護実践の体験談を聞くことや実践の場を訪問する。また、これまでの講義で学んだ理論や文献学習で得た知識と比較検討しながら、グループで学びを共有する。これらの体験を通じて、生き活きとした看護を感じ、自己の看護者像を考え、看護職へのモチベーションを高めることを目的とする。

一般目標

様々な看護の場面における新人ナースやエキスパートナースなどの看護実践の体験談を聞く。関心のある分野の看護実践について文献学習によって学びを深める。そして看護の実践の場を訪問し、看護の対象やその家族が療養し生活している状況に接する。そこで、看護者としてのモデルを見いだし、生き活きとした看護を感じ、看護について具体的にイメージできるようにする。他の学生と学びを共有し、将来の自己の看護者像について考え、看護職へのモチベーションを高める。

行動目標

1. 様々な看護の場面における新人ナースやエキスパートナースなどの看護実践の体験談を聞く。
2. 関心のある分野の看護実践について文献学習によって学びを深める。
3. 看護の実践の場を訪問し、看護者としてのモデルを見いだし、生き活きとした看護を感じ、看護について具体的にイメージする。
4. 文献学習したこと、体験談で学んだこと、実践の場を訪問したことを比較検討し、対象にとっての看護の必要性や看護職の役割を考察する。
5. 各グループで学びを共有できるように、他者にわかりやすい資料を作成する。
6. 作成した資料に基づき、プレゼンテーションを行い、学びを共有する。
7. 授業全体を通じて看護の楽しさややりがいを感じ、将来の自己の看護者像をイメージする。

授業内容

1年次 後期・自由 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
序論	1	オリエンテーション	授業概要とスケジュール、評価方法などのオリエンテーション	越 智
各論	2	様々な看護場面で働くエキスパートナースや	専門看護師、認定看護師、新人ナースなどの体験談を聞く	大 森 内 藤 授業協力者 非常勤
	3	新人ナースなどの体験談を聞く	専門看護師、認定看護師、新人ナースなどの体験談を聞く	
	4		体験談を聴取し、関心のある看護分野を選定する	
	5	関心のある看護分野における実践について文献学習する	文献学習：関心のある分野の看護実践について文献学習する	
	6	文献学習する	文献学習：関心のある分野の看護実践について文献学習する	
	7		グループワーク：実地踏査先の決定	
	8		グループワーク：インタビュー内容の決定	
	9	関心のある看護分野に	実地踏査	
	10	おける看護実践を学ぶ	実地踏査	
	11		グループワーク：文献学習と実地踏査のまとめ	
	12		グループワーク：文献学習と実地踏査のまとめ	
	13	各グループの学びを	グループワーク：各グループ発表での学びの共有	
	14	共有する	グループワーク：各グループ発表での学びの共有	
	15		グループワーク：各グループ発表での学びの共有	

学習方法

文献学習、実地踏査、グループワークを組み合わせる学習する。授業時間外の学習も必要になる。

評価方法

出席状況、文献学習、実地踏査、グループワーク時の態度や発表内容等で評価する。

教科書及び参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日：17：50～18：30

看護とコミュニケーション

担当教員

非常勤講師 藪添隆一（香川大学大学院教育学研究科教授・臨床心理士）
竹森元彦（香川大学大学院教育学研究科准教授・臨床心理士）

授業概要

コミュニケーションを通して、私たちは他者理解・自己理解を有機的に行っている。また、コミュニケーションの方法も言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションに大別できるが、多様で微妙なものである。

以上のように、コミュニケーションを改めて認識し直すとともに、実技演習を実施しながら自己理解、他者理解深めながら、看護におけるコミュニケーションの実際を習得できる授業としたい。

一般目標

他者への「思いやり」を発揮できること。
自分自身との関係をよりよいものとする事。
他者との関係をよりよいものとする事。

行動目標

無条件の肯定的関心を示す。
相手の気持ちを大切にすること。
自分の気持ちを素直に伝える。

授業内容

2年次 前期・集中2日 1単位(15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1 日 目	実践1 人間関係を深めるとともに 傾聴する態度と技法を学ぶ	1 感受性訓練 言語・非言語コミュニケーション 対他・対自コミュニケーション 2 ペア・カウンセリング 雑談の効用 傾聴の方法と効用 3 質疑応答 自己理論形成のための質疑 4 まとめ 経験から理論を認識する	藪添
	2 日 目	実践2 前もって作成してきた看護 場面におけるカウンセリングの シナリオについて、グループにて 話し合ったうえで、発表を行う。 その場合、発表されたシナリオに	1. 事前にシナリオ作成 2. グループディスカッション 3. シナリオへのコメント 4. 振り返り	竹森

		<p>ついてコメントを行いながら、相互に学びあう。</p> <p>最後に、振り返りとしてのレポートを提出する。</p>	
--	--	---	--

学習方法

カウンセリングの学習は、自己理解と他者理解のための演習から始まります。単なる知的学習ではありませんので、自分をかけて積極的に参加してください。

評価方法

出席を基本として、授業への積極性、1日目のレポートと、2日目のレポートを併せて評価をします。設問については、その時に出題します。

教科書及び参考文献

教科書：東山紘久著「カウンセラーへの道」創元社

教科書：竹森元彦著「心の生まれる場所」ふくろう出版社

参考文献：東山紘久「プロカウンセラーの聞く技術」創元社

「プロカウンセラーのコミュニケーション術」創元社

オフィスアワー

授業後のひととき：非常勤であり、学内には常駐していない

ヘルスアセスメント

担当教員

教 授	當 目 雅 代	田 中 輝 和	名 越 民 江	内 藤 直 子
	大 森 美 津 子	大 西 美 智 恵	峠 哲 男	松 井 妙 子
	祖 父 江 育 子	清 水 裕 子		
准 教 授	南 妙 子	佐々木 睦 子	越 智 百 枝	筒 井 邦 彦
	谷 本 公 重	越 田 美 穂 子		
講 師	金 正 貴 美	片 山 陽 子 (学内)		
助 教	片 山 理 恵	野 口 英 子	栗 納 由 記 子	栗 原 琴 乃
	西 村 美 穂	三 上 順 子	松 岡 美 奈 子	小 笠 美 春
	香 川 里 美	竹 内 千 夏		
コーディネーター	當 目 雅 代	筒 井 邦 彦		

授業概要

ヘルスアセスメントでは、人々の健康状態を身体・精神（心理）・社会的な状態から総合的にアセスメントをすることを学ぶ。個人・家族・地域社会における対象者の健康状態を身体・精神（心理）・社会的な状態から総合的にアセスメントをすることの重要性を学ぶ。さらに、対象者の健康状態を実際にアセスメントできる基本的技術と看護者として望ましい基本的態度を習得することを目指す。

一般目標

看護におけるヘルスアセスメントの意義・目的を理解し、あらゆる健康レベルにある人々の身体構造と機能の系統的な観察・測定技術の必要性和方法を学ぶ。また健康問題の異常の主な発生要因、正常と異常の判断基準と方法を学ぶ。身体・精神（心理）・社会的な状態から総合的なヘルスアセスメントを行うことの重要性和看護過程の展開について説明できる。

行動目標

1. 看護実践におけるヘルスアセスメントの意義及び必要性を説明できる。
2. 身体の構造と機能の系統的な観察ができる。
3. フィジカルアセスメントを対象に合わせて安全・安楽に実施する方法を説明できる。
4. フィジカルアセスメント技術を適用できる。
5. フィジカルアセスメントの実施にあたり、対象とコミュニケーションがとれる。
6. フィジカルアセスメントで得た結果を、適切な用語を用いて記録できる。
7. フィジカルアセスメントをすることより、健康上の問題が類別できる。
8. 健康問題の異常の主な発生要因、正常と異常の判断基準が説明できる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
	1 2	健康情報インタビュー	健康情報インタビューによるヘルスアセスメント	名越・清水・他
	3 4	呼吸系	呼吸系アセスメントと演習	大西・南・他
	5 6	循環器系	循環器系アセスメントと演習	松井・筒井・他
	7 8	消化器系	消化器系アセスメントと演習	田中・谷本・他
	9 10	感覚器系	感覚器系アセスメントと演習	大森・祖父江・他
	11 12	運動器系	運動器系アセスメントと演習	當目・他
	13 14	生殖器系	生殖器系アセスメントと演習	内藤・佐々木・他
	15 15	中枢神経系	中枢神経系アセスメントと演習	峠・越智・他

学習方法

講義、演習、VTR、CD-ROMを用いた自己学習

評価方法

実技試験、演習レポート、出席と演習での参加度

教科書

1. 山内 豊明：フィジカルアセスメントガイドブック、医学書院、2005

参考文献

1. 藤崎 郁：フィジカルアセスメント完全ガイド、学研、2001
2. 上平憲、田代隆良監修、看護アセスメントに役立つ検査の読み方、医学芸術社、2003
3. 川村佐和子他編：基礎看護学－ヘルスアセスメント、メディカ出版、2004

オフィスアワー

随 時

家族看護学

担当教員

教授 内藤直子

教授 松井妙子

授業概要

本科目で、学生は、少子・高齢化、家族形態の変化及び男女共同参画化が進行している現代社会の問題を、家族看護学の視点で捉え、家族を一つの単位として介入することを目的として、家族看護学の基本理論（家族発達論、家族システム論、家族ニード論、倫理等）を学習する。

また、学生は、カルガリー家族看護論の概念と方法論について具体的な学習ができる。

一般目標

1. 家族看護学の基本理論を理解して、家族アセスメントの力を身につける。
2. 家族看護学の基本に基づき、家族の適切な援助のあり方が考えられる。
3. さまざまな健康問題のステージにあり、さまざまな場所、つまり、入所や入院している人および在宅療養する人の、家族の看護問題を考えることができる。
4. さまざまな健康問題のステージにあり、さまざまな状況で、つまり、子どもや女性、青年期、老年期にある人の、家族の看護問題を考えることができる。

行動目標

1. 少子・高齢化、核家族化及び男女共同参画化が進行している現代社会の家族の問題を、看護学の視点で捉えることができる。
2. 家族を一つの単位として看護介入することを目的として、家族発達論が理解できる。
3. 家族を一つの単位として看護介入することを目的として、家族システム論が理解できる。
4. 家族を一つの単位として看護介入することを目的として、家族ニード論が理解できる。
5. カルガリー家族看護論の概念と方法論について具体的に述べる。

授業内容

2年次 後期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
家族看護学の概要	1	家族看護学の概念	1. 家族とは 2. 家族看護学とライフサイクルと倫理 3. 家族看護学の意義と歴史	内藤
各論	2	家族に対する看護の意義・必要性 家族看護学の基本理論Ⅰ	1. 家族看護学の歴史的発展とその理論的背景 2. 家族システム看護の概要 3. 家族システム看護の理論的背景 4. カルガリー家族看護論	内藤
	3	家族看護の実践Ⅰ 家族介入に有用なモデル	1. カルガリー家族アセスメントモデル 2. カルガリー家族介入モデル 3. 家族インタビューの発展方法と視聴覚教材 4. ジェノグラフの活用	内藤
	4	家族看護の実践Ⅱ 家族のアセスメントと介入：演習	1. 家族インタビューに必要な技術と前提条件 2. 短時間で行う治療的インタビューの演習 3. カルガリー家族看護モデルの視聴覚による演習 (1) 障害児をもつ家族への援助 (2) 小児とその家族への援助 (3) 精神障害を抱える妊産婦への援助	内藤
	5	家族への援助Ⅰ 介護負担を抱える家族への看護介入	1. 介護負担を抱える家族の家族アセスメント	松井
	6	家族への援助Ⅱ 介護負担を抱える家族への看護介入の実際	1. 介護負担を抱える家族への看護介入の実際 (1) 在宅療養へ移行する人の家族看護実践	松井
	7	家族への援助Ⅲ 終末期にある家族員を抱える家族への看護介入	1. 終末期にある家族員への介入の原則 2. 終末期にある家族員への介入の実際	松井
評価	8	試験	筆記試験	内藤 松井

学習方法

講義を行うとともに、視聴覚教材の活用や課題演習を組み合わせることで授業を進めるので、学生相互で主体的に学びを深めるように期待する。

評価方法

レポート、グループ討議、出席状況から総合的に評価する。

教科書及び参考文献

必携

1. 森山美智子：ファミリーナーシングプラクティス、医学書院、2001（履修学生は必携）
2. 小林 奈美：グループワークで学ぶ家族看護論－カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ、医歯薬出版 2006（履修学生は必携）

参 考

1. 杉下知子編著：家族看護学入門、メヂカルフレンド社、2000
2. 鈴木和子他：家族看護学、日本看護協会、1995
3. 野嶋佐由美監訳：家族看護学、へるす出版、1993

*その他、適時、提示する。

オフィスアワー

講義日の16:10～18:00に教員の研究室まで適宜お越してください。

看護研究ゼミナール

担当教員

教 授 大 森 美 津 子
准 教 授 越 智 百 枝

授業概要

研究には、わからないことを明らかにする楽しみがある。加えて、患者や利用者などの対象のあり様やその看護について気づく楽しみがある。この授業では、3年生で行う研究の学習や実践に先立ち、研究についてどのようなものか、どのように行うかを自発的にまなび、経験しようとするものである。具体的には、上級生の看護研究の演習に参加して、教員のミニレクチャーや上級生が行うプレゼンテーションの見学を行う。また、そこで疑問に思ったことや関心を持ったことを調べ、討論をする。そこで、看護研究への関心や理解を深め、研究についての見通しを立てる。関心のある研究テーマに関わる概念や理論について主体的に学習し、研究への動機を高める。

一般目標

1. 上級生の看護研究の演習に参加し、研究の概要をつかむ。
2. 研究テーマに関連する関心を持った概念や理論について、主体的に調べ、他者と共有する。
3. 今後行う研究への見通しを立て、研究への動機を高める。

行動目標

1. 上級生の看護研究の演習（研究の見通し・研究方法の再確認・研究テーマの選定・研究計画書の作成・研究における倫理的配慮の検討など）に関心を持って参加する。
2. 上級生が計画する研究のスケジュールや研究方法の再確認を見学し、研究のプロセスについてイメージする。
3. 上級生が述べる研究動機や関心のあるテーマを聞き、考えたり、感じたり、疑問に思ったことを述べることができる。
4. 上記の中で、関心を持ったことについて、概念や理論につなげて、主体的に調べる。
5. 学習した内容について、資料にまとめ、他者と共有する。
6. これらのことから、研究の概要をつかみ、今後行う研究への見通しを立て、研究への動機を高める。

授業内容

2年次 前期・自由 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
序論	1	オリエンテーション	授業概要とスケジュール、評価方法などのオリエンテーション	大森 越智
各論	2	研究プロセスの中での体験－研究の見通し	上級生の看護研究の演習へ参加し、研究の概要の講義を受けたり、上級生の研究のスケジュールの検討などを見学する。	
	3	研究プロセスの中での体験－研究方法	上級生の看護研究の演習へ参加し、上級生の研究方法についての再確認を見学する。	
	4	研究プロセスの中での体験－研究テーマの選定	上級生の看護研究の演習へ参加し、上級生の研究の動機を明らかにする振り返り、概念の明確化、文献検討について見学し、自分で考えたり、感じたことなどの意見を述べる。	
	5	研究についての主体的な学び－概念と結びつける	上級生の看護研究の演習に参加して、関心を持ったことを話し合い、概念や理論に結びつけて考える。	
	6	研究についての主体的な学び－文献検討	関心のある研究テーマに関わる概念や理論を用いた研究論文等で文献検討を行う。	
	7	研究についての主体的な学び－資料作成	学習した内容について、資料にまとめる	
	8	研究プロセスの体験と学びの統合	作成した資料を発表することで、他者と共有し、研究への意欲を高める。	

学習方法

上級生の演習への参加、文献学習、グループワークを組み合わせる学習する。授業時間外の学習も必要になる。

評価方法

出席状況、演習への参加状況、文献学習、グループワーク時の態度や発表内容等で評価する。

教科書及び参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日：17：50～18：30

平成 20 年度以前入学生対象
授業科目

13 全学共通科目(外国語)

英語コミュニケーションLR 演習Ⅱ N

授業科目名	英語コミュニケーションLR 演習Ⅱ N (1) English(Listening & Reading)Ⅱ	科目区分	外国語科目	授業コード	041811
講義題目		単位数	1	時間割	前 金 2
教員名	長井 克己(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	3年次 医学部看護学科		
授業の概要 一般教養レベルから看護英語の学習へのスムーズな移行を目指す。新聞記事のリーディングにより語彙と文法の復習を行うと同時に、CDつき教材によりリスニングと発音の練習を行う。					
授業の目的・達成目標 By the end of the course, students should have acquired the following: (a) essential words and phrases in English (b) understanding of basic medical and lay terms in English					
授業及び学習の方法 前半は教科書を用いてリスニングと発音の練習を行うと同時に、看護現場で用いられる語彙を習得する。 後半は新聞記事を用いてリーディング練習を行い、英語の語法・文法を復習する。					
成績評価の方法と基準 The assessment consists of an assignment/presentation (40%) and two exams, each weighted equally (30%+30%)					
授業計画 Wk 1 Introduction to the course Wk 2-7 Textbook work (Chap 1-9) + Newspaper exercise (one article/one week) Wk 8 Mid term exam Wk 9-14 Textbook work (Chap 10-17) + Newspaper exercise (one article/one week) Wk 15 Term exam details tba.					
教科書 リーディング：新聞記事を1回目の授業で配布。 リスニング：山中マーガレット. 2008. 看護・医療スタッフの英語. 朝日出版社. ISBN978-4-255-00452-5					
参考書					
オフィスアワー 研究室は幸町(北5号館5階)なので、医学部ではメールでアポイントをとってください。					
履修上の注意 TOEFL や TOEIC を受験することは望ましいが、本講義の成績判定には関係しない。					

英語コミュニケーションSW 演習Ⅱ N

授業科目名	英語コミュニケーションSW 演習Ⅱ N English(Speaking & Writing)Ⅱ	科目区分	外国語科目	授業コード	041812
講義題目	Presentation/Writing	単位数	1	時間割	前 金 2
教員名	ウイラー・イアン・デビッド(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	3年次 医学部看護学科		
授業の概要					
<p>The SW course focuses on productive English, and the course is divided into two themes: Presentation and Writing. The Presentation-themed course centers on English as a speech act. Students will receive instruction on how to prepare and deliver presentations in English, and will practice in groups and before the class. Instruction will focus on three aspects of presentations: the verbal message (pronunciation, intonation), the non-verbal message (eye-contact, posture, gestures, visual aids) and the rhetorical message (organization, logic, support). The Writing-themed course will focus on practical writing skills students may need after graduation, particularly business writing, letter and e-mail writing.</p>					
授業の目的・達成目標					
<p>In this combined Presentation and Writing-themed course, students will learn the basics of 1) delivering presentations in English; 2) typing papers in English using word processing software; and 3) basic Nursing English vocabulary and communicative expressions.</p>					
授業及び学習の方法					
<p>Handouts, lectures and class activities will focus on basic typing and presentation skills. Typed homework will be assigned regularly, and will be used as material for discussion and speech practice. The textbook will be used in class to develop students' Nursing English vocabulary, and will tie in to discussion and speech practice exercises. There will be weekly vocabulary quizzes, as well as a mid-term and final presentation.</p>					
成績評価の方法と基準					
<p>Students' grades will be based on the following: 20%: Attendance and participation 40%: Written homework and quizzes 40%: Presentation projects (mid-term and final)</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> (1) Introductions (2) What is a presentation? (3) Regular class (4) Regular class (5) Regular class (6) Presentation Project 1 (Mid-term) (7) Regular class (8) Regular class (9) Regular class (10) Regular class (11) Regular class (12) Presentation Project 2 assigned (13) Presentation 2 workshop (14) Presentation 2 (part 1) (15) Presentation 2 (part 2); Wrap-up 					
教科書					
<p>Handouts/Lectures on presentation and writing skills will be provided by the instructor.</p>					
参考書					
<p>Supplementary workbook: 看単! Easy Nursing English, by I. Willey, G. McCrohan, and S. Shibata. Nanzando Publishers, 2009.</p>					
オフィスアワー					
<p>At Saiwai-cho campus only. Students may contact the instructor via e-mail.</p>					
履修上の注意					
<p>4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。</p>					

上 級 英 語

授業科目名	上級英語 I (2) English(Advanced English) I	科目区分	外国語科目	授業コード	050402
講義題目	Advanced Presentation	単位数	2	時間割	前月5
教員名	ウイリー・イアン・デビット(大学教育開発センター)	対象年次及び学科	3～4年 全学部		
授業の概要					
This course is for students who wish to sharpen their formal English communication skills. Students will have many opportunities to discuss and debate topics with classmates in English, as well as give presentations. Students aiming for advanced level English skills are welcome to join this class.					
授業の目的・達成目標					
Through this course, students should become able to: 1) prepare and deliver multi-media presentations in English; 2) prepare short English papers using word processing software					
授業及び学習の方法					
In the first few weeks, the basics of presentation and typing in English will be addressed. Written homework, based on readings provided by the instructor or materials found by students, will be assigned regularly. This homework should be kept in a folder (students' Writing Portfolio). During class we will discuss and debate readings and other materials (for example, songs, films) and engage in group work, debate, and short presentations. Students will give at least three formal presentations during the semester: a personal presentation, an informative presentation, and a persuasive presentation.					
成績評価の方法と基準					
Students' grades will be based on the following: 20%: Attendance and participation 30%: Written homework 50%: Presentations					
授業計画					
<ul style="list-style-type: none"> (1) Introductions (2) Typing basics (MS-Word format, paragraph writing) (3) Presentation skills (4) Presentation skills (5) Presentation 1: Show and Tell (6) PowerPoint: Dos and Don'ts (7) Film (8) Film part 2 and discussion (9) Presentation 2: An ethical issue (10) Presentation 2: An ethical issue (part 2) (11) Topics and discussion (12) Presentation workshop (13) Presentation 3: Persuasive presentations (14) Presentation 3: Persuasive presentations (part 2) (15) Wrap-up 					
教科書					
A textbook is not required for this course. Readings will be provided by the instructor, and on occasion students will be asked to find readings on their own.					
参考書					
オフィスアワー					
At Saiwai-cho campus only. Students may contact the instructor via e-mail.					
履修上の注意					
4回以上の欠席回数の場合は単位を与えられません。					

14 健康科学

担当教員

教授 大西 美智恵

非常勤講師 加藤 匡 宏 (愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター 准教授)

授業概要

地域、職域における保健・医療・福祉の実態を認識し、健康レベル、生活の質（QOL）の高い地域社会を目指す公衆衛生活動について考える。公衆衛生に関する保健医療福祉行政、関係法規について学ぶ。本講義では、地域・職域における保健活動評価の Evidence を得るための疫学の基本的概念についても解説する。疾病予防、健康増進のための公衆衛生活動に学問的根拠を与えるのが疫学であり、その方法論を理解するとともに、これまでに各地において実践されてきた調査の実際を学び、それが予防医学の面でどのような役割を果たしてきたかについて「国民衛生の動向」の資料を読み解きながら学習する。それら、公衆衛生活動や調査において得られた結果から、健康施策の計画立案・実行・審査・改善策提示という(Plan・Do・Check・Act)とともに具体的に展開される保健政策の基礎的知識を得るため、本科目を学習する。

一般目標

1. 健康の概念と「社会システム」が病気を発生するという概念について理解する。
2. 基礎保健学の基盤となる公衆衛生学の理念と目標など予防医学的考え方について学習し、その中で個人及び集団の健康に対する社会医学的調査法について修得するとともに、保健活動の実践の場における、健康教育や保健指導をはじめとする健康づくり・健康管理などについて修得する。
3. 疾病予防、健康増進のための公衆衛生活動の根拠となる Evidence based Nursing(Caring)を学ぶ。
4. 昨年度より実施されている特定健診・保健指導について学ぶ。

行動目標

1. 公衆衛生学の基本的概念について説明できる。
2. 我が国の疾病構造の変遷と現在の問題点について概説できる。
3. 生活習慣病の概念とその発生要因について説明できる。
4. 感染症の疫学と対策について、これまでの経緯と現在の課題について説明できる。
5. 産業保健について概説できる。
6. 保健医療福祉に関する法規(医療法、健康増進法、高齢者の医療の確保に関する法律、労働安全衛生法、介護保険法)について概説できる。

授業内容

3年次 前期・必修 集中講義 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
健康と 社会・環境	1	公衆衛生の概念	環境と健康について解説する	加藤
	2	公衆衛生の目標	健康と社会システムの概観、保健医療・公衆衛生総論概説 健康の概念と法律について解説する(健康観、健康と病気の連続性、基本的人権、WHO憲章、日本国憲法、医師法、保助看法)	加藤
健康管理・ 健康増進	3	公衆衛生学と疫学	疫学と公衆衛生活動について解説する。包括的保健医療の概念、感染症予防、精神保健法	加藤
	4	保健福祉行政論(1)	法・制度概説(現行保健医療福祉制度と法令, 衛生行政組織, 国と地方) 公衆衛生活動・保健医療計画の概説(地域保健計画の Plan・Do・Check・Act)	大西
	5	保健福祉行政論(2)	健康教育、健康診断、保健指導、トータルヘルスプロモーション活動	大西
	6	健康日本 21	生活習慣と疾病の発生状況(肥満、高脂血症、動脈硬化、糖尿病、高血圧、がん等 喫煙、飲酒およびメタボリック症候群) と健康日本 21 について	大西
公衆衛生の 意義・定義 と歴史	7	社会制度と公衆衛生学の変遷(1)	国民健康保険・介護保険・障害者自立支援法・精神保健法など公衆衛生活動を基盤とした社会制度	加藤
	8	社会制度と公衆衛生学変遷(2)	地域保健と産業保健の一元管理支援システムと地域住民の包括的健康づくり活動について、2008年度から実施されている特定健診・特定保健指導システム	加藤

学習方法

講義は「国民衛生の動向」にそって解説し、保健・福祉・医療の関連や法制度を説明する。「国民衛生の動向」は公衆衛生学実務者にとって重要な指標が掲載されており、それら資料を読み解くことは、将来、保健活動に従事する看護職にとって不可欠である。

評価方法

レポートで評価する。

教科書及び参考文献

現在購入している「国民衛生の動向」を持参すること(講義は国民衛生の動向に沿って実施する)

また、加藤先生の講義で使用するパワーポイント資料は、画像ファイルを多くふくむので、講義終了後、電子媒体で大西教授に渡すので、必要な学生は自分の USB を持参して保管いただきたい。

オフィスアワー

加藤先生の講義は集中で行うため、時間内に質問をお願いしたい。

随時：大西研究室 (6階 618 研究室)

国際保健医療

担当教員

教授	峠 哲男	非常勤講師	徳永 瑞子 (聖母大学教授)
教授	祖父江 育子		
准教授	谷本 公重	非常勤講師	柴崎 三郎
助教	三上 順子	非常勤講師	Lrong Lim (香川大学留学生センター教授)

授業概要

昨今の世界情勢は、アメリカ合衆国のプライム・サブプライム問題に端を発した世界経済危機が進行する中で、保健および医療を取り巻く状況は、発展途上国のみならず先進国においても大変厳しい状況にあることは、周知のことと思われる。このように、ある国や地域の問題は、世界の国や地域に対しても大変大きな影響を与えることは、世界のグローバル化としてとらえられるが、保健や医療においても、エイズやインフルエンザ、結核などの感染症の世界的蔓延、人口の爆発的増加など、世界的な視野に立ち、さらに環境、社会、文化、政治、経済問題などと関連させて、対策を立てないと解決しえない問題が山積している。

大学の授業を通して、地域に則した保健医療の推進に必要な知識や技術を習得すると同時に、国際的観点に立った知識や思考法をやしなうことは、これからの医療従事者にとって重要な課題の一つである。さらには、将来において世界保健機構（WHO）や国際協力機構（JICA）などにおいて世界の保健医療に寄与しうる人材を育成することは、看護系大学の責務の一つであるといえる。従って、この国際保健医療の授業においては、先進国並びに発展途上国の保健および医療の現状を提示し、国際保健医療における看護の役割や問題点について理解してもらい、さらにはこれからの国際保健医療における看護の果たすべき役割についても、レポート作成という作業を通して、考えを巡らせて行ければと考える。またこの授業が、国際保健医療に対する理解ならびに興味を深める一契機になってくれればと願っている。

一般目標

1. 世界の健康問題について理解する。
2. 国際保健医療における看護の役割について理解する。
3. 先進国での保健医療の現状と問題点について学習する。
4. 発展途上国での保健医療の現状と問題点について学習する。

行動目標

1. 国際保健医療での看護の役割について説明できる。
2. 世界の健康問題について、疫学や生態学等の視点から述べるができる。
3. 世界の健康問題について、社会、文化、政治、経済及び保健医療システムの関連から総合的に現状を評価できるように心掛ける。

4. 国際保健医療におけるこれからの看護の役割について、創造的に述べることができる。

授業内容

3年次 前期・選択 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ガイダンス 展開	1	ガイダンス	1・授業の目的についての説明 2・科目の展開や進め方についての説明 3. 学習方法や評価方法の説明	峠
	2		1. 英国における保健医療の現状と問題点	峠
	3		1. HIV 感染症 (AIDS) の現状と問題点	徳 永
	4		2. アフリカの母子保健	徳 永
	5		1. バングラディッシュにおける国際保健活動	柴 崎
	6		2. 国際保健活動の課題と解決策	柴 崎
	7		1. 学生の国際交流	L i m
まとめと評価	8		1. レポート作成 2. まとめと評価	峠

学習方法

WHO を中心とした国際保健医療機関の役割や、NPO などによる保健医療活動、諸外国の保健医療の現状について学ぶとともに、常に保健医療の問題点や看護の役割について考え、その対処方法についても考えを巡らせるようにしてもらいたい。また、必要があれば自由に教員に質問したり、図書館やインターネットによる検索も心掛けてもらいたい。

評価方法

出席とレポートによる評価。

教科書及び参考文献

1. 久間圭子, 序説国際看護学, 日本看護協会出版会, 2001
2. 国際看護研究, 国際看護学入門, 1999
4. 近藤克則, 「医療費抑制の時代」を超えて—イギリスの医療・福祉改革, 2005
その他、適時提示する。

オフィスアワー

16:00 ~ 18:00 に教員の研究室

15 環境保健科学

疫 学

担当教員

教 授 真 鍋 芳 樹 (アドミッションセンター)

授業概要

疫学 (epidemiology) とは、人間集団を対象として、人間の健康および異常の原因を宿主、病因、環境の各方面から包括的に考究し、その増進と予防をはかる学問である。過去の悲惨な健康障害を引き起こした公害として有名な水俣病 (有機水銀) やイタイイタイ病 (カドミウム)、カネミ油症 (PCB) などの原因究明、また肺癌と喫煙の関係の解明などには疫学が重要な研究手段となった。

また、疫学は生活習慣病をはじめとする各種の疾病や、不健康状態を集団的に把握し、必要な対策を考えていく上での情報を得るための重要な手段であり、そのため疫学は公衆衛生の診断学ともいわれるが、臨床においても Evidence Based Medicine (EBM) や Evidence Based nursing (EBN) の普及に伴い今日重要な手段となりつつある。本科目ではこれらの重要な概念と手法である疫学について学ぶ。

一般目標

1. 疫学が研究対象とするのは人間集団の健康集団であることを習得する。
2. 疾病、障害などの健康事象について、個人毎に取り扱っても得られない情報が、ある大きさの集団として取り扱った場合には得られるようになり、そこから原因究明や予防につながる可能性が生まれてくることを習得する。
3. 対象集団の種類は多種多様であり、空間別集団、時間別集団、限定集団などがあることを知る。
4. ある健康事象に関して 5W1H、すなわち What, Who, Where, When, Why, How の関連を明らかにし、それぞれについて記述する方法を習得する。
5. 仮説に基づいて、分析疫学調査をデザインし、実証的に健康事象の成立過程を明らかにしていく過程を習得する。
6. 疫学調査演習を行って現場の疫学及び疫学調査の実際を知り、データ処理方法を習得する。
7. 疫学の倫理問題、個人情報保護について理解する。

行動目標

1. 疫学の概念、疫学的考え方、疫学的アプローチについて述べる。
2. 疫学の意義と定義、疫学的3要因 (病因、宿因要因、環境要因) と多要因疾病観について述べる。
3. 公衆衛生における疫学の有用性について述べる。
4. 分母・分子、スクリーニング、敏感度、特異度について述べる。
5. 相対頻度、罹患率、発生率、死亡率、致命率、有病率、人年法について述べる。
6. 疫学調査、記述疫学、分析疫学、実験疫学、介入研究について述べる。
7. Case-Control Study, Cohort Study, RCT (Randomized Controlled Trial) について述べる。
8. Risk Factor, Risk の尺度、罹患率比 (相対危険)、罹患率差 (寄与危険)、その他の risk を表す尺度 (Odds 比、ハザード比) について述べる。
9. 偏りと交絡因子、交絡因子の制御方法 (層化、標準化、多変量解析など) について述べる。
10. 暴露効果、因果関係について述べる。スクリーニングについて述べる。
11. 簡単な疫学調査ができる。
12. 疫学の倫理問題について述べる。

授業内容

3年次 前期・必修 2単位（15回、30時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
疫学総論	1	概論	疫学概念、発祥、J. Snow のコレラの疫学、近代疫学の確立、疫学の対象	真鍋
	2	疾病の成立過程	疫学の意義と定義、疫学的考え方、疫学的アプローチ、多要因疾病観、医学的生態学、Leavell and Clark の説	
	3	疫学的要因	疫学的3要因、病因、宿主要因、環境要因、相互作用	
	4	疫学と公衆衛生	集団に対する健康管理と疫学 疫学的見地からみた疾病対策 疫学の倫理問題、個人情報保護	
疫学各論	5	疾病異常の測定・疫学指標	率と比、スクリーニング、敏感度、特異度、相対頻度、罹患率、有病率、死亡率、致命率、人年法、標準化死亡比、年齢調整死亡率	
	6	疫学方法論1	疫学調査、サンプリング、記述疫学	
	7	疫学方法論2	分析疫学、Retrospective study, Case-control study, Prospective study, Cohort study, RCT (Randomized Controlled Trial)、実験疫学、介入研究	
	8			
	9	Risk	リスク要因、Risk の尺度、Relative Risk, Attributable Risk, Attributable Risk Percent、オッズ比	
	10	相互比較と因果関係	率の標準化、交絡因子（攪乱因子）、マッチング、関連性、因果関係の推定、因果関係の判断条件、調査票の作成	
疫学調査	11	疫学調査の実際	疫学の応用、疫学調査の実際、調査事例	
	12	演習1	演習	
	13	演習2	演習	
	14	演習3	演習	
	15	演習4	演習	

学習方法

[社会]は具体的に手に取って見ることの出来る物質ではないが、厳然として存在しており、各種疫学データや各種統計データの分析や見聞で実感していく必要がある。特に、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等の活用は社会の動きを知り、疫学的捉え方の上で有用である。

評価方法

試験、学習態度（出席等）、レポート等を総合的に評価する。

教科書及び参考文献

「国民衛生の動向」を用意しておくこと。

教科書・参考書については、追って連絡する。

オフィスアワー

火曜日 16:30 ~ 18:30

保健政策論 A

担当教員

教 授 大西 美智恵
非常勤講師 岡本 英彦（高松市保健福祉部保健所次長、高松市地域包括支援センター長）
起 弘美（香川県健康福祉部医務国保課主幹）

授業概要

法律や制度は、よりよい社会を形成するための社会の仕組みである。私たちの生活は、多くの法律や制度によって保護され、一方で規制されている。保健医療福祉に関する数多くの法律も例外ではなく、保健医療福祉の充実と具体的なサービス提供の基盤をなしている。地域保健に携わる保健師として、直接的な保健指導や組織活動、政策の企画・立案、関係機関との連携を行うためには、それらに関する仕組みや法律・制度・政策について理解を深める必要がある。そこで本科目では、まず行政の仕組みを学び、保健医療福祉制度の概要と財政制度、行政が立案する計画について教授する。

一般目標

1. 保健医療福祉行政の発展過程について理解する。
2. 保健医療福祉活動の基盤となる保健医療福祉制度について理解する。
3. 保健医療福祉行政の仕組みについて理解する。
4. 国や地方自治体の保健医療福祉計画の基本的な考え方や策定過程・推進管理と評価について理解する。

行動目標

1. 戦後の保健医療福祉行政の変遷について概観することができる。
2. 社会保障・地域保健・社会福祉・医療制度・介護保険制度と行政そして保健師の役割と機能について理解できる。
3. 保健医療福祉行政の理念や仕組みそして財政について理解できる。
4. 保健医療福祉計画の必要性そして計画策定から評価までを理解できる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
保健医療福祉行政の歴史と制度	1	保健医療福祉行政の変遷	公衆衛生政策の基盤整備, 政策の充実と転換	大西
	2	保健医療福祉に関する制度	社会保障制度と公衆衛生行政, 地域保健の制度, 社会福祉の制度	大西
看護行政	3	香川県の看護行政	看護職の就業状況, 保健師助産師看護師法改正, 地域保健を取り巻く状況	起
保健医療福祉行政の仕組み	4	保健医療福祉行政	保健医療福祉行政の概要, 国と地方公共団体の行政の仕組み, 地方自治と地方分権, 情報公開と個人情報保護, 公務員と保健師活動	岡本
	5	保健医療福祉の財政	国と地方公共団体の財政の仕組み, 予算の機能と原則, 社会保障の給付と財源	岡本
地域ケアシステム	6	保健医療福祉行政の計画と評価	地方自治体の保健医療福祉計画, 地方自治体の計画策定, 計画の推進と管理・評価	岡本
	7	地域ケアシステムづくり	地域ケアシステムとは, 地域ケアシステムの構築	岡本
	8	まとめ		大西

学習方法

講義を中心として授業を展開するが、看護・保健・医療の社会的側面を理解するためには、常に政治、経済などの社会的動向に気配りできる態度を養うことが要求される。特に、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等の活用は社会の動きを知り、保健政策・保健活動のダイナミックな理解の上で有用である。積極的に活用することを希望する。

評価方法

試験、学習態度（出席等）、レポート等を総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書 野村陽子編:最新保健学講座7 保健医療福祉行政論, メヂカルフレンド社, 最新版

厚生統計協会:国民衛生の動向, 最新版

厚生統計協会:国民福祉の動向, 最新版

参考文献 藤内修二他:標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論, 最新版

柳澤健一郎編:衛生行政大要 改訂第20版, 日本公衆衛生協会, 2004.

日本看護協会保健師職能委員会監:新版 保健師業務要覧第2版, 2008.

オフィスアワー

講義終了後1時間

保健政策論 B

担当教員

非常勤講師	加藤 匡 宏	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター准教授
〃	須 那 滋	香川県立保健医療大学准教授
〃	星 川 洋 一	香川県健康福祉部健康福祉総務課副主幹
〃	丸 山 保 夫	香川県中讃保健福祉事務所次長・保健所長

授業概要

公衆衛生は、人々の健康を守り、増進し、また回復させるために社会により組織された活動の総体であり、具体的には公衆衛生学に立脚した社会的な実践活動である。公衆衛生の目的は、全ての人々があらゆる生活の場で健康を享受できる公正な社会の創造であるとされている。保健師として公衆衛生活動の一翼を担うためには、健康と社会・環境の関係や、自然科学と人文・社会科学の両者の基盤の上に立つ総合的・学際的な学問である公衆衛生を基盤として、まずそれらがコミュニティで展開される時の基本的方法論と地域保健活動について学ぶ必要がある。そこで本科目では、公衆衛生の歴史やシステム、方法論など公衆衛生の基本的事項を学ぶとともに、環境保健衛生や感染症対策についても学ぶ。なお、公衆衛生の各論に当たるライフステージ別の保健活動や健康課題別の保健活動については地域看護対象論で、公衆衛生学的な手法とエスノグラフィー的手法を用いた地域看護診断は地域援助論で学ぶため、三者を統合し理解すること。

一般目標

1. 公衆衛生学に立脚した社会的な実践活動である公衆衛生について理解する。
2. 公衆衛生の基本的方法論および地域保健活動を理解する。
3. 人々が健康な生活を送るために必要な保健対策（政策）を包括的・体系的に修得する。

行動目標

1. 健康と社会・環境の関係について説明できる。
2. 保健政策の基盤となる公衆衛生について説明できるとともに、公衆衛生活動の基本的方法論（保健計画を含む）及び地域保健活動・地域保健医療計画について説明できる。
3. 環境保健衛生対策について説明できる。
4. 栄養・食品保健衛生対策について説明できる。
5. 急性感染症対策について説明できる。
6. 慢性感染症対策について説明できる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
公衆衛生総論	1	公衆衛生の意義・定義と歴史	公衆衛生とは何か、公衆衛生の目標、公衆衛生の歴史、公衆衛生を学ぶ意義	加藤
	2	公衆衛生システムと政策	公衆衛生関係法規、公衆衛生システムの特徴と行政の役割、公衆衛生活動の場、公衆衛生専門職の役割とその変化	
	3	諸外国の公衆衛生政策	諸外国の医療制度と予防対策、諸外国の公衆衛生活動	
	4	これからの公衆衛生	ヘルスプロモーションと公衆衛生活動、公衆衛生・地域保健サービスと公的責任	
公衆衛生の方法論	5	公衆衛生の活動方法	集団の見方と健康指標、リスクファクター、スクリーニング、公衆衛生活動における疫学	
	6	統計情報の収集と見方	さまざまな統計情報と見方・扱い方、情報収集の方法	
	7	公衆衛生活動のプロセス	ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ、Plan-Do-Check-Action (PDCA サイクル)	
健康増進	8 9	健康づくり方法論	社会情勢と健康課題、対象としての個人・家族・集団・組織の捉え方、コミュニティおよびコミュニティで生活する人々への支援活動の展開方法、健康づくり計画や事業計画の策定と評価、	星川
環境保健衛生	10	環境保健衛生対策	現状、制度関係法規、他	須那
	11	栄養・食品保健衛生対策	現状、制度関係法規、他	
	12			
感染症対策	13	急性感染症対策	理論、現状、制度、関係法規、展望、他	丸山
	14	慢性感染症対策	結核、ハンセン病、性感染症、エイズ、関係法規、他	
	15	まとめ		

学習方法

講義を中心として授業を展開するが、保健政策論Aと同じく、看護・保健・医療の社会的側面を理解したり、今現在起きている社会的事象を理解するためには、常に政治、経済などの社会的動向に気配りできる態度を養うことが要求される。特に、新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等の活用は社会の動きを知り、保健政策・保健活動のダイナミックな理解の上で有用である。積極的に活用することを希望する。

評価方法

試験、学習態度（出席等）、レポート等を総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書 平野加代子他編：ナーシング・グラフィカ⑧ 公衆衛生，MC メディカ出版，最新版.
厚生統計協会：国民衛生の動向，最新版.

オフィスアワー

授業終了時に対応する

社会福祉・社会保障論 A・B

担当教員

非常勤講師	島 影 俊 英	四国学院大学社会福祉学部	教授
	合 田 盛 人	四国学院大学社会福祉学部	准教授
	橋 本 卓 也	大阪保健医療大学保健医療学部	講師
	樽 井 康 彦	同志社大学社会学部	助教
	川 口 郁 代	医学部附属病院地域連携室	MSW
教 授	平 尾 智 弘	香川大学医学部公衆衛生学	
	大 森 美津子	(老年看護学)	
	祖 父 江 育 子	(小児看護学)	
	當 目 雅 代	(成人看護学)	
	松 井 妙 子	(在宅看護学)	
准 教 授	越 智 百 枝	(精神看護学)	
協 力 者	森 口 はる な	(医学部附属病院地域連携室 MSW)	

授業概要

人々の生命や生活の質を保障する社会の仕組みとして社会保障制度がある。人々の健康にかかわる保健医療職者は社会福祉の基本的理念、社会福祉・社会保障にかかわる法や諸制度を理解した上で、看護の実践を行う。本講義は、人々の健康的で幸福な生活を実現するための社会保障の理念と基本的な制度について学ぶ。また、社会福祉・社会保障にかかわる基本的知識、社会福祉実践の展開に必要な援助技術と態度を学ぶ。さらに事例などをおして保健医療福祉の実践と専門職者間の相互の連携のあり方についても学ぶ。

これらの学習をおして、生活者の生活問題に対応し、看護の専門職者として、社会福祉・社会保障制度の現状をよりよい方向に発展させていくための姿勢を培う。

一般目標

1. 社会保障制度の歴史的な経過や全体像を把握しつつ、社会保障および社会福祉の基本的理念を学び、生活者の生活問題に対応できる基礎的知識を養う。
2. 福祉と保健・医療のかかわりを理解し、現状の問題・課題を解決するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。

行動目標

1. 社会保障の歴史的経過および基本的制度の枠組みを説明できる
2. 社会福祉の理念、社会福祉の歴史と人々の福祉ニーズの変化を説明できる
3. 社会福祉関連法の目的・施策、制度を説明できる
4. 医療保険制度とその仕組みについて説明できる
5. 児童・母子・高齢者・障害者の対象別支援方法と諸サービスの目的と内容を説明できる
6. 社会福祉実践の基本となる援助技術および倫理について説明できる
7. 保健医療の現場における福祉問題を解決するための方法を説明できる

授業内容

2年次 前期(A)・必修 1単位(30時間), 前期(B)・必修 1単位(30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
社会福祉・社会 保障論A	1	社会保障の理念・概要	保健医療福祉活動の基本	松井 島影
	2	社会保険制度	社会保険の変遷と年金制度	島影
	3		医療保険制度	平尾
	4		医療保険制度	平尾
	5		介護保険制度	合田
	6	介護保険制度	合田	
	7	社会福祉の理念と概要	社会福祉とは	島影
	8		社会福祉の理念と変遷	島影
	9	社会福祉法の理念と施策	障害者(児)の施策	樽井
	10		児童への施策	樽井
	11		生活保護法と施策	橋本
	12		老人への施策	橋本
	13	社会福祉行政	保健福祉計画・社会福祉の民間活動	合田
	14		国・地方公共団体の行政、組織およびマンパワー	合田
	15	まとめ		松井
社会福祉・社会 保障論B	16	社会福祉の実践	高齢者の人権と対人援助職者の基本姿勢	松井・橋本
	17		地域福祉とソーシャルサポートネットワーク	橋本
	18		利用者(当事者)主体ーその概念と実践の可能性ー	橋本
	19		障害とはーその構造と障害当事者のエンパワメント 過程ー	橋本
	20	看護実践と社会福祉	成人の健康問題と福祉・	當目
	21		社会福祉活動の実際：事例(成人期) 1	當目・森口
	22		老人の健康問題と福祉	大森
	23		社会福祉活動の実際：事例(老人期) 2	大森・森口
	24		母子の健康問題と福祉	祖父江
	25		社会福祉活動の実際：事例(小児期) 3	祖父江・川口
	26		精神障害者の健康問題と福祉	越智
	27		社会福祉活動の実際：事例(精神的問題) 4	越智・川口
	28		在宅療養者への看護と福祉の実践①	松井
	29		在宅療養者への看護と福祉の実践②	松井
	30	まとめ	松井	

学習方法

日常の社会や生活上の社会福祉・社会保障制度に関心をもち、課題を追求し、実践を通して、学んだ理論や実践的知識をさらに深めていく姿勢が必要である。授業はオムニバス方式であるため各講義・演習に出席することが履修の最低条件である。

評価方法

担当講師によるミニテストおよびレポート、受講態度・出席状況等により総合的に評価する。

教科書及び参考文献

参考書：福田素生 他；系統看護学講座専門基礎健康支援と社会保障制度【3】社会福祉、医学書院、2010。

保 健 統 計 論

担当教員

教 授 真 鍋 芳 樹 (アドミッションセンター)

授業概要

保健統計とは、健康増進、疾病予防、医療等人の健康に関する統計のことを指す。保健統計は、厚生労働省をはじめとする各省庁や、地方公共団体の行政施策の基礎資料となるほか、民間企業などでも利用されている。そこで、保健統計の種類と意義を学習し、わが国の保健統計の変遷および現状等について理解を深める。

また、21世紀の保健師・看護師には、情報の収集・整理及び活用、調査・研究、種々の計画策定等の企画調整等に関する能力を求められている。

学生は、この授業を通じて、種々の政策策定者を初めとする意思決定者は客観的に意思決定を行う必要があり、その客観的意思決定は客観的データに基づいたものによること、その客観的データは加工されていない生のデータでなければならないこと等を学習する。そのために、情報を検索し、収集して客観的データを集積し、統計的・疫学的手法を用いて解析・分析し、演繹推論のみならず帰納推論を用いて仮説を立て、その仮説を検証し、さらにその延長上に問題解決、意志決定、創造、評価等を、自らが行える資質を養うことが重要である。

一般目標

人間集団に発生するあらゆる健康事象を考える際、その集団の大きさ（人口数）と質を無視することはできない。人口統計・保健統計として、わが国や世界における人口の量や質、またその動きを知り、さらに健康に関する各種保健統計の実際と方法論を習得する。

さらに、データに基づいて意思決定を行うためには、明確な目的意識および適切な計画を立案してデータを収集する必要があること理解する。統計的評価を行うために、データの分布や水準に応じた適切な統計解析手法を適用する。統計的解析結果を適切に判断するために、統計的検定による有意は保健医療看護等における有意と必ずしも一致しないことを理解する。

行動目標

1. 人口、人口の種類、人口の現状と推移について述べる。
2. 出生率、死亡率等の意味と現状と推移について述べる。
3. 生命表、生命関数、統計資料、国際疾病（ICD）について述べる。
4. 受療率、有訴率、国民生活基礎調査、患者調査、医療施設調査、国民栄養の現状と推移について述べる。
5. データの水準、データの持つ意味について説明する。
6. 記述統計的アプローチを説明し、適応する。
7. 推測統計的アプローチを説明し、適応する。
8. 統計的検定を説明する。
9. 2変量データの統計的解析法について説明し、選択、適応できる。
10. 問題解決、意思決定に統計的手法を応用できる。
11. 統計的解析結果について解釈し、関連付ける。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (15回、30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
人口統計	1	人口静態統計	主な健康指標 主な人口指標 国勢調査 日本の人口・世界の人口 人口ピラミッド 年少人口指数 老年人口指数 老年化指数	真鍋
	2	人口動態統計	出生統計の概要 出生率 再生産率 合計特殊出生率 総再生産率 純再生産率 死産の概要 婚姻の概要 離婚の概要	
	3		死亡統計の概要 悪性新生物死亡の概要 脳血管疾患死亡の概要 心疾患死亡の概要 ICDの概要	
	4	生命表	生命表 平均余命・寿命 生命関数	
保健統計	5	指定統計	国民生活基礎調査 有訴率 受療率 患者調査 医療施設調査 学校保健統計 国民栄養調査	
データ概論1	6	データの基礎	データ収集法 調査の計画と実施 調査の作成 調査方法 データの水準	
データ概論2	7	記述統計	度数分布とヒストグラム 代表値と散布度	
	8		帰無仮説と対立仮説 有意水準・有意確率	
	9		相関と回帰 統計的検定・推定手法の手引き	
	11		2標本の平均値の差の検定	
	12		1標本の平均値の差の検定	
	13		独立性の検定	
	14		適合度検定	
	15		講義に合わせて適宜データ解析演習を行う	

学習方法

「データ」や「社会」は具体的に手に取って見ることのできる物質ではないが、厳然として存在している。各種疫学データや各種統計データの分析や見聞を通じて「社会」を実感していく必要がある。

評価方法

試験、学習態度（出席等）、レポート等を総合的に評価する。

教科書及び参考文献

「国民衛生の動向」を用意しておくこと。

教科書・参考書については、追って連絡する。

オフィスアワー

火曜日 16:30 ~ 18:30

16 成人看護学

成人看護学実習

担当教員

教授	當目雅代	教授	清水裕子
講師	金正貴美	助教	野口英子
助教	竹内千夏	助教	小笠美春

授業概要

本実習は3つの段階で構成される。

まず、第一段階の成人看護学実習Ⅰは臨地実習の導入であり、学内において成人患者の代表的な疾患を通してアセスメント能力および援助に必要な看護技術を習得し、対象に応じた援助が提供できる能力を養う。

第二段階の成人看護学実習Ⅱ・Ⅲでは、臨床において成人看護学ならび関連領域科目で学んだことを基盤に、理論、知識、技術を適用して、成人各期にある患者とその家族を多面的、総合的に理解するとともに、対象とその家族の疾病・機能障害の経過別各期（急性期、慢性期、リハビリテーション期、終末期）の特性に応じた個別的な看護過程を展開する能力を養う。さらに、それらの体験を通して、学生個々の看護観を培い、看護者及び人間としての成長・発達を促進する。

第三段階の成人看護学実習Ⅳは、病院施設から本来の生活の場への復帰するシステムおよび看護活動の見学を通して、成人看護学の目的・役割・機能を統合する。

一般目標

- 1-1) 成人患者の代表的な疾患の病態生理および治療の目的を理解し、身体機能の観察および評価ができる。
- 1-2) 成人患者の看護援助に必要な看護技術の方法および注意点について説明できる。
- 1-3) 成人患者の看護援助に必要な看護技術を正確に習得できる。
- 2-1) 成人及び疾病や機能障害の各期（急性期、慢性期、リハビリテーション期、終末期）にある対象個々とその家族を看護理論、看護モデルを活用して多面的、総合的に理解するとともに、その人らしさ（独自性）を尊重した個別的な看護過程の展開ができる基礎的能力を養う。
- 2-2) 成人および疾病・機能障害の各期にある対象個々とその家族に対する自己や他者の看護体験を考察し、各々の見方・考え方を深める。
- 2-3) 保健医療チームの一員として患者とその家族の看護援助及び看護管理に参加・協力し、保健医療チームにおいて看護が果たすべき役割を考察する。
- 2-4) 自己の看護者および人間としての成長・発達を客観視して捉えるとともに、さらなる成長・発達に向けて自己の課題を考察する。
- 3-1) 社会復帰を目指したリハビリテーション施設における看護職の役割とその他の職種との連携

を知る。

3-2) 退院および転院後の患者への継続看護の視点から医療連携のあり方、看護職およびその他の職種役割と活動を知る。

3-3) 終末期の患者に対して提供される緩和ケア病棟における看護職の役割を知る。

行動目標

「看護学実習の手引き-成人看護学実習の項」を参照

授業内容

4年次 必修 8単位(360時間) 平成21年11月から平成22年7月

3年次 必修 8単位(360時間) 平成22年10月から開始し、平成23年に引き続く

4年次生の詳細については、「2009年度から2010年度看護学実習の手引き-成人看護学実習の項」を参照

3年次生の詳細については、夏季に配布される「2010年度から2011年度の看護学実習の手引き」を参照

学習方法

詳細については、「看護学実習の手引き-成人看護学実習の項」を参照

評価方法

詳細については、「看護学実習の手引き-成人看護学実習の項」を参照

教科書及び参考文献

成人看護学に関連する全ての科目の教科書・推薦参考書

オフィスアワー

随時

17 老年看護学

老年看護学実習 I

担当教員

教 授 大 森 美津子
助 教 西 村 美 穂

授業概要

高齢者福祉施設での生活の援助を通して、人生の完結期にある高齢者を総合的にとらえ、老化や健康障害による問題を把握し、対象の価値観を尊重した対応を習得するとともに高齢者を取りまく保健・医療・福祉に関する諸制度・諸資源の役割と連携について学ぶ。

一般目標

1. 老年期にある人々の特徴を理解し、生活の質の向上を目指した看護や介護の必要性を判断し、老年看護の基本的能力を習得する。
2. 老年期にある人々の保健、医療、福祉の連携について理解する。

行動目標

1. 疾病や治療の概略を説明できる。
2. 対象者の発達課題の特性について述べるができる。
3. 老化現象が対象者に及ぼしている影響について説明できる。
4. 高齢者の施設での生活状況について述べるができる。
5. 施設で生活したり、通所介護サービス（デイサービス、デイケア）に通う高齢者の看護に関わる問題について説明できる。
6. 施設で生活したり、通所介護サービスに通う高齢者を抱える家族の問題について述べるができる。
7. 対象者の特性を踏まえて、その個別性を尊重した援助について考えることができる。
8. 高齢者や家族の感染予防と安全対策について述べるができる。
9. 高齢者や家族に対して、倫理的配慮に基づいた対応ができる。
10. 通所介護サービスの意義と役割について述べるができる。
11. 施設・行政・病院・地域ボランティアとの連携を述べるができる。
12. 施設(介護老人保健施設、特別養護老人ホームなど)の役割や機能について述べるができる。
13. 老年看護、老年観について自己の考えを述べるができる。

実習内容

詳細については「看護学実習の手引き 老年看護学実習 I」を参照。

授業内容

3年次 必修 2単位 (90時間)

学習方法

詳細については「看護学実習の手引き 老年看護学実習Ⅰ」を参照。

評価方法

出席状況、実習態度、実習記録、レポートなどを総合して評価する。

教科書及び参考文献

1. 川島みどり監訳：ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開、エルゼビア・ジャパン、2006
2. 久間圭子訳：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル 生活行為に基づくイギリスの看護、日本看護協会出版会、2006
3. 久間圭子：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデルの実践 生活行為に基づく看護過程、メディカ出版、2007
4. 伊藤雅治、井部俊子：特別養護老人ホーム看護実践ハンドブックー尊厳ある生活を支えるために、中央法規出版、2006
5. 鳥海房枝：高齢者施設における看護師の役割ー医療と介護を連携する統合力、雲母書房、2007
6. 六角僚子：認知症ケアの考え方と技術、医学書院、2005
7. 山田律子、井出訓：老年看護過程、医学書院、2008
8. 水野裕：実践パーソン・センタード・ケア、ワールドプランニング、2008
9. 篠崎人理：ケアワーカーが語るバリデーション、筒井書房、2006
10. 大淵律子、堀内ふき、金子昌子編：老年看護学 老年看護の実践、メディカ出版、2005
11. 折茂肇監修、青木民子他編：高齢者看護セミナー 高齢者の特徴と日常生活看護のポイント、メジカルレビュー、2003
12. 堀内ふき、大淵律子、金子昌子編：老年看護学 高齢者の健康と障害、メディカ出版、2005
13. グループホームのケアを考える会：事例を交えて学ぶ認知症高齢者グループホーム Q&A、中央法規出版、2007
14. 三好春樹：老人の生活ケア、医学書院
その他資料を別に示す

オフィスアワー

後期・木曜日 16時20分～17時20分

老年看護学実習Ⅱ

担当教員

教 授 大 森 美津子
助 教 西 村 美 穂

授業概要

老年看護学実習は、人生の完結期にある高齢者を総合的にとらえ、老化や健康障害による問題を把握し、対象となる人の価値観を尊重した対応を習得することを目的とする。

本実習では、地域で生活をする高齢者の特徴と老化、健康レベルに応じた援助を考察する。

一般目標

1. 疾病や機能障害のある高齢者とその家族を、発達段階、老化現象、対象者の個別性等も踏まえて総合的に理解する。
2. 対象理解を行った上で対象の持つ問題を明らかにし、継続看護が行える基礎的能力を養う。

行動目標

1. 疾病や治療の概略を説明できる。
2. 対象者の発達段階について述べることができる。
3. 老化現象が対象者に及ぼしている影響について説明できる。
4. 在宅で療養生活を営む高齢者の状況について述べることができる。
5. 高齢者の在宅での生活や通院に伴う看護に関わる問題について述べることができる。
6. 疾病や機能障害のある高齢者を抱える家族の問題について述べることができる。
7. 対象者やその家族の特性を踏まえて、その個別性を尊重した援助について考えることができる。
8. 高齢者に対する医療・保健・福祉の連携について述べることができる。
9. 高齢者や家族の感染予防と安全対策について述べることができる。
10. 対象者や家族に対して、倫理的配慮に基づいた対応ができる。
11. 老年観について述べることができる。

実習内容

詳細については、「看護学実習の手引き 老年看護学実習Ⅱ」を参照。

授業内容

4年次 必修 1単位（45時間）

学習方法

詳細については、「看護学実習の手引き 老年看護学実習Ⅱ」を参照。

評価方法

出席状況、実習態度、実習記録、レポートなどを総合して評価する。

教科書及び参考文献

1. 川島みどり 監訳：ローパー・ローガン・ティアニーによる生活行動看護モデルの展開、エルゼビア・ジャパン、2006
 2. 久間圭子 訳：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデル 生活行為に基づくイギリスの看護、日本看護協会出版会、2006
 3. 久間圭子：ローパー・ローガン・ティアニー看護モデルの実践 生活行為に基づく看護過程、メディカ出版、2007
 4. 介護保険研究会：新しい介護保険制度Q&A 平成17年改正法の要点、中央法規出版、2006
 5. 山崎摩耶：新版 ケアマネジャーバイブル、日本看護協会出版会、2006
- その他、既習の看護学及び関連分野の教科書・推薦参考書。

オフィスアワー

前期・月曜日 16時20分～17時20分

18 小児看護学

小児看護学実習 I

担当教員

教 授 祖 父 江 育 子
准 教 授 谷 本 公 重
助 教 三 上 順 子

授業概要

保育園・幼稚園で健康な子どもと触れ合い、発達段階に応じたコミュニケーションについて学習する。また、小児看護学概論、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、発達心理学などで学んだ健康な小児に関する基礎的知識を統合し理解を深める。小児の成長・発達を促すために必要な知識・技術・態度を養うとともに、健康な小児の看護について理解し、地域における小児保健の推進活動について学習する。

一般目標

1. 健康な小児の成長・発達と、各発達段階における生活について学習する。
2. 小児のコミュニケーションの発達過程について理解を深め、小児の発達に応じた人間関係形成能力を養う。
3. 小児保健や小児の安全に関する教育・管理活動について学習する。

行動目標

1. 健康な乳幼児の成長・発達について観察、評価できる。
2. 各発達段階の遊びの特徴を理解し、適切な関わりができる。
3. 小児の発達段階にあった日常生活援助ができる。
4. 成長・発達を促す適切な援助について説明できる。
5. 小児と良好なコミュニケーションが築ける。
6. 小児の成長・発達に合致した保健と安全に関する教育や管理について説明できる。
7. 小児の保健・福祉に関する実践を支える理念、法的根拠を説明できる。
8. 子どもの発達段階に応じた健康維持・増進のための援助方法について説明できる。
9. 子どもの個人情報の保護について配慮できる。

授業内容

3年次 必修 1単位 (45時間)

実習内容

実習の時期と時間、実習内容と方法、グループ分け、担当指導教員、配属保育所・幼稚園名、オリエンテーション、カンファレンスなどの詳細については、実習の手引きを参照する。

学習方法

1. 各保育園・幼稚園でのオリエンテーションを通して、発達段階別の保育のねらいや内容を理解し、それに基づいて実習する。
2. 各発達段階にある小児の生活から運動機能、知的機能、言語の発達や社会性、日常生活習慣の獲得について観察し、評価する。
3. 小児、教員、学生間のコミュニケーションの場面の観察・実践から、各発達段階における小児のコミュニケーションの特徴を理解し、小児の健全な社会性を育てるあり方について検討する。
4. 遊びの場面を通して、遊びの意義や発達との関連性について理解を深める。
5. 乳幼児の生活の場としての環境について、発達段階別に観察・考察する。
6. 各施設の設置目標、設置基準等を通して、小児の保健・福祉に関する関係法規に対する理解を深める。

評価方法

出席状況、実習態度、レポートなどを総合して評価する。

教科書及び参考文献

中野綾美：小児の発達と看護、メディカ出版

中野綾美：小児看護技術、メディカ出版

その他、小児看護学概論、小児援助論Ⅰ・Ⅱ等で示した資料や関連図書

小児看護学実習Ⅱ

担当教員

教 授 祖 父 江 育 子
准 教 授 谷 本 公 重
助 教 三 上 順 子

授業概要

本実習は、小児と家族への基礎的看護実践能力と問題解決能力の育成を目的とする。小児の健康障害について科学的根拠に基づきアセスメントできる能力と看護診断能力を養い、健康障害が及ぼす小児とその家族に対する現在および将来の健康問題を包括的に理解する。さらに小児とその家族の発達段階や健康レベルに応じた適切な看護を計画・実践・評価できる基礎的知識・技術・態度を身につける。また、医療チームの一員としての小児看護の役割と責任についての理解を深める。

一般目標

1. 小児とその家族の健康障害による現在および将来の健康問題のアセスメントと看護診断について学ぶ。
2. 小児とその家族の健康障害に対する看護介入を計画・実践・評価する方法について学ぶ。
3. 医療チームの一員としての小児看護の役割を理解し、看護活動に協働する態度を習得する。

行動目標

Ⅱ 行動目標

1. 全体の行動

小児病棟・外来において行われる患児と家族への看護を通して、以下の目標を達成する。

- 1) 小児病棟と外来の役割と機能および看護活動の実際を理解する。
- 2) 健康障害を有する小児と家族の療養上の問題を理解し、小児と家族の発達課題の達成を促進するための看護の役割と援助活動を学ぶ。
- 3) 小児病棟において行われる小児看護技術の実際を学び、基礎的知識と応用技術の適合を図る。
- 4) 小児看護における感染防止の必要性を理解し、実践できる。
- 5) 小児の安全を守るために事故防止のための援助が実践できる。
- 6) 医療チームの一員として、協働して看護活動が実践できる。

2. アセスメント

- 1) 小児の成長発達を観察し、アセスメントできる。
- 2) 小児の健康障害の状況を疾患の病態生理、症状、治療方針から理解し、現在の問題および予測される問題をアセスメントできる。

- 3) 小児の注意すべき症状を観察し、アセスメントできる。
- 4) 家族が抱えている問題を総合的に理解し、援助すべき問題をアセスメントできる。
- 5) 小児の健康問題を適切に看護診断できる。
- 6) 看護診断に基づいて適切な看護計画を立案できる。

3. 実践

- 1) 小児の発達段階や心理的特徴を理解し、その患児に応じたかかわりやコミュニケーションを工夫し、発達を促進するための適切な援助ができる。
- 2) 立案した看護計画に基づいて安全や安楽性、プライバシーをふまえ、看護を実践できる。
- 3) 小児の QOL やセルフケア能力を考慮した日常生活の援助ができる。
- 4) 小児に適した遊びや生活指導を計画・実践できる。

4. 倫理的配慮

- 1) 小児や家族に対する倫理的配慮に基づいた看護が実践できる。
- 2) 小児と家族の個人情報の保護について配慮できる。

授業内容

3・4年次 必修 2単位 (90時間)

実習方法

詳細については、「小児看護学実習 II の手引き」を参照。

学習方法

詳細については、「小児看護学実習 II の手引き」を参照。

評価方法

評価は実習到達度、記録類、態度・出席日数等により総合的に判断して評価する。

教科書及び参考文献

- 中野綾美：小児の発達と看護、メディカ出版
- 中野綾美：小児看護技術、メディカ出版
- 及川郁子監修：健康な子どもの看護、メヂカルフレンド
- 及川郁子監修：病と共に生きる子どもの看護、メヂカルフレンド
- 及川郁子監修：発達に障害のある子どもの看護、メヂカルフレンド
- 及川郁子監修：予後不良な子どもの看護、メヂカルフレンド

その他、小児看護学概論、小児援助論 I・II 等で示した資料や関連図書

19 母性看護学

母性援助論Ⅱ

担当教員

教授	内藤直子
准教授	佐々木睦子
助教	片山理恵

授業概要

女性の生涯の中でも特に発達危機に陥りやすい周産期（妊娠・分娩・産褥）にある女性および新生児と、その家族の特性の理解と援助方法について学ぶ。具体的には妊娠・分娩・産褥の期間をとおして、母体および胎児・新生児の健康を維持・促進、および異常を予防できるよう援助するために必要な基本的知識および基本的援助技術を学ぶ。

一般目標

1. 対象の健康レベルを **wellness** な視点からアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を身につけるために、周産期にある女性および新生児の心身の健康現象（生理的变化と病態生理・心理社会的変化）を理解する。
2. 対象の健康レベルを **wellness** な視点からアセスメントする能力を活用してマタニティ診断し、看護実践を支える基本技術と、日常生活への適応を促進する援助技法、さらに、ハイリスク状況となった人々への援助技法と評価法を習得する。
3. 対象への良い援助を行うために、妊娠期および産褥期にある女性の看護過程をロイ適応看護モデルを用いて展開し、クリティカルな看護介入技法を習得する。
4. 受け持ち対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、および倫理的責任感について理解できる。

行動目標

1. 産褥の経過と産褥経過に影響を及ぼす因子を述べる。
2. 産褥経過における生理的变化、心理・社会的健康、及び家族の反応を述べる。
3. 産褥期にある女性への基本的な援助技法が理解できる。
4. 産褥期にある女性への基本的な援助技法と評価法を実施する。
5. 新生児の胎外生活への適応と生理的特性を学習する。
6. 新生児への基本的な援助技法と評価法を述べる。
7. 周産期にある母性の看護過程が理解できる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
正常な産褥	1	正常な産褥のアセスメント	1. 産褥経過 2. 母乳育児 3. 出産後の家族への看護	佐々木
	2	正常な褥婦の看護援助（復古現象）	1. 産褥期女性の健康を促進させるための援助 1) 生理的復古現象を促進させるためのケア 2) 会陰部創傷治癒に対するケア	佐々木
	3	正常な褥婦の看護援助（進行現象）	1. 産褥期女性の健康を促進させるための援助 1) 進行現象を促進するためのケア 2) 母乳育児に向けてのケア	佐々木
	4	産褥期の日常ケア 産褥期の保健指導 産褥期のメンタルヘルスケア	1. 健康生活に必要なセルフケア能力の獲得への支援 2. マイナートラブルを緩和させるためのケア 3. 産後に必要な届出と適用される母子保健施策 1. 産褥期のメンタルヘルスケア 2. 役割獲得への支援	佐々木
ハイリスク産褥	5	ハイリスク褥婦の援助	1. ハイリスク褥婦への援助 1) 子宮復古不全 2) 外陰・腔内の血腫 3) 産褥期の感染	佐々木
	6	ハイリスク褥婦の援助	1. ハイリスク褥婦への援助 1) 産褥精神障害（産褥マタニティブルー，うつ） 2) 周産期の死別	佐々木
正常な産褥の看護援助	7	産褥期アセスメント 演習	1. 演習オリエンテーション 2. デモンストレーション 1) 子宮底の観察と子宮底輪状マッサージ 2) 外陰部消毒	佐々木 片山 内藤
	8	産褥期アセスメント 演習	1. デモンストレーション 1) 乳頭乳輪マッサージ，乳房基底部マッサージ，搾乳，乳房トラブル 2) 授乳姿勢（抱き方，乳頭の含ませ方，排気）	佐々木 内藤 片山
正常な新生児	9	正常な新生児のアセスメントと看護援助	1. 新生児看護の原則 2. 新生児の栄養 3. 新生児と家族	佐々木
ハイリスク新生児	10	ハイリスク新生児の援助	1. 新生児合併症 2. 低出生体重児 3. 先天異常，障害を持つ新生児	佐々木
正常な新生児の看護援助	11	新生児期アセスメント 演習	1. デモンストレーション 1) 新生児の観察 2) 沐浴	佐々木 片山 内藤
理論に基づく看護過程	12	周産期の看護実践	1. 周産期事例の看護過程展開 1) ロイ適応看護モデル 2) ロイ4様式の情報収集とアセスメント 3) レポート作成と記録用紙	内藤

産褥期の看護過程展開	13	周産期の看護実践	1. 産褥期事例の看護過程展開 2. 帝王切開事例の看護過程展開 3. マタニティ診断	内藤 佐々木 片山
産褥期の看護過程展開	14	周産期の看護実践	1. 産褥期事例の看護過程展開	内藤 佐々木 片山
評価	15	試験	まとめ・評価・試験	内藤 佐々木 片山

学習方法

- 1) 講義、デモンストレーション、PBLによるスモールグループ学習など学生間の討議を導入しながら展開する。学生が内在化している自身の母性観、父性観を確認しながら、対象を共感的に理解する視点を醸成する。特に臨床看護実践に必要な基本的技術の習得には、個別指導を導入する。
- 2) 教材：ビデオ教材、保健指導媒体

評価方法

- 1) 発問に対する応答性
- 2) レポートの内容
- 3) 出席状況
- 4) 学習態度
- 5) 筆記試験などの総合評価

教科書及び参考文献

テキスト必携

1. 森 恵美、高橋真理：母性看護学各論(2) 専門 25, 医学書院、2007.
2. 村本淳子、高橋真理：周産期ナーシング、ヌーヴェルヒロカワ、2007.
3. 村本淳子、高橋真理：女性のライフサイクルとナーシング、ヌーヴェルヒロカワ、2007.
4. 村本淳子、高橋真理：ウイメンズヘルスナーシング概論、ヌーヴェルヒロカワ、2007.
5. 日本助産診断・実践研究会編著：マタニティ診断ガイドブック第2版、医学書院、2007.

参考図書

1. サリーインチ、戸田奈津子訳：バースライツ、メディカ出版、1992.
 2. 小田正枝編：ロイ適応モデル看護過程と記録の実際、第2版、廣川書店、2001.
 3. 根津八紘：乳房管理学、諏訪メディカルサービス、1991.
 4. ネオナーシング研究会：新生児沐浴手順、メディカ出版、1991.
- その他、適時、提示する

オフィスアワー

毎回授業終了後 ～ 17：30 までオフィスアワーとしますので、各教員研究室へお越しください。

母性看護学実習 I

担当教員

教 授	内 藤 直 子
准 教 授	佐々木 睦 子
助 教	片 山 理 恵

授業概要

学生は、既習の母性看護の知識・技術、並びに関連分野の知識を統合させ、母性の well-being がより望ましく wellness 型で発達段階へ移行するような看護実践力を学習する。

一般目標

1. リプロダクティブヘルス・ライツの観点から、妊娠期にある母性の生理的変化と病態生理を学び、対象の適応レベルを wellness な視点からアセスメントする。
2. 母性看護学の意義や理論と、臨地での実習体験を統合して、wellness 型看護診断に基づくマタニティ診断をクリティカルに用いて看護過程を展開し効果的な看護介入を実践する。
3. 在宅女性の家族支援や看護介入が他職種とリンクしながら看護を展開していることを理解する。
4. 受け持ち対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、及び倫理的責任課題について理解できる。

行動目標

1. 妊婦の生理的変化と病態生理を関連づけ、母体と胎児の健康診査に参加する態度のあり方を理解する。
2. Wellness な視点から妊婦・褥婦の健康レベルを明確にし、健康維持及び増進を促す看護介入計画を立案する。
3. 母子関係及び家族関係の成立状況や心理的変化を観察し、理解できる。
4. 母子保健医療チームの一員として、母子保健の関連法規、他職種の役割、及び他職種との相互連携の実際について理解する。
5. 受け持ち事例をとおして、人格の尊重、人間としての尊厳、プライバシーの擁護、自己決定権の擁護など、倫理的観点に基づいて行動できる。

授業内容

3 年次後期 必修 1 単位 (45 時間)

実習方法

詳細については、「看護学実習の手引き-母性看護学実習Ⅰ（3年次）」実習内容を参照。

学習方法

詳細については、「看護学実習の手引き-母性看護学実習Ⅰ（3年次）」実習方法を参照。

評価方法

出席状況、看護過程の理解度と展開状況、学習の意欲などを総合して評価する。

教科書及び参考文献

母性看護学概論、母性援助論Ⅰ、母性援助論Ⅱで提示した、資料や参考書を効果的に活用していただきたい。関連図書や他領域の文献を参照することが望ましい。

オフィスアワー

実習期間中、毎日16:00～17:00の間に、適時教員研究室にお越しく下さい。

母性看護学実習Ⅱ

担当教員

教 授	内 藤 直 子
准 教 授	佐々木 睦 子
助 教	片 山 理 恵

授業概要

学生は、周産期にある女性および家族の看護を体験し、既習の母性看護学の知識・技術、並びに関連分野の知識を統合させ、母性の **well-being** がより望ましく **wellness** 型で発達段階へ移行するような看護実践力を学習する。

一般目標

1. リプロダクティブヘルスの観点から、周産期にある母性および新生児の生理的変化と病態生理を関連づけるために、対象の健康レベルの変化や、内的・外的刺激への適応レベルを **wellness** な視点からアセスメントする。
2. 母性看護学の意義や理論と、臨地での実習体験を統合するために、ロイ適応看護モデルと **wellness** 型看護診断に基づくマタニティ診断をクリティカルに用いて看護過程を展開し、効果的な看護介入を実践する。
3. 受け持ち対象をとおして、倫理的観点に基づいた状況判断や実践、および倫理的責任感について理解できる。

行動目標

1. 到達目標

- 1) 周産期にある母性および新生児の生理的変化と病態生理を関連づけ、母と子の健康診査に参加する。
- 2) **wellness** な視点から周産期にある母性および新生児の健康レベルを明確にし、健康維持および増進を促す看護介入をする。
- 3) 母子関係、および家族関係の成立状況や心理的变化を観察し、看護介入が実施できる。
- 4) 母子保健医療チームの一員として、母子保健の関連法規、および他職種の役割、他職種との相互連携について理解できる。
- 5) 受け持ち事例をとおして、人格の尊重、人間としての尊厳、プライバシーの擁護、自己決定権の擁護など、倫理的観点に基づいて行動できる。

2. 各期別到達目標

1) 妊婦の看護

在宅妊婦及び胎児の健康上の問題を正しく理解し、妊娠によって起こる変化に対する妊婦・胎児の適応状況を理解する。

2) 産婦の看護

- (1) 分娩期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化(刺激)から、対象の適応状況を評価できる。
- (2) 産婦の看護の必要性を見だし、適応状態に合致した看護介入の方法が理解できる。
- (3) 産婦をとおして関わった他職種の役割、相互依存について理解できる。

3) 褥婦の看護

- (1) 産褥期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化(刺激)から、対象の適応状況を考察する。
- (2) 褥婦の看護の必要性を見だし、その適応状態から、必要な援助方法を工夫し実施する。
- (3) 産褥期の心理社会状況を理解し、MFIU入院の褥婦と新生児、又はNICU入院の出生児との母子関係や家族関係の現象を観察し、看護介入のあり方を考察する。
- (4) 産褥期をとおして関わった他職種の役割、相互連携の重要性を理解する。

4) 新生児の看護

- (1) 新生児の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化を理解する。
- (2) 新生児の看護の必要性を見だし、看護介入の方法を理解する。

授業内容

3年次後期から4年次前期 必修 2単位(90時間)

実習方法

詳細については、「看護学実習の手引き—母性看護学実習Ⅱ(4年次)」実習内容を参照。

学習方法

詳細については、「看護学実習の手引き—母性看護学実習Ⅱ(4年次)」実習方法を参照。

評価方法

出席状況、看護過程の理解度と展開状況、臨地実習への意欲などを総合して評価する。

教科書及び参考文献

母性看護学概論、母性援助論Ⅰ、母性援助論Ⅱで提示した、資料や参考書を効果的に活用していただきたい。関連図書や他領域の文献を参照することが望ましい。

オフィスアワー

実習期間中、毎日 16 : 00 ~ 17 : 00 の間に、適時教員研究室にお越してください。

20 地域看護学

地域看護対象論

担当教員

教授	大	西	美	智	恵
教授	松	井	妙	子	
准教授	越	田	美	穂	子
助教	諏	訪	亜	希	子

授業概要

人々の健康に直接的・間接的に関わる保健・医療・福祉に関する政策や法制度について理解し、それらを踏まえて、人生の全ライフステージにおける健康レベルに応じた支援の方法を学ぶ。

一般目標

1. 各ライフステージの特徴や健康課題を知り、それぞれの時期の発達課題に応じた支援のあり方を理解する。
2. 難病患者や障害者の生活実態や生活課題を理解するとともに、地域ケアのあり方を説明できる。
3. 健康危機管理と保健師活動の関係について理解し、保健師の果たすべき役割について説明できる。

行動目標

1. 各ライフステージの特徴や健康課題を説明できる。
2. 各ライフステージの発達課題に応じた支援のあり方を説明できる。
3. 難病患者や障害者の生活実態や生活課題を説明できる。
4. 難病患者や障害者に対する地域ケアのあり方について説明できる。
5. 健康危機管理と保健師活動の関係について説明できる。
6. 健康危機管理において保健師の果たすべき役割について説明できる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
ライフステージの特性と保健活動	1	母子保健活動	母子保健の変遷と関係法規 地域母子保健と福祉サービス その①	越 田
	2		母子保健と福祉サービス その②	越 田
	3	成人保健	子育て不安と家族支援 成人保健の動向と保健活動	越 田
	4		健康づくり運動 生活習慣病対策	越 田

心身の健康問題と 保健活動	5	歯科保健活動	歯科保健の動向 生涯を通じた歯科保健	越	田
	6	高齢者保健活動	政策過程と法制度 健康レベルと生活支援	松	井
	7		健康長寿社会づくりと保健活動	松	井
	8	精神保健活動	歴史的変遷と現状及び課題 地域精神保健活動の実際	松	井
	9	健康危機管理 感染症対策 (1)	結核対策	松	井
	10	健康危機管理 感染症対策 (2)	その他の感染症対策	松	井
	11	障害者保健活動	障害児・者をめぐる社会資源 保健福祉政策と地域支援	諏	訪
	12	難病保健活動	難病保健の動向 難病患者の生活と保健指導	大	西
	13	健康危機管理 災害時の保健活動 (1)	災害看護の目的及び制度とシステム	大	西
	14	健康危機管理 災害時の保健活動 (2)	災害看護における保健師活動	大	西
	15	まとめ	まとめ	大	西

学習方法

講義を主体とした展開になるが、教科書や参考書を読み主体的に学習すること

評価方法

出席回数、受講態度、筆記試験で総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

中谷芳美他著：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院
厚生統計協会編：国民衛生の動向 厚生統計協会

参考書

金川克子編：最新保健学講座4 地域看護活動論① メヂカルフレンド社
金川克子編：最新保健学講座5 地域看護活動論② メヂカルフレンド社
北山三津子：最新地域看護学各論1 日本看護協会出版会
津村智恵子編著：改訂 地域看護学、中央法規
厚生統計協会：国民福祉の動向 厚生統計協会
厚生労働省監：厚生労働白書 ぎょうせい
柳澤健一郎他編：衛生行政大要 日本公衆衛生協会
総理府編：障害者白書 財務省印刷局 日本子どもを守る会編：子ども白書 草土文化

オフィスアワー

講義終了後1時間

担当教員

教授	大西 美智恵
准教授	越田 美穂子
助教	諏訪 亜季子

授業概要

健康障害に関連した諸問題は、生物学的、物理的、社会的な原因で生ずることを理解し、健康課題を考えるとき、具体的な個々の実態を見つめながら、社会的な基盤を視野に入れて捉えることを学ぶ。また、歴史的に展開されてきた公衆衛生看護活動を踏まえ、今日用いられている地域看護活動の概念をもとに、地域で展開する看護活動の方法について理解できる。特に、地域保健活動としての展開方法では、地域の人びとが顕在・不顕在をとわず健康課題を認識し、主体的な保健行動がとれるよう組織的活動を目指した支援のあり方を学ぶ。

一般目標

1. 地域看護診断の意義・目的・方法について理解し、演習を行うことで地域看護学実習の地域診断に活かすことができる。
2. 人々が健康問題に主体的に取り組むことを援助するために、教育的働きかけ（健康教育）の理論を理解し、技術の実際を身につける。
3. 人々の健康な生活を援助するために、保健指導の基本的な考え方、展開方法を習得する。

行動目標

1. 地区の健康課題（生活課題）をアセスメントするために必要な情報を収集できる。
2. 地区の健康課題（生活課題）を記述し、対策（解決策）を考えることができる。
3. 地域における健康教育の位置づけを説明できる。
4. 健康教育の技術を習得し、効果的な教育媒体を作ることができる。
5. 健康教育の展開過程を理解し、演習において実践できる。
6. 保健指導の基本、理論、展開方法を理解できる。
7. 健康相談、健康診査、家庭訪問における保健指導の特徴を理解できる。
8. 地区組織活動の特徴とその支援方法を理解できる。
9. 地域ケアシステムの構築とネットワーク化について理解できる。

授業内容

3年次 前期・必修 2単位 (60時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
地域看護診断	1	地域看護診断の有用性と方法	地域ヘルスニーズのとらえ方 地域看護診断の意義・目的・枠組みと方法	大西
	2	エスノグラフィーに基づく地域看護診断	コミュニティ・アズ・パートナーモデルの活用	大西
	3		エスノグラフィー的接近に基づく地域看護診断の具体的な実践方法	
	4	地域看護診断の実際	情報収集の実際	大西
	5	①(演習)		
	6	地域看護診断の実際	地区視診で地域を観よう	大西
	7	②(演習)		
	8	地域看護診断グループワーク	各自で行った地区視診やインタビューを発表し、グループでまとめよう	大西
	9			
	10	地域看護診断発表	グループ毎にまとめた地域看護診断を発表しよう	大西
	11			
健康教育と健康学習 健康教育の基本	12	集団を対象とした援助	健康教育の理念と定義、目的、方法の変遷 地域における集団を対象とした援助技術	越田
	13	健康教育と保健行動	健康レベルに対応したセルフケアと健康教育 健康教育理論・健康行動科学理論・行動変容へのアプローチ	越田
	14	健康教育の実際(1)	集団を対象にした教育・コミュニケーション技法 情報収集と教育媒体・プレゼンテーション	越田
	15	健康教育の実際(2)	集団を対象にした教育・コミュニケーション技法 情報収集と教育媒体・プレゼンテーション	越田
	16	健康教育の実際(3)	集団を対象にした教育・コミュニケーション技法 情報収集と教育媒体・プレゼンテーション	越田
	17	地区活動と健康教育	計画から評価に至るプロセスとその重要な側面	越田
	18	グループ演習	効果的な媒体づくり	越田 諏訪
	19			
	20	集団への教育的働きかけ		越田 諏訪
	21			
健康教育の実際	22	模擬健康教育	模擬健康教育発表 まとめ	越田 諏訪
	23			
	24			
保健指導	25	保健指導の基本	地域における技術 保健指導の目的・対象・特徴・基本姿勢	越田
	26	保健指導に関する理論	保健行動理論と保健指導で活用できる理論	越田
	27	保健指導の展開	健康相談 健康診査	越田

地区組織活動	28	地区組織活動の基本	地区組織活動の歴史 地区組織活動に関わる概念 セルフヘルプ・グループの活動とその支援 地区組織の活動とその支援	大西
	29	地区組織活動の展開	地域の健康問題の構造 地区組織活動における展開の原則 住民の自立支援・地区組織活動の実践	大西
	30	まちづくりにおける地域ケアシステムの構築とネットワーク化	地域ケアシステムの構築 ネットワーク化の形成と地域ケアコーディネーション	大西

学習方法

講義と並行して、地域看護診断及び健康教育ではグループ演習を取り入れ理解を深める。グループ演習を行うため、開講時間が変則となることがあるので注意すること。

評価方法

出席回数、受講態度、演習内容、筆記試験で総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

金川克子編：地域看護診断 東京大学出版会
中村裕美子他著：標準保健師講座2 地域看護技術 医学書院

参考書

平野かよ子編：最新保健学講座2 地域看護学総論② メヂカルフレンド社
村嶋幸代編：最新保健学講座3 地域看護支援技術 メヂカルフレンド社
宮崎美砂子：最新地域看護学 総論 日本看護協会出版会
津村智恵子編：改訂地域看護学、中央法規
平野かよ子他編：事例から学ぶ保健活動の評価 医学書院
金川克子監：地域看護学日線の理論化をめざして 日本看護協会出版会
Elizabeth T. Anderson, Judith Mcfarlane 編 金川克子他訳：コミュニティ・アズ・パートナー
地域看護学の理論と実際 医学書院

オフィスアワー

随時

家族援助論

担当教員

准教授 越田 美穂子

助教 諏訪 亜希子

授業概要

本科目では、家族を1つの単位としてとらえ、個人および家族がその発達課題を達成し、地域において健康的な生活を維持し、健康問題に適切に対処できるように、それぞれの家族が本来持つセルフケア機能を引き出し、高めていくことを支援する方法を学ぶ。

家族を一単位とした看護の基本的な考え方と方法については、家族発達理論、家族ストレス対処理論や家族システム理論を基礎に渡辺式家族看護アセスメントモデルを用いて理解を深める。

また、家族のライフサイクルに応じて発生しやすい健康問題を持つ家族や、多問題を持つ家族の事例を取り上げ、グループ演習により、アセスメント - 計画 - (実施) - 評価までの地域における訪問技術と社会資源を利用したケースワークの過程を体験し、地域において家族を支援する方法を学ぶ。

一般目標

1. 地域における生活者の視点から、家族を一単位とした看護の基本的な考え方と支援方法について理解する。
2. グループ演習により、家族のライフサイクルに応じた健康障害や多くの問題を持つ家族を、効果的に援助するためのケースワークの方法を習得する。
3. 家庭訪問の基本的な考え方と実施方法を理解する。

行動目標

1. 生活の視点や発達課題から家族を理解できる。
2. 家族理解を深めるための関係理論について理解できる。
3. 家族を援助するために必要な情報収集やアセスメントができる。
4. アセスメントをもとに社会資源を利用したケースワークができ、その評価について理解できる。
5. 看護活動と家族内の人間関係の調整の必要性について判断する。
6. 自助グループや家族会等の地域におけるフォーマル、インフォーマルな社会資源について理解する。
7. 地域との関わりや、生活者の視点からのケースワークができる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
地域で生活する家族を理解する	1	家族とは・地域看護の対象としての家族	1 オリエンテーション 2 対象理解：家族とそれを取り巻く地域社会の理解 3 生活の視点からみた保健師が援助対象とする家族 4 健康問題と家族の問題解決能力 5 家族の発達課題の各過程における保健活動のアプローチ	越田

家族援助への保健師の役割	2	地域の視点から見た家族支援	1 在宅ケアシステムと保健師の役割 2 各種社会資源とケースワーク 3 家族構造図（関係図）とエコマップ	越 田
援助対象である家族の理解	3	家族を理解するための各種理論	1 家族発達理論 2 家族ストレス対処理論 3 家族システム理論	越 田
家族を支援するための実践方法	4	支援方法としての家庭訪問の基本	1 家庭訪問の基本的な考え方 2 家庭訪問の実施方法	越 田
家族を援助対象とするケースワークの展開方法	5	家族援助のためのケースワークの過程	渡辺式家族看護アセスメントモデルを用いた展開 1 家族支援のためのアセスメント（1） 情報収集と判断基準	越 田 諏 訪
	6		1 家族支援のためのアセスメント（2） 問題の明確化と計画立案	
	7		1 家族支援のためのアセスメント（3） 家族に対する援助と評価	
	8		1 家族支援のためのアセスメント（4） まとめと演習オリエンテーション	
	9		1 グループ演習による事例検討（1）	
	10		1 グループ演習による事例検討（2）	
	11		1 グループ演習による事例検討（3）	
	12		1 グループ演習による事例検討（4）	
	13		1 グループ演習発表	
	14			
15	家族援助論・まとめ	1 家族援助論・まとめ		

学習方法

講義および事例をもとにグループ演習を行い、地域における社会資源を利用したアセスメント-計画-（実施）-評価までのケースワークの過程を体験し、家族を支援する方法を学ぶ。

評価方法

事例の分析記録、発表内容、受講態度や筆記試験で総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

渡辺裕子著：家族看護学を基盤とした在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 第2版 日本看護協会出版

参考書

奥山則子他著：標準保健師講座 1 地域看護概論 医学書院

中村裕美子他著：標準保健師講座 2 地域看護技術 医学書院

松田正巳他著：標準保健師講座 3 対象別地域看護活動 医学書院

鈴木和子・渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第2版、日本看護協会出版会

オフィスアワー

講義終了後1時間

担当教員

非常勤講師	浅川	富美雪（倉敷芸術科学大学 教授）
非常勤講師	脇谷	小夜子（タダノKK）
准教授	越田	美穂子

授業概要

労働は、人間生活の基本的な要素である。しかしながら、自己の生活を維持し家族を養うための労働が、人の健康に重大な影響をもたらしてきたのも事実である。働く人々の健康状態は、労働環境や労働条件によって大きく左右される。そしてこれらの労働環境や条件は、その時代や国の科学技術の発展段階や社会経済制度等によって大きく異なる。そこで、「産業保健・看護論」では、あらゆる労働者を対象に、労働環境や作業上の諸条件から発生しやすい疾病や障害を防止し、身体的・精神心理的・社会的健康と福祉を維持増進するための、労働衛生とその管理、産業保健活動、並びにそのなかでの看護の位置と役割・機能および具体的な保健師活動などの基礎について学ぶ。

一般目標

労働条件と労働環境に関連する健康障害の原因とその予防について学び、かつ労働者の健康の保持増進、ならびに福祉の向上に寄与するための法律・制度やその具体的方法論について理解できることを目的とする。

行動目標

- 1) 産業保健とは何かを理解し、合わせてその重要性を認識する。
- 2) 産業保健・産業看護の発展の歩み、ならびに産業構造と職業構造の変遷を理解する。
- 3) 企業活動のなかでの産業保健・産業看護活動の位置づけを知る。
- 4) 産業保健を推進するための体制と産業保健における看護職の役割・職務を理解する。
- 5) 労働衛生の現状・産業看護活動の現状を理解する。
- 6) 産業看護活動に必要な労働衛生について基礎を理解する。
- 7) 主な職業性疾病についての理解、並びに各疾病の予防対策の原則と産業看護職の役割を理解する。
- 8) 職場における健康づくりの意義、並びに産業看護職の役割を理解する。
- 9) 産業看護活動の課題を理解するとともに、対応策を考えることができる。
- 10) 産業保健と地域保健の連携の重要性を理解する。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
産業保健	1	産業保健(労働衛生)の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の定義・歴史 2. 労働者の健康問題の現状と動向 3. 労働者の健康障害 4. 職業性疾病の定義 5. 有害化学物質による職業性疾病とその予防 6. 有害エネルギーによる職業性疾病とその予防 7. 作業態様による健康影響とその対策 	浅川 (越田)
	2	労働衛生管理業務の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 労働衛生の専門スタッフの職務 2. 労働衛生関係法規と労働衛生行政機構 3. 総括管理 4. 作業環境管理 5. 作業管理 6. 健康管理とTHP 7. 衛生教育 	
	3	小規模企業等における労働衛生の現状と対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中小企業の位置づけと労働衛生の問題点 2. 小規模事業所の労働衛生の実態と対策 	
	4	総括	評価	
産業看護	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業看護の理念と目的 2. 産業看護の歴史と今後の課題 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業看護の理念 2. 産業看護の目的 	脇谷 (越田)
	6	3. 産業看護の法制度とシステム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業看護の歴史 2. 産業構造と職業構造の変遷 3. 地域保健・看護との連携 	
	7	4. 産業看護の展開(講義・実習)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 労働安全衛生に関する法体系 2. 産業保健組織と人材 3. 産業看護と社会資源 4. 個別的・集団的・組織的展開方法 	
	8	総括	評価	
				越田

学習方法

講義以外にグループ学習、見学実習等を併用する。産業看護活動を推進していく上での基礎知識としてまず産業保健・労働衛生について学習し、次に産業看護の役割とその展開方法について学ぶ。

評価方法

試験、レポート、学習態度、出席状況により総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

松田正巳、他著：標準保健師講座3 対象別地域看護活動、医学書院
厚生統計協会編：国民衛生の動向、厚生統計協会

参考書

馬場快彦・鈴木美代編：新版 保健学講座7巻「産業看護活動論」、メヂカルフレンド社
河野啓子：産業保健・産業看護論、日本看護協会出版会
和田攻編：産業保健マニュアル、南山堂
日本産業衛生学会 労働者体力問題研究所編：労働科学叢書 職場における体力・健康づくり
労働科学研究所出版部
労働省労働衛生課：労働安全衛生法に基づく職場の健康づくり必携 労務行政研究所
林慎一郎監：生涯にわたる健康記録 中央法規

オフィスアワー

講義終了後 1時間

担当教員

教授 大西 美智恵
非常勤講師 木川 佐智子
非常勤講師 市原 新一郎

授業概要

香川県には、離島振興法による指定離島が22カ所存在している。

これらの離島の住民が抱えている生活や健康課題の特徴、ならびに保健・医療・福祉の現状から保健活動のあり方や、看護職の役割について学ぶ。また、離島という条件からハンセン病の隔離政策の場となった大島青松園の歴史と現状をとおして、ハンセン病対策における看護職の役割について学ぶ。

一般目標

- 1) 離島の法的整備や、健康政策を理解する。
- 2) 離島の生活課題や健康課題を理解する。
- 3) ハンセン病対策の歴史を知り、療養所入所者の現状と課題を理解する。

行動目標

- 1) 離島に関する法について記述することができる。
- 2) 離島の生活課題や健康課題について考察することができる。
- 3) ハンセン病対策の問題点が指摘でき、療養所入所者の現状と課題を理解したうえで、看護職の役割について考察することができる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
離島の生活課題と健康課題及び政策	1	離島で生活する住民のヘルスニーズ	1 島の定義 2 離島振興法など 3 離島の生活・健康の実態	大 西
	2	離島・僻地保健医療対策	香川県における離島・僻地保健医療行政 ・香川県の医療行政 ・香川県の離島・僻地医療体制 ・遠隔医療ネットワーク	木 川
	3	離島保健・福祉と看護	離島の生活課題と健康課題及び看護	大 西
	4	ハンセン病と公衆衛生	ハンセン病と医療政策	市 原
	5	ハンセン病と公衆衛生看護	ハンセン病対策から考察する看護の役割	大 西
	6	ハンセン病と	大島青松園 現地踏査	大 西
	7	看護職の役割	・園長、看護師長、自治会長の講演 ・入所者との交流 (小グループ) ・施設見学	
	8	総括	まとめ	大 西

学習方法

講義・グループ演習・現地踏査

評価方法

演習の参加状況、演習結果、レポート

教科書及び参考文献

開講時に示す

オフィスアワー

講義終了後 1時間

学 校 保 健 I

担当教員

教授 松 井 妙 子

授業概要

健康な国民の育成をめざす学校保健は教育の基本となるので、学校教育において重要な位置を占めている。そこで、学校保健の役割を理解し、学校保健活動の展開に必要な基礎的な知識、方法を学ぶ。また、学童期・思春期特有の問題をとらえ、学校保健をめぐる課題について考察する。

さらに学校保健をめぐる課題を解決するために、学校と地域保健活動との連携の必要性とその実際について理解を深める。

一般目標

1. 学校保健の意義と沿革、関連法規について学習し、学校保健活動の内容について理解する。
2. 学校保健の領域について理解し、学校保健活動の実際を知った上で、今後の学校保健のあり方について考察、記述できる。
3. 学童期・思春期特有の問題をとらえ、学校保健の課題として考察することができる。
4. 地域における学校保健と保健師活動の連携について学び、理解できる。

行動目標

1. 学校保健の沿革と意義について具体的に述べることができる。
2. 学校保健法と関連法規について記述でき、その関連について述べることができる。
3. 学校における保健管理と保健教育について理解でき、具体的に述べることができる。
4. 学童期・思春期特有の問題をとらえ、その解決策について意見を表明できる。
5. 地域における保健師活動との連携について説明できる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
学校保健の意義と構造	1	学校保健の意義・目的と沿革	学校保健の意義 学校保健の領域構造 学校保健の運営と担当者 学校保健に関する行政と法律 学校保健の沿革と当面の課題	松 井
学校の保健管理	2	学校における保健管理	保健管理システム 健康診断・健康相談 保健室の機能 保健教育の実際 感染症の予防 学校伝染病	

学校環境衛生	3	学校環境衛生と 安全教育	学校環境の整備・安全の確保 環境教育、事故防止の具体策
学校の保健教育		学童期・思春期特有 の問題と対策（GW）	不登校、摂食障害、障害児、肥満、家庭内・校内暴力、 非行・いじめ、若年妊娠、感染症など
学校の保健教育	4 5 6	学校保健活動の実際 学童期・思春期特有 の問題と対策（GW）	学校保健見学ガイダンス 不登校、摂食障害、障害児、肥満、家庭内・校内暴力、 非行・いじめ、若年妊娠、感染症など
学校保健活動の 運営とその実際	7	学校保健活動の実際 と養護教諭の職務 （GW）	小・中学校における養護教諭の職務（見学実習）
総 括	8	まとめ	発表

学習方法

講義と演習

評価方法

グループワークの活動状況、試験・レポート・実習態度等により、総合的に評価する。

参考文献

国民衛生の動向

標準保健師講座 対象別地域看護活動 医学書院

日本学校保健会編 学校保健の動向（最新版） 日本学校保健会

オフィスアワー

講義終了後 1 時間

地域看護学特論

担当教員

教 授	大 西 美智恵
教 授	松 井 妙 子
講 師	越 田 美穂子
教 授	真 鍋 芳 樹 (アドミッションセンター)

授業概要

ライフサイクルに応じた保健活動や健康を支援する法律および政策や、個人・家族を対象とした保健指導のポイントを学ぶ。

一般目標

1. 各ライフサイクルにおける健康問題の特徴を理解する。
2. セルフケア能力が高まる保健指導を理解する。
3. 各ライフステージに多い健康障害を理解する。
4. 各ライフステージにおける保健指導に必要な疫学・統計について理解する。

行動目標

- 1) 生涯を通じた健康を支援する法および主な保健政策について説明できる。
- 2) 各ライフステージに多い健康障害について説明できる。
- 3) 保健指導に必要な疫学・統計について説明できる。

授業内容

4年次 後期・自由 1単位 (15時間)

大項目	回	項 目	内 容	担当者
ライフサイクルに応じた保健指導の理論と実際	1	地域看護学Ⅰ,Ⅱ 保健福祉行政論	1. 地域看護学の理念・目的・活動 2. 地域看護学の歴史 3. 保健福祉行政	大 西
	2	母子保健領域	1. 目的 2. 方法 3. 法的根拠 4. 保健活動の動向 5. 保健師の役割	越 田
	3	成人・高齢者 保健領域	1. 目的 2. 方法 3. 法的根拠 4. 保健活動の動向 5. 保健師の役割	越 田

4	難病・障害者 保健領域	1. 目的 2. 方法 3. 法的根拠 4. 保健活動の動向 5. 保健師の役割	大 西
	災害時・感染症・結 核保健領域	1. 目的 2. 方法 3. 法的根拠 4. 保健活動の動向 5. 保健師の役割	松 井
5	在宅ケア・在宅看護	6.目的 7.方法 8.法的根拠 9.保健活動の動向 10.保健師の役割	松 井
6 7 8	疫学・保健統計領域	疫学の概念 疫学調査法 疾病の疫学 保健統 計調査	真 鍋

学習方法

講 義

15時間を2日で展開するので1日当たり講義時間が7.5時間となる。履修にあたり関連する既習科目を復習しておくことが望ましい。

評価方法

テストによる。

教科書及び参考文献

教科書

厚生統計協会編：国民衛生の動向 厚生統計協会、最新版

厚生統計協会編：国民福祉の動向、厚生統計協会、最新版

参考書

柳澤健一郎、他編：衛生行政大要、日本公衆衛生協会 最新版

門脇豊子・清水嘉与子・森山弘子編：看護法令要覧、日本看護協会出版会、最新版

医学書院：標準保健師講座1～3

中谷芳美他著：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院

オフィスアワー

講義終了後2時間程度

担当教員

教授	大西 美智恵
教授	松井 妙子
准教授	越田 美穂子
助教	諏訪 亜季子

授業概要

公的保健機関や、保健福祉施設での保健活動の実際を体験し、地域看護学で学習した地域の人々の健康な暮らしを支援するための理念を理解し、地域看護活動の技術を習得する。

さらに、地域保健活動における保健師の役割を理解する。

また、在宅療養者およびその家族への理解を深め、質の高い在宅ケアを継続していくために必要となる看護が実践できる基礎的能力を養う。さらに対象者への援助の展開をとおして保健・医療・福祉の包括的支援の必要性と連携の実際について学ぶ。

一般目標

- 1) 地域保健活動の実践機関としての保健所および市・町保健センターの機能と地域保健活動の実際を理解する。
- 2) 個人・家族が生活している地域のヘルスニーズを理解するとともに、地域保健活動の展開方法を学ぶ。
- 3) 公衆衛生看護活動で用いられる援助方法を学ぶとともに人々の行動の変容やセルフケア能力の高まる援助について理解する。
- 4) 家族を単位とした健康問題の把握と、問題解決のための計画・実施・評価の過程を学ぶ。
- 5) 他機関で提供されている地域看護活動の実際を学ぶとともに、連携の必要性を理解する。
- 6) 地域の人々の健康を支えるメンバーの一員として、保健師の果たす役割を理解する。
- 7) 訪問看護活動を通して在宅療養者、およびその家族の生活を取り巻く環境と暮らし方や生き方に気づくことができる。
- 8) 在宅療養者およびその家族のケアニーズを把握し、生活実態やその人らしさを生かした訪問看護の必要性を理解できる。
- 9) 在宅療養者の健康問題の原因や程度・現在の状態から、ケアニーズを把握し、必要な看護・介護の内容が理解できる。
- 10) 訪問看護活動を通して在宅で行う看護技術の特徴と方法を理解できる。
- 11) 訪問看護活動を通して、保健・医療・福祉の連携の重要性を理解するとともに、その中での看護の役割を考えることができる。
- 12) 社会資源の活用状況・家族機能・家族の介護状態から、看護・介護が提供されている根拠が理解できる。

行動目標

- 1) 保健機関の機構・機能を理解できる。
- 2) 保健事業の概要を理解できる。
- 3) 保健活動の財政的基盤とマンパワーについて理解できる。
- 4) 保健活動における保健所と市町の役割と連携について理解できる。
- 5) 地域（管内及び受持ち地区）の特性を理解し、説明できる。
- 6) 地域（管内及び受持ち地区）におけるヘルスニーズのアセスメント・抽出ができ、その対策を立案することができる。
- 7) 保健師の行っている業務を理解し、説明できる。
- 8) 健康相談の方法と保健指導を理解し、説明できる。
- 9) 集団を対象とした健康診査の方法と保健指導について理解し、説明できる。
- 10) 集団を対象とした健康教育の方法と教育的技術について理解し、説明できる。
- 12) 小集団及び地区組織活動の現状と保健師の関わりについて理解できる。
- 13) 8) から 12) の保健指導の場面をとおして、健康行動の変容やセルフケア能力が高まる援助方法を理解できる。
- 14) 個人・家族を取り巻く状況を把握し、説明できる。
- 15) 個人・家族の看護上のニーズを把握し、訪問計画が作成できる。
- 16) 個人・家族と目標を共有しながら援助する過程が理解できる。
- 17) 個々の家庭に合った援助の方法を考えることができる。
- 18) 個々の家庭に合った資源の活用やケアシステムを考えることができる。
- 19) 地域の人々の健康を支えるメンバーの一員としての保健師の果たす役割を理解し、説明できる。
- 20) 訪問看護活動を通して在宅療養者、およびその家族の生活を取り巻く環境と暮らし方や生き方に気づき、説明することができる。
- 21) 在宅療養者およびその家族のケアニーズを把握し、生活実態やその人らしさを生かした訪問看護の必要性を理解し、説明できる。
- 22) 在宅療養者の健康問題の原因や程度・現在の状態から、ケアニーズを把握し、必要な看護・介護の内容を理解し、説明できる。
- 23) 訪問看護活動を通して在宅で行う看護技術の特徴と方法を理解できる。
- 24) 訪問看護活動を通して、保健・医療・福祉の連携の重要性を理解するとともに、その中での看護の役割を考え、理解することができる。
- 25) 訪問看護ステーションにおける在宅療養者へのケアの実際を学び、医療機関との連携の必要性について理解できる。
- 26) 社会資源の活用状況・家族機能・家族の介護状態から、看護・介護が提供されている根拠が理解できる。

実習方法

「地域看護学実習」要項を参照

学習方法

「地域看護学実習」要項を参照

評価方法

実習目標到達度を実習記録、実習態度、レポートなどを対象に総合的に評価する。

教科書及び参考文献

各授業で紹介した図書および資料

21 精神看護学

精神看護学実習 I

担当教員

准教授 越智百枝
助教 栗原琴乃

授業概要

精神看護学実習 I は精神看護学実習 II の基礎として位置づけている。精神病院での医療や看護の実際、対象の生活や置かれている状況を理解し、精神障害者に対する自己の見方を検討する。

一般目標

- 1 精神病院に入院している対象の病気や障害の特徴、生活、治療環境の特徴を知り理解する。
- 2 精神科医療や看護の実際を理解する。
- 3 精神障害者に対する自己の見方を検討する。

行動目標

- 1 対象の病気や障害の特徴を対象とふれあうことで知る。
- 2 対象の生活や治療環境の特徴を知る。
- 3 精神科医療の現状を知る。
- 4 看護者の対象への関わりを見学し、看護師の役割を考える。
- 5 精神障害者に対する自己の見方を検討する。
- 6 学内カンファレンスに積極的に参加し、自己及び他者の体験を共有する。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位（45時間）

1週間の見学実習を行う。実習時間、内容、方法などは後日提示する。

実習方法

見学実習、自己学習、カンファレンスを組み合わせて行う。上記の目標を達成するために、実習前の事前学習で既習知識をまとめ、実習に臨むこと。

評価方法

事前学習、実習状況、学内カンファレンス、事後レポートなどにより評価する。

教科書及び参考文献

- 1) 山崎智子監修：明解看護学双書3 精神看護学 金芳堂
- 2) 野嶋 佐由美・南 裕子監修：ナースによる心のケアハンドブックー現象の理解と介入方法ー
参考図書は適宜紹介する。

精神看護学実習Ⅱ

担当教員

准教授 越智百枝
助教 栗原琴乃

授業概要

学内で講義や演習をとおして学んできた知識や技術を実習の場で適用し統合する。精神看護学実習Ⅱでは、対象を全体的に理解し、看護師－患者関係をもとに対象と関わることを学ぶ。さらに対象との関わりの中で自己を振り返る機会とする。

一般目標

- 1 対象を全体的に理解し、看護過程の展開を行う。
- 2 看護師－患者関係をもとに対象と関わることを学ぶ。
- 3 対象との関わりから自己を振り返る。
- 4 治療活動の理解とそこでの看護者の役割を学ぶ。

行動目標

- 1 精神保健医療上の問題が対象の日常生活や対人関係にどのように影響しているかを述べることができる。
- 2 対象の生活史・家族背景・社会的背景などを理解し、精神保健医療上の問題との関連が検討できる。
- 3 対人関係理論・セルフケア理論を用い、援助の視点を見いだすことができる。
- 4 看護師－患者関係をもとに対象と関わるができる。
- 5 対象との関わりの中で生じる自分の気持ちや自己の持つ価値観、対人傾向などを振り返ることができる。
- 6 病棟や施設で行われる治療的活動が対象にとってどのような意義があるか説明できる。
- 7 対象と関わる保健医療チームメンバーの役割を述べるができる。
- 8 保健医療チームメンバーと協調しながら実習ができる。
- 9 毎日のカンファレンスに積極的に参加し、自己や他者の体験を共有できる。

授業内容

3年次後期から4年次前期 必修 2単位（90時間）

2週間の病棟実習を行う。受け持ち患者の状況に応じて、施設見学を行う。実習方法、内容などについては後日提示する。

実習方法

病棟実習、施設見学、カンファレンス、自己学習を組み合わせで行う。これまでの講義や演習、実習を通して学んできた内容を相互関連させて対象の理解や援助に生かしていく。

評価方法

実習状況、実習記録、事後レポート、カンファレンスへの参加状況、出席状況などにより評価する。

教科書及び参考文献

- 1) 山崎智子監修：明解看護学双書3 精神看護学 金芳堂
 - 2) 野嶋 佐由美・南 裕子監修：ナースによる心のケアハンドブッカー現象の理解と介入方法―
 - 3) 松田正己他：標準保健師講座3 対象別地域看護活動 医学書院
- 参考図書は適宜紹介する。

22 在宅・家族看護学

在宅看護学

担当教員

教授 松井 妙子
 助教 諏訪 亜季子

授業概要

在宅看護をめぐる歴史的背景、在宅看護と訪問看護の制度、在宅療養者とその家族の特徴について理解し、在宅療養している人々とその家族を支援するための基礎的知識を学ぶ。さらに、保健医療福祉の専門職種と連携して支援する重要性を理解し、在宅における看護の機能と役割を学ぶ。

一般目標

1. 在宅看護の対象と在宅看護の提供方法を学ぶ。
2. 居宅で様々な疾患を持ちつつ療養している人を理解し、在宅看護の特徴と意義を学ぶ。
3. 在宅看護をめぐる歴史的背景や在宅看護と訪問看護の制度について学ぶ。
4. 社会資源を理解し、連携の重要性とその方法を学ぶ。
5. 在宅において医療管理を必要とする人への看護について学ぶ。

行動目標

1. 在宅看護の対象を理解できる。
2. 在宅看護の歴史的背景を理解できる。
3. 在宅看護をとりまく制度や、社会資源などを理解し、説明できる。
4. 連携の重要性を説明できる。
5. 医療管理を必要とする人への看護を説明できる。

授業内容

3 年次 前期・必修 1 単位 (30 時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
在宅看護とは	1	在宅看護とは	在宅看護の特徴、地域における看護活動	松井 諏訪
	2		在宅看護の歴史と変遷	
在宅看護をとりまく諸制度	3	在宅看護と諸制度	在宅生活支援のための諸制度	
	4		多様な在宅支援のための社会資源とそれぞれの役割	
在宅看護の場	5	訪問看護ステーションの活動	在宅看護職の活動場所と訪問看護ステーション	
	6		訪問看護師の活動	
	7		医療施設から地域生活へ、継続看護の活動	
象別 在宅療養者支援	8	在宅療養者への支援	在宅療養者支援のためのアセスメントの視点	
	9	医療管理を必要とする在宅療養者への支援	栄養ケアが必要な在宅療養者への看護	
	10		呼吸器ケアが必要な在宅療養者への看護	
	11		皮膚ケアが必要な在宅療養者への看護	
12	ターミナルケアが必要な在宅療養者への看護			

	13	在宅看護管理	在宅看護におけるリスクマネジメント	
	14		在宅看護の課題	
	15	まとめ		松井

学習方法

講義およびグループワークによって学ぶ。

評価方法

受講態度、筆記試験、レポートなどにより総合的に判断する。

参考文献

櫻井尚子編：ナーシンググラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア

メディカ出版

渡辺裕子著：家族看護学を基盤とした在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 日本看護協会出版会

オフィスアワー

講義終了後 1 時間

子どもが産まれる家族の看護

担当教員

教 授	内 藤 直 子
准 教 授	佐々木 睦 子
助 教	片 山 理 恵

授業概要

少子社会の現代は、人口減少が生じて、子を産み育てることが困難な社会であるといえるかもしれない。日本の20歳代の未婚率は半数以上であり、本科目を受講する学生も、「結婚モラトリアム」のジレンマを抱えていると思われる。

そこで、家族が従来持っていた経済的機能、愛情機能や、家族の「個人化」や「個別化」に着目し、学生は課題やテキストから、主体的に「子どもが産まれる家族」について考え、討論する。

本科目では、1994年にWHOが採択した「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」がめざしている女性のエンパワーメントと倫理の視点から、周産期にある「子どもが産まれる家族」の援助を適切に行う能力の基礎的知識を習得する。

本授業は3つの特徴がある。その第1は、全体的には、PBL スモールグループ方式で学習を進める。第2は、子供が生まれる瀬戸の島の家族から学ぶこと。第3は、「e-Learning 学習システムとコンテンツ作成」で EduCanvas を使って、全員が発表し、IT 教材で、クリティカルな学習を試みる。

一般目標

子どもが産まれる家族に対する適切な援助を展開するために、思春期にある男性女性、妊娠期にある家族、育児期にある家族、生殖医療を受けるカップル、障害児の親がもっている問題や課題の理解が必要である。そこで、さまざまな状態にあり、子どもが産まれる家族の援助のあり方について、学生の感性を豊かに表現しながら基礎的知識と、社会の現象を統合できるように学習を進める。

行動目標

1. PBL スモールグループ学習で、人口減少の少子社会における家族の子育て観の特徴が述べられる。
2. 子どもが産まれる家族への自己の興味や関心が見いだせ、効果的な援助への動機づけができる。
3. 瀬戸の島の子どもが産まれる家族を訪問して、効果的な援助について、学ぶことができる。
4. 学生は、PBL スモールグループ学習で、家族看護論の理論を用いて、子どもが産まれる家族の現象を説明できるような基礎的知識を習得する。

授業内容

3年次 前期・選択 1単位(15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
序論	1	少子社会で子どもが産まれる家族	科目のガイダンス 1. 子どもが産まれることの意味 2. 子どもが産まれる家族の倫理 3. 人口減少の少子社会で効果的な子育て支援 4. 0歳児を持つ家族の子育て観 5. 香川の多胎児のサークルを知ろう	内藤
PBL学習 瀬戸の島訪問	2	1. PBLでセルフリング ①伊吹島の家族訪問 2. 「e-Learning 学習システムとコンテンツ作成」	1. PBL学習にて課題探求 2. PBL スモールグループ編成 3. 子どもが産まれる家族の理解 ①伊吹島の家族訪問 4. 「e-Learning 学習システムと EduCanvas を使った学習コンテンツ	内藤
各論 PBLによる多胎児サークルの体験学習と瀬戸の島訪問	3	1. PBLでセルフリング 伊吹島の家族訪問 2. 多胎児サークルで参加型体験学習 3. 「e-Learning 学習システムとコンテンツ作成」	1. 課題テキストを読んで、課題を探求しよう ①院内助産院 ②産まないことを選ぶときー避妊と中絶 ③あなたが「不妊」に直面したなら 2. 子どもが産まれる家族の理解 ①香川の多胎児サークルに参加し、看護師ができる支援を考えよう ②伊吹島の家族訪問 3. 「e-Learning 学習システムと EduCanvas を使った学習コンテンツ	内藤
PBLによる多胎児サークルの体験学習と瀬戸の島訪問	4	1. PBLでセルフリング 2. 伊吹島の家族訪問 3. 「e-Learning 学習システムとコンテンツ作成」	1. 課題学習 ①「母子健康手帳」からみた産育と政策 ② 安心して子育てを始めるために 2. 子どもが産まれる家族の理解 ①香川の多胎児サークルに参加し、看護師ができる支援を考えよう 3. 「e-Learning 学習システムと EduCanvas を使った学習コンテンツ	佐々木
PBLで演習	5	1. PBLでセルフリング 2. 「e-Learning 学習システムとコンテンツ作成」	1. 課題学習 ①「すてきな産」はあなたもできる ② 出産とリスク 2. 「e-Learning 学習システムと EduCanvas を使った学習コンテンツ	佐々木
PBLで演習	6	PBL スモールグループでレポート作成	1. 「e-Learning 学習システムと EduCanvas を使った学習コンテンツ 2. PBL グループワークの発表レポート作成	片山理
統合	7	PBL スモールグループで発表・まとめ	1. 「e-Learning 学習システムと EduCanvas を使った学習コンテンツ 2. PBL スモールグループで発表・5グループ 3. PBL スモールグループで学生の知識の統合 4. PBL スモールグループ相互の評価	内藤 佐々木 片山理
評価	8	発表 評価	1. 「e-Learning 学習システムと EduCanvas を使った学習コンテンツ 2. PBL グループワークの発表・3グループ 3. 家族看護論の理解と社会の現象からの学び 4. PBL スモールグループで各学生のレポート評価	内藤 佐々木 片山理

学習方法

本授業は講義のみならず、PBL スモールグループによるセルフラーニングで学習を進める。授業に関しては看護学の文献、他の関連学問領域の文献を大いに活用することを期待する。

具体的方法は、伊吹島の、瀬戸内の島の子どもが産まれる家族を訪問したり、香川の多胎児の集まりや子育てサークルに出向き、母と子の関わりから、看護者の役割を理解し考えることができる体験学習を行う。

また、「e-Learning 学習システムと学習コンテンツの充実」で EduCanvas を使った学習コンテンツ作成の活性化をはかり、講義に用いる学習コンテンツの作成を試みる。学生は、EduCanvas を使った学習コンテンツを作成して、実際に用いて学習を効果的に進めることができる。

評価方法

授業の参加状況、レポート課題の完成度、PBL スモールグループ学習方式の理解度、PBL スモールグループ学習と発表への貢献度などで総合評価を行う。

教科書及び参考文献

1. 横山美江：双子・三つ子・四つ子・五つ子の母子保健と育児指導のてびき、医歯薬出版、2008.
2. 松岡悦子編：産む・産まない・産めない——女性のからだと生きかた読本、講談社現代新書、2007.

他、適時紹介する。

オフィスアワー

講義日の16:10~17:10までに、適時教員研究室にお越しください。

子どもを持つ家族の看護

担当教員

教 授 祖 父 江 育 子
准 教 授 谷 本 公 重
助 教 三 上 順 子

授業概要

本科目では子どもを持つ家族の看護に必要な知識として、看護理論を用いた家族看護の事例展開や文献レビューを行い、小児に関する倫理的課題、evidence based nursing を実践する能力を育成する。また多様な情報を科学的根拠や理論に基づいて整理する能力、臨床において最良の看護を選定する能力、研究上の課題を発見する能力を育成し、小児およびその家族に役立つ看護援助の実践能力を涵養する。

一般目標

1. 看護理論の有用性、適用範囲、限界について事例を通して学ぶ。
2. 小児とその家族に関する今日的な倫理的課題を通覧して論点を明確にし、論議できる能力を養うとともに、看護職の役割について考究する。
3. Evidence based nursing の重要性を理解するとともに、臨床上の課題解決における研究の役割について学習する。
4. 経口与薬やプレパレーション技法について学習する。
5. プレゼンテーションを行い、証拠を論理づけて討議する能力を養う。

行動目標

1. 看護における看護理論の有用性、適用範囲、限界について説明できる。
2. 小児とその家族に関する今日的な倫理的課題について考究し、意見として表現できる。
3. システマティック・レビューや evidence based nursing について説明できる。
4. プレゼンテーションに必要な教材を作成する。
5. プレゼンテーションを行い、証拠を論理づけて討議できる。

授業内容

3年次 前期・選択 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
家族看護における看護理論の有用性	1	家族看護、看護理論 小児虐待事例	小児虐待事例にオレム看護理論、カルガリー家族看護モデルを適用する	祖父 江 三 上
小児の医療倫理	2	医療ネグレクト	子どもの権利条約、移植医療の現状、インフォームド・アセント	祖父 江 三 上
	3	小児の脳死移植	小児の脳死と臓器移植についてディベート	祖父 江 三 上
子どもを持つ家族に関する課題	4		現代社会における子どもを持つ家族に関する課題についてグループワーク	谷 本
	5		発表	谷 本
プレパレーション	6	プレパレーション法	病院環境とプレパレーション	谷 本
家族看護に関する文献レビュー	7	先天的な問題	先天的な問題をもつ家族に関する文献抄読 演習、グループワーク	谷 本
	8		発表	谷 本

学習方法

講義・課題学習・演習

評価方法

出席状況、授業態度、課題学習、演習内容での総合評価による。

教科書及び参考文献

適宜提示する

オフィスアワー

随時

高齢者福祉サービスと看護

担当教員

教 授	大 森 美津子
助 教	西 村 美 穂
非常勤講師	岩 藤 のり子

授業概要

高齢者の自立した生活支援に視点を置いて、高齢者をとりまく種々の福祉サービスの現状と問題点、今後の課題について学び、医療・福祉・看護が円滑に連携協働するための看護の役割について学ぶ。

一般目標

1. 高齢者の保健福祉サービスの概要を理解する。
2. 施設における高齢者の保健福祉サービスの実態と問題を理解する。
3. 在宅における高齢者の保健福祉サービスの実態と問題を理解する。
4. 高齢者福祉における医療・福祉・看護の連携について、看護の役割を理解する。

行動目標

1. 高齢者の保健福祉サービスについて説明できる。
2. 施設における高齢者の保健福祉サービスの実態と問題について説明できる。
3. 在宅における高齢者の保健福祉サービスの実態と問題について説明できる。
4. 高齢者福祉における看護の役割について説明できる。

授業内容

3年次 前期・選択 1単位（15時間）

大 項 目	回	項 目	内 容	担当者
総 論	1	高齢者の保健福祉サービス	ガイダンス 高齢者の保健福祉サービスの概要	大森・西村
各 論	2	高齢者の保健福祉サービス	施設における高齢者の保健福祉サービスの実態	大森・西村
	3	高齢者の保健福祉サービス	在宅における高齢者の保健福祉サービスの実態	岩 藤
	4	グループワーク	施設における高齢者の保健福祉サービスの問題	大森・西村
	5	グループワーク	在宅における高齢者の保健福祉サービスの問題	大森・西村
	6	グループワーク	高齢者保健福祉サービスのあり方の検討	大森・西村
	7	グループワーク	高齢者保健福祉サービスのあり方の検討	大 森
	8	発 表		大森・西村

学習方法

講義、グループ学習、自己学習、レポート

評価方法

レポート、出席状況、学習態度により評価する

教科書及び参考文献

1. NPO法人 日本ソーシャルワーカー研究会編集：医療福祉総合ガイドブック、医学書院、2007
2. 伊藤雅治、井部俊子：特別養護老人ホーム看護実践ハンドブック、中央法規出版、2006
3. グループホームのケアを考える会：事例を交えて学ぶ認知症高齢者グループホーム Q&A、中央法規出版、2007
4. 菅山信子、林 隆司、峯尾武巳：やさしくわかるケアプランの作成と実例、成美堂出版、2006
5. 山崎摩耶：新版 ケアマネージャーバイブル、日本看護協会出版会、2006

その他授業内容に応じて適宜参考書を提示する。

オフィスアワー

前期・月曜日 17時00分～18時00分

精神障害者のリハビリテーション

担当教員

准教授 越 智 百 枝

助 教 栗 原 琴 乃

授業概要

精神障害者の障害の概念や特徴及びそのニーズを知り、精神障害者が障害を受容し、自分らしく生きていけるようなリハビリテーションの考え方を身につける。

一般目標

- 1 精神障害者のリハビリテーションを考えていくときの鍵概念を理解する。
- 2 精神障害者の地域生活を支援するための考え方や方法を理解する。

行動目標

- 1 精神障害者の障害の特徴を説明できる。
- 2 精神障害者のリハビリテーションを考える上での鍵概念を説明できる。
- 3 精神障害者のリハビリテーションの意義を説明できる。
- 4 精神障害者の地域生活を支援していくときの受療や社会復帰の援助の考え方を述べるができる。
- 5 精神障害者の地域生活を支援するための方法（精神保健福祉相談・家庭訪問・社会資源の提供活動・セルフヘルプグループへの支援）を説明できる。

授業内容

3年次 前期・選択 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内 容	担当者
地域生活を支えるケア	1	リハビリテーションを考えるときの鍵概念	1 リハビリテーションとは	越 智
	2		2 ノーマライゼーション、共生	
	3		3 障害概念と障害受容	
	4	ケア提供の考え方と方法	1 精神保健福祉相談(受療の援助)	越 智
	5		2 家庭訪問(社会復帰の援助)	越 智
	6		3 社会資源の提供活動	越 智
	7		4 セルフヘルプグループへの援助	越 智

学習方法

本授業は講義及び自己学習を組み合わせで行う。

評価方法

講義終了後に筆記試験を行う。授業への参加態度、出席状況なども重視する。

教科書及び参考文献

- 1) 松田正己他：標準保健師講座 3 対象別地域看護活動 医学書院
- 2) 中山裕美子他：標準保健師講座2 地域看護技術 医学書院

参考図書

・体験談に関するもの

谷中輝雄編：旅立ち 障害を友としてー精神障害者の生活と記録ー、やどかり出版、1993.

谷中輝雄編：地域で生きる精神障害者の生活と意見、やどかり出版、1997.

谷中輝雄編：失われたものを追い求めずに、精神障害者の生活の記録、やどかり出版、1988.

・リハビリテーションの考え方に関するもの

坂田三充、遠藤淑美編：精神科看護とリハビリテーション、医学書院、2000.

上田敏：リハビリテーションの思想ー人間復権の医療を求めてー、医学書院、1987.

村田信男、川関和俊編：精神障害者の自立と社会参加、創造出版、1999.

谷中輝雄、三石麻友美、仁木美知子他：生活支援 IIー生活支援活動を創り上げていく過程ー、やどかり出版、1999.

「やどかりの里」30周年記念出版編集委員会編：職員主導からともに創り合うやどかりの里への転換、やどかり出版、2000.

谷中輝雄他：インターフェイスの地域ケアー語り合い、響き合い、共に生き、創り合うー、やどかり出版、1995.

坪上宏編著：あたりまえの生活 PSWの哲学基礎ー早川進の世界ー、やどかり出版、1995.

石神文子：心病む人々の生活支援ー精神保健福祉相談員の記録ー、やどかり出版、1998.

秋元波留夫他：精神障害者のリハビリテーションと福祉、中央法規出版、1999.

蜂矢英彦編：精神分裂病者のリハビリテーション、ライフサイエンス、1995.

・セルフヘルプグループへの援助に関するもの

岩田泰夫：セルフヘルプ運動とソーシャルワーク実践、やどかり出版、1994.

・障害者自立支援法に関するもの

谷野亮爾他編：精神保健法から障害者自立支援法まで、精神看護出版、2005.

精神障害者社会復帰促進センター他編：精神保健福祉白書、中央法規、2006.

オフィスアワー

木曜日 17:00~18:00

23 看護管理 ・ 教育学

看護管理学

担当教員

教 授 名 越 民 江 非常勤講師 阪 井 眞利子
 准 教 授 佐々木 睦 子 非常勤講師 中 妻 征 子

授業概要

本科目は、価値観の多様化・高度情報化時代にあって、社会のニーズに応える看護を提供するために、看護管理の基礎およびマネジメントのあり方について学習する。

一般目標

社会のニーズに応える看護を安全に提供するため、看護管理の基礎や医療の安全をはかるマネジメントのあり方について認識を深め、管理に関する理論や技法について理解する。また、現代社会の動向と医療政策の動向を理解し、地域・在宅・医療施設における看護管理の実際および課題について検討する。

行動目標

1. 看護管理の本質と看護管理の過程について把握する。
2. 資源としての物品、予算、時間、情報のマネジメントについて把握する。
3. 保健医療組織における看護の質保証プログラムについて把握する。
4. 医療の安全をはかるリスクマネジメントと医療事故防止のしくみについて把握する。
5. 看護管理における法的責任とリーダーシップならびに倫理的問題について把握する。

授業内容

4年次 後期・必修

大項目	回	項目	内 容	担当者
看護管理総論	1	ガイダンス	学習目的、目標、方法、評価について	名 越
		看護管理総論	看護管理の本質、看護管理過程について	
看護の質保証	2	組織論	組織とは、組織管理の基本、医療の安全と教育	名 越
		看護の質保証と資源管理	物的資源、予算、時間、情報の管理	
	4	人材育成	人的資源の活用と育成・人材育成プログラム	阪 井 中 妻
		リスクマネジメントと医療事故	医療現場のリスクマネジメント	
		法的責任とリーダーシップ	看護管理における法的責任とリーダーシップ	
7	倫理的諸問題	医療・看護管理における倫理的諸問題	佐々木 佐々木	

学習方法

講義およびグループ討議

評価方法

出席状況、レポート、筆記試験等による総合評価

教科書及び参考文献

・系統看護学講座、別巻8 看護管理、医学書院、2005.

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階517研究室） ・佐々木研究室（4階415研究室）

本年度休講

国際看護比較論

担当教員

非常勤講師 古川 文子

教 授 當 目 雅 代

授業概要

異なる文化圏においても、人々の健康を維持し、病気を予防し、苦痛を緩和し、安寧を目指す看護の心はユニバーサルである。本講義では文化圏の異なる国、地域における看護を歴史、教育、施策・制度などの多面的な視点から理解する。そして、異文化看護における独自性・個別性および国際看護における普遍性の追及を基に、看護の本質的要素とその影響要因を考察し、看護を「包括的」に理解する視点を養う。

一般目標

文化の異なる国・地域の看護の国際比較を通してその個別性（独自性）と普遍性を発見し、国際的視点での看護の本質的要素と関連要因の考察から、看護を包括的に理解する意義と方法論を学ぶ。

行動目標

- 1) 看護の国際比較の意義とその基本的な方法について説明できる。
- 2) 国際看護比較における不可欠の倫理的知識（人道憲章）について説明できる。
- 3) 異文化看護と国際看護の「相違性と類似性」および「個別性と普遍性」について説明できる。
- 4) 文化的背景の違いが看護の教育、実践に与える影響について説明できる。
- 5) グローバル化における国際看護組織の役割と機能について自分の考えを述べるができる。

授業内容

3・4年次 集中・自由 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
オリエンテーション	1	看護におけるパラダイムシフト	国際看護比較論を学ぶ意義：グローバル化、QOL、および医療・看護の質に対する視点の転換	古川 當目
国際看護における基本的理念の理解	2	国際看護とは 国際協力における倫理的課題	比較で見える類似性と相違性の発見 国際看護と国際保健および国際協力 人間の安全保障に関する理解：人道憲章 異文化看護と国際看護の相違と類似性	
国際看護比較に必要な基本的知識と技術	3	1. 我国の保健医療関連機関および看護教育機関と諸外国との比較	政策：国際保健医療機関：WHOを中心に 制度：保健医療制度の相違（米国との比較） 教育1：我国の看護教育の文化的背景の理解 教育2：我国と諸外国の看護教育の比較	古川
	4			
	5	2. 国際的視点でみた看護の個別性と普遍性	実践1：看護の個別性としての異文化看護の比較 実践2：看護の普遍性としての「ケアリング」の特徴	古川
	6	3. グローバル化と国際看護組織	実践3：我国以外の国や地域に出て行う看護活動 実践4：我国で暮らす外国人の健康問題と看護活動 研究：国際看護組織の役割と機能	
	7	課題の発見	グローバル化と健康問題及びこれからの看護の課題	古川

学習方法

配布資料での事前学習、VTR鑑賞後の討論、ITを用いた世界の保健医療・教育機関へのアクセスとその報告、世界の看護関係者との協働に必要な基本的態度および語学（ここでは英語）の自己学習。

評価方法

1. 課題レポート、
2. 講義および演習への参加度（積極性と自主性）

教科書及び参考文献

1. 国際看護研究会編(2003)：国際看護学入門、医学書院、
2. 久間圭子(2003)：医療の比較文化論、世界思想社、
3. 久間圭子(2001)序説：国際看護学、日本看護協会、
4. その他、適宜、資料配布

オフィスアワー

集中講義第1日目の講義終了から1時間、講義2日目の12:00時から1時間

24 総合看護学

看護クリティカルシンキング I

担当教員

教授 清水 裕子
講師 金正 貴美

授業概要

思考のスキルとして異文化の中で発達してきた批判的思考（Critical Thinking）は、複雑化する社会において人が十分に機能するために必須の能力である。物事に疑問を持ち、理解し、分析する批判的思考は、自分自身の思考と他者の思考を検討し、洗練していくことでもある。看護師は人々と関わることにより、他者に対する自己の思考の傾向や（枠組みや前提）に気づくとともに、人々のそれに気づくことにより、出来事をより広い視野から系統的に理解するのを助け、よりよい意思決定を導くことが出来る。すなわち、批判的思考は看護師の成長や看護の発展に必要不可欠な技術であるとも言える。本講義では批判的思考の本質を学ぶとともに、看護における批判的思考の意義・重要性、さらに、批判的思考のための基本となる態度と方法について学ぶ。本科目は、後続するクリティカルシンキングⅡの導入科目である。

一般目標

1. 批判的思考の本質を学ぶとともに、看護における批判的思考の意義・重要性について理解する。
2. 他者と自らの思考の傾向とその影響を理解することをとおして、多様な看護の場面において批判的思考を用いるための基本となる姿勢・態度・方法を学ぶ。

行動目標

1. 批判的思考について説明できる。
2. 看護における批判的思考の意義・目的について説明できる。
3. クリティカルシンキングに必要な態度・方法について説明できる。
4. 批判的思考に影響する要因について説明できる。
5. 他者と自分の思考の傾向について批判的に思考できる。
6. 他者と自分との相互作用を批判的に思考しながら、課題に対する発展的・創造的な提言ができる。

授業内容

3年次 前期・必修 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
講義	1	批判的思考 (CT) とは	批判的思考 (CT) の本質とその意義・目的 批判的思考の影響要因・批判的思考の方法と技術	清水
講義	2	看護と批判的思考	看護における批判的思考の意義・重要性 批判的思考の看護への適用・応用	清水
演習	3	看護場面と批判的思考 1	批判的思考を用いた看護場面の検討	清水・金正
演習	4	看護場面と批判的思考 2	集団による批判的思考の実践；グループによる課題学習 1	清水・金正
演習	5	相互作用による批判的思考	集団による批判的思考の実践；グループによる課題学習 2	清水・金正
演習	6		集団による批判的思考の実践；グループによる課題学習 3	清水・金正
演習	7		集団による批判的思考の実践；グループによる課題学習 4	清水・金正
演習	8		課題学習の成果の発表・クラス討論	清水・金正

学習方法

日常生活上の身近な体験、さらには経験した看護場면을題材に、批判的思考を用いた時とそうでない時の比較をとおして、体験的に批判的思考について学ぶ。よって自らや他者の思考を批判的に思考することを体験的に学ぶ課題学習、グループワーク形式を多用し、一方的な講義形式は行わない。よって、学生は本講義において特に主体的に学習に取り組む姿勢が要求され、評価の対象になる。

評価方法

クラスへの参加度（出席、課題への取り組み、発問に対する応答）および、課題レポートから、批判的思考の理解度と態度、到達レベルについて総合的に評価する。

教科書及び参考文献

(教科書)

Rosalinda Alfaro-LeFevre, CRITICAL THINKING IN NURSING Apractical Nursing; 江本愛子監訳：アルファロ
看護場面のクリティカルシンキング、医学書院、1996.

(参考書)

E. B. ゼックミスタ, J. E. ジョンソン, ITP; 宮元博章他訳、あなたの思考をガイドする40の原則 入門編クリ
ティカルシンキング、北大路書房、1998.

E. B. ゼックミスタ, J. E. ジョンソン, ITP; 宮元博章他訳、あなたの思考をガイドする40の原則 実践編クリ
ティカルシンキング、北大路書房、1998.

Mary A. Miller, Dorothy E. Babcock, Critical Thinking Applied to Nursing; 深谷計子、羽山由美子監訳、看
護にいかすクリティカルシンキング、医学書院、2002.

オフィスアワー

随時：名越研究室（5階 517 研究室）、金正研究室（3階 317 研究室）

看護クリティカルシンキングⅡ

担当教員	成人看護学	教授	當目雅代
	老年看護学	教授	大森美津子
	成人看護学	教授	清水裕子
	成人看護学	講師	金正貴美

授業概要

今年度は、成人看護学と老年看護学が担当する。本科目では、看護クリティカルシンキングⅠで学んだ批判的思考の基本となる態度と方法を応用して、看護に関する疑問、問題に感じた場面・状況・事柄を熟考し、クリティカルシンキング能力を高めることを目的としている。多様な情報を科学的根拠や理論に基づいて整理するために、クリティカルシンキングを活用して看護への理解を深めることが期待される。

一般目標

多様な看護の対象によりよい看護を提言・提供するために、学生個々の関心のある看護領域における課題を追究し、クリティカルシンキング能力を養う。

行動目標

1. クリティカルシンキングによって看護の課題を明らかにし、課題達成のための目標、方法を計画できる。
2. 課題を達成するために、クリティカルシンキングによって必要な知識を明らかにし、それらの知識を収集し、活用できる。
3. 信頼性の高い情報を入手し活用できるために、エビデンス・ベースド・ナーシングについて学習する。
4. クリティークするテーマ・課題についてのグループ討議を通して、自分と他者の意見の相違やその要因を述べることができる。
5. 学習の全過程を通して、自分の思考の傾向・パターンに気づき、クリティカルに思考するための自己の課題を述べることができる。

授業内容

4年次 後期・選択 1単位 (15時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
導入	1	ガイダンス	各看護学領域における看護クリティカルシンキングの進め方と計画	担当教員
	2		臨床実習での場面を想起し、テーマを考える	
実践	3	クリティカルシンキングの実践1	テーマに沿って文献を収集する	担当教員
	4		テーマに沿って文献を検討し、クリティカルシンキングする。	
	5	クリティカルシンキングの実践2	発表に向けてクリティカルシンキングをまとめる。	担当教員
	6			
	7	統合	発表	担当教員
	8			

学習方法

ガイダンスの後、自分の関心のある内容に基づいて各看護学領域を選択し、選択した看護学領域の教員の指導の元に、各自がクリティカルシンキングのための演習に取り組む。

ガイダンスなど、詳しい日程については掲示する。

講義、学生の主体的学習、グループ学習、レポートなど

評価方法

グループ討議や討議における意図的、目標指向的思考に基づく討議の参加度と貢献度、ならびに自己評価などによる目標達成度などから総合的に評価する。

参考文献

看護クリティカルシンキング I で使用した参考文献。その他、ガイダンス時に提示する。

オフィスアワー

随時

看護研究 I

担当教員

教 授	祖父江育子
教 授	内藤 直子
授業協力者	香川大学図書館医学部分館

授業概要

研究実践に必要な基礎的素養を育成し、研究が科学の進展に果たす役割について理解する。臨床での課題を解決するため、既存の知識を探索し活用できる能力を養うとともに、evidence based nursing の価値を理解する。研究過程を学びつつ自ら研究を実践することで、研究に関する基礎的知識と基本的な技術を修得し、研究課題に取り組む意欲を涵養する。

一般目標

1. 研究実践における科学的原則の遵守と倫理的配慮の重要性を理解する。
2. 研究の基本的なプロセスについて学ぶ。
3. 文献検索・文献検討を通して、evidence based nursing の実践力を養う。
4. 研究課題を解決するために必要な研究方法の立案・実践能力とデータ分析能力を育成する。
5. 研究成果を既存の知識のなかに位置づけ、知識体系の成り立ちを理解する。
6. 研究成果をプレゼンテーションする能力を養う。

行動目標

1. 研究の重要性について説明できる。
2. 研究の動機から目的・仮説にいたる研究過程に必要な研究技法を習得できる。
3. 研究における倫理的配慮の重要性と内容について説明できる。
4. 研究計画書を作成できる。
5. 適切な方法でデータを収集し、分析できる。
6. 研究成果を既存の知識との関連で説明できる。
7. グループで研究ができ、成果をプレゼンテーションできる。

授業内容

3年次 前期・必修 2単位 (30時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
看護研究の概要	1	研究の価値	研究における新奇性や利得の価値	祖父江
	2	研究の枠組み	帰納法、演繹法、質的研究、量的研究	祖父江
	3	文献検討	知識の整理、問題の発見、目的・仮説の設定	祖父江

	4	文献検索法	医学・看護学データベースによる文献検索	香川大学図書 医学部分館
	5	研究の倫理	研究における倫理的配慮、質的研究の特徴	内 藤
	6	質的研究	質的研究の適用範囲、研究方法、 質的量的研究の信頼性・妥当性の差異	内 藤
看護研究の プロセス	7	統計と確率	統計ソフトを用いたデータ入力法、記述統計の 算出法、確率	祖父江
	8	χ^2 検定	χ^2 検定を用いる測定尺度、統計ソフトを用いた 解析	祖父江
	9	t検定	t検定を用いる測定尺度、統計ソフトを用いた 解析	祖父江
	10	研究方法の立案 研究計画書の作成	測定内容と測定尺度、調査用紙の作成、研究計 画書の作成	祖父江
	11	図表の作成	EXCELを用いた図表の作成	祖父江
	12	研究のまとめかた プレゼンテーション技 法	考察の作成 Power Pointを用いたプレゼンテーション技法	祖父江
	13	データ解析	データの入力と分析	祖父江
	14	発表	研究成果をプレゼンテーションする	祖父江
	15	発表	研究成果をプレゼンテーションする	祖父江

学習方法；講義、自己学習、グループ学習、プレゼンテーション

評価方法；プレゼンテーション、出席状況、態度、取り組み方等により評価する。

教科書及び参考文献

必携：1. Holloway&Wheeler、野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門、第2版、医学書院、2006

- 参考：1. Hully, SB et al.、木原雅子他訳：医学的研究のデザイン、メディカル・サイエンス・インターナショナル、第2版、2004
2. Polit DF et al.、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法、医学書院、1994
3. Byrne D. et al.、木原正博他訳：国際誌にアクセプトされる医学論文、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2000
4. APA(アメリカ心理学会)、江藤浩之他訳：APA論文作成マニュアル、医学書院、2004
5. 草間悟：勉強・研究・発表の技法、南江堂、1996
6. 川村佐和子：現場発想の看護研究、日本看護協会出版会、1994

オフィスアワー

随 時

看護研究Ⅱ

担当教員

教 授	當 目 雅 代 (コーディネーター)				
教 授	名 越 民 江 峠 哲 男	田 中 輝 和	内 藤 直 子		
	松 井 妙 子	大 森 美 津 子	祖 父 江 育 子	大 西 美 智 恵	
	清 水 裕 子				
准 教 授	筒 井 邦 彦	南 妙 子	佐 々 木 睦 子	谷 本 公 重	
	越 智 百 枝	越 田 美 穂 子			
講 師	金 正 貴 美				
助 教	松 岡 美 奈 子	西 村 美 穂	竹 内 千 夏	野 口 英 子	
	片 山 理 恵	栗 納 由 紀 子	栗 原 琴 乃	諏 訪 亜 希 子	
	小 笠 美 春	香 川 里 美	三 上 順 子		

授業概要

本科目では、看護に焦点を当てた学問知識を洗練し、看護の知識体系を他の学問と区別して、看護分野の専門職として責任と権限を持つことができるために、看護研究の方法を習得する。

一般目標

1. 倫理的配慮をしながら、テーマに沿った研究計画を立案し、実践できる。
2. 論文をまとめて、完成することができる。
3. 研究発表の方法が理解できる。

行動目標

1. 研究対象者への倫理的配慮ができる。
2. 研究目的に沿った研究方法を選択できる。
3. 研究計画を立案し研究活動をすることができる。
4. 文献検索と文献検討の結果を研究過程に活用することができる。
5. 研究協力者の必要性和依頼の仕方が説明できる。
6. データの解析、分析を適切な手法により実施できる。
7. 論文の書き方および発表の仕方がわかる。
8. 一連の看護研究活動における研究姿勢について自己評価できる。

授業内容

4年次 必修 2単位 (60時間)

大項目	回	項目	内容	担当者
概要	1	ガイダンス	1. 看護研究Ⅱの学習方法の説明 2. グループ編成 3. 抄録集作成担当係りの選出	當 目

展 開	2	看護研究の実際	1. 文献レビュー	峠 田 中 名 越 祖父江 當 目 大 森 内 藤 大 西 松 井 清 水 筒 井 南 佐々木 谷 本 越 智 越 田 金 正 松 岡 西 村 片 山 野 口 栗 納 栗 原 小 笠 竹 内 三 上 香 川 諏 訪
	3		2. 研究計画書の作成	
	4		3. 方法の信頼性と妥当性を検討	
	5		4. 倫理面を検討	
	6		5. 研究対象の検討	
	7		6. 対象の同意書の検討	
	8		7. インタビューガイドの作成および質問紙の構成	
	9		8. 予備的研究の実施	
	10		9. 本研究の開始	
	11		10. データ収集	
	12		11. データ分析	
	13		12. 結果から図表作成	
	14		13. 論文作成	
	15		14. 抄録作成	
	16		15. 学会発表の意義と方法	
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			

学習方法

ガイダンスの後、各指導教員の指導により個人またはグループで研究に取り組む。また、研究成果である研究論文は適切に効果的に批判され、成果を蓄積するために、抄録集担当学生を決める。担当学生は、論文抄録集を製本し、指導教員に配布する。また、一部を看護学科事務に保管する。

評価方法

研究への取り組みおよび研究論文の内容に基づき研究指導担当単位の教員が評価する。

教科書及び参考文献

看護研究 I で使用した参考文献。研究指導担当教員が研究テーマに応じて適宜紹介する。

オフィスアワー

随時

担当教員名

教 授 當 目 雅 代
 教 授 峠 哲 男

授業概要

最新の看護領域の研究を理解できるように、和文または英文の研究論文の読み方、研究的視点での批判・批評の意義とその方法を学習する。和文の講読は原著論文の批判的読み方を講義する。その後、個人で関心のある和文を量的研究、質的研究から1つずつ選択し、批判的に読み解く。英文の講読は、前半は、グループに分かれて各グループ別に興味のある英語論文をインターネットの検索システムを通じて取得し、翻訳を行い、次回の授業において翻訳内容についてグループごとに発表を行う。翻訳の仕方、論文内容の理解度について指導教員からの助言、指導を受ける。後半では看護関連の質的研究、量的研究に関する英語論文を読むことで、看護理論、概念の操作的定義、概念枠組み、統計法などについて学びを深め、看護学の研究手法やパラダイムへの理解を進める。

一般目標

研究論文の構造の理解に基づき、論文に対する基礎的な知識の習得を通して批判・批評的に分析し、講読内容をまとめ、発表および討論できる能力を養う。英文では、辞書を用いての翻訳に慣れると共に、看護研究に関連する英単語、論文の表現方法や記述スタイルについての知識を深める。

行動目標

1. 看護における関心領域の研究論文をインターネット（医学系データベース）を使って検索することができる。
2. 研究論文の一般的な構造（はじめに、研究方法、結果、考察、結論）が分かる。
3. 辞書を用いて看護関連の英語論文の翻訳ができる。
4. 英語論文の内容について、要点をまとめて発表ができる。
5. 看護関心領域の文献を批判・批評的に分析し、発表できる。
6. 看護学の研究手法について理解できる。

授業内容

4年次 後期・選択 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
原著論文講読の方法	1	ガイダンス	講義の目的と概要、評価方法について説明し、グループ分けを行う。 グループに分かれて発表論文の検索を行う。 原著論文の批判的読み方について	當目
	2	個人発表	看護関連の和文研究論文の発表と討論 1	當目
	3	個人発表	看護関連の和文研究論文の発表と討論 2	當目
	4	個人発表	看護関連の和文研究論文の発表と討論 3	當目
	5	グループ発表	看護関連の英文研究論文の発表と討論 1	峠
	6	グループ発表	看護関連の英文研究論文の発表と討論 2	峠
	7	グループ発表	看護関連の英文研究論文の発表と討論 3	峠
	8	グループ発表	看護関連の英文研究論文の発表と討論 4	峠

学習方法

1. 自己学習を行い、レポートを作成する。
2. 英文論文は、グループ単位で英文を翻訳し、次回の授業で内容について日本語で発表を行なう。
翻訳や論文内容について教員から助言、補足を受ける。
3. 発表においては、なるべく質問や批評を行うように促す。

評価方法

1. 出席と授業の準備、参加態度などにより総合的に評価する。
2. 和文論文は個人で、英文論文はグループでレポートを提出する。

教科書及び参考文献

1. これから論文を書く若者のために 増補版、共立出版、酒井聡樹著（2006）
 2. 基本医学英語のマスター 改訂2版、金芳堂、横井川泰弘著（2003）
 3. 研究社ニューカレッジ英和辞典
 4. 南山堂英和医学辞典
- その他、適時資料を提示する。

オフィスアワー

峠：毎週月曜日 午後3－5時
當目：随時

25 教 職 科 目

担当教員

非常勤講師 中西美恵子（関西福祉大学看護学部 教授）

授業概要

学校保健は、学校という組織の中で学校教育の目的を達成するために行われる活動と関連しており、児童生徒等の健康の保持増進のためにとっても重要な分野である。

そこで、学校保健Ⅱでは、学校保健を担う養護教諭としての役割を理解する。そのため本科目では、学校教育の中で子どもの心や体やいのちを守り育てるという専門的な力量を身につけ、子どもの心身の健康課題に取り組んでいけるよう学習する。また、教育実践力を身につけるために教材づくり、模擬授業、授業検討会等を行う。

一般目標

1. 学校保健の重要性やしくみについて学習し、学校保健・安全計画等についても考える。
2. 学校保健に関わっている人たちと養護教諭の連携を学習し、保護者や地域との連携の方法について考察する。
3. 学校保健の中で、日々行われる養護教諭の活動について学習する。
4. 健康に関する現代的課題を考え、養護教諭の求められている資質について考察する。
5. 児童生徒の心の健康について学習し、その上で養護教諭が行うヘルスカウンセリングの重要性や方法について学習する。
6. 保健学習や保健指導の方法を学習する。
7. 学校の危機管理の対応について学習する。

行動目標

1. 学校保健のしくみについて説明でき、学校保健・安全計画（案）を作成できる。
2. 保護者や地域との連携について、また学校保健委員会について説明できる。
3. 学校保健の中で、日々行われる養護教諭の活動について説明できる。
4. 健康に関する現代的課題について説明できる。
5. 心の健康について理解し、具体的にヘルスカウンセリングを行うことができる。
6. 保健学習や保健指導を理解し、具体的に行うことができる。
7. 学校の危機管理について学習し、養護教諭としての対応について説明できる。

授業内容

3年次 前期・自由 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
学校保健のしくみ	1	学校保健のしくみと学校保健・安全計画	学校保健のしくみ、学校保健・安全計画の必要性、学校保健・安全計画の具体的な事例と作成の仕方	中西
連携	2	保護者・地域等との連携	学校医・学校薬剤師・学校歯科医との連携、保護者や地域との連携、ヘルスプロモーション、学校保健委員会	
健康問題	3	体と心の健康問題	保健室登校、いじめ、虐待、不登校などにおける養護教諭の役割 喫煙・飲酒・薬物乱用防止指導 性（エイズを含む）に関する指導	
健康相談	4 5	健康相談活動の基礎とすすめ方	健康相談活動の定義、心の健康問題の特質・観察・受け止め方・判断・対応の仕方、 ヘルスカウンセリングのやり方、記録のとり方 ヘルスカウンセリングの実際（グループで実践）	
健康教育	6 7	小学校・中学校の保健学習と保健指導	小学校体育科、中学校保健体育科、高等学校保健体育科の保健領域における目標と内容等 小学校の保健指導の目標と内容および指導案の作成 中学校の保健指導の目標と内容及び指導案の作成 発問の仕方、板書の仕方、資料の使い方など グループ別模擬授業の実施と検討会① グループ別模擬授業の実施と検討会②	
危機管理	8	学校の危機管理	学校管理下の事故と災害、防止、災害報告の仕方など	

学習方法

教員が準備する授業資料をもとに講義・ディスカッション等を交ぜながら行う。

評価方法

出席状況、授業態度、課題学習、筆記試験による総合評価による。

教科書及び参考文献

教科書 資料（適宜配布する）

参考書 養護教諭養成研究グループ：養護活動の展開 ふくろう出版
出井美智子他：養護教諭のための学校保健 少年写真新聞社

オフィスアワー

講義終了後 1時間

養 護 原 論

担当教員

- 非常勤講師 中西美恵子（関西福祉大学看護学部 教授）
 喜田 共代（香川大学教育学部附属幼稚園 養護教諭）
 橘 和代（香川大学教育学部附属高松中学校 養護教諭）
 三浦 恵美子（香川大学教育学部附属特別支援学校 養護教諭）

授業概要

養護教諭の職責や役割・機能について理解を深め、児童・生徒の健康の増進のための健康教育、健康管理について考究する。また、養護教諭として実践に必要な理論や基礎となる知識を学習する。

一般目標

- 1 養護教諭の役割と機能を理解する。
- 2 養護教諭が学校に配置されることの必要性を理解する。
- 3 養護教諭として果たすべき健康課題、教育課題について学習する。

行動目標

- 1 養護教諭に必要な資質を育成する。
- 2 養護教諭の実践に必要な知識を習得し、養護実習での実践基盤とする。
- 3 養護教諭の活動課題を明確にする。

授業内容

3年次 前期・自由 1単位（15時間）

大項目	回	項目	内容	担当者
1. 養護教諭の役割・機能	1	養護教諭の概念と役割	a) 養護教諭の本質と概念 b) 養護教諭制度の沿革と職務・役割の変遷 c) 教育に果たす養護教諭の役割	中西
	2	養護教諭の職務	a) 養護教諭に必要な資質能力 b) 養護教諭の教育 c) 学校保健に関わる教職員とその役割	中西
2. 学校保健と養護教諭	3	学校保健と養護教諭および養護教諭に必要な知識	a) 学校保健活動と養護教諭 b) 養護教諭の職務に必要な基礎知識	三浦
	4	保健計画と運営	a) 養護教諭の職務推進 b) 保健室の経営と運営	喜田
	5	保健計画と運営	a) 健康実態の把握と課題	喜田

3. 健康の保持増進への養護	6	養護教諭の執務の実際	a) 保健管理活動 b) 保健教育活動 c) 学校組織活動及び家庭・地域社会との連携	橘
	7	今日的課題と地域連携システムの構築	a) 学校環境衛生活動と養護教諭 b) 食に関する指導と養護教諭 c) 文書作成の基本と広報活動 d) 養護教諭と学校安全活動 e) 養護教諭の活動の評価	三浦

学習方法

小児看護学概論、小児援助論Ⅰ、地域看護学概論、学校保健Ⅰを基礎とする。

評価方法

出席回数、受講態度、試験あるいはレポートで総合的に評価する。

教科書及び参考文献

教科書

三木とみ子編：養護概説，四訂，ぎょうせい，2005

参考書

森昭三：変革期の養護教諭，大修館書店，1999

大谷尚子：養護学概論，東山書房，1997

大谷尚子：養護学・序論，ジャパンシマニスト，2008

大谷尚子他：新養護学概論，東山書房，2009

飯野順子編：養護教諭のための特別支援教育ハンドブック，大修館書店，2007

藤田和也：養護教諭の教育実践の地平，東山書房，1999

藤井寿美子他：養護教諭のための看護学，東山書房，2006

杉浦守邦：養護教諭講座（1）養護概説，東山書房，1999

オフィスアワー

随 時

年間時間割カレンダー

【注意！】

これらは、平成 22 年 3 月 15 日(月)現在で決定している内容です。掲載されている以外にも時間変更される場合がありますので、各自必ず掲示板を確認してください。

平成22年度 講義・実習時間割 1年次生

前期

	I	II	III	IV	V
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
4月7日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	施設見学・懇談会	ガイダンス	ガイダンス	
4月12日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
4月14日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他)マルチ	
4月19日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
4月21日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	看護学概論 (名越) 209	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他)マルチ	
4月26日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
4月28日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	看護学概論 (名越) 209	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他)マルチ	
5月3日 月	憲法記念日				
5月5日 水	こどもの日				
5月10日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
5月12日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	看護学概論 (名越) 209	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他)マルチ	
5月17日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
5月19日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	看護学概論 (名越) 209	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他)マルチ	
5月24日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
5月26日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他)マルチ	
5月31日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月2日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他)マルチ	
6月7日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月9日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他)マルチ	

	I	II	III	IV	V
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
6月14日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月16日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他) マルチ	
6月21日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月23日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他) マルチ	
6月28日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
6月30日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他) マルチ	
月曜日振替 7月1日 木		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
7月5日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
7月7日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他) マルチ	
7月12日 月		形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	生化学 (田中) 209		
7月14日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209	看護学概論 (名越) 209	全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他) マルチ	
7月19日 月	海の日				
7月21日 水	教養ゼミナール (田中, 峠, 大森他) 214, 301, 303	形態・生理学A (生命維持の基本構造) (峠, 筒井) 209		全学共通科目共通科目 「情報科学A」 (筒井, 大西, 他) マルチ	
7月26日 月	前期定期試験 7/23~8/5				
7月28日 水	前期定期試験				
8月2日 月	前期定期試験				
8月4日 水	前期定期試験				

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

9月27日 月	基礎看護学早期体験実習
9月28日 火	基礎看護学早期体験実習
9月29日 水	基礎看護学早期体験実習
9月30日 木	基礎看護学早期体験実習

後期

	I	II	III	IV	V
	N	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
10月4日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
10月6日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井, 他) 209	形態・生理学B (峠, 筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
10月11日 月	体育の日				
10月13日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井, 他) 209	形態・生理学B (峠, 筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
10月18日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
10月20日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井, 他) 209	形態・生理学B (峠, 筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
10月25日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
10月27日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井, 他) 209	形態・生理学B (峠, 筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
11月1日 月	香大祭(11月4日へ振替)				
11月3日 水	文化の日				
月曜日振替 11月4日 木		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
11月8日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
11月10日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井, 他) 209	形態・生理学B (峠, 筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
11月15日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
11月17日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井, 他) 209	形態・生理学B (峠, 筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
11月22日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
11月24日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井, 他) 209	形態・生理学B (峠, 筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
11月29日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	母性看護学概論 (内藤) 209	成人看護学概論 (清水) 209
12月1日 水	看護理論 (名越) 209	薬剤療養学 (筒井, 他) 209	形態・生理学B (峠, 筒井) 209	基本援助技術論 (南) 209	
12月6日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	看護入門セミナー (越智, 大森, 内藤, 他) 4回 209	
12月8日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209		

	I	II	III	IV	V
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50
12月13日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	看護入門セミナー (越智, 大森, 内藤, 他) 4回 209	
12月15日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209		
12月20日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	看護入門セミナー (越智, 大森, 内藤, 他) 4回 209	
金曜日振替 12月22日 水	金曜日授業振替日				
1月12日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209		
1月17日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209	看護入門セミナー (越智, 大森, 内藤, 他) 4回 209	
1月19日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209		
1月24日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		
1月26日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209		
1月31日 月		形態・生理学B (環境適応と行動) (峠, 筒井) 209	分子生物学・栄養学 (田中) 209		
2月2日 水		薬剤療養学 (筒井, 他) 209	基本援助技術論 (南) 209		
2月7日 月	学年末試験期間				
2月11日 水	学年末試験期間				
2月14日 月	学年末試験期間				
2月16日 水	学年末試験期間				

平成22年度 講義・実習時間割 2年次生

前期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月5日 月	全学共通科目ガイダンス 他 幸町キャンパス				
4月6日 火	授業ガイダンス				
4月7日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	看護研究ゼミナール (大森, 越智) 301	小児看護学概論 (祖父江) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
4月8日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
4月9日 金	成人急性期援助論 (當目) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	定期健康診断 (午後休講)		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月12日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
4月13日 火	生活援助技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
4月14日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	看護研究ゼミナール (大森, 越智) 301	小児看護学概論 (祖父江) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
4月15日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
4月16日 金	成人急性期援助論 (當目) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月19日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
4月20日 火	生活援助技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
4月21日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	看護研究ゼミナール (大森, 越智) 301	小児看護学概論 (祖父江) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
4月22日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
4月23日 金	成人急性期援助論 (當目) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月26日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
4月27日 火	生活援助技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
4月28日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	看護研究ゼミナール (大森, 越智) 301	小児看護学概論 (祖父江) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
4月29日 木	昭和の日				
4月30日 金	成人急性期援助論 (當目) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月3日 月	憲法記念日				
5月4日 火	みどりの日				
5月5日 水	こどもの日				
5月6日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
5月7日 金	成人急性期援助論 (當目) 209	成人慢性期援助論 (清水) 301	生活援助技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月10日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
5月11日 火	生活援助技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
5月12日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209		小児看護学概論 (祖父江) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
5月13日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
5月14日 金	成人急性期援助論 (當目) 209	成人慢性期援助論 (清水) 301	生活援助技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月17日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
5月18日 火	生活援助技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
5月19日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209		小児看護学概論 (祖父江) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
5月20日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	基礎看護学方法論 (名越, 他) 305
5月21日 金	成人急性期援助論 (當日) 209	成人慢性期援助論 (清水) 301	生活援助技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月24日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
5月25日 火	生活援助技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
5月26日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209		小児看護学概論 (祖父江) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
5月27日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	基礎看護学方法論 (名越, 他) 305
5月28日 金	成人急性期援助論 (當日) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月31日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
6月1日 火	生活援助技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
6月2日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209		小児看護学概論 (祖父江) 301	小児疾病論 (伊藤, 他) 301	
6月3日 木	精神看護学概論 (越智) 305	免疫学 (筒井) 305	老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	基礎看護学方法論 (名越, 他) 305
6月4日 金	成人急性期援助論 (當日) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	生活援助技術論 (南) 基礎看護学実習室		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月7日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
6月8日 火	生活援助技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	精神疾病論 (中村, 他) 301
6月9日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209			成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
6月10日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
6月11日 金	成人急性期援助論 (當日) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月14日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
6月15日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	
6月16日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209			成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
6月17日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
6月18日 金	成人急性期援助論 (當日) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月21日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
6月22日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	
6月23日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209			成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
6月24日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
6月25日 金	成人急性期援助論 (當日) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月28日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
6月29日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	
6月30日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209			成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
月曜日振替 7月1日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
7月2日 金	成人急性期援助論 (當日) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月5日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
7月6日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	
7月7日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209			成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
7月8日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
7月9日 金	成人急性期援助論 (當日) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月12日 月	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
7月13日 火	基礎看護技術論 (南) 209		微生物学A (細菌学, 原虫学) (田中) 209	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209	
7月14日 水	成人疾病論 (田中, 峠, 筒井他) 209			成人疾病論予備日 (田中, 他) 209	
7月15日 木	精神看護学概論 (越智) 305		老年看護学概論 (大森) 305	老年疾病論 (峠, 他) 305	基礎看護方法論 (名越, 他) 305
7月16日 金	成人急性期援助論 (當日) 209	成人慢性期援助論 (清水) 209	基礎看護技術論 (南) 209		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月19日 月	海の日				
7月20日 火					
7月21日 水					
7月22日 木					
7月23日 金					

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月26日 月					
7月27日 火					
7月28日 水					
7月29日 木					
7月30日 金					

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
8月30日 月	夏季休業				
8月31日 火	夏季休業終了				
9月1日 水	看護とコミュニケーション (藪添, 竹森)				
9月2日 木	看護とコミュニケーション (藪添, 竹森)				
9月3日 金	補講期間				

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月6日 月	基礎看護学実習				
9月7日 火	基礎看護学実習				
9月8日 水	基礎看護学実習				
9月9日 木	基礎看護学実習				
9月10日 金	基礎看護学実習				

第20週

20	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月13日 月	基礎看護学実習				
9月14日 火	基礎看護学実習				
9月15日 水	基礎看護学実習				
9月16日 木	基礎看護学実習				
9月17日 金	基礎看護学実習				

第21週

21	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月20日 月	敬老の日				
9月21日 火	社会福祉・社会保障論				
9月22日 水	社会福祉・社会保障論				
9月23日 木	秋分の日				
9月24日 金	社会福祉・社会保障論				

第22週

22	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月27日 月	社会福祉・社会保障論				
9月28日 火	社会福祉・社会保障論				
9月29日 水	社会福祉・社会保障論				
9月30日 木	社会福祉・社会保障論				
10月1日 金	大学記念日（休業）				

後期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月4日 月		基礎看護技術論 (南) 305		小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
10月5日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	母性疾病論 (秦, 内藤) 209	
10月6日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
10月7日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
10月8日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Wiley・長井)301・305	医学部祭 (午後) 休講		

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月11日 月	体育の日				
10月12日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	母性疾病論 (秦, 内藤) 209	
10月13日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
10月14日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
10月15日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Wiley・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月18日 月		基礎看護技術論 (南) 305		小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
10月19日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	母性疾病論 (秦, 内藤) 209	
10月20日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
10月21日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
10月22日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
10月25日 月		基礎看護技術論 (南) 305		小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
10月26日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	母性疾病論 (秦, 内藤) 209	
10月27日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
10月28日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
10月29日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月1日 月		基礎看護技術論 (南) 305		小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
11月2日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	母性疾病論 (秦, 内藤) 209	
11月3日 水	文化の日				
月曜日振替 11月4日 木		基礎看護技術論 (南) 305		小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
11月5日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月8日 月		基礎看護技術論 (南) 305		小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
11月9日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	母性疾病論 (秦, 内藤) 209	
11月10日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
11月11日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
11月12日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月15日 月		基礎看護技術論 (南) 305		小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
11月16日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	母性疾病論 (秦, 内藤) 209	
11月17日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
11月18日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
11月19日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月22日 月		基礎看護技術論 (南) 305	成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
11月23日 火	勤労感謝の日				
11月24日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
11月25日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
11月26日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	推薦入試準備		

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
11月29日 月		基礎看護技術論 (南) 305	成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
11月30日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	母性疾病論 (秦, 内藤) 209	
12月1日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301	機能再生医療学 (峠, 他) 301	
12月2日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
12月3日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月6日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
12月7日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
12月8日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301		
12月9日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
12月10日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月13日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
12月14日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
12月15日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301		
12月16日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
12月17日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
12月20日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
12月21日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
金曜日振替 12月22日 水		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	
12月23日 木	天皇誕生日				
12月24日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月3日 月	冬期休業				
1月4日 火	冬期休業				
1月5日 水	冬期休業				
1月6日 木	冬期休業				
1月7日 金	冬期休業				

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月10日 月	成人の日				
木曜日振替 1月11日 火	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
1月12日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301		
1月13日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
1月14日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	センター試験準備		

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月17日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
1月18日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
1月19日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301		
1月20日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
1月21日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月24日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
1月25日 火	精神援助論 (越智) 301	微生物学B (ウイルス学, 真菌学) (田中) 209	老年援助論 (大森) 209	家族看護学 (内藤, 松井) 209	
1月26日 水	小児援助論 (祖父江, 谷本) 301	在宅看護学概論 (松井) 301	看護と法規 (名越, 大西, 木下, ※藤本, ※馬場) 301		
1月27日 木	幸町キャンパス (養教1種教職科目開講日 (I~V時限)・全学共通科目開講日)				
1月28日 金		全学共通科目 「英語コミュニケーション R/SW演習IN」 (Willey・長井)301・305	成人リハビリテーション 期援助論 (當日) 209	地域看護学概論 (大西) 209	

※枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
1月31日 月			成人終末期援助論 (金正) 305	小児保健対象論 (祖父江, 谷本) 305	
2月1日 火	補講期間				
2月2日 水	補講期間				
2月3日 木	補講期間				
2月4日 金	補講期間				

ヘルスアセスメント 後期2月補講期間に集中講義

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月7日 月	補講期間				
2月8日 火	補講期間				
2月9日 水	補講期間				
2月10日 木	補講期間				
2月11日 金	建国記念の日				

ヘルスアセスメント 後期2月補講期間に集中講義

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月14日 月	補講期間				
2月15日 火	補講期間				
2月16日 水	補講期間				
2月17日 木	補講期間				
2月18日 金	補講期間				

ヘルスアセスメント 後期2月補講期間に集中講義

第20週

20	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月21日 月	補講期間				
2月22日 火	補講期間				
2月23日 水	補講期間				
2月24日 木	補講期間		個別学力試験準備		
2月25日 金	個別学力試験（前期日程）				

ヘルスアセスメント 後期2月補講期間に集中講義

第21週

21	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
2月28日 月	補講期間				
3月1日 火	補講期間				
3月2日 水	補講期間				
3月3日 木	補講期間				
3月4日 金	補講期間				

第22週

22	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
3月7日 月	補講期間				
3月8日 火	補講期間				
3月9日 水	補講期間				
3月10日 木	補講期間				
3月11日 金	春期休業開始				

平成22年度 講義・実習時間割 3年次生

前期	第1週				
	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
4月5日 月					
4月6日 火	授業ガイダンス				
4月7日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論Ⅱ (内藤, 佐々木) 305	高齢者福祉サービス と看護 (大森) 305	精神障害者のリハビリテーション (越智) 305	
4月8日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論B (※丸山, 他) 301	
4月9日 金	保健政策論B 集中講義 (※加藤)		定期健康診断 (午後休講)		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

2	第2週				
	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
4月12日 月	基礎保健学 集中講義 (※加藤)			保健政策論B 集中講 義 (※加藤)	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
4月13日 火	産業保健・看護論 (越田, 他) 305	保健政策論B 集中講義 (※加藤)			
4月14日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論Ⅱ (内藤, 佐々木) 305	高齢者福祉サービス と看護 (大森) 305	精神障害者のリハビリテーション (越智) 305	
4月15日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論B (※丸山, 他) 301	
4月16日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習IIN」(Willey・長井) 303・305	看護研究Ⅰ (祖父江, 内藤) 301・マルチ	学校保健Ⅱ (※中西) 303	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

3	第3週				
	I 8:50-10:20	II 10:30-12:00	III 13:00-14:30	IV 14:40-16:10	V 16:20-17:50
4月19日 月			子どもを持つ家族 の看護 (祖父江, 谷本, 他) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
4月20日 火	産業保健・看護論 (越田, 他) 305	保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	基礎保健学 (大西) 305	
4月21日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論Ⅱ (内藤, 佐々木) 305	高齢者福祉サービス と看護 (大森) 305	精神障害者のリハビリテーション (越智) 305	
4月22日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論B (※丸山, 他) 301	
4月23日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習IIN」(Willey・長井) 303・305	看護研究Ⅰ (祖父江, 内藤) 301・マルチ	学校保健Ⅱ (※中西) 303	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
4月26日 月			子どもを持つ家族 の看護 (祖父江, 谷本, 他) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
4月27日 火	産業保健・看護論 (越田, 他) 305	保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	基礎保健学 (大西) 305	学校保健 I (松井) 305
4月28日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論 II (内藤, 佐々木) 305	高齢者福祉サービス と看護 (大森) 305	精神障害者のリハビリテーション (越智) 305	
4月29日 木	昭和の日				
4月30日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習IIN」(Willey・長井) 303・305	看護研究 I (祖父江, 内藤) 301・マルチ	学校保健 II (※中西) 303	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月3日 月	憲法記念日				
5月4日 火	みどりの日				
5月5日 水	こどもの日				
5月6日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 B (※丸山, 他) 301	
5月7日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習IIN」(Willey・長井) 303・305	看護研究 I (祖父江, 内藤) 301・マルチ	学校保健 II (※中西) 303	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月10日 月			子どもを持つ家族 の看護 (祖父江, 谷本, 他) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
5月11日 火	産業保健・看護論 (越田, 他) 305	保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	基礎保健学 (大西) 305	学校保健 I (松井) 305
5月12日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論 II (内藤, 佐々木) 305	高齢者福祉サービス と看護 (大森) 305	精神障害者のリハビリテーション (越智) 305	
5月13日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論 B (※丸山, 他) 301	
5月14日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習IIN」(Willey・長井) 303・305	看護研究 I (祖父江, 内藤) 301・マルチ	学校保健 II (※中西) 303	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月17日 月			子どもを持つ家族 の看護 (祖父江, 谷本, 他) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
5月18日 火	産業保健実習				
5月19日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論Ⅱ (内藤, 佐々木) 305	高齢者福祉サビ ^ス と看護 (大森) 305	精神障害者のリハビリテーション (越智) 305	
5月20日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論B (※丸山, 他) 301	
5月21日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習ⅢN」(Willey・長井) 303・305	看護研究Ⅰ (祖父江, 内藤) 301・マルチ	学校保健Ⅱ (※中西) 303	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第8週

8	I	II	III	IV	V
					16:20-17:50
5月24日 月			子どもを持つ家族 の看護 (祖父江, 谷本, 他) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
5月25日 火	産業保健・看護論 (越田, 他) 305	保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	基礎保健学 (大西) 305	学校保健Ⅰ (松井) 305
5月26日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論Ⅱ (内藤, 佐々木) 305	高齢者福祉サビ ^ス と看護 (大森) 305	精神障害者のリハビリテーション (越智) 305	
5月27日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論B (※丸山, 他) 301	
5月28日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習ⅢN」(Willey・長井) 303・305	看護研究Ⅰ (祖父江, 内藤) 301・マルチ	学校保健Ⅱ (※中西) 303	

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
5月31日 月			子どもを持つ家族 の看護 (祖父江, 谷本, 他) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
6月1日 火		保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	基礎保健学 (大西) 305	学校保健Ⅰ (松井) 305
6月2日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論Ⅱ (内藤, 佐々木) 305	高齢者福祉サビ ^ス と看護 (大森) 305	精神障害者のリハビリテーション (越智) 305	
6月3日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		保健政策論B (※丸山, 他) 301	
6月4日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習ⅢN」(Willey・長井) 303・305	看護研究Ⅰ (祖父江, 内藤) 301・マルチ	国際保健医療 (峠, 祖父江, 他) 209	

「国際保健医療」(非常勤講師)は、水曜日に時間変更もあるので、掲示に注意。

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月7日 月			子どもが産まれる 家族の看護 (内藤) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
6月8日 火	学校保健 I 実習				
6月9日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論 II (内藤, 佐々木) 305			
6月10日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		看護クリティカルシンキング I (清水, 金正) 301	保健政策論 A (※岡本, ※起, 大西) 301
6月11日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習IIN」(Willey・長井) 303・305	看護研究 I (祖父江, 内藤) 301・マルチ	国際保健医療 (峠, 祖父江, 他) 301	

「国際保健医療」(非常勤講師)は、水曜日に時間変更もあるので、掲示に注意。

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月14日 月			子どもが産まれる 家族の看護 (内藤) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
6月15日 火		保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	学校保健 I (松井) 305
6月16日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論 II (内藤, 佐々木) 305			
6月17日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		看護クリティカルシンキング I (清水, 金正) 301	保健政策論 A (※岡本, ※起, 大西) 301
6月18日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習IIN」(Willey・長井) 303・305	看護研究 I (祖父江, 内藤) 301・マルチ	国際保健医療 (峠, 祖父江, 他) 301	

「国際保健医療」(非常勤講師)は、水曜日に時間変更もあるので、掲示に注意。

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月21日 月			子どもが産まれる 家族の看護 (内藤) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
6月22日 火		保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	
6月23日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論 II (内藤, 佐々木) 305			
6月24日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		看護クリティカルシンキング I (清水, 金正) 301	保健政策論 A (※岡本, ※起, 大西) 301
6月25日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習IIN」(Willey・長井) 303・305	看護研究 I (祖父江, 内藤) 301・マルチ	国際保健医療 (峠, 祖父江, 他) 301	

「国際保健医療」(非常勤講師)は、水曜日に時間変更もあるので、掲示に注意。

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
6月28日 月			子どもが産まれる 家族の看護 (内藤) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
6月29日 火		保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	
6月30日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論Ⅱ (内藤, 佐々木) 305			
7月1日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		看護クリティカルシンキングⅠ (清水, 金正) 301	保健政策論A (※岡本, ※起, 大西) 301
7月2日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習ⅢN」(Willey・長井) 303・305	看護研究Ⅰ (祖父江, 内藤) 301・マルチ	国際保健医療 (峠, 祖父江, 他) 301	

「国際保健医療」(非常勤講師)は、水曜日に時間変更もあるので、掲示に注意。

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月5日 月			子どもが産まれる 家族の看護 (内藤) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
7月6日 火		保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	
7月7日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論Ⅱ (内藤, 佐々木) 305			
7月8日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		看護クリティカルシンキングⅠ (清水, 金正) 301	保健政策論A (※岡本, ※起, 大西) 301
7月9日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習ⅢN」(Willey・長井) 303・305	看護研究Ⅰ (祖父江, 内藤) 301・マルチ	国際保健医療 (峠, 祖父江, 他) 301	

「国際保健医療」(非常勤講師)は、水曜日に時間変更もあるので、掲示に注意。

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月12日 月			子どもが産まれる 家族の看護 (内藤) 301	在宅看護学 (松井, 他) 301	全学共通科目 「上級英語」 医学部キャンパス (Willey) 大B
7月13日 火		保健統計論 (真鍋) 305・マルチ	疫学 (真鍋) 305・マルチ	離島保健・看護論 (大西, 他) 305	
7月14日 水	家族援助論 (越田, 他) 305	母性援助論Ⅱ (内藤, 佐々木) 305			
7月15日 木	地域看護対象論 (大西, 松井, 越 田) 301	地域援助論 (大西, 越田) 301		看護クリティカルシンキングⅠ (清水, 金正) 301	保健政策論A (※岡本, ※起, 大西) 301
7月16日 金		全学共通科目「英語コ ミュニケーションLR/SW 演習ⅢN」(Willey・長井) 303・305	看護研究Ⅰ (祖父江, 内藤) 301・マルチ		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月19日 月	海の日				
7月20日 火					
7月21日 水			社会福祉・社会保障論B		
7月22日 木	社会福祉・社会保障論B				
7月23日 金					

※編入生は「社会福祉・社会保障論B」(7/21(3,4限)～7/22(1,2限))を受講しなければならない。

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
7月26日 月					
7月27日 火					
7月28日 水					
7月29日 木					
7月30日 金					

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
8月30日 月					
8月31日 火	夏季休業終了				
9月1日 水	補講期間				
9月2日 木	補講期間				
9月3日 金	補講期間				

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月6日 月	補講期間				
9月7日 火	補講期間				
9月8日 水	補講期間				
9月9日 木	補講期間				
9月10日 金	補講期間				

第20週

20	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月13日 月	領域Ⅰ実習オリエンテーション 開始式				
9月14日 火	領域Ⅰ実習オリエンテーション				
9月15日 水	領域Ⅰ実習オリエンテーション				
9月16日 木	領域Ⅰ実習オリエンテーション				
9月17日 金	領域Ⅰ実習オリエンテーション				

第21週

21	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:50
9月20日 月	敬老の日				
9月21日 火	補講期間				
9月22日 水	補講期間				
9月23日 木	秋分の日				
9月24日 金	補講期間				

※編入生は2年次前期開講科目の「社会福祉・社会保障論」(9/21(火)~9/30(木))を必ず受講すること。

第22週

22	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
9月27日 月	精神看護学実習 I				
9月28日 火	精神看護学実習 I				
9月29日 水	精神看護学実習 I				
9月30日 木	精神看護学実習 I				
10月1日 金	精神看護学実習 I				

※編入生は2年次前期開講科目の「社会福祉・社会保障論」(9/21(火)~9/30(木))を必ず受講すること。

後期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月4日 月					
10月5日 火					
10月6日 水					
10月7日 木					
10月8日 金			医学部祭(午後) 休講		

※編入学生は、2年次後期開講科目の「地域看護学概論」(後期金曜日4限)、「家族看護学」(後期後半期 火曜日4限)「ヘルスアセスメント」(2月補講期間集中講義)を必ず受講すること。

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月11日 月	体育の日				
10月12日 火	母性看護学実習 I				
10月13日 水	母性看護学実習 I				
10月14日 木	母性看護学実習 I				
10月15日 金	母性看護学実習 I				

3	第3週				
	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月18日 月	成人看護学実習 I				
10月19日 火	成人看護学実習 I				
10月20日 水	成人看護学実習 I				
10月21日 木	成人看護学実習 I				
10月22日 金	成人看護学実習 I				

4	第4週				
	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月25日 月	小児看護学実習 I				
10月26日 火	小児看護学実習 I				
10月27日 水	小児看護学実習 I				
10月28日 木	小児看護学実習 I				
10月29日 金	小児看護学実習 I				

5	第5週				
	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月1日 月	領域Ⅱ実習オリエンテーション				
11月2日 火	領域Ⅱ実習オリエンテーション				
11月3日 水	文化の日				
11月4日 木	領域Ⅱ実習オリエンテーション				
11月5日 金	領域Ⅱ実習オリエンテーション				

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月8日 月	<p style="text-align: center;">臨地実習</p> 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
11月9日 火					
11月10日 水					
11月11日 木					
11月12日 金					

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月15日 月	<p style="text-align: center;">臨地実習</p> 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
11月16日 火					
11月17日 水					
11月18日 木					
11月19日 金					

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月22日 月	<p style="text-align: center;">臨地実習</p> 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
11月23日 火	勤労感謝の日				
11月24日 水	<p style="text-align: center;">臨地実習</p> 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
11月25日 木					
11月26日 金					

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月29日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
11月30日 火					
12月1日 水					
12月2日 木					
12月3日 金					

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月6日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
12月7日 火					
12月8日 水					
12月9日 木					
12月10日 金					

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月13日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
12月14日 火					
12月15日 水					
12月16日 木					
12月17日 金					

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月20日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ, 老年看護学実習Ⅰ, 小児看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習Ⅱ, 精神看護学実習Ⅱ				
12月21日 火					
12月22日 水					
12月23日 木	天皇誕生日				
12月24日 金	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ, 老年看護学実習Ⅰ, 小児看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習Ⅱ, 精神看護学実習Ⅱ				

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月3日 月	冬期休業				
1月4日 火	冬期休業				
1月5日 水	冬期休業				
1月6日 木	冬期休業				
1月7日 金	冬期休業				

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月10日 月	成人の日				
1月11日 火	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ, 老年看護学実習Ⅰ, 小児看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習Ⅱ, 精神看護学実習Ⅱ				
1月12日 水					
1月13日 木					
1月14日 金	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ, 老年看護学実習Ⅰ, 小児看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習Ⅱ, 精神看護学実習Ⅱ	センター試験準備			

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月17日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
1月18日 火					
1月19日 水					
1月20日 木					
1月21日 金					

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月24日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
1月25日 火					
1月26日 水					
1月27日 木					
1月28日 金					

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月31日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
2月1日 火					
2月2日 水					
2月3日 木					
2月4日 金					

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月7日 月	<p style="text-align: center;">臨地実習</p> <p style="text-align: center;">成人看護学実習Ⅱ，老年看護学実習Ⅰ，小児看護学実習Ⅱ，母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ</p>				
2月8日 火					
2月9日 水					
2月10日 木					
2月11日 金	建国記念の日				

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月14日 月	成人看護学実習Ⅳ				
2月15日 火	成人看護学実習Ⅳ				
2月16日 水	成人看護学実習Ⅳ				
2月17日 木	成人看護学実習Ⅳ				
2月18日 金	成人看護学実習Ⅳ				

第20週

20	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月21日 月	補講期間				
2月22日 火	補講期間				
2月23日 水	補講期間				
2月24日 木	補講期間		個別試験準備		
2月25日 金	個別学力検査（前期日程）				

第21週

21	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月28日 月	補講期間				
3月1日 火	補講期間				
3月2日 水	補講期間				
3月3日 木	補講期間				
3月4日 金	補講期間				

第22週

22	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
3月7日 月	補講期間				
3月8日 火	補講期間				
3月9日 水	補講期間				
3月10日 木	補講期間				
3月11日 金	春期休業				

平成22年度 講義・実習時間割 4年次生

前期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
4月5日 月					
4月6日 火	授業ガイダンス				
4月7日 水					
4月8日 木					
4月9日 金	看護研究Ⅱ		定期健康診断（午後休講）		

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
4月12日 月	看護研究Ⅱ				
4月13日 火	看護研究Ⅱ				
4月14日 水	看護研究Ⅱ				
4月15日 木	看護研究Ⅱ				
4月16日 金	看護研究Ⅱ				

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
4月19日 月	看護研究Ⅱ				
4月20日 火	看護研究Ⅱ				
4月21日 水	看護研究Ⅱ				
4月22日 木	看護研究Ⅱ				
4月23日 金	看護研究Ⅱ				

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
4月26日 月	看護研究Ⅱ				
4月27日 火	看護研究Ⅱ				
4月28日 水	看護研究Ⅱ				
4月29日 木	昭和の日				
4月30日 金	看護研究Ⅱ				

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月3日 月	憲法記念日				
5月4日 火	みどりの日				
5月5日 水	こどもの日				
5月6日 木	看護研究Ⅱ				
5月7日 金	看護研究Ⅱ				

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月10日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ，老年看護学実習Ⅱ，小児看護学実習Ⅱ， 母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ，地域看護学実習Ⅰ				
5月11日 火					
5月12日 水					
5月13日 木					
5月14日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月17日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ, 老年看護学実習Ⅱ, 小児看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習Ⅱ, 精神看護学実習Ⅱ, 地域看護学実習Ⅰ				
5月18日 火					
5月19日 水					
5月20日 木					
5月21日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月24日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ, 老年看護学実習Ⅱ, 小児看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習Ⅱ, 精神看護学実習Ⅱ, 地域看護学実習Ⅰ				
5月25日 火					
5月26日 水					
5月27日 木					
5月28日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
5月31日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ, 老年看護学実習Ⅱ, 小児看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習Ⅱ, 精神看護学実習Ⅱ, 地域看護学実習Ⅰ				
6月1日 火					
6月2日 水					
6月3日 木					
6月4日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
6月7日 月	<p style="text-align: center;">臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ，老年看護学実習Ⅱ，小児看護学実習Ⅱ， 母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ，地域看護学実習Ⅰ</p>				
6月8日 火					
6月9日 水					
6月10日 木					
6月11日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
6月14日 月	<p style="text-align: center;">臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ，老年看護学実習Ⅱ，小児看護学実習Ⅱ， 母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ，地域看護学実習Ⅰ</p>				
6月15日 火					
6月16日 水					
6月17日 木					
6月18日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
6月21日 月	<p style="text-align: center;">臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ，老年看護学実習Ⅱ，小児看護学実習Ⅱ， 母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ，地域看護学実習Ⅰ</p>				
6月22日 火					
6月23日 水					
6月24日 木					
6月25日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
6月28日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ，老年看護学実習Ⅱ，小児看護学実習Ⅱ， 母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ，地域看護学実習Ⅰ				
6月29日 火					
6月30日 水					
7月1日 木					
7月2日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
7月5日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ，老年看護学実習Ⅱ，小児看護学実習Ⅱ， 母性看護学実習Ⅱ，精神看護学実習Ⅱ				
7月6日 火					
7月7日 水					
7月8日 木					
7月9日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
7月12日 月	臨地実習 成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ，老年看護学実習Ⅱ，地域看護学実習Ⅱ				
7月13日 火					
7月14日 水					
7月15日 木					
7月16日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
7月19日 月	海の日				
7月20日 火	臨地実習 地域看護学実習 II				
7月21日 水					
7月22日 木					
7月23日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
7月26日 月	臨地実習 地域看護学実習 II				
7月27日 火					
7月28日 水					
7月29日 木					
7月30日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
8月30日 月	地域看護学実習 II				
8月31日 火	地域看護学実習 II				
9月1日 水	地域看護学実習 II				
9月2日 木	地域看護学実習 II				
9月3日 金	地域看護学実習 II				

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
9月6日 月	地域看護学実習 II				
9月7日 火	地域看護学実習 II				
9月8日 水	地域看護学実習 II				
9月9日 木	地域看護学実習 II				
9月10日 金	地域看護学実習 II				

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第20週

20	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
9月13日 月	地域看護学実習 II				
9月14日 火	地域看護学実習 II				
9月15日 水	地域看護学実習 II				
9月16日 木	地域看護学実習 II				
9月17日 金	地域看護学実習 II				

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第21週

21	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
9月20日 月	敬老の日				
9月21日 火					
9月22日 水					
9月23日 木	秋分の日				
9月24日 金					

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

第22週

22	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
9月27日 月	補講				
9月28日 火	補講				
9月29日 水	補講				
9月30日 木	補講				
10月1日 金	大学記念日（休業）				

4月9日(木)～10月29日(金)看護研究Ⅱ 集中講義

後期

第1週

1	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月4日 月	看護研究Ⅱ				
10月5日 火	看護研究Ⅱ				
10月6日 水	看護研究Ⅱ				
10月7日 木	看護研究Ⅱ				
10月8日 金	看護研究Ⅱ				

第2週

2	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月11日 月	体育の日				
10月12日 火	看護研究Ⅱ				
10月13日 水	看護研究Ⅱ				
10月14日 木	看護研究Ⅱ				
10月15日 金	看護研究Ⅱ				

第3週

3	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月18日 月	看護研究Ⅱ				
10月19日 火	看護研究Ⅱ				
10月20日 水	看護研究Ⅱ				
10月21日 木	看護研究Ⅱ				
10月22日 金	看護研究Ⅱ				

第4週

4	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
10月25日 月	看護研究Ⅱ				
10月26日 火	看護研究Ⅱ				
10月27日 水	看護研究Ⅱ				
10月28日 木	看護研究Ⅱ				
10月29日 金	看護研究Ⅱ				

第5週

5	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月1日 月					
11月2日 火				看護クリティカルシンキングⅡ (老年) 4回 (大森) 301	
11月3日 水	文化の日				
11月4日 木		看護クリティカルシンキングⅡ (成人) 4回 (當日, 清水, 他) 301		原著講読 (當日, 峠) 301	
11月5日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第6週

6	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月8日 月					
11月9日 火				看護クリティカルシンキングⅡ (老年) 4回 (大森) 301	
11月10日 水					
11月11日 木		看護クリティカルシンキングⅡ (成人) 4回 (當日, 清水, 他) 301		原著講読 (當日, 峠) 301	
11月12日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第7週

7	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月15日 月					
11月16日 火				看護クリティカルシンキングⅡ (老年) 4回 (大森) 301	
11月17日 水					
11月18日 木		看護クリティカルシンキングⅡ (成人) 4回 (當日, 清水, 他) 301		原著講読 (當日, 峠) 301	
11月19日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第8週

8	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月22日 月					
11月23日 火	勤労感謝の日				
11月24日 水					
11月25日 木		看護クリティカルシンキングⅡ (成人) 4回 (當日, 清水, 他) 301		原著講読 (當日, 峠) 301	
11月26日 金			推薦入試準備		

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第9週

9	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
11月29日 月					
11月30日 火				看護クリティカルシンキングⅡ (老年) 4回 (大森) 301	
12月1日 水					
12月2日 木			原著講読 (當日, 峠) 301	原著講読 (當日, 峠) 301	
12月3日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第10週

10	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月6日 月					
12月7日 火	看護管理学				
12月8日 水	看護管理学				
12月9日 木	看護管理学			原著講読 (當日, 峠) 301	
12月10日 金					

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。

第11週

11	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月13日 月	地域看護学特論				
12月14日 火	地域看護学特論				
12月15日 水	地域看護学特論				
12月16日 木	地域看護学特論				
12月17日 金	地域看護学特論				

太枠内は選択科目及び自由科目を示す。地域看護学特論の講義時間については別途掲示

第12週

12	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
12月20日 月					
12月21日 火					
12月22日 水					
12月23日 木	天皇誕生日				
12月24日 金					

第13週

13	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月3日 月	冬期休業				
1月4日 火	冬期休業				
1月5日 水	冬期休業				
1月6日 木	冬期休業				
1月7日 金	冬期休業				

第14週

14	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月10日 月	成人の日				
1月11日 火					
1月12日 水					
1月13日 木					
1月14日 金			センター試験準備		

第15週

15	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月17日 月					
1月18日 火					
1月19日 水					
1月20日 木					
1月21日 金					

第16週

16	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月24日 月					
1月25日 火					
1月26日 水					
1月27日 木					
1月28日 金					

第17週

17	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
1月31日 月					
2月1日 火					
2月2日 水					
2月3日 木					
2月4日 金					

第18週

18	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月7日 月					
2月8日 火					
2月9日 水					
2月10日 木					
2月11日 金	建国記念の日				

第19週

19	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月14日 月					
2月15日 火					
2月16日 水					
2月17日 木					
2月18日 金					

第20週

20	I	II	III	IV	V
	8:50-10:20	10:30-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:20-17:05
2月21日 月					
2月22日 火					
2月23日 水					
2月24日 木			個別試験準備		
2月25日 金	個別学力検査（前期日程）				